ISSN 0912-8182

Vol. 70 通巻804号　平成元年3月25日発行・毎月1回25日発行・昭和24年3月19日第3種郵便物認可

建築と社会

ARCHITECTURE AND SOCIETY

1989 3

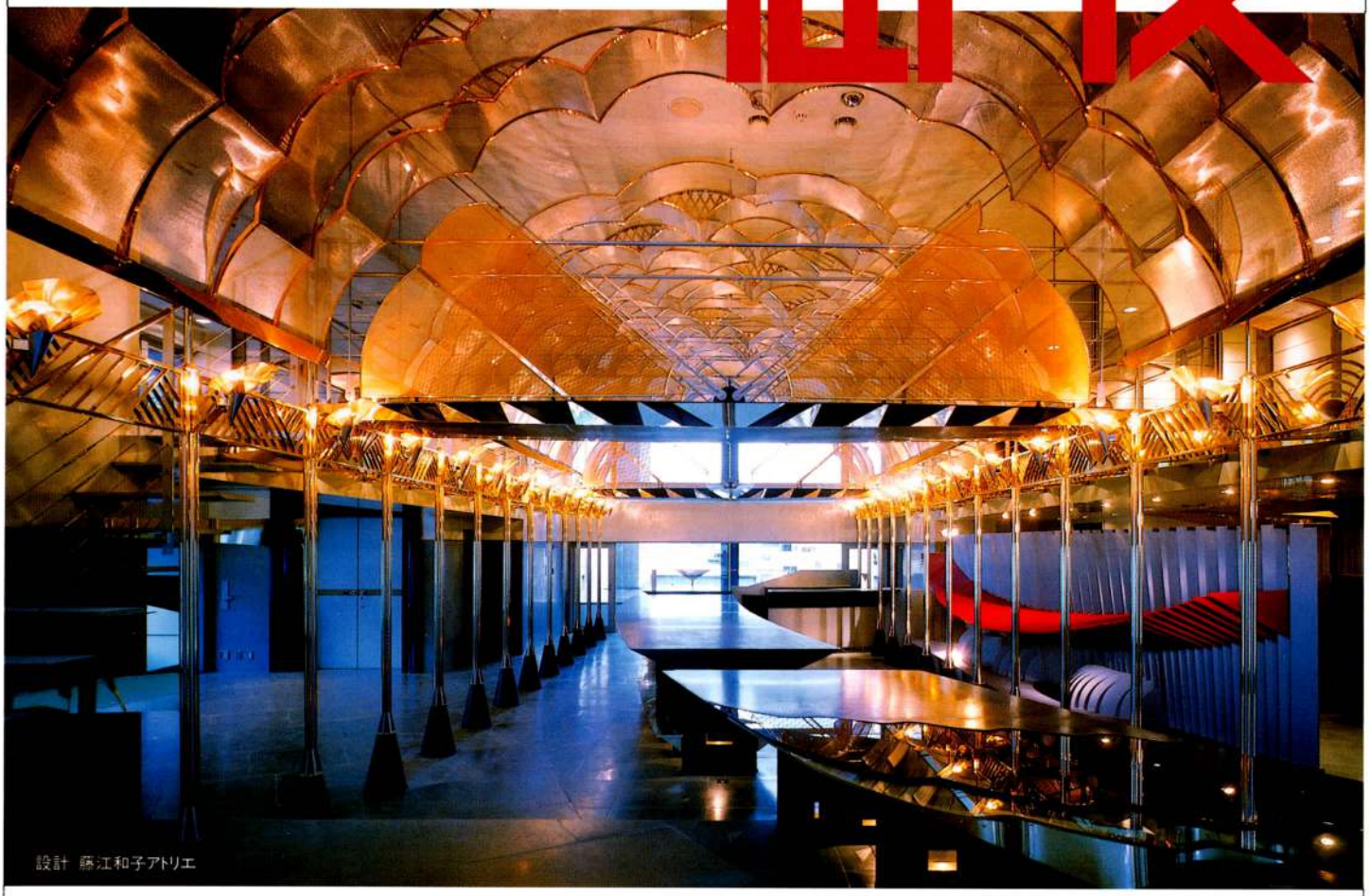
特集■色の復権
■東海の新建築と伝統技術



日本建築協会

YAMAKIN

感度



設計 藤江和子アトリエ

建築に、都市に、感度最高。ヤマキンのメタルワーク。

「建築空間」とメタルワークの融合」一筋に60余年。山本金属は、空間に質(クオリティー)・空間に美(メタルアート)・空間に彩(アクセント)・空間に表情(ドラマ)・空間に感性(センシビリティー)・空間に調和(ハーモニー)をテーマに豊富な経験と最新の技術を生かして建築空間に、都市に取りくんでいます。——ヤマキンは、メタルワークのイノベーターとして常に感度最高で歩み続けます。

株式会社 山本金属製作所
本社及び工場 〒542 大阪市中央区谷町6丁目11番15号 ☎(06)761-0127(代) FAX(06)768-5770
守口工場 〒570 守口市浜町2丁目1番地 ☎(06)993-7192(代) FAX(06)993-7194
株式会社山本金属製作所一級建築士事務所・大阪府知事登録・(ロ)第7979号



紫外線、そして厳しい暑さ。
過酷な条件下において、都市空間を創りだす。

生物を育み、恵みを与える太陽の光。また、暖を届け、人が暮らす環境を与える太陽の光。いわば自然界をつくりあげる源といえる太陽は、その一面では、紫外線や厳しい暑さなど過酷な条件をも、もたらします。
より快適な都市空間を創りあげるため、あらゆる条件下で機能しつづけることが求められている建築物。過酷な条件から建築物を保護し、より長く存在させることが塗料に要求されている機能のひとつです。
亜熱帯フロリダや熱射の街リヤドをはじめ、各国の厳しい自然環境のもと、20年以上にわたり、8000件余りの施工実績をもつフッ素樹脂塗料デュラナー。そして常乾フッ素樹脂塗料デュフロン。紫外線をはじめ、さまざまな劣化外力から建築物を護る高い耐久力を誇ります。

高耐久性建築仕上材料

焼付フッ素樹脂塗料

DURANAR

デュラナー

常乾フッ素樹脂塗料

DUFLON

デュフロン

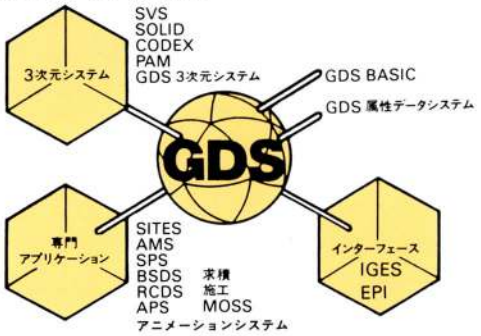


日本ペイント
Basic & New
建築塗料部
〒553 大阪市福島区福島6－8－10 ☎(06)458-1111
〒140 東京都品川区南品川4－1－15 ☎(03)474-1111

COMPETITION by GDS

技あり美あり、決め手あり。

GDSは、高速レスポンスとインタラクティブな操作環境のもと、建築・土木分野で企画から実施までの全領域を強力に支援する本格的CADシステムです。
2次元から3次元まで一貫した合理的なデータベース、専門ニーズにこたえる多彩なアプリケーション、システムの自由な拡張を実現する各種インターフェースなど、その陣容は着々と充実し、総合設計システムへと発展しつづけています。

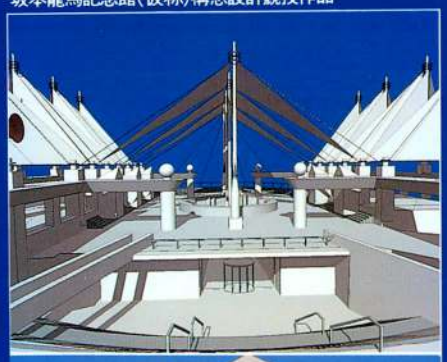


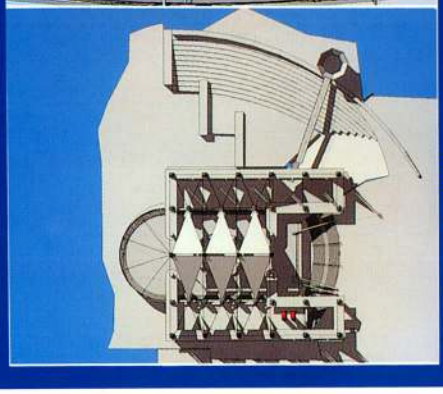
GDSの簡易な操作性とパワフルな総合機能は、大型化・高度化する建築・土木プロジェクトのコンペにおいて効果的なソリューションを提供します。
膨大な設計情報を的確に処理してダイナミック展開し、高精度の図面やカラーパースを迅速に作成。設計者は快適な設計環境のもとで存分に創造性を発揮し、コンペのゴールを目指し集中的に作業を進めることができます。とくにプレゼンテーションにおいては、SVSの豊かな表現力によって計画物件の的確な3次元表示が可能になります。すでにGDSは、「新都庁舎設計競技」、「みなとみらい21」などのビッグプロジェクトで確かな実績をあげています。
さらに最近では、計画中の設計空間をビデオ表現するアニメーションシステムを開発、大規模プロジェクトのプレゼンテーションでは究極のツールと注目されています。GDSはつねに設計者と一体になり、設計コンペの新しい手法を追求します。

人材募集
大阪
名古屋
東京

建築と技術と人を結ぶ
ARC
yamagiwa

提供／株式会社現代建築研究所
坂本龍馬記念館(仮称)構想設計競技作品











提供／株式会社 間組

GDS 4.10バージョン新登場！

近くリリースされる新バージョンでは、場面の陰線・陰面処理にいくつかのアルゴリズムを使いわけ、複数光源による影の投影や反射、光沢などの描写が可能になります。
選定可能な光源は最高30。平行光線・点光源・スポットライトの選択、光の強度の調節、各光源に対する影の出力が行えます。また、フルカラーモードにより1670万色を同時表示できるなど、処理速度アップのほか数々の高機能が加わっています。

エイ・アール・シー・ヤマギワ株式会社
本　社 〒151 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-7-16 TEL(03)405-7811　大阪営業所/〒542 大阪市中央区南船場4-4-3 御堂筋アーバンライフビル9F TEL(06)245-7811

「建築と社会」3月号表紙

■作品タイトル　セントポール大聖堂　■製作　アラップ・アソシエイツ(英国)　■使用ハード　PRIME 6350、Tek4111、Tek4225etc　■使用ソフト　GDS、SOLID、PAM、SVS(Mc Donnell Douglas)　■提供　エイ・アール・シー・ヤマギワ株式会社

1917創刊
1989
70集

建築と社会 © ARCHITECTURE AND SOCIETY
CONTENTS
JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

3 通巻804

■特集予告

4月号／省力化のための材料・工法
5月号／まちづくりと法
6月号／博覧会とまちづくり
7月号／都市環境創造と設備 I

会　長　佐野正一
副会長　足立　孝・市川　宏
　　松村雄二・兼岩公明
編集委員会（昭和63年度）

■編集理事
金井　弘次
金多　潔
小島　雄
城　憲一
須賀　好富
竹中　練一
長谷部朝郎
松村　慶三
若山　繁
渡辺　亮
■編集顧問
東　孝光
■編集委員長
長谷部朝郎
代行上田　信也
■特集小委員会
★計画系分科会
☆計画系
角島　健二
河端　秀直
小浦　久子
鈴木　克彦
高田　佳子
○田中　直人
平岡　博
吉村　英祐
☆建築計画系
江副　敏史
○加藤　晃規
○上杉　秀隆
北村　潤
鳴田　聖二
庄野　利博
巽　耕一
西川　純一
前川　治彦
牧野由美子
三宅　淳
＊森田　晴美
山中　恵子
山本　匡
矢野　裕芳
☆インテリア・住宅系
石倉　健彦
一ノ瀬満雄
大塚　慶子
○加藤　力
神谷　剛
北浦かほる
北山　喜与
駒田　哲男
細田　泰彦
増地　秀夫
★構造分科会
和泉　一義
清　孝好
辻岡　静雄
福山　国夫
○外園　隆

和田　勉
★設備分科会
○安信　浩一
石河　信治
石野　幸義
遠藤　進
梶井　宏修
河津　隆之
佐藤　秀彦
別所　清
村上幸三郎
★施工材料分科会
大木　利文
志水　史典
田添　寿昭
○松村　勝実
山田　敏捷
横井　征夫
★法令分科会
大前　博司
○笠井　精二
広瀬　丈洋
南出　和延
■作品作風小委員会
荒川　朱美
遠藤　公介
岡本　隆
北澤　修一
玉崎　良和
○塘　伸夫
林　浩二
福地　一彦
松田　善弘
宮下　幹雄
＊水川　尚彦
宮崎ひろ志
■会員会議小委員会
赤井　富弘
伊藤　郁郎
稲木　裕子
＊今井　邦夫
北村　恭一
佐伯由紀子
柴田　厚
○高田　光雄
高橋　麗子
塚口　明洋
冨永　明子
堀畑　裕一
増渕　昌利
溝口　正人
■広告企画小委員会
池渕　俊男
佐野　寛志
＊下村　甫
中川源治朗
原田　常介
○藤田　孝吉
山下　修司
○渡辺　亮

○印 副委員長と幹事　＊印 同代行

印　刷　平成元年3月20日
発　行　平成元年3月25日
発行人　社団法人日本建築協会
発行所　社団法人日本建築協会
　　大阪市北区梅田1-1-3-2100
　　電　06—348—0635
　　振替口座 大阪1-39975
印刷所　日本写植印刷株式会社
　　電　06—606—1111㈹
　　青葉印刷株式会社
　　電　06—351—5428㈹
定　価　950円（送料共）

作品作風
Gallery
レポート
書評
新建材紹介コーナー
法令コーナー
会告
GBRCニュース
建築の眼
特集
総論
各論 I
カラーチャート
各論 II
レポート
エッセー
カラリストインデックス
特集
作品
座談会
建築地場産業ルポ
バックナンバー
構造の頁167
設備の頁169
施工材料の頁166
INFORMATION
月報
スケッチブック

特集●色の復権／東海の新建築と伝統技術

SPECIAL FEATURES ON THE REVIVAL OF COLOR IN ARCHITECTURE, & NEW BUILDINGS AND TRADITIONAL CRAFT SKILLS IN THE TOKAI REGION

マーサ21（1期工事）——設計監理：東畑建築事務所　施工：間組・大日本土木・市川工務店ＪＶ—— 4
広島県立盲学校・広島県立点字図書館——設計：広島県土木建築部都市局・営繕課、日本総合建築事務所—— 8
施工：（盲学校）砂原組・大之木建設・堀田建設・日興、（点字図書館）創建工業
新大阪木村第一ビル——設計施工：大林組 —— 10
ウェディングワンダーランド福山平安閣——設計：大旗連合建築設計　施工：大末建設広島支店 —— 12
タカセビル（樫永一男建築研究所）／岡本隆 —— 14
今、なぜ200 Vなのか—住宅のインテリジェント化と電気エネルギー／宮内宏 —— 50
『マンガ建築構造力学入門』（谷山光＋建築初歩教育研究会）／増渕昌利 —— 53
フルタイムロッカー／戸田悠二 —— 55
都心居住促進に向けて—大阪市総合設計許可取扱要綱の改正—／増田靖生 —— 56
アップリカビル—設計者：丹下健三・都市・建築設計研究所　丹下憲孝・中川巌氏に聞く．監事並びに本部所属評議員の当選お知らせ．ホテルオークラ神戸見学会が4月8日(土)に変更．'89～'90年版日本建築協会会員名簿頒布お知らせ．消費税4月1日から実施に伴う諸改訂—1.四会連合約款改正部分．2.「建築と社会」誌定価改訂．3.会議室使用料金改訂— —— 57
部門だより—音・熱・動風圧試験室・工事用材料関係の試験室 —— 59
韓国のマンション／住田昌二．六つの風土とともに—その三—東藩磨／松田泰典．
地下街のデザイン／中嶋龍彦．建設労働者不足について／入江恂一 —— 60

色の復権

色の復権・篠原一男——加藤力／北浦かほる —— 18
日本の伝統建築色10話——狩野　忠正 —— 24
コーポレーション・カラーチャート——日建設計／竹中工務店／積水ハウス —— 28
建築家・デザイナー・芸術家の色の選び方と手法 —— 30
宝塚造形芸術大学／長谷川紘．オゥ・グルメ・シノワ京宴／若林広幸．京都プライトンホテル／日建設計．赤い彩布／内井乃生．中世の町家の色彩／増田正．夙川S邸／出江寛．ANGLE／早川邦彦．
環境色彩の社会的意義—環境と色彩・自然と開発からの考察——跡部　禮子 —— 37
海外の色彩事情 —— 41
日本人と中国人の色彩感覚／胡似之．ビルマの生活色／ビルマ人留学生．色と感情／アンジェ・グルシェフスキー．日本とブラジルの色彩の違い／Alice Kina．色の島／Anne Berney．色彩が躍動する街—サンフランシスコ—／Marc Pearl．
意外と少ないカラー決定のツール—プランニングから現場指示まで—増地　秀夫 —— 44

東海の新建築と伝統技術

愛知県旭高原少年自然の家——設計監理：愛知県建築部営繕課、伊藤建築設計事務所 、オオバ —— 62
施工：西松・永楽建設共同企業体、矢作建設工業、太啓建設
名古屋商科大学高度情報化対応教室棟——設計施工：竹中工務店 —— 66
皇學館大學附属資料館——設計施工：竹中工務店　監理：佐川建設 —— 68
瀬戸旭医師会館——設計監理：岡設計　施工：鴻池組・信和建設共同企業体 —— 70
名古屋YWCAビル——設計監理：伊藤建築設計事務所　施工：鹿島建設名古屋支店 —— 72
東海銀行新瑞橋支店——設計監理：伊藤建築設計事務所　施工：熊谷組名古屋支店 —— 74
豊田市駅西口第一種市街地再開発——設計監理：石本建築事務所　施工：大成建設名古屋支店 —— 76
セントラルパーク・アネックス——設計施工：大成建設名古屋支店 —— 78
Shine's（シャインズ）——設計施工：竹中工務店 —— 80
コープ野村新安城——設計施工：竹中工務店 —— 82
パークシティ一鳥見——基本設計：日本設計事務所名古屋支社．実施設計：竹中工務店名古屋支店 —— 84
監修：日本設計事務所名古屋支社
施工：竹中工務店・東レ建設・三井建設・熊谷組共同企業体
ホテルナゴヤキャッスル——設計施工：竹中工務店 —— 86
ローランド細江工場——設計施工：大成建設名古屋支店 —— 88
博物館は市民に何をもたらすか——一宮博物館、その発想から企画そして計画——出席者：森鈑太郎／内井昭蔵／中島一 —— 90
名古屋桐たんす—名古屋．美濃和紙—美濃．鋳物—桑名．駿河指物—静岡 —— 98

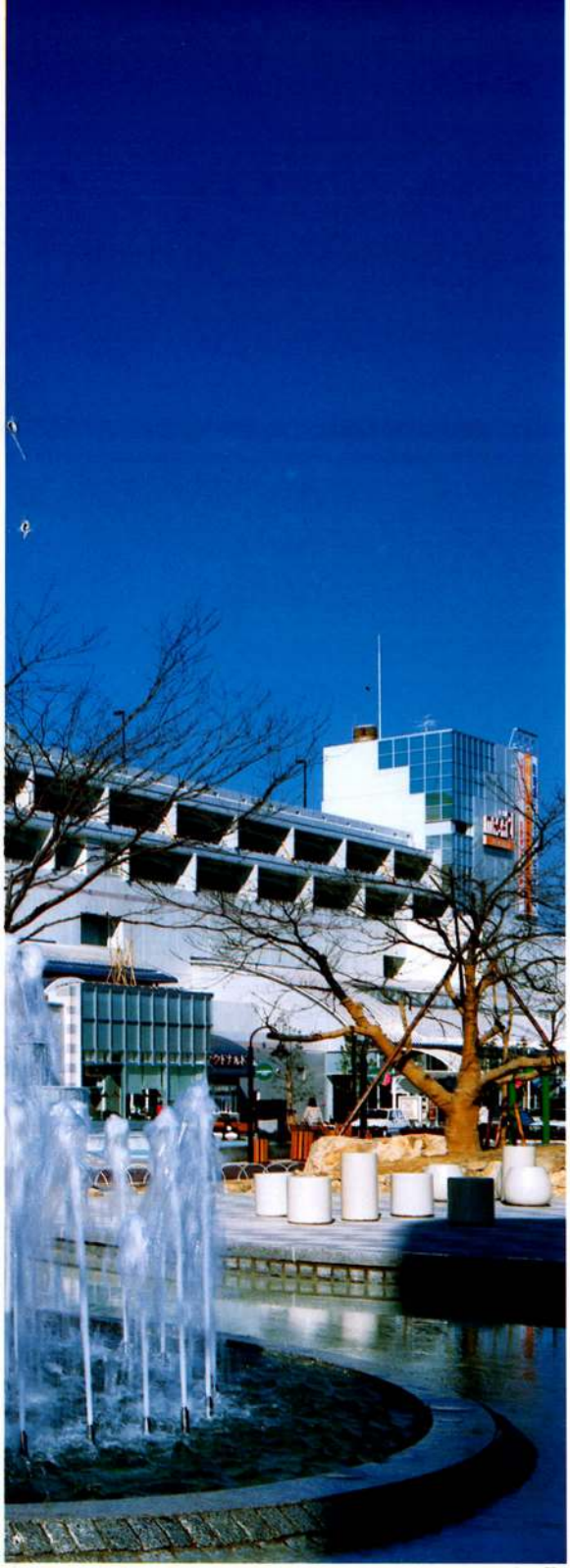
「建築と社会」総目次（昭和4年10月号～5年12月号）—— 103
鉄骨フープ筋コンクリート合成構造／鈴木敏郎・滝口克己 —— 105
電磁シールドビル／矢花吉治 —— 106
新しいタイプのフッ素樹脂系塗料／松井明 —— 107
大阪市中央公会堂の保存、再生へ——朝日新聞社が国民環境基金を設置．「二色の浜集合住宅コンペ」の最優秀作は「にしき環境創造体」の作品に決定．'89デザインイヤーフォーラム「名古屋」の開催．景観シンポジウム開催される—— 108
日本建築協会月間の動き（昭和64年・平成元年1月分）—— 110
最近竣工した新建築9点（No.2205～2213）—— 表3



マーサ21（Ⅰ期工事）

設計監理　東畑建築事務所
施　　工　間組・大日本土木・市川工務店JV
東海電気工事・大和工業・戸島工業JV
川北電気工業・内藤電機JV

岐阜市街地のめざましい発展拡張に伴い、当敷地周辺も都市化が進行している。
この様な状況の中で敷地内の工場を移転し、大型商業施設を核とした複合型コミュニケーション施設が計画された。
総面積六万平方米を超える工場敷地をより有効に魅力的にリフォームするべく、長年のオーナーの意向により設計を依頼された私達も何か他と違う岐阜正木ならではの新しい商業施設を提案すべく関係者一同検討を繰り返した。
単に購買意欲のみを満たす施設にとどまらず、コミュニケーション、語らい、アミューズメントの場として、様々な空間を設定し、岐阜市北部の生



全　景



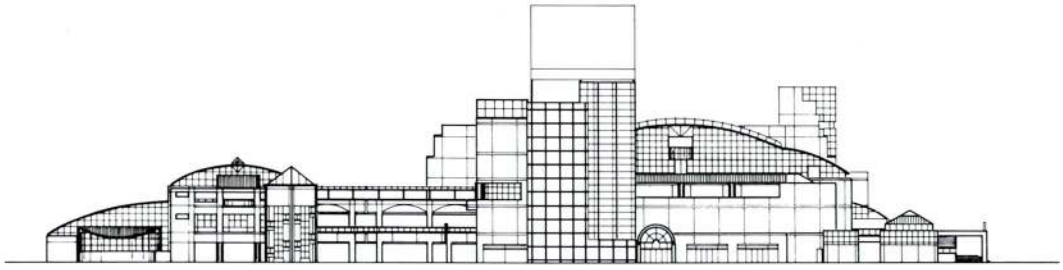
グルメプラザ

活情報、文化の発信点となるべく、建築もそれにふさわしいものをと念じ設計を進めた。
具体的には、共用部分、外構、つまり非物販部分をゆとりのスペースとして活用し、全体としてショッピングセンターのアメニティを高める事がひとつであり、ふたつめは、従来の箱型建築を脱皮し、インパクトの強い、反面ヒューマンスケールな建築をめざした事である。
結果として、前者は5層吹抜のセントラルコート、界隈性を持たせたグルメプラザ、チェリーガーデン、滝の広場、ロフトテックなフードコートetcとして具現化されている。また、後者は、近くにある鷲山にちなみ鷲の飛翔をモチーフとしたボールト屋根、ラインやグリッドによる面の分割、セットバックの手法の採用によって表現している。
様々な形・素材・光・水・緑を組み合わせ、退屈しない、静と動が融合した空間をめざした。
さらに、個々の空間の個性化と同時に、II期も含めた全体計画として、チェリーガーデンからSCを通り、II期のゲートであるループのブリッジへと、動線及び空間を誘導し、将来への展望を暗示している。
最後に設計に際し、いろいろな面で協力、御指導いただいた、カワボウ株式会社はじめ関係各位に誌面を借りてお礼を申し述べる次第である。

（瓦田伸幸／東畑建築事務所）



エントランス



南立面図　1:1200

所 在 地　岐阜市正木町字古川1599他
敷地面積　40,200㎡
建築面積　15,313㎡
延床面積　50,221㎡
構造規模　RC、S、5F
工　　期　昭和63年2月～昭和63年11月
最 寄 駅　名鉄新岐阜駅

撮　　影　SS名古屋



セントラルコート



滝の広場



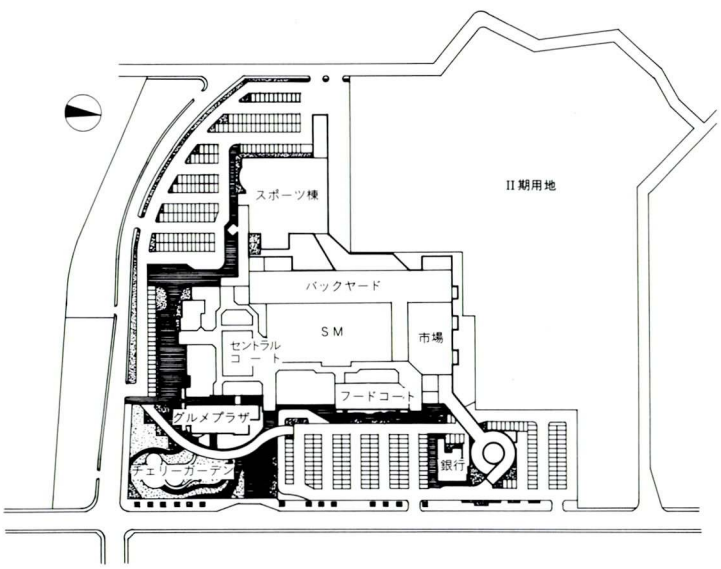
スポーツ棟



フードコート



銀行棟



配置図　1:4200



夜　景

広島県立盲学校
広島県立点字図書館

設 計　広島県土木建築部都市局,営繕課
　　日本総合建築事務所
施 工　盲 学 校　砂原組
　　大之木建設
　　堀田建設
　　日興
　　点字図書館　創建工業


校舎のカリヨン塔


校舎棟(南西)

このキャンパスは、広島市の都市計画街路の整備計画により、広島市牛田新町から全面移転されたものである。敷地は広島市中心部より北約4.5kmの位置にあり、周囲は水道局取水場と住宅地に囲まれた閑静な場所である。

キャンパスは大別して管理棟・校舎棟・食堂寄宿舎棟・体育館棟からなっている。また、生徒は幼稚部から高等部まで幅広い構成となっている。

設計の主テーマとして配置計画ではキャンパスの用途上、動線計画・避難計画また市民への開放を考慮しアプローチのしやすい単純明快な配置計画とし、平面計画においても普通の小・中・高等学校の機能を前提とし、その上で盲学校として欠く事のできない機能を充足すべきであると考え次の点を考慮した。(1)動線の短縮・単純化　(2)移動しやすい空間　(3)ゆとりあるスペース　(4)わかりやすい避難計画　(5)十分な採光。

外観はキャンパスを全体的にとらえる事の出来る前面道路（県道）からの視点を考慮し、各棟の屋根を勾配屋根として景観に変化を持たせる様配慮した。昇降口は正門から見て正面に階段室をはさみ職員玄関と並ぶように位置しているためこの三つの要素をトータルにデザインし、学校の顔であると共に、東西に延びる管理棟・校舎棟の中心とした。また校舎棟屋根には水槽置場を兼ねるカリヨン塔を設け、校舎棟と体育館にはさまれた中庭からの視線を意識しながらも、キャンパスのシンボルとなる様デザインした。カリヨンの音色が近隣に心地よい響きと共に音楽の好きな生徒達にも喜んでいただける事と思う。

また、点字図書館も同一敷地内に建てられ、盲学校よりの利用性を考えながら、玄関は別の道路に面しており、学校関係以外の利用を完全に考えた計画をしている。



盲学校外観(北西面)



点字図書館



配 置 図



体育館棟(右)



全 景

所 在 地	広島市東区戸坂千足2丁目949	
	〔盲学校〕	〔点字図書館〕
敷地面積	25,027㎡	1,800㎡
建築面積	5,305㎡	721㎡
延床面積	10,492㎡	992㎡
構造規模	RC、3F、2F、1F	RC、2F
工 期	昭和62年8月～昭和63年7月	
最寄駅	JR芸備線戸坂駅	
写真撮影	国際写真	

新大阪木村第一ビル

設計施工　大林組



エントランス回り



エントランスホール

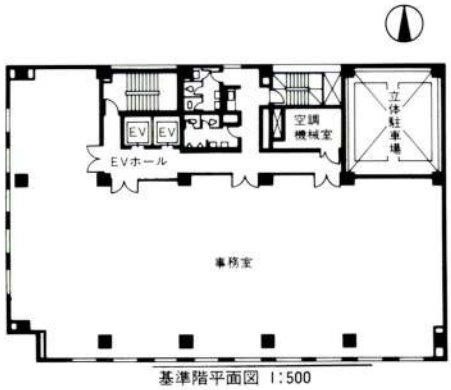
新大阪駅を南へおよそ500m、新御堂筋に面して建つオフィスビルである。テナントビルとしての立地条件は申し分ない。二面道路の敷地に対して、平面計画はセオリーどおり典型的な片寄せコアとし、執務スペースを道路に沿ってL型に配する。ここまではいともスムースに運んだが、はたと困ったのはビルの顔である。あの界隈の街並みからは、これだというイメージが浮んでこないのである。

新幹線の開通以来20余年、新大阪駅の周辺もようやくビルが建ち並び、最近の建設ブームのなかでその変貌ぶりはめざましい。しかしオフィスやホテルがマンション群と入り乱れて建っているため、雑然としたイメージは拭いきれず、その心象風景はあまりクリヤーでない。このような環境のなかにあって、テナントビルとして必要な、周辺に埋没してしまわない程度のランドマーク性と、業務施設にふさわしい端正さをあわせもった外観を狙うことにした。

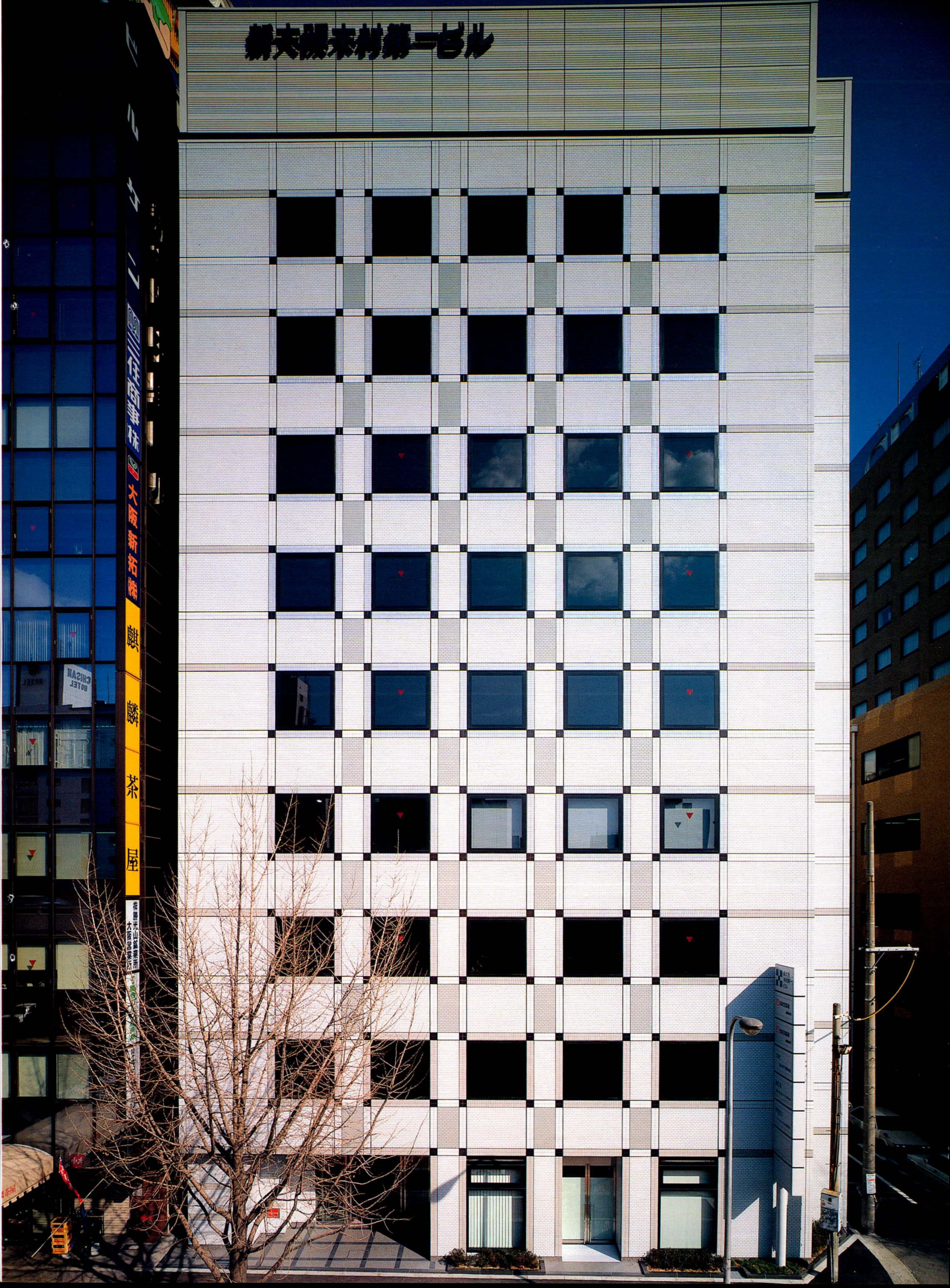
周辺より一際鮮やかな白いマッスをキャンバスがわりにして、シルバーホワイト、グレーなどニュートラル色を使ってグラフィカルなパターンを構成した。装飾による“豊かさ”と抑制されたカラースキームによる“端正さ”、これら二つの要素が違和感なく共存し、ビルの表情が両義性をもつように試みた。モザイクタイルの模様貼りという一見ありふれた手法のなかにも、コストパフォーマンスの高い、新しいデザインが発見できたのではないかと思っている。

（本間利雄・井上喜彦／大林組）

所在地　大阪市淀川区西中島5−11
敷地面積　620.21㎡
建築面積　554.10㎡
延床面積　4,989.58㎡
構造規模　SRC(一部S)、B1、9F、P1
工　期　昭和62年10月〜昭和63年12月
撮　影　島　修一、稲住泰広(SS大阪)



基準階平面図 1:500


株式会社大阪茶屋
大阪茶屋株式会社
麟麟茶屋

ウェディングワンダーランド 福山平安閣

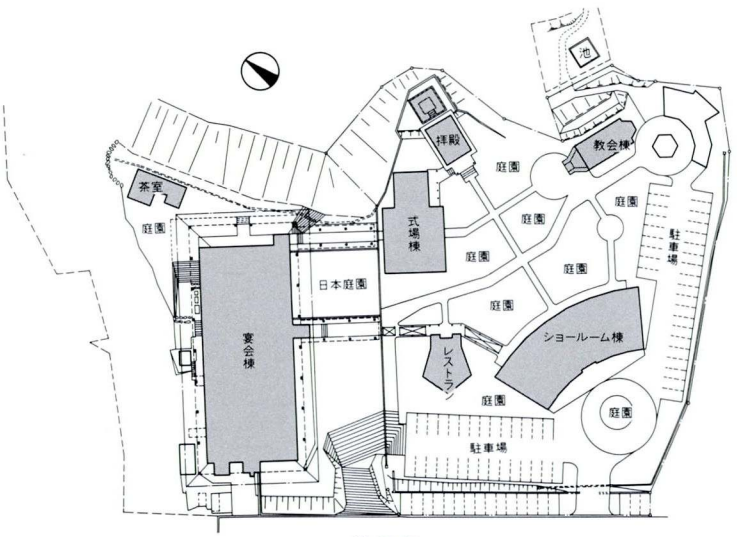
設　　計　大旗連合建築設計
施　　工　大末建設広島支店



宴会棟(「バンケット・パレス」)



1階ロビー



配置図　1：1800

所 在 地　広島県福山市春日町吉田31番地
敷地面積　14,784.90㎡
建築面積　3,466.85㎡
延床面積　4,525.00㎡
構造規模　S(一部W)、2F(一部地下、塔屋付)
工　　期　昭和63年4月～昭和63年8月
最 寄 駅　JR東福山駅（JR福山駅）

撮　　影　国際写真

敷地は、ＪＲ東福山駅から北へ車で５分程度の丘の上に位置している。周辺は住宅団地が形成されており、前面道路をはさんで東側に位置する広島大学附属校と合わせて、住宅地域内にまとまったオープンスペースを提供している。

施設は、かって一棟で総合結婚式場として稼働していた建物を宴会場機能のみで構成されるかたちに全面改装し、その周辺に、事務所・ショールーム・レストラン・神殿・教会・茶室等の機能別に新築建物を分割、分散配置している。

新築された施設群は、リゾート感覚（森の中に点在するペンション風）をイメージの根幹としたため、一棟当たりの面積を出来るだけコンパクトに押え、全て平家で構成している。

施設群を包み込む外周部には、常緑樹（ヒノキ、スギ、アラカシ、モミ、ヤマモモ、ユズリハ等）を密植し、散在する建物をウェディングワンダーランドとして一体化すると共に、常に緑に囲まれた空間を形成している。また、施設群相互によってつくりだされる内部庭園には、落葉樹（ブナ、



ケヤキ、コナラ、モミジ、ハナミズキ、ヤマボウシ等）を、それぞれに名称をつけられたエリアごとに雑木林風に群植し、四季の移ろいを感得できる環境をつくりだしている。

施設間の連絡ルートの結接点には広場をつくり、各施設、庭園と一体化して、大茶会や園遊会のようなイベントゾーンとしての利用も考慮されている。

各建物の外壁は、周辺の緑に映えるように白を基調として統一し、建物の大きさ、形態、屋根の色でバリエーションをつくっている。

アウト・ドア感覚を結婚式の流れの中に導入することによって、全国でも珍しい、新しい形態の結婚式場になっているウェディングワンダーランドが、イベント等に活発に利用されることによって地域の活性化に寄与すると共に、〈春日の森〉と命名された庭園が、緑の供給地として、将来とも、地域の憩いの場となるように期待している。

（中西敏明／大旗連合建築設計）



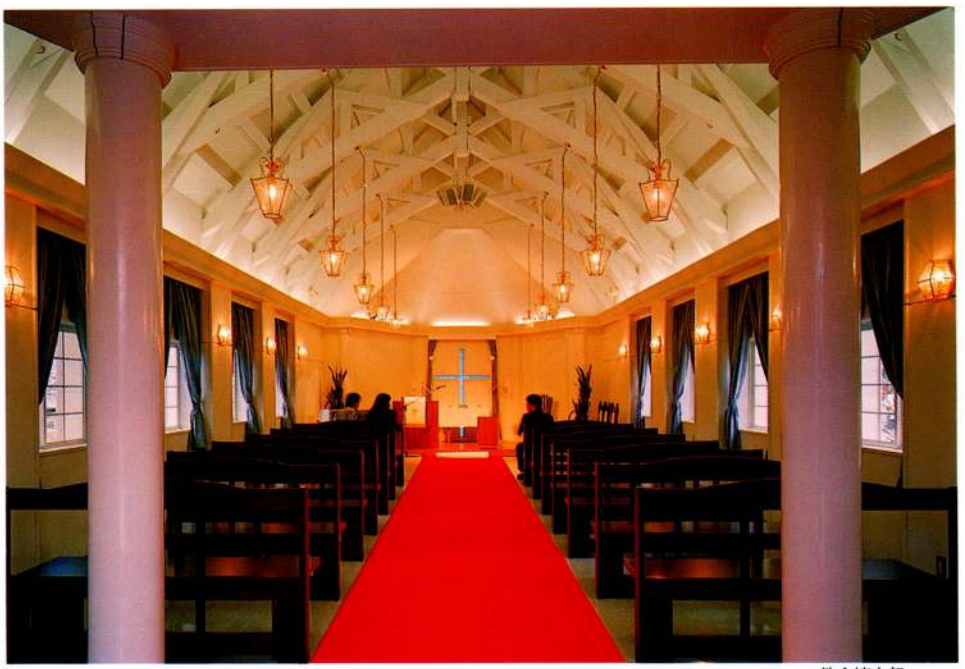
ショールーム棟(「クリスタルファンタジア」)



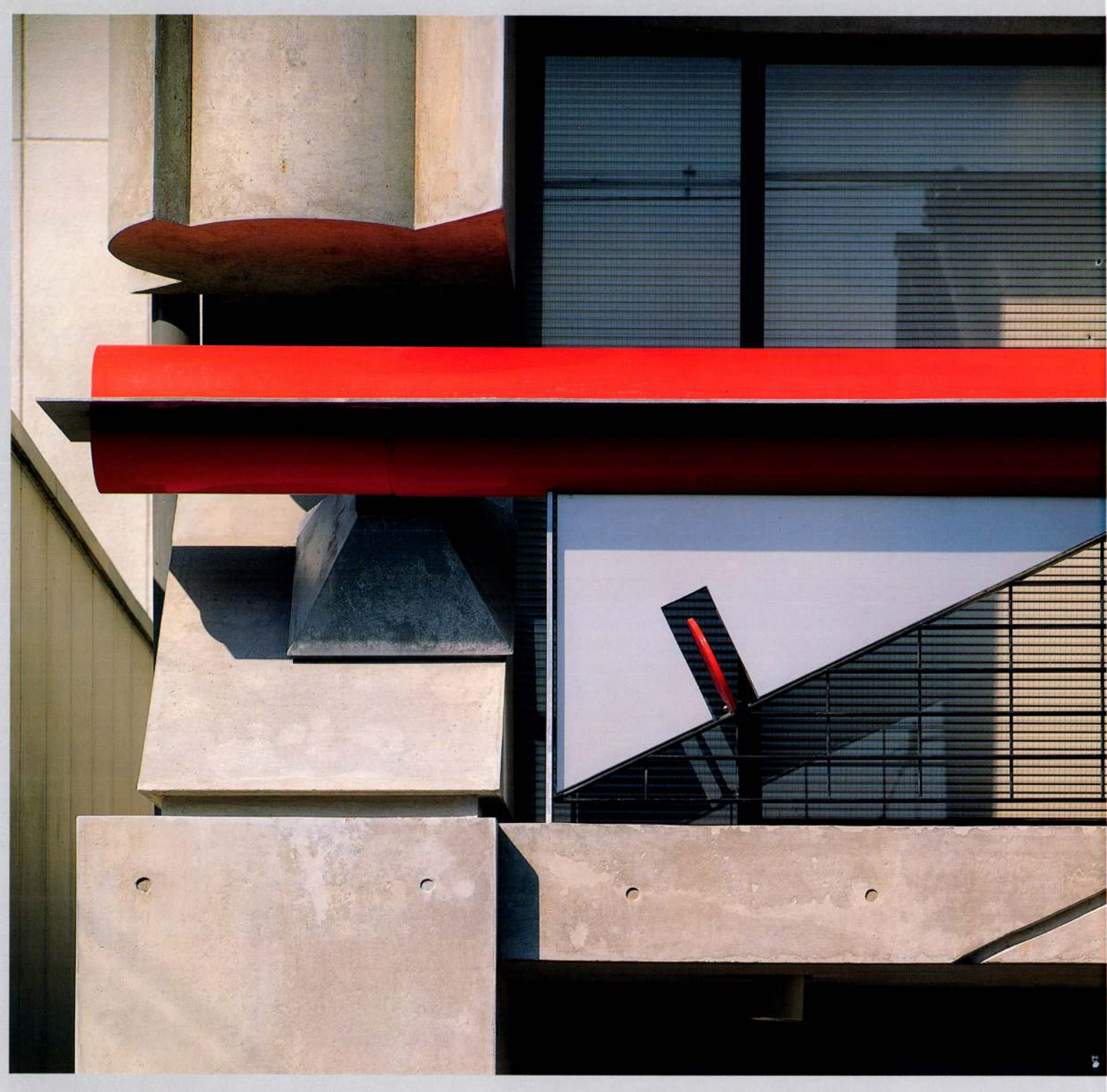
教会棟(「ロイヤルチャペル」)



拝殿棟(「平照殿」)



教会棟内部



建物は国道1号線と谷町前との交差点（旧名・空心町）の東北に位置し、南面は交差点からでも覗かれる。

前面道路斜線により、5階からセットバックを受ける。この階を分岐点として、下部を1階駐車場＋店舗、2、3、4階を貸事務所とし、上部の5、6、7、8階を共同住宅とすることで、機能上及び形態上分岐した。7、8階には建築主自身が住む。大阪造幣局が東側300m位にあり、春には桜の通り抜け、夏には天神祭で賑う。去年には7、8階の窓から船渡御の大輪の花火を堪能できたそうである。

平面は光庭を中心に囲む構成である。1階から4階までのファサードは開口をアルコーブ状にしぼりこんで閉鎖的に深みのあるものとし、コンクリート打放肌面への光の明暗を建物の表情とした。

両翼を支配している異形のコンクリート塊は吊り下げられて宙にあり、足元へと塊が寧たれることで重力に対峙し、単調さを払拭する。

ファサードの閉鎖性に呼応して少し光を閉じたアプローチをくぐると、5m×3mの中庭が空へと吹抜けて、中央にブリッジがかかる。その空間には光があり風があり、四季の中で人々の語らいが聞こえる。（樫永一男）

タカセビル

設　計	樫永一男建築研究所
	構造/敏構造設計
	設備/安枝設計
施　工	松村組大阪本店
所在地	大阪市北区天満橋1-3-21
敷地面積	213.57㎡
建築面積	170.10㎡
延床面積	1,081.48㎡
構造規模	RC、B1F、8F、P1
工　期	1987年5月～1988年2月
撮　影	川元　斉

Gallery

まち・建築・ひと



外壁アルコーブの手すり



ペントハウス



セットバック部側壁



正面入口まわり

樫永一男



1950　大阪市に生れる
1968　都島工業高校卒業
1973　大阪工業大学中退
1978　西林建築設計事務所
1978　2月～10月ヨーロッパ一人旅
1980　樫永一男建築研究所設立

企画編集　作品作風小委員会　岡本　隆











新神戸　オリエンタルホテル

デザインの歴史を刻んだ家具も、新しい感覚でつくりあげます。マルニのホテル・レストラン家具。

●1988年4月1日より社名変更しました。（旧社名／マルニ特殊家具株式会社）

ホテル・レストラン等業務用家具の専門メーカー／マルニグループ

maruni

株式会社 マルニ ファニシング

東京・東日本橋　maruni FURNISHING Inc.

統括本部/〒271　千葉県松戸市小根本7-10 フコク生命ビル3F　TEL 0473-62-0202(代)
東京支店/〒271　千葉県松戸市小根本7-10 フコク生命ビル2F　TEL 0473-61-0288(代)
大阪支店/〒541　大阪市中央区博労町1丁目7番2号 船場クラタビル7F　TEL 06-268-0281(代)
広島支店/〒738　広島県廿日市市新宮1丁目9－34　TEL 0829-32-2688(代)
沖縄支店/〒900　沖縄県那覇市字銘苅322-5 マエシロビル3F　TEL 0988-67-0220(代)

営業所／旭川(北海道)・岩井(茨城)・野田(千葉)・高知

maruni FURNISHING Inc.　■大阪支店は近畿地方全域。中部地方西域、中国・四国地方は東域を担当しています。お気軽にご用命下さい。　(☎06-268-0281)

ホテル＆レストラン／業務用家具	海外営業事業部	リフォーム事業部	ハウジング事業部	委託加工事業部
●ホテル・レストラン家具は	●海外へ輸出用は	●ホテル家具の修理・補修は	●集合住宅の造作家具は	●商品化のお手伝い



花山の病院　撮影　大橋富夫

特集

色の復権

建築家・デザイナー・芸術家の色の選び方と手法

宝塚造形芸術大学／長谷川紘

オゥ・グルメ・シノワ京宴／若林広幸

京都ブライトンホテル／日建設計

赤い彩布／内井乃生

中世の町家の色彩／増田正

夙川S邸／出江寛

ANGLE／早川邦彦

総論

色の復権

篠原一男

各論

日本建築の伝統色10話

狩野忠正

コーポレーション・カラーチャート

日建設計

竹中工務店

積水ハウス

レポート　環境色彩の社会的意義

―環境と色彩・自然と開発からの考察―

跡部禮子

エッセー　海外の色彩事情

胡似之／中国

ビルマ人留学生

アンジェ・グルシェフスキー／フランス

アリス・キナ／ブラジル

アンヌ・バーニー／アイルランド

マーキ・パール／アメリカ

インデックス　意外と少ないカラー決定のツール

―プランニングから現場指示まで―

増地秀夫

本特集企画・計画系―インテリア・住宅―分科会委員

加藤　力、北浦かほる、石倉健彦、一ノ瀬満雄、大塚慶子
神谷　剛、北山喜与、駒田哲男、細田泰彦、増地秀夫

総論　インタビュー

色の復権

篠原一男（東京工業大学名誉教授）

インタビュアー

加藤　力（京都工芸繊維大学助教授）

北浦かほる（大阪市立大学助教授）

色彩の役割、機能

（加藤）建築やインテリア空間における色彩のもつ意味、色の機能、役割について、作品づくりを通して、お考えをお聞かせ下さい。

篠原　絵画は色の占める役割が強いわけですが、その絵画でも色そのものが主役になったのは今世紀に入って、いわゆる現代絵画と呼ばれるものになってからでしょう。建築家のイメージの中で色が占める重要さを私はけっして否定しませんが、やはり設計の主段階では、形や材料が優先され、色はそのつぎに来るものだといってよいでしょう。多くの場合、色彩というものを特に考えなくても、材料のもっている固有の色で間に合っていますいってよいでしょう。いま、ここでは色を、塗料を使うこと、或いは色が主体の、たとえばタイル貼というような作業と直接結びついているものを対象にします。レンガ、打放しのコンクリート、パネル化されたアルミニウムなどのもつ色は材料のもつ質感（テクスチュアー）の方に含めます。

（加藤）色彩は建築にとって、第二義的なものということですね。

篠原　そう考えています。具体的な例、「花山の病院」[註1]では、私の外の仕事を比べると色が大きい役割をもっていると私自身も思っています。しかし、それでも最終的な色、その場所がきまったのは、コンクリート躯体が完成したあとです。これとほとんど平行して進行していた２つの住宅[註2]で色を使うか、使わないか、そして、その直前の仕事、「東工大百年記念館」[註3]「ハウス・イン・ヨコハマ」[註4]で使われた色彩との関係でこの病院の色彩がひとつの特徴をもつようになりました。目立った色の空間構成になったと思っています。

ちょっと話題をかえますが、建築の作品としてのコミュニケーションは写真と印刷に頼っています。最近はカラー印刷も急速に増えてきましたが、平均すれば、建築の場合はモノクローム印刷をコミュニケーションの基本として計算しておかなければいけません。もし、デザインの主体がすべて色にあったとしたら、コミュニケーションの機能は大幅に失われます。

ブルーノ・タウトが伊勢神宮を讃美したので、彼がドイツで建てた集合住宅が原色のような強い色で塗られていたことを当時の雑誌で連想することは、一般には困難だったと思われます。パルテノンでも、鮮やかな色が使われていたといわれますが、すでに、形と質感だけでも十分な価値をもってしまったこの遺産の場合は、色は第二義的意味しかもちませんね。

（加藤）コルビジェ、タウトとそうなんですが、たしかに近代建築の初期の作品は非常に強い色を使っています。最近は、ポスト・モダン調で代表されるような淡い色の使い方に変わってきつつあるように思えるのですが、そうした建築の色使いの傾向はどのように思われますか。

篠原　ポスト・モダン、狭まい意味での、に私は参加していませんので、その傾向についてくわしくわかりません。しかし、おっしゃる通り、パステルカラーのファンタジックな、或いはキッチュな使い方は特徴のひとつだったのでしょう。モダンの否定としての、楽しいルーズさといえましょう。装飾についても同様ですね。しかし、ポスト・モダンは終ったという見方がすでにみんなの了解事項になりましたので、そこから直接つぎの問題が続いていくことはないだろうと思います。

〝無記憶の空間〞づくり

（加藤）先生の色使いも、多少やわらかになっていると私は感じます。それは、そうした時代の背景があってのことでしょうか。

篠原　「花山の病院」ではパステルカラーが使われていますが、勿論、これはポスト・モダンの影響ではありません。「ポスト・モダンは幕間劇であっても、第2幕ではない(註5)」と、80年代はじめに私は書いていますので。まず、この病院は老人のための医療施設です。原色のような強い色はまず除外していました。とすれば、あとは日本的な渋く、落着いた色、或いは質感が考えられます。

しかし、これは私の現在の建築のコンセプトの文脈には乗りません。若いとき、日本の伝統を主題としていた時期に、質感(テクスチュアー)への強い関心がありましたが、色は基本的に強い鮮やかな色の方に関心がありました。この病院の色もですから、静的で簡潔な構成としての中間色ではないと私自身思っています。むしろ、それとは反対の意味で選ばれています。老人が一般的に所有している長い時間に刻み込まれた彫の深い、同時に微妙な調子をもった記憶から、なるべく遠く離れた、いわば〝無記憶の空間(註6)〞をつくりたいという大前提が優先しています。大都会の繁華街の賑やかな雑踏が不思議な楽しさをもつのは、それが無記憶の空間のひとつであるからだと書きました。このコンセプトの表現のために、できるだけ多くの色を使おうときめたとき、結果としてパステルカラーが中心になったのです。最初は、すべての病室をひとつずつ違った色で塗ろうとしたのですが、互いの差異化が困難でしたから、同じ階の病室は違った色で特徴をもたせています。中央のリング状空間、遊歩道のようなものは病室とは異ったもっとランダムな配色になっています。

（北浦）そこでは、色に対しての何らかの意味づけを考えておられたのでしょうか。

篠原　色に対して何らかの意味づけをする作業の極端なものは、象徴主義(シンボリズム)になるわけですね。たとえば、紅白、紫、などには日本では特定のコードが存在しています。リング状空間の外壁の色をきめていたとき、ある瞬間、イタリアの街で印象的だった民家の外壁の色と似ているなと思ったことがあります。黄色と赤色の系統の配色についてですが、しかし、鮮やかな緑青色をそのなかに置いたとき、そういう記憶のイメージは消えたように感じました。ひとつひとつの色について、それから、それらの組み合せについても、古い記憶、伝統もそれに含まれますが、一方で、いわゆる色彩計画法からも離れたシステムで塗りたいと考えていました。ここでは全体の調和のために使われているのではなく、反対に、全体構造を



花山の病院1988　撮影 大橋富夫



ハウス・イン・ヨコハマ1986　撮影 荒井政夫

〝見えなく〞させるような方法、ここでランダム性、カオスというような問題と連立するわけです。そうしたもので決定したいと意図しました。

〝マシン〞と〝カオス〞

（北浦）形態と無関係なのですね。

篠原　形自体も、ひとつの全体に向って統一していくシステムではなく、離散的な状態の形の集合としての全体を表現できないかというのは、ここ10年くらいの私の基本的な主題になっています。色はこの主題の強調に特に効果的です。今、私が色についてもっている関心はこの点に重心がかかっています。

勿論、この考えは建築に文字通りのカオスの表現することを最終目的とすることではありません。地震や台風に対する建築の性能をひとつひとつとりあげても、十分な秩序が要請されます。使い勝手についても同様です。ですから離散的な形を接合した建物についての関心とその表現は、建築論、都市論そのものにかかわる今日の問題として私は提起してきました。(註5) モダニズムの〝マシン〟と〝統一性〟との相対関係で成立している〝マシン〟と〝カオス〟の問題です。

（北浦）そこでは、色に付随するイメージをどんな風に処理しておられますか。

篠原　建築のなかの色の役割は、個々の色が所有している一般的なイメージを操作して、静寂な空間、賑やかな空間などの構成に参加することでしょう。たとえば、老人のための医療施設は、茶室や数寄屋のような渋さがのぞましいという方針をもし撰択すれば、「花山の病院」はだいぶ雰囲気は違ったものになったでしょうね。前にも述べた通り、賑やかで、記憶をたどる必要ない軽快な〝街〟のイメージが撰択されたとき、色とそのイメージの一般的関係をいったんバラバラにして、既存のイメージとの連想を消そうと考えています。

（加藤）いままでに、色についての失敗例などはありますか。

篠原　作品として発表されたものが失敗かどうかという問題を私が答えるわけにはいかないので、ある仕事の設計からその完成までの過程で、色をめぐる作業に限定していえば、テスト塗の失敗、すなわち、当初のイメージのずれの修正、それから、彩色そのものの中止というのが何回も発生しています。形の場合と違って、もし色が失敗だと気づいたら、大きな面積で後の費用の精算のとき、建築家が自分で処理できそうもないものをのぞけば、塗り直しができるのが色の特徴のひとつですから。

「東工大百年記念館」の場合、設計の最終段階まで、外装のアルミ板の着色による、南側は鮮やかな彩度の薄青緑色、北側も同様な黄色、いずれもアルミ着色特有の透明感を期待していました。見積りの段階で一時はアルミ着色どころではなく、アルミ板外装それ自体が使用困難になったこともありましたが、最終的に普通のアルミ板質感まで回復しました。しかし、内部空間は、一階の展示室の基本を白とした以外は、多くの色が予定されていました。2層分の天井高をもつ3階講演室の西側コンクリート壁の一部が濃い青色に塗られたとき、私のイメージとは異った〝きれいな空間〟になったと感じたため、いっきに色は排除という方針に切換えました。2階の小会議室などが廊下の壁面がそれ以前に2、3種類の淡い中間色で塗られていて、面積も大きかったので、それが残りましたが、その他は、3階は白、一部に金泥色、4階はシルバーメタリック塗装で固定しました。途中での彩色中断は、すでに形自体が十分に特異であって、それ以上の強調は必要ないと感じたからです。

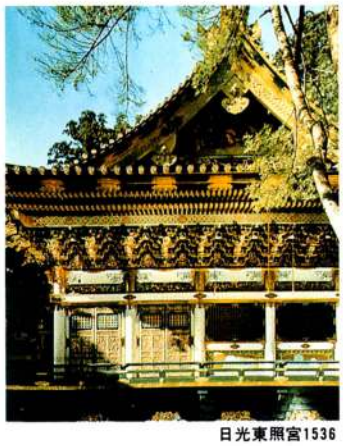
彩色は本質的に、論理よりも衝動によって進行すると思っています。それだけ〝失敗〟は発生しやすい。これを防ぐためにはいわゆる色彩調節といわれるような手法を地道に使っていくことになるでしょうが、私は最初からそれとは異った考えで色を取扱っているように思います。

日本の伝統建築美

（加藤）先生は、日本の伝統を立脚点として建築を始められました。それも、ワビ、サビの美学でなく、金閣寺や日光東照宮など勝者の美学、一般的な美学、現在の建築家の一般的な美の価値観は、ワビ、サビにおいています。それが素材主義と結びついて、色彩を否定しているようなところがありそうです。こうしたことについて、どのようにお考えですか。

篠原　日本の伝統のひとつの特性としての素材主義といえるものは強いですね。勿論、ヨーロッパでも原則的に素材のもつ色から離れた彩色の空間というのが大きな役割をもつのは現代になってからだと思えますが、日本では特にそれが簡潔で、禁欲的な素材のもつ質感の方に関心が片寄っていますね。ですから、第2次大戦直後のモダニズムの考えだった機能・合理主義と、日本的特性だった生地のままの木材による構成と偶然の類似が発生したとき、その関係についての論理的な検討をしないで、むしろ、それによりかかって日本のモダニズムは成長してきた部分があります。一方の、日光東照宮の装飾性や金閣の金箔への異様なまでの執着は、日本建築史のなかの主流には位置していません。素材感といえるもののなかでも、いわゆる〝わび・さび〟に直結したものが日本の伝統の中央部に位置していましたから。

今回の金箔貼り直しではなく、20年も前の、火事のあとの再建金閣を訪れたとき、午後の陽に映えて建っていた金閣をみた同行の若いデザイナーや学生たちの間から〝何か嫌らし



日光東照宮1536



金閣寺1397

いね〟という声が聞こえました。その後廻った京都御所の、こちらは放火ではなく祭りの火が飛んで燃え、その後、美しい白い木肌と、真新しい白塗で再建された小御所の前に来たときは、彼等はあまりカメラを向けることもなく、古びた柱、梁と雨戸、白い壁と白い障子が構成する〝日本的なもの〟の方へ足早やに去っていったのを記憶しています。しかし、これらの建物の創立者たちが考えたものは、光輝いて池にその姿をうつしている金閣であり、真新しい堂々とした木材と、真白な土壁で構成された小御所であったはずですね。金閣も東照宮も、いずれも権力を獲得した直後の、中世、近世のそれぞれ初頭に生きた将軍たちの権力誇示そのものでした。それまで権力をにぎってきた階級や家族が崩れていくときの無常感とは無縁でした。ルイ王朝のヴルサイユ宮のスケールや厚みとは比較にならない、これらは小じんまりとした装飾空間です。それでさえも嫌らしい成り上がり趣味という見かたがつきまとっています。ですから、日本人は、ほんとうの彩色をたくましく持続していくことはむずかしそうですね。若いときには、勇ましく、原色を使うデザイナーも、中年を過ぎると、枯れた彩色法に入っていくという定型を避けるのはむずかしい。ポスト・モダンが色彩に大きい役割を与えていたとすれば、それを持続し、さらに拡大していくという作業は、特に日本の場合、容易ではないでしょう。モダニズムは日本の禁欲主義の方に結合しやすかったことで、持続が可能だったと思う。反対の快楽主義、色もそのひとつの要素の持続は日本人でなくてもけっして容易ではないと思います。

空間主題の変遷と色彩

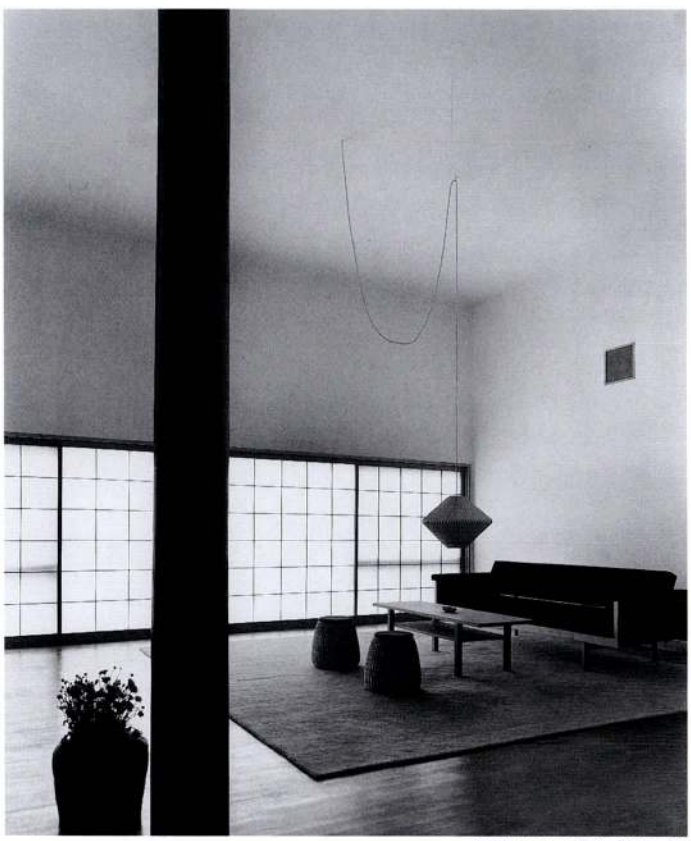
（加藤）こうした時代の流れの中で、ご自身の色の感覚は今後どのように変化していくとお考えですか。

篠原　時代が今回のタイトルのように〝色彩の復権〟という状態をつくりだすのか、これはむずかしい問題です。ただ、一般論としていえることは、たとえ幕間劇であったとしても、もし、ポスト・モダンというスタイルが色彩を十分に活用したものであったなら、現実の施工のとき、大きなリスクがあまりない作業ですから、さまざまな試みが許容されるでしょう。特に現実の表現手段として、もし成功すれば、費用と効果の点では、たいへんいいものです。ただ、さっきの快楽と禁欲の二項問題を適用すれば、もし、色が十分に使われていたとすれば、その反動で、素材感や無彩色への振れが多分現われます。

日本建築の伝統を中心主題としていた私の最初の時期、それは1960年代終り頃までですが、木、紙、布などの素材のもつ質感にやはり興味がありました。しかし、大学を出た直後の最初の住宅[註7]では、外壁にしっくい白壁、内壁に鮮やかな紺木綿地、天井には金箔様の紙貼り、勿論ほんものの金であるはずはありませんが、１階床は淡赤色の素焼平瓦をつくって構成しました。竣工直前にピロッティ鉄骨に、光明丹といわれている、研磨材にもなりうる鮮やかな朱色の金属質の塗料を塗ったのですが、その強烈さに驚いて、静かな色に変更しました。お稲荷様の朱塗りよりもっと強烈な色と、しっくい白壁との構成を想像していただければわかります。今だったら、或いは受けとめて実現に持込んだかもしれません。

この後、「白の家」[註8]までの間は、素材のもつ質感と、それとは両立しがたい鮮やかな色との両方を取扱ってきました。「白の家」では素材感の消去という役割としての白ペイントが明確に意識されました。無機質の空間という、私の'70年代前半のコンセプトに向う準備がはじまったわけです。「白の家」の後に出てくる色が、今ここで問題にしている色彩なのだと私は思います。例えば、ずっと後になりますが、「高圧線下の住宅」[註9]で、空間架構としての柱・梁を、離散的な色で塗り分けて、全体の空間の統一性とは反対方向の、断片化と、それらの非統一的な再編成という主題、これが「花山の病院」で、建物の内外に現われて、その強調が意図されました。このために、強い緑、青、赤、そして黄などが使われました。

「白の家」と同時につくられた「地の家」[註8]で、一度原色の赤が壁に塗られたとき、このときも私はそれを受けとめる用



白の家1966　撮影 村井　修



高圧線下の家1981　撮影 荒井政夫



地の家1966　撮影 村井　修

意がなくて、少しべんがら色の入った落着いた赤に変えています。住宅のなかで大きな面積比率をもった壁面がもつ視覚的作用を考えると原色を残すことができませんでした。その有効性の確認ができなかったからです。ほんとうは非日常的な異様な材料ですが、土の床や、鉄板の質感がそのときは、私の手の届くところにありました。和紙や布はどのように鮮やかな色でも、その材質のもつ優しさのゆえにあまり失敗はありません。ペイントはもっと薄い被膜ですが、一般的な色彩調節から踏みだした特異なコンセプトの表現には〝失敗〟がつきまといましたし、これからも同じでしょう。

材質のもつ色のなかでも特徴のある強い色に私は興味をもっていたうえに、いったん白で消去されたあとの色は、色とそのイメージとの間を結んでいる一般的なコードから自由になったと思っています。これが、80年代に入った私の空間主題が、〈零度のマシン〉と〈プログレッシヴ・アナーキー〉が焦点になっていましたが、特に後者のコンセプトの表現のために、色を参加させているように思います。

今、お話ししてきた質感と色の二つのことがらのうち、次第に色の方が興味のある作業になりつつありますので、これからも機会があれば、色の背景を変えながら、色の意味を変えていきたいですね。軽い表層性をつくる材料として。

プログレッシブ・アナーキー

（北浦）テクスチュアーの自由度から得られる色の効果と、ペイント色のもつ魅力は別のところにあるように思うのですが。

篠原　そうだと思います。新しい質感をもつ材料を見つけるのは、実際にはむずかしいものですね。そう新材料がいつもつくりだされるわけではありませんから。新しい質感を見つけるのは、ですから、それまでの日常的になった使いかたをいったんはずしたところで、新しい意味を見つける方法になりますね。しかし、色の場合も本当は同様で、色そのものは塗料見本のように相当の数があるわけですが、しかし、新しい色の使いかたを見つけるのはむずかしい。

私は新しい質感をもった新しい建築材料を見つけたことがあります。1950年代の半端ですが、今、シャモット・ブロックと呼ばれて一般化しているものですが、耐火レンガや磁器の主材料のシャモットを利用した高温焼成の材料です。〝シャモットブロック〟も私が建築材料として命名したものです。日本的な質感をもっています。それから、これは色の特異な使いかたの方ですが、1960年代のはじめの〝黒い冷蔵庫〟[註10]の試作です。有力な家電メーカーの協力で展覧会のために出品されました。〝白の家〟の白が素材の消去を意味したように、このときの黒は、氷と白色との間のコードの切断を意味する記号として選んだものです。黒でなくても白以外の何色でも使えるはずだという考えの表現でもあったのです。

（北浦）とくに住宅の色については、どうお考えですか。先生の御自邸にもかなり色を使っておられますか。

篠原　「ハウス・イン・ヨコハマ」では、例えば黒と緑で、これは、室内で比較重要な役割をもっているように思います、これは当初、材質のランダムな出会いという主題で進行されていたのですが、施工の材料撰定にミスが出たため、一挙に

色彩を積極的につかって別の主題に切換えていった経過があります。この住宅の工事が「百年記念館」の設計の最終段階と重さなっていたこともあって、連動関係、すなわち、さらに色彩の強調という方向、反対に今度は色彩をまったく使わないというような方向の二者択一があったわけですが、そういう手続とは別の、気まぐれの直感というものもいっしょに作用していました。ですから、一般論としての住宅の色彩について述べるのはむずかしい。私の住宅のなかではもっとも強い配色、赤と黒を使った「地の家」は、もっとも色を消去させた「白の家」とほとんど平行で、しかも相反的でした。相反的な出来ごとは、継時的、共時的の両方がありえます。形についても、同じような問題論理的には、ありそうですが、色彩のような振れは起りにくいように私には思えます。しかし、これは私個人の原則的な方法や気質それ自体にかかわった現象なのだろうと思います。

（北浦）都市の色彩については、どのようにお考えですか。

篠原　古い街並みがそのまま現代の都市のなかで生存をつづけている、ヨーロッパの建築家たちと違って、この国には、建築家が共有しうる都市のイメージは、論理でも現実でも存在していません。建物のクライアントと、設計する建築家との了解が成立して、建築規準法の物理的規制を守っているかぎり、どのような形、色も自由に撰択できます。形の方は、内部の使いかたと、地震などの災害の問題で、自由度は自然に限定されますが、色については完全に自由です。私が、日本の都市のカオスとして取上げている現象の内容は、多くの場合建物の表面の勝手気ままな装飾的な取扱いか、建物の立面を覆う大きな広告板のなかの色彩のどぎつさから発生したもので、建物本体は、ほとんど形式化してしまった箱型（ボックス・スタイル）モダニズムで設計されたものです。この都市風景がまったく手のつけられない破局に到っていないのは、日本社会が今日もっている高い水準の技術力と深くかかわっているからだと考えます。例えば、東京のいくつかの場所では〝プログレッシヴ・アナーキー〟という、興味ある都市状態（アーバン・シチュエーション）が発生しつつあるように見えるものも、そういう条件で支えられているからです。

しかし、静的で、時には禁欲的といえるような、材料の撰択と空間の構成であった日本の伝統、個々の代表的な建物だけではなく、町家のような集落を含めて、今日の日本の都市と、どこでどのようにつながっているのだろうかと、外国人だけではなく、私たち自身も疑問をもちます。日本の伝統は、国がたいへん貧しかったときに形成されたものにすぎないと、突き放した意見をだしてもそれほど間違っていないと私は思っていますが、経済好況にあって、どのような表現も可能になった今、ひとりひとりの建築家に期待される都市性（アーバニズム）は逆に大きくなっているはずです。特に色彩については。

しかし、だからといって、統制、特に権力と結びついたものを期待するわけにはいきません。イギリスでチャールズ皇太子が、モダニズム建築が英国の建築の伝統を駄目にしたという発言が話題になっているそうですが、私たちはロンドンが東京に比べて、混乱しているとか、駄目になったりしているとまったく思いません。ビートルズを生んだ国の建築家達が、こうした発言に、そう簡単にひきさがるとは思いませんね。

虹のような帯空間

（北浦）最後に永年、大学生活をなさってこられた中で、学生への色彩教育については、どのような指導をされましたか。

篠原　設計の基本としての色彩を教えたことがないので、一般論としての意見を持ち合わせていません。設計課題の中で色彩が特別に巧いか、その反対かの時にだけ何か意見を付け加えていたと思います。形と比較した場合、色は学習の結果とは別の、生得の条件が多いのではないでしょうか。形でも、実際は、論理的な手続きをこえたところに生まれるものでしょう。言い換えれば、色彩は教育というシステムに乗りにくい対象ですね。

生得の、という言葉で気がつきましたが、前に色のイメージは建築空間の最初のイメージにはなりにくいと私は言いましたが、これは私自身の条件であって、もしかすると“虹のような帯（ベルト）空間”という言葉から建築空間をつくり出せる人もいるかも知れませんね。

若いときには原色を繰返えし、中年すぎると、わび、さびを求める傾向について前に触れましたが、色だけについての問題ではないのですが、私はこういう日本の定型と反対のことを試みたいと若いとき意識して、だいたい、この手順で進んできたように思っています。「花山の病院」が雑誌に発表されたとき、九州と東京にある、私が設計した２つの住宅の住み手である東京芸大の油絵科教授のＮ氏からの手紙のなかに「色気違いには驚嘆」とありました。（笑い）

（加藤、北浦）今日は、本当にありがとうございました。

（註１）新建築、建築文化 1988／10
　　日経アーキテクチュア 1988／９／19
（註２）建築文化、住宅特集 1988／10
（註３）新建築、建築文化1988／１
　　日経アーキテクチュア 1987／12／14
（註４）建築文化 1986／４
　　住宅特集 1986／５
（註５）「建築へ」新建築 1981／９
（註６）「快楽の生産性」住宅特集 1985／秋
（註７）新建築 1954／11
（註８）新建築、建築文化 1967／７
（註９）新建築、建築文化 1981／９
（註10）「デパートのなかに建った２つの家」近代建築 1964／５

各論

日本建築の伝統色10話

狩野忠正

色の定義から始めることを考え、広辞苑を調べて見た。色の意味が広範囲でものの色以外にも多様に使われていることがわかり、文字からくる色を改めて見なおすことになった。主なる意味を列挙すると、光波ベクトル組成の差異、階級を表す色、顔色、容姿の美、趣味、きざし、調子、なさけ、欲情、恋人などが記されている。物理学から文学、社会学まで、色の文字から伝わる印象は複雑である。建築の色を語るにあたって、光学から分析し、色相（単色光の波長）、彩度（あざやかさ）、明度（光の強弱）を基本に人間がどのような反応を示すか、感覚的に論を進めるのが一般的である。

色彩学では、当然追求される分野であるが、私にとっては専門外のところにあるし、また、あまり興味の対象ではない。ここで語ることは経験を通じての建築にまつわる色の意外性であり、色を中心とした、他の要素とのクロスオーバーによる新しい心象風景のような世界である。

「忍ぶれど色に出にけり我が恋は物や思うと人の問うまで」平兼盛——私の恋は、誰にも知られないように心の中にかくしていたが、顔色に出ていることが人にわかってしまった。——人の顔色と建築の色は相通ずるところがあるように考えられる。建築の色も一途に関係者に思い続けられ、決められたものであれば、建築の表情にほんのりと現れるものである。日本建築の色は最初に抱く思いと、持続する思いの相乗効果によって現れてくる。

ゲーテは「色彩学」の中で光の波長分析を行い、波の主観に順応性を付加して、色の定義を行っている。さすが詩人の心情に甦える色彩学である。その中での特異な色と感情に関する論究にある。社会性を持つ建築色を語ることは、とくに人々の色に対する感情が、どのようなものであるかが重要な要素となる。

1, 弁柄 べんがら

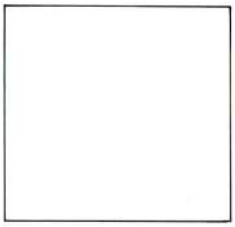
(JIS記号 7.8R 4.6/8.6)



赤と橙色の中間色である朱色はシルクロードを経由して、日本に伝来した色といわれる。朱色は高貴なる色として、高位の家の内を朱に塗っていた、朱は木造建築の防腐材として、カキシブが現在も使用されている。日本の民家建築の木部の赤味を及びた華やかさは、緑深い風景の中で大胆なる表情を保っている。高貴な家のシンボルであった朱が庶民の建築の中に入ってきたのは、京都の遊郭の連子に紅殻を塗ってからである。木部に塗られた紅殻は壁面を塗るようにまで大衆性を保つようになった。京都祇園角にある一力茶屋は店屋としての風格と京都の都市イメージを喚起させる要素の一つである。紅殻色の日本的なる理解は、建築当初は朱で塗り込められた寺院が風雨にさらされ、時間の経過によって、色あせ紅殻色に近づいていたところにある。

飛鳥、奈良時代の伽藍は、朱の生々しい色でうめつくされていたが、適当に朱が飛んでゆくにつれて、途中の移ろいの中に、日本の美意識が同調し、紅殻の色として伝統的に受け継がれてきた。朱と紅殻の対比を観察しやすいのは薬師寺東塔と西塔の対比である。最近、完成した西塔は朱がなまなましく、東塔は頂度いいころあいである。黒い瓦の大屋根と庇の下にわきあがる紅殻は光と陰のみごとな対比を示している。

2, 純白 じゅんぱく
(JIS記号 3.9Y 9.1/0.9)



神の色、ものごとの初めの色として、古代から祭事の中で使われてきた不安、穢れのない色である。

白は人類における原初の象徴の色なのであろう。白装束は、神宮の衣服であり、花嫁の衣装であり、以前は産堂で着たといわれる。凶事に行われる布が白と黒であり、白色は生と死に関わる色であり、人間の根本にかかわる色ということになる。伝統的庭園の中で白を意識させるのに、銀閣寺の庭に盛られた白砂の台形の山がある。陰気になりがちな庭園の月の光をこの石砂に反射させ、庭から室内へと光を映し込む演出を考えている。また深い庇を支える梁の木鼻の先に彫られた小口にしるされた白い防腐装飾である。白色を部分的に挿入することにより軒裏の明るさを調整している。

現代建築の外壁で白色を採用したら、問題なく平均以上の建物になるとよくいわれるが、場所をわきまえる必要がある。緑深い自然の中では白に生かされるが、建築が軒を連ねる都心では、なかなかそぐわない。第一の理由は、日本の空の色を背景にして、めりはりがきかないところにある。秋晴れはたまにはあるが、どんより曇った空を背景にした白一色では様にならない。姫路城にしても、倉敷の町屋にしても、白壁の上に瓦屋根をのせて、空と壁を明確に分けたのである。スカイラインを生き生きとした形態にするために、灰色の空と白壁の間に黒をはさんでいる。

桂離宮の白壁と障子は直裁なる木構造で、茶色に分割され、白が生かされている。あたかもモンドリアンの絵を見る思いである。絵と異なる点は、周辺の景色の移りかわりを白壁、障子に映り込んでいることにある。絵画的処理を行った白と茶の構成に四季の移り行く時間を重ねあわせたところに桂離宮の美学がある。白色は無の色でありながらすべての色を含み込む全能の色でもある。

3, 墨, 銀鼠 すみ, ぎんねず
(JIS記号 5.5PB 7.7/0.5)



かなり以前に読んだ文章で篠田桃紅が著した「墨いろ」は今もよく記憶している。よほど印象的であったとみえて、建築設計で思い悩んでいるときなど思いだすことがしばしばある。その内容はこのようであった。ある書体の墨いろがなかなか思うように書けず、幾度となく書きなおしていたが、まだ気に入った墨いろにならない。あきらめの境地を幾度となくさまようことになる。そうこうするうちにあやまって墨を落してしまった。その色がすばらしい色であったという話であった。墨いろとはかくも微妙なる色なのであろう。普通に書かれた墨いろとこの墨いろの差を見きわめたところに、色の別の世界を感じるのである。

建築で墨いろに感動したのは、山崎にある妙喜庵を見学したときである。千利休がいかなる思い入れで、このわずか二畳の茶室を建築したかは、現代の社会から推理するのもかなりのずれがあると考えられるが、内部壁面の土壁に塗りつけられた墨いろは狭い空間の中で内面へ内面へと意識が集中する状況にあって、無限の広がりを持つ空間の広がりをもたせるのに、最もふさわしいものとなったと考えるのである。とにかく最初にこの空間に入った時の印象は背中がぞくっとするものを感じたことである。

スサが表面に現れた墨いろの壁面は平坦さをやわらげ、生き生きとした壁面となっている。墨いろの壁面と炉でいこされた炭火は、静に対する動の演出をみごとに行っている。墨色は、日本の風土になじんだ色と考える。水墨画が中国から日本にとり入れられて定着し、横山大観を中心に広められた朦朧体の日本画の表現として主流となり得たのも、このあいまいもことした墨いろを自然に同化しようとする日本人の美意識が作用しているのである。日本建築の内部の主役の位置を占める襖絵は墨いろという単彩を使いながら、無限の色、深みのある色を見る人に伝えていく。

4, 藍 あい
(JIS記号 6.1PB 2.5/4.9)



青の世界にも日本の伝統色は多いが、建築になじみのある色は藍色であろう。藍染から発生したこの色は、建築の中の布地として使用されてきた。高価な素材であったためか、部分的に使用されていることが多い。藍色で感動したのは、大徳寺境内にある竜光院密庵席であった。小堀遠州作のこの茶席の縁にある扉の表面に中国の麻の藍染を張り、春慶塗のフレームでしっかりと押さえられていた。

一枚の布地に込めたデザイン感覚は、すさまじいものさえ感じられた。遠州は伝統的なる建築の色彩に対して、モダニズム意識が強く働いて、中国からとり寄せた藍をはめ込んだのである。伝統は守られることと変えていくという意識の葛藤の中に力を保って行くことは、時代には関係なく存在するのだ。

藍には伝統的な色でありながら、モダーンなイメージを抱かせるのは、藍と隣り合せにある青の色彩の多様性にある。浅葱(あさぎ)、納戸(なんど)、瑠璃(るり)、群青(ぐんじょう)、紺青(こんじょう)など鮮明なる印象は高い、青の系統色から連想する水、ガラス、空などの寒色が持つ、人を受け入れないような表情を示しながら、逃げるものをかえって追いたい意識にかりたてる素性を持っているのであろう。藍色系統の色は木、紙、土の暖色系の多い建築素材に、別の印象を流入させる寒色として違反性としての個性的役目をになっている。

5, 黄土 おうど
(JIS記号 2.6Y 7.1/5.1)



木、土、布、紙の色は時間の経過の中で環境になじんでいく。

日本建築の伝統的素材は有機質なもので考えられてきた。それは日本の風土の特性が多湿ということに基本はあるが、四季の移ろいが自然の内に進行する景色に同化する素材を採用しようとしたことにも影響している。日本建築の美意識は自然と対抗するのでなく、むしろ同化することによって秩序を保ってきたといえる。

建築は大地から立ち上がった形態をとり、土の色が建築として使われていれば、何ら不都合はなかったのである。有機質素材で建築するのが困難になった現代建築は、素材に対する認識がより求められるのは、無機質なものをどこまで理解するかにある。理解するにはほれ込むしかない。主要構造材を木造で構築されている古代日本建築は1,000年以上の時代の移り替り中で序々に変化を伴いながら美しさを保ってきた。建築当初は白々しくて見た目にしっくりしない木造建築は、時間の条件が空間に加わることによって美の領域を保持していくことになる。伊勢神宮の式年遷宮にあっても遷宮後、序々に檜の生地の色が変化し、その時、その時で異なる表情を現すところに人々は感動するのである。

伊勢神宮は構造材、仕上材に桧を生地仕上で建築されている。直裁なる明解性が印象深く、人々に迫りくるが、よく見ると、千木、勝男木の先にわずかではあるが金箔が施され、木材端部のかざりの技術面を考慮しながら建築美を創出しているのである。この金色がない場合を想定すると建築の持つ力のようなものが、かなり低減されてしまう。

土の色で印象的な場所は竜安寺石庭を囲む油土塀である。風雨にさらされ、やや落ちかけたところに緑が自然付着する形を眺めていると建築の壁の中に宿った生命力が伝わってくるのである。土壁はそれのみでは存続できない。土壁を保護する瓦屋根によって、壁を伝う風を調節することで壁の色を時と場をわきまえて、表情豊かに表しているのだ。

6, 鬱金 うこん
(JIS記号 4.1Y 8.0/10.8)

雪国の冬は早く訪ずれる。山深い場所であれば、色鮮やかな赤々とした木々の群による山道のドラマは、人々を深い思いに浸らせる秋の風景である。色が華やかであるほど早く色は移ろいいく。長い陰うつな冬を過すには、どのような建築を人々は期待するのか、日光東照宮は、この地域にあって、人々の期待にこたえるものであった。

建築の周辺が、どんよりと環境に覆われた時期、心をわき立たせるには建築の内、外を金色に輝かせるしか方法がなかったのである。

東照宮が桂離宮とほぼ同じ時期に、しかも同じ大工の手により創られながら、デザインの方向が全く異なるのは、地域性に微妙に反応を示しながら建築を行った民族意識が強く作用している。東照宮の装飾的形態をさらに金箔で張りめぐらしたのは、必然性のあるデザイン意識といえる。

また、日本の神社、仏閣は部分に有効に金色を使う場合が多い。木部の接合部、端部に銅をみがき仕上で取付ける、いわゆるかざり金物の世界である。かざりは、職人の手技技術を効す世界である。現在も伝統の技術は継承されている。部分に込められたエネルギーの集中力は、金色に輝く銅の表情をいっそう豊かなものにしている。破風の三角形をした交叉部分、垂木の先端、扉の枠の接合部など有効に使われている。大屋根の上に取付けられる鴟尾に張られる金箔は、黒い瓦屋根を大胆なる手法で調和を保たせている。黒と金の対比は建築を文学的でもあり、絵画的なものさえ感得させる。

7, 焦茶 こげちゃ
(JIS記号 0.1R 2.6/1.2)



ヨーロッパでは赤の種類が多いのに対し、日本は茶色が多い。このことは地域性、歴史性がかかわっていると考えられるが、つきつめれば生活情況の違いが影響していることになる。

建築に木を使うことの多かった建築文化は、いやが上にも茶色に親しみを寄せたであろうし、木が移りゆく茶色に対しても敏感に反応したことに思い至るのである。茶色の外装にすると都市景観の中でぴたりと定着できるのも、このような歴史的な条件が作用している。

日本建築は、建築と大地の二面対比ではなく、異質な素材の同化を、むしろ指向していると考えられる。

土に返る意識が強いのは、東洋的な自然観からくるものであろうが、土色に近づくことによって精神的に安定してくる。建築の外装を何色にするかと迷ったとき、指標となるのは、その土地の大地の色である。土壁の建築は、地元の土を使用することが、自然の建築手法であり、地域の景観は、それによって、均一あるものとして定着した。

茶色は朽ち果てて残る色であり、錆ついて定着する色である。自然の移り変りの激しい風土の特性に順応しようとする心情は、外壁を土色にすることと相通ずるものがある。土壁は時を経過して、ややくずれ、内部からスサ、小舞が見えるようになっても、あるいは、このようななりゆきにあっても、受容する意識はどこから来たのか不思議だ。

8, 黒色, うるし色
(JIS記号 1.8PB 1.8/0.7)



黒色からの連想は死が多いが生の讃歌でもある。

暗黒街、黒の霊柩車、車のネクタイと黒色のイメージはネガティブな様相が強いが、反面、黒い服はハレとケの両面に通用するように、黒色の深層心理への把え方は両極に強く位置をしめている。黒色は色の発生するもう一つの極を白に対して持っている。色の発生以前は闇である。

まったくの闇の空間体験をしたのは昨年の夏であった。長野にある善光寺を訪れた時である。地下に設けられた黒うるし色——そのように感じただけで、色が見えない世界であるので正確には闇といえるであろう——に入った時は方向性を失い、高低感覚さえ麻痺してしまう。目をふせられて宇宙空間に投げ出されたごとき心境である。ロープに通された大型の数珠をもちながら、びくびく歩をすすめるので、なんとかわずかな精神安定を保っているが、これがないとしたらどうなることか、この闇空間は宗教的意味が考えられる。広がりのある闇は白を意識させない。色が生まれる以前の姿である。

黒うるしの建築で記憶に新しいのに二つの建築がある。一つは高台寺境内にある霊屋である。秀吉と北政所を祭る場所である。内部木部をうるし塗で仕上げている、うるし塗に蒔絵を施し、高台寺蒔絵とし有名である。この蒔絵は13年かかって完成したと伝えられているところから、この小空間にいかに思い入れたものかがわかる。

不思議なことに3回訪問したが、そのつど表情が異なることである。別の建物かと錯覚するぐらいである。うるしの黒は外的条件で表情を変えてしまうのである。最も感動的であったのは西日を斜めに深く射し込む冬期である。もう一つの建築は長野の松代にある真田雪村の廟である。この建築は風木火山さながら、雄大なる周辺の山並を背景とする象徴として、つつましやかであるが優雅そのものである。外壁、扉、檜用板にまで黒づくめに塗られたうるしの発想は人間の創造性をつきぬけて、松と杉の木立の中にたたずむ生きもののようだ。

9, 緑青 ろくしょう
(JIS記号 4.6G 4.7/9.1)



緑青でまず最初に思い出すのは、室生寺金堂にある十一面観音像である。数ある十一面観音像の中では若々しい像である。この若さは張りある表情にあるが、その背景となる後背も影響を及ぼしていると考えるのである。この作者は今まであまり使われなかった緑青を後背に添加することによって、観音像が新しい表情を現すものと読みとったのであろう。像にかけられた銅の飾金具が錆で緑青になることと、木製の後背に刻まれたところに緑青を塗り込んで、色調が時の経過の中で呼応するところを真剣に考えたのであろう。

緑青は銅が錆ついて色づくことを計算した流動的な時間の淀みが加わっていて、奥深い色相を帯びるのである。時間によって、より完成の域へと近づく色であり、無限の生命を蓄えた色ということもできる。

室生寺金堂の連子窓にも緑青が塗られ、十一面観音像との緊張感と同調性をあわせ持つ特異な空間関係を保っている。

緑青は中国から飛鳥、奈良時代に伝承された色であるが、日本の木の文化の茶色に対し、中国の青銅器文化の緑青がうまくとり入れた例である。全体の色を指向する茶色に対し、部分の凝縮された緑青色がハーモニーしている。この様式は日本が現在も持っている混交文化移入と変わるところはない。緑青は色味を淡くしたり、強くしたりすることにより時代を吸収して行く。

10, 藤紫 ふじむらさき
(JIS記号 0.8P 5.8/8.8)



紫は無気味な色だ。何故か私の好きな色である。ある人は病的な色であると忌み嫌うが、私にとっては気が直接に移入出来る色であり、危険性を秘めたるところに魅力を感じることでもある。

紫は赤でも黄でもなく、多様な色を内包している。見る人にとっては複雑な感情を促す色となる。不安定と紫、狂気と紫など関連してよく聞く紫のイメージはあまり良くない。しかし紫は生から死までを表す色であり、その微妙なる色調のひだが人々の心をゆり動かすのだ。高貴と下品、聖と俗、神秘性と通俗性、矛盾そのものが紫色にはある。この矛盾が美の空間を誘導させるのだ、日本の草花に以外に紫色が多いのも、伝統色として関連性が多いにあるところであろう。薄紫の草木染を見ていると知にこだわる世界の色は、はるかかなたに追いやられ、感情に直接伝わってくる。日本の紫は奥ゆかしさ、人情、繊細をうまく表した色と思われる。

狂気さえ秘める紫を建築の色として全体に使用することはできない。部分に使われて高価を発揮する。

紫色は時代によって評価が変わってはいるが宮廷で用いられた色としては、最高位の色として伝承されている。最高位の色も一歩踏み違えると最低のものとなる。このぎりぎりの様相こそが深い意味性を持つのだ。

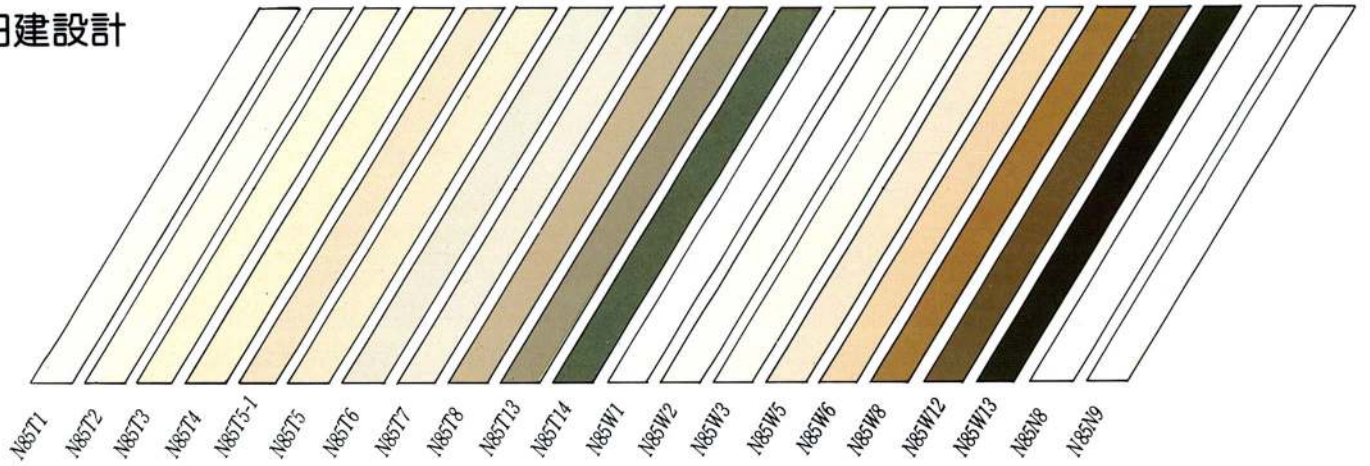
文字にあっても紫は多く採用されている。万葉集、源氏物語、枕草子、近松の文学に紫が登場するのは、文学の世界に品位ある空間意識をとり入れることにある。

(かのう　ただまさ／株式会社竹中工務店大阪本店設計部長)

コーポレーション・カラーチャート

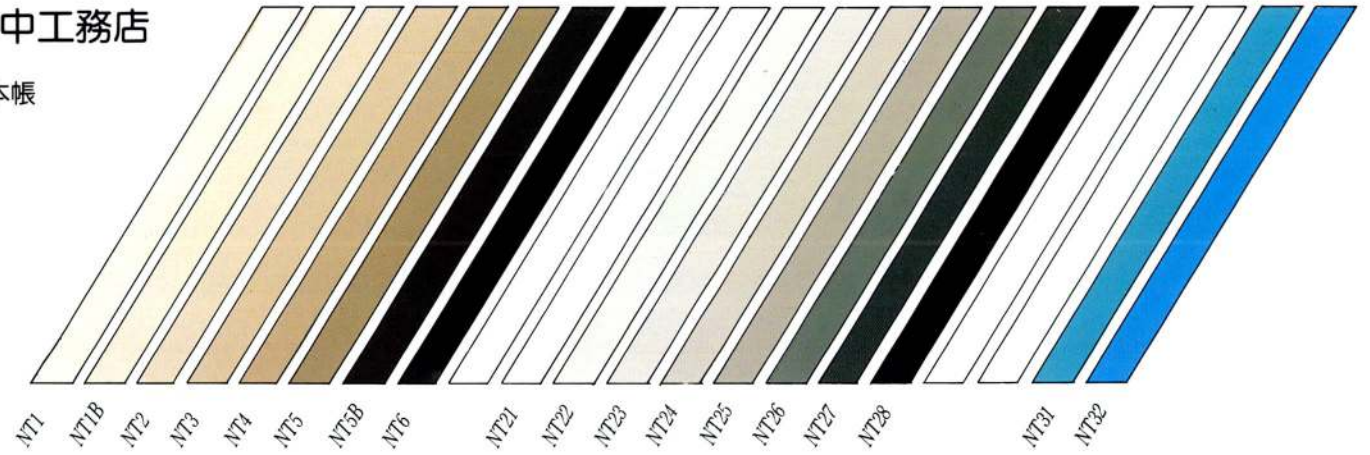
株式会社 日建設計

基準色 85



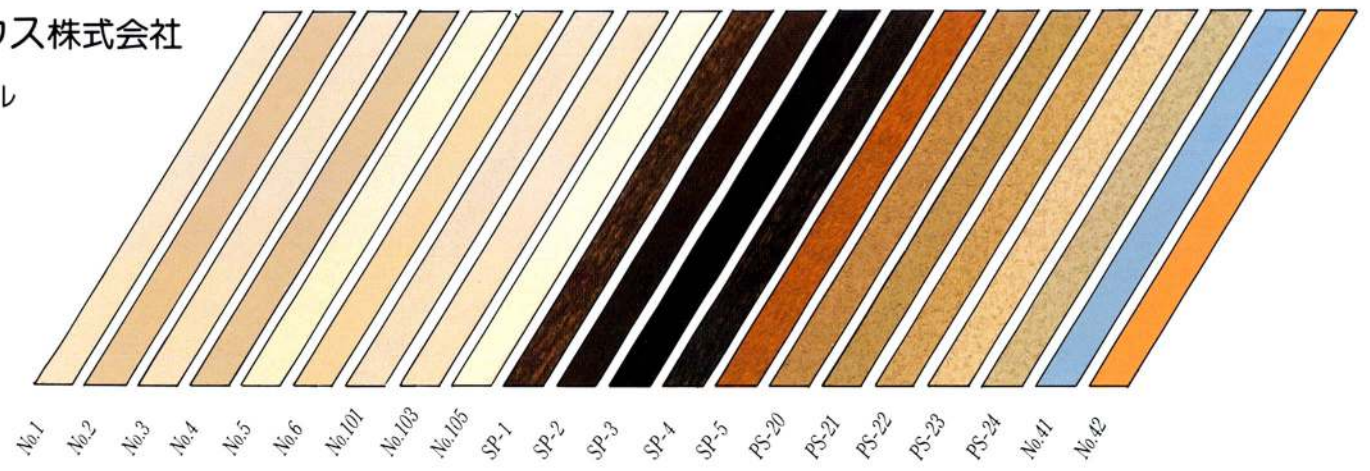
株式会社 竹中工務店

86版 色見本帳

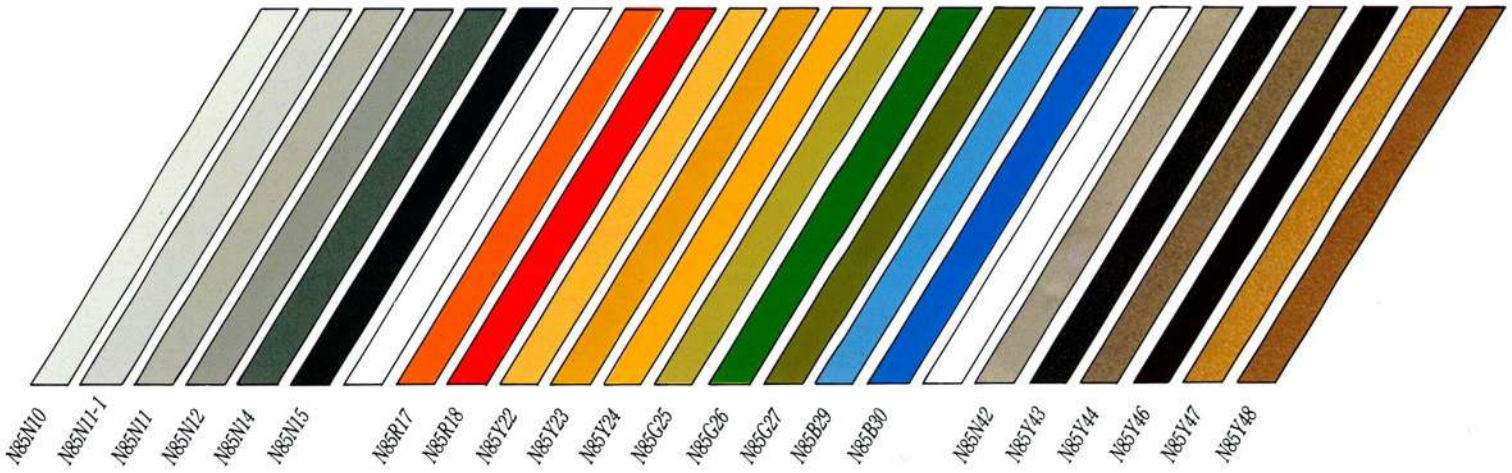


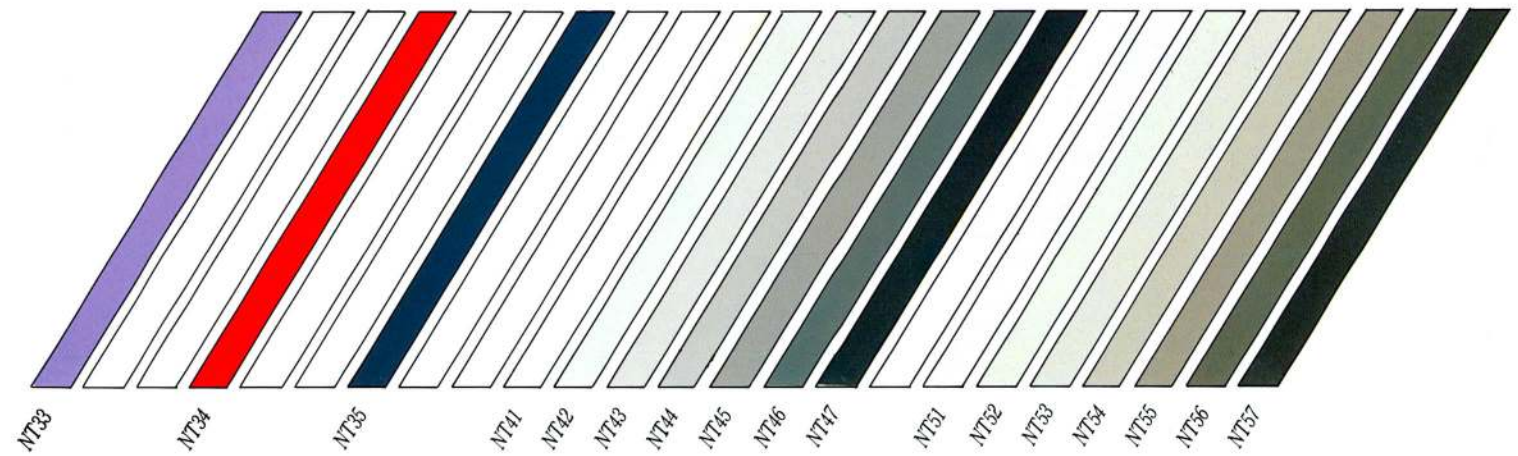
積水ハウス株式会社

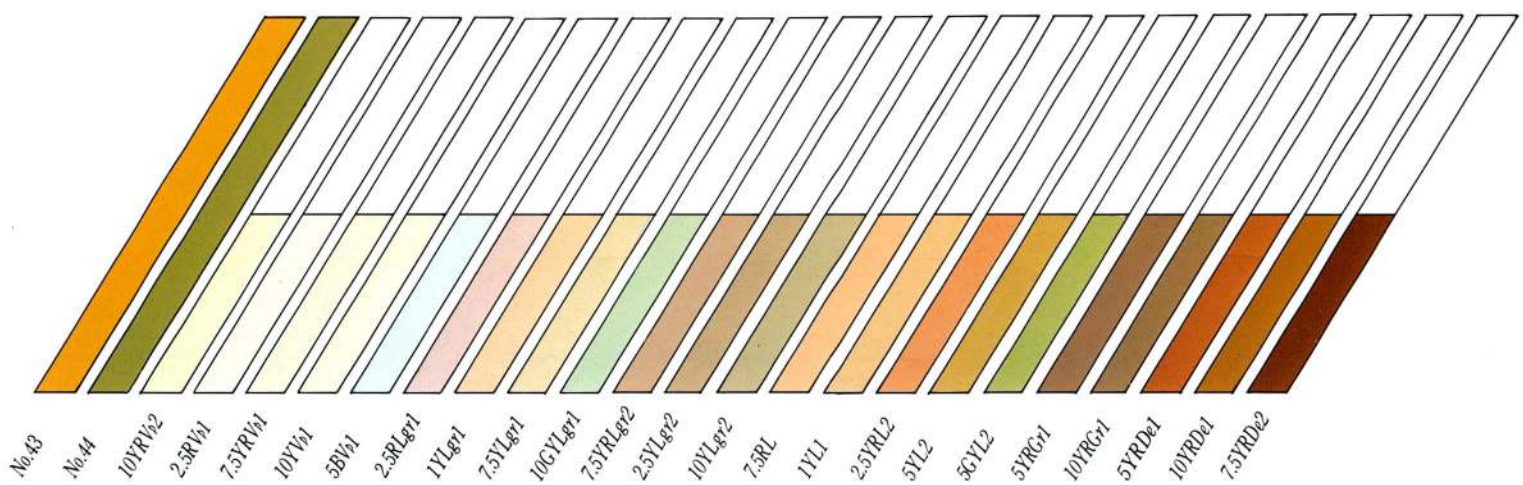
塗装サンプル
(一部)



各企業独自に持つ標準色・基準色について、設計分野から日建設計、ゼネコンから竹中工務店、ハウジング系として積水ハウスの3社のものについて取り上げてみた。まず、日建設計にあっては、トラディショナル(T)、ワーム(W)、ナチュラル(N)の3つの無彩色系に加えて、赤、黄、緑、青系の有彩色を含め43色の基準色を設定。竹中工務店では、従来からの暖色・寒色系の無彩色に、新らたにB色相系、G色相系の合計4つの無彩色系、これにア







クセントカラーを５色にしぼり、35色の構成の色見本帳を持つ。いずれもマンセル記号が併記されているがここでは省略。積水ハウスについては、現在特別に標準塗装色は使用されておらず、参考として10年前のサンプルを記載。

この他、オリジナルとしてクロス色458点、床材色82点、カーペット色122点を持ってカラーリングに対処。ここではオリジナルクロス色のごく一部を記載している。

（加藤　力／京都工芸繊維大学）





撮影　小川茂雄

宝塚造形芸術大学

長谷川　紘

建築家

原設計者アンドレ・ヴォジャンスキー氏は新建築誌で建築の形態を確定する過程を述べた後、次のように色彩について説明している。

「この大学の計画にあたって、ポリクロミー(polychromie)複数色の手法の研究の成果をかなり実現したことをも付け加えたい。ひとつの建物の形態がきっちりと決まった時、そのかたちは美しいといえる。特にプロポーションがよい時にはそうである。しかし、そのかたちは時に静的であって、冷たく無機的な状態にとどまる危険性がある。形態とプロポーションによって起るリズムはそれだけでひとつの生命的なものであるが、色を使うことによって、その形態に導入された命をますます活気づかせることが可能である。ただ、色はひかえめに使わなければならない。なぜなら、色を使いすぎると形態が失われ、その美しさを弱めるからである。しかし、色は細心の注意をもって調和よく小面積に配置されれば、静止した形態に命を与えることができる。各階に沿って配置したカラーパネルと紡錘形棟の着色した方立で、私はこれを実行した」

Bachを愛する彼は、また大学の理事会での最初の計画説明に際し、「私は皆さんに一つの音楽、色の響きを提供する」と述べた。ニュートンの七色のスペクトル分析以前から、色を音楽のアナロジーとしてとらえる考え方が、ヨーロッパ人にとって、いかに根強い伝統となっているかが知られる。氏はあらかじめ選んだ12色のカードを手にして、各所に色を配してゆく。これはまさに音楽の12音に相当するというわけだ。

しかし、この12色の内容を見るとなかなか興味深いものがある。我々が普段手にするマンセル系の色票からは思いつかない選び方である。まず紺色系統の青が4色ある。次に緑が2色、黄が2、オレンジが1、赤が2、紫が1色あるがこれはほとんど使わない。半分を青緑系が占めている。

全体の基調をなすのは、4色の青であるが、これは不思議な色である。彩度は決して高くない。我々の手にする色票にあるものと比べると、我々のものは青が突出していてキイキイという音が聞えるような感じがする。他の色も含んだ豊かな感じのする、しかし決して濁った感じはない青である。この紺の微妙な4段階が、ずいぶん遠くから大学をながめた時、あるいは小さな写真でも認められるのに驚いたことがある。

この上にのって色の饗宴を演じる他の色もただあざやかな色ではない。やせた色ではなく、皆豊かな色である。色票にある他の原色と比べるとわかるが、各色が十分な重みを持っている。「各色の色濃度が等しく大きいものが選ばれているのではないか、それ故バランス良くおちついて感じられるのではないか」とは本学の寺主教授の説明である。私の見るところ紺系の4色に加える緑の2色、これに対する赤の2色が、実に絶妙なバランスを保っていて、そこに現れるオレンジ1色が眼に一層快よいものと映るのである。

今回の協同設計で我々は窓や壁といった建築の基本要素、特に手摺において、それをとらえる概念が互いに全く正反対の出発点を持っているのに驚いたが、色彩においても、異なる精神世界からやってきた色彩群であると、このごろになって感じている。

(はせがわ　ひろし／長谷川紘都市・建築研究室
宝塚造形芸術大学助教授)





撮影　三島　叡

オゥ・グルメ・シノワ　京宴

若林広幸
建築家

今から凡そ二十年程昔の事になりますが、私が建築を始める前は“たち吉”と言う和陶器の会社で食器のプロダクトデザインをしていました。当時我々はシンプルでカラフルな洋食器で“アダム&イヴ”というブランドを創り、一世を風靡した事があるのですが、赤や青、黄、更には黒といった原色を着けた食器などは前代未聞だった様です。

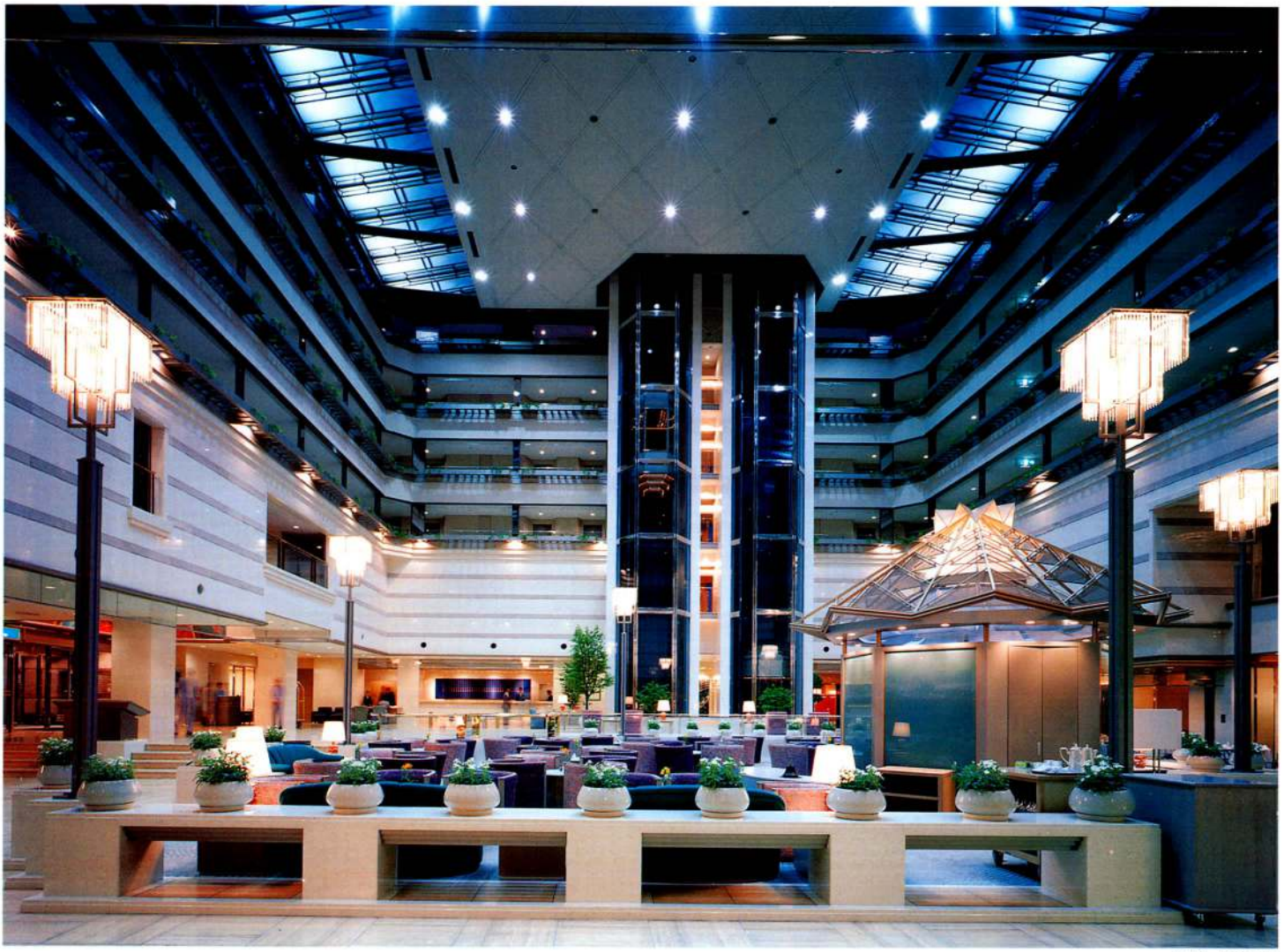
ところで陶器に色を着ける時にはふた通りのやり方があります。本窯といって最初から色の“うわぐすり”を掛けて一度で焼成し発色させる方法。もう一つはあと絵といって、一度無色の“うわぐすり”を掛けて焼成したものに、再度低温で色を焼付ける方法です。しかし原色は一度の焼成ではなかなか発色しにくい事もあって、あと絵付けになってしまう事が多い様です。

実はこの二つの方法は同じデザインの商品でありながら全く異なったものに仕上がってしまうのです。あと絵の場合はいかにも塗ったという感じが抜けきらず、おもちゃの様なイメージを与えてしまうのに対し、本窯で一度で焼成したものは深みのある作品に仕上るのです。これは表面の何ミクロンかの差なのですが、その僅か何ミクロンか奥から色がにじみだして見えるという現象がその物自体の質を変えてしまうのです。

ところで建築の場合、色を着けるということは素材そのものの保護や、汚れ、継目等を隠し、美しく見せるといった目的が主なのですが、素材の質を隠してしまうことでもあるのです。ですから私の場合は先程述べた様な体験から、建築で塗装等を使う時には質感を持ったものを好んで使います。それは単に色を塗って隠すだけに終わらず視覚的に質も変えてしまいたいと思うからなのです。ですから塗装の必要な場合には塗料の中でも唯一質感を持っているシルバーを好んで使いますし、アクセントとして使う以外に単純に色を全面に塗る様なことはあまりしません。吹付け材にしても、リシンや吹付けタイルの様な単に色が着くだけの物ではなく、セラミックを粉にしたものを吹付けるセラキャストの様なものをよく使います。

この作品のレストランの内装には多くの色彩が有りますが、すべて質感を持ったものばかりで構成しています。特に赤や黄トラバーチンの様に原色に近い素材はなかなか良いものが見つからないのですが、苦労して思い通りの色彩素材を見つけた時には非常に嬉しいものです。私の場合には特にそうした色（素材）と色（素材）とがぶつかり合う接点のディテールに一番気を使っていますし、建築の完成度を左右する最も重要な場所だと思っているのです。

（わかばやし　ひろゆき／若林広幸建築研究所）



撮影　ＳＳ大阪

京都ブライトンホテル

日建設計

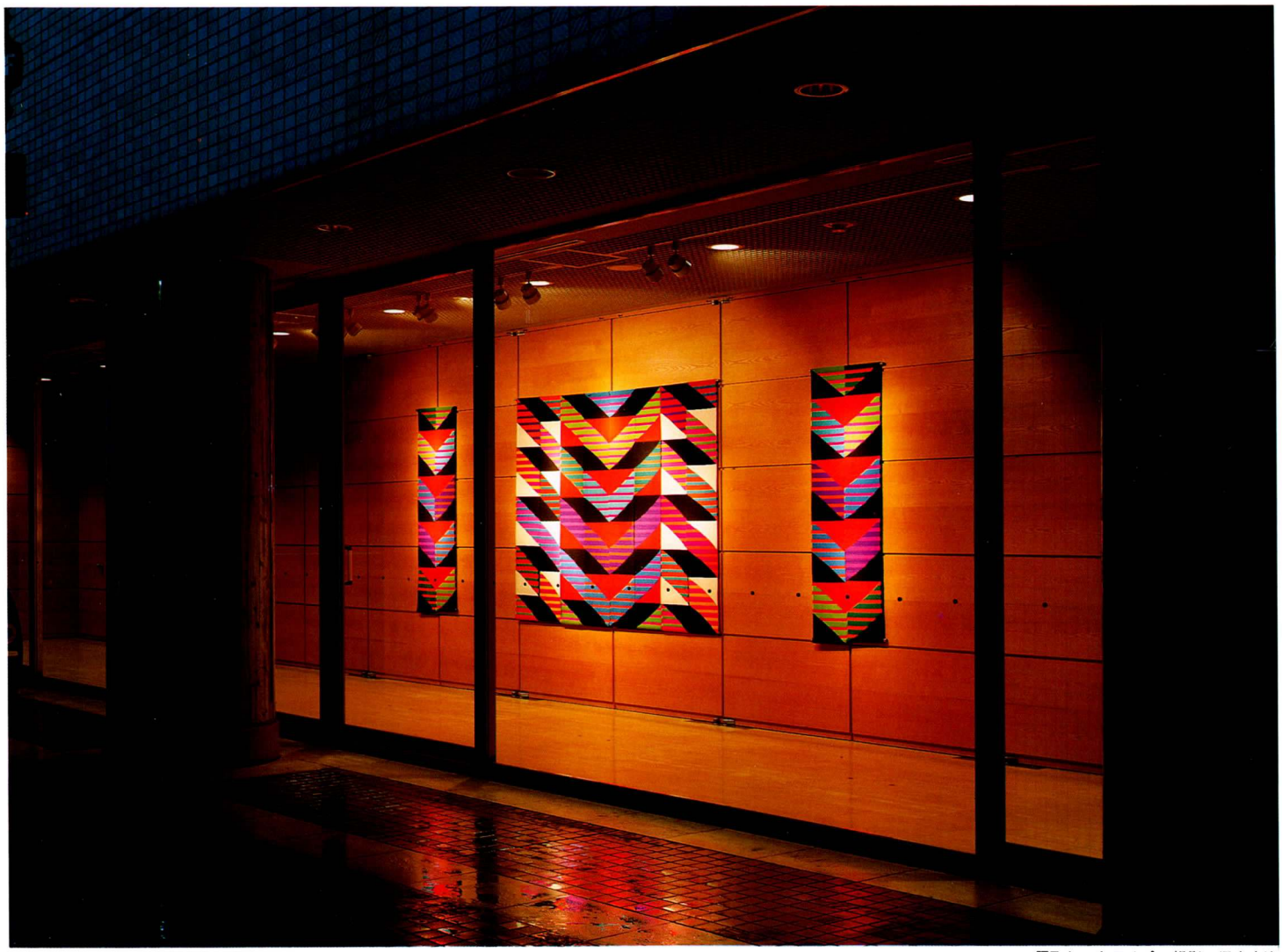
建築空間における、物すべてが、色を有している訳だが、色そのものが発する意味性として、質感という重味が、色には必ずある、その色の重さのバランスを失うと、そこには、不快感として、単なる色が残る結果となり、空間から遊離したものとなってしまうのです。

京都ブライトンホテルのアトリウムロビーの空間における色について述べる前に、このロビー空間は、ホテルにとって、唯一、この建物の性格を決定づけてしまうほど、インパクトの大きな空間なのです。そこで、ホテルの各々の機能が、この空間に顔をのぞかせている為、各機能が、形態的に整理されていることが、空間構成をする上で、重要であり、色の意味性を決める為に処理しておかなければならない事なのです。そうしないと、色についてのみ説いても、何か、空しさだけが残り、色が非常に、軽薄な表現方法になってしまうのです。ホテルという空間は、ある意味で、非常に虚飾の強い建物です、つまり、非日常的空間の一つなのです。だからこそ、ホテルには、心の昂ぶりを覚えるドラマ性を持っていなければなりません。又、ホテルを運営する側にとっても、ユーザーのターゲットをどの辺に置くかをしっかり持っていなければ、全てがアンバランスなものに見えてくるものです。（このホテルは30～40歳代の熟年女性をターゲットにしている。）

上部の両サイド（東西）に設けられた、トップライトの高さ約20Mは、日本古来の和の光でもある障子（和紙）をイメージする素材で、やさしく、アトリウム空間を包んでいる。床の主材は、ベージュ系の曖昧のあるトラバーチンで仕上げ、中央のラウンジは、京都にちなんで、懐紙の模様を、カーペットの柄にしてある。（基調色は淡い青磁色）壁面の低層部は、ホワイトベージュ系の大理石で仕上げ、単調な面になりがちな部分を、ライン状に白砂岩で引きしめている。素材は、出来るだけ、自然なもので、非個性化を計り、あらゆる演出にも染まりやすい色を基調色とし、ただし、大理石のもつ深みは、他の素材では出せない贅を感じさせるに十分なものである。上層部（３～６Ｆ）の客室部分は、回廊式プランとし、アトリウムに面する部分は、寝殿造りのさしずめ現代版「回廊」とでもいえよう。見上げの景観は、ややもすると、単調になりがちだが、アトリウム全体を包む植栽ルーバーは、格子組みとし、リズミカルに空間に溶け込んで、心なごむものとしている。空間の何処を観ても、奥行きを感じ、訪れる人々に、メンタルな部分でも満足してもらえる贅を尽し、空間と時間の融和を計った。

色は、あくまでも、奥ゆかしく、脇役である方が美しい時もある。建築空間における、色のもつ意味について延べるには、その空間の成立ちを理解し、機能を満足させ、消化した上での表現手段でなければ、生きた意味での色の空間への参加にはならないということです。

（二瓶　学・にへい　まなぶ／日建設計インテリア部）



隈取とストライプ　撮影　堀内広治

赤い彩布

内井乃生
インテリア・デザイナー

彩布を考案し、手織りで制作をつづけて15年余りになる。彩布は糸の豊富な色表現と色調構成、そして心をなごませるやさしい質感を活用して、無機質化した戦後の日本建築空間にうるおいと活力を与える空間調整材の布につけた名称である。一枚の布巾は、手織りで織りやすい小巾(30～50)とし、長さは一間(160～180)位の細長い帯状のものを一つのユニットとして、上下、左右につなぎ合せてパターンを変化させ、設置する空間に対応させていく手法である。

ユニットを数多く組み合せて大きなパターンに変化させるので、最近は住宅だけでなく、公共の大ホールにも活用されることが多くなった。無機的な素材と無彩色な色調のホールに、明るさとやさしさをという要望に応じて、彩布は華やかな暖色系を主調とすることが多くなった。

そしてパターンも沈滞化した空間に変化をもたらすような刺激的なラインとリズムが必要であった、とくに赤色はハレの色、喜びの色として親しまれてきた。赤色を主調とした彩布を飾ることで空間全体に活力がみなぎり、陽気なハレのスペースが演出される体験を繰り返しているうちに、彩布の色調は、ますます、赤を主調色とするようになった。

赤色といってもさまざまな色相とトーンがあり、人種や国柄によっても好みの赤色はさまざまである。とくに個人的な好き嫌いのはげしい色である。彩布に用いてきた赤色は、イエロー系のレッド(バーミリオン)で、この色を引きたたせるために隣接する色を赤紫、ピンク、オレンジなどを配色して、赤色に深味と華やかさを添加している。

また赤色をより美しく生き生きと感じさせるためには、対比する色調を組み合せる手法を用いている。とくにみどり色（パロットグリーン、エメラルドグリーン）をバランスよく組み合せると、南国のブーゲンビリヤや、北国のクリスマスの花を室内に置いた時の楽しさと明るさが赤い彩布によってもたらされるのである。

打ち放しのコンクリートの箱の中で吊り下げた彩布が、生き生きとした主役をつとめているのを見る時、モダンデザインの終末を感じるのである。

（うちい　のぶ／文化女子大学教授）



ハレの日の彩布



デンマーク・ガンムル・ビューの民家　撮影　増田　正

中世の町家にみる色彩

増田　正
グラフィック・デザイナー



帆縫工場と昔の税関

北から南まで、ヨーロッパの各地でそれぞれ気候や風土を反映した、地域色の濃厚な、みるからに楽しい民家にゆき逢うことが多い。ことに地方部に残された中世の民家や町家には、屋根、木組み、壁、開口部などの各部位に、住みびとたちの暮らしの知恵や、集落の風習までがうかがえて興味深い。

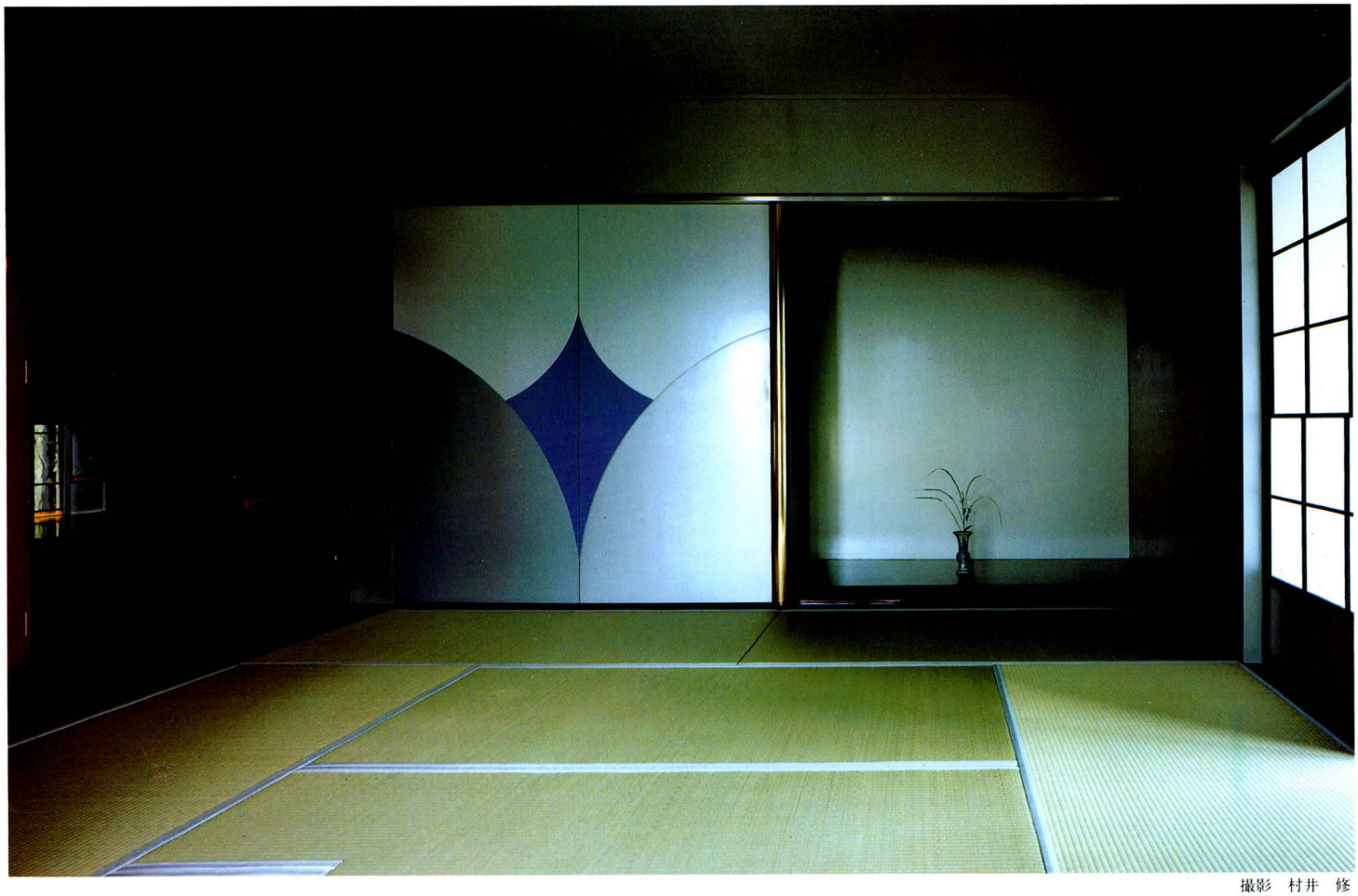
限られた地域で選ばれた素材の材質感や、外装の細部にみる色彩のみごとな調和は、みるものの眼をみはらせ、心をなごませる。ふだんガラスに覆われた、灰色のコンクリート・ジャングルの暮らしに馴らされた眼には、ひどく新鮮なものに感じられる。そこには伝統を残しつつ、人間臭さと個性豊かな親しみのある、鮮やかな色彩造形の世界が活き続けているからであろう。

いずれの民家の色彩にも、それぞれ素材の特性が活かされたものが多い。自然石や日ぼし煉瓦を積んだ原初的な家から、海草ぶきの重厚な屋根に、ノルマンやバイキングの時代を偲ばせるもの。チューダー朝の木組み壁や、ビクトリア朝の出窓に木肌美をみせるもの。白石灰塗りの土壁や、素朴な下見張りの板壁につく窓や扉を、伝統の集落色で彩るもの。華麗な赤瓦に赤煉瓦壁を連ねるもの。深い切妻屋根と色壁にユニークな変化をみせるもの。民家はその職種や地域により、お国ぶりを含め多彩な顔をみせてくれる。

さまざまな民家との出逢いのなかで、色彩について印象に残るもののひとつに、「ガンムル・ビュー」の集落がある。ストランド半島にあるデンマーク第2の都市、オーフスに1914年に再現された町家の野外ミューゼアムである。上のカラーの手前に建つ明るいチーズ色の壁に、木骨構造をみせる家は、16世紀の中頃から馬具を作っていた職人の家である。その隣りの3階建ての深い切妻屋根と、赤いワインカラーの木組み壁の家は、1585年に創られたオルボーの商人の家である。下のカラーは、同じ川辺に建つ船の帆縫工場と昔の税関である。いずれも小川の対岸からみたものだが、美しい木組みをみせる鮮やかな色壁を川面に映し、静謐な空間に、集落の伝統、住民たちの感性と、中世のメルヘンを漂わせる。

単にレトロ感覚でみるのではなく、中世の古い民家には教えられる所が多い。個々の家がかたちや色に豊かな個性を主張しつつも、ひとつの集落として、周辺との調和に深い気配りをみせていることである。ことに環境を活かす配慮や、集落としての連帯をみせる色彩計画、いわゆる「コミュニティ・カラー」への発想が、それぞれの地域で、中世の昔から定着していたことへの驚きである。

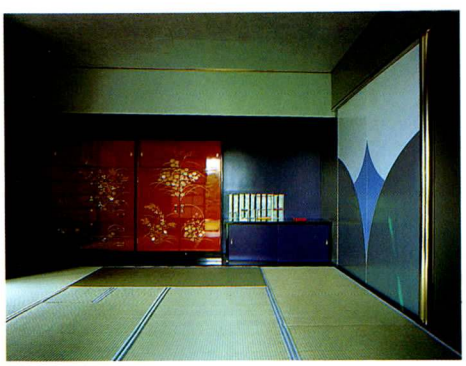
（ますだ　ただし／多摩美術大学教授）



撮影　村井　修

夙川S邸

出江　寛
建築家



「気」の色

建築家が色を選ぶ時、単に色をつけるというのではない。
ものには全て「気配」というものが存在し、その「気」を感じとって、それを色と陰影や光によって表現するのが建築家なのである。
日本において、居住空間の色（ケの色）と神仏や接応空間の色（ハレの色）は、本来明らかに区別して用いられる。
もともと「ハレ」という言葉は、「神」を表わし、労働や税金の疲れで生気の枯れた、つまり「気」（ケ）の枯れた農民、労働者達が気持ちを晴らすために、神を祭った神社等で、１年に１度祭をする、というところから「晴」(ハレ）が神を表わす言葉になったようである。
さて、日本人の日常生活は、基本的には自然色で覆われていた。その色彩の捉え方は、土や木や葉の色が中心で、そこへ草木から採った色（草木染）が加わり、全体的に彩度の低い、渋い調子のものが多かった。しかし、逆にハレの空間では、彩度の高い鮮やかな色が象徴的に用いられてきた。
そのハレの空間を代表する色といえば、まず朱や紅があげられるだろう。神仏における金銀や朱塗りの鳥居、拝殿、回廊、或いは紅殻色の壁や格子、紅白の幔幕等々、多くのハレの色が日本人の生活の中に活き活きと生きている。それらの色自体は、かなり華やかなものである。
しかし、我々は、そういった色を「日本の色」として我々自身の美意識のうちに捉えているようである。
それは、ひとつに光を巧みに制御し、豊かな陰影を獲得するように作られた日本家屋の構造、そして素材に依るところも大きいと言える。つまり、そういった陰影を獲得してこそ、日本における美というものはなりたってきたのである。
日本の美意識の底流にある「幽玄」を藤原定家は「きらびやかなものを背後に秘めたかげり」と定義している。「きらびやかさ」、つまり唐様の極彩色を捨てた「わび・さび」とは異なり、「幽玄」の表現には、「きらびやかさ」「艶なるもの」「唐様」の存在が不可欠であることは、特に注目されなければならない。
私は、そういった日本の伝統美である、例えば「幽玄」の世界における「きらびやかさ」や「かげり」など本来色を持たないもの、つまり最初に述べたように、すべてのものが持つ「気」を、色や陰影や光を加えることによって表現しようとするのである。

（いずえ　かん／出江寛建築事務所）



撮影　小林浩志

ANGLE

早川邦彦

建築家

〝ＡＮＧＬＥ〟は、姫路市の郊外の国道に面した敷地にたつ複合施設である。背後にひかえる同一敷地内の工場群をはじめとし、周辺には工場が多い。

全体は、Ｏ食品会社の本社事務社屋、そして彼らの食品を扱うレストラン、そば屋、洋菓子店、ベーカリーショップという店舗部分と、近隣の人々や見学者を対象とした料理のデモンストレーション・スペース、そして食品関係の本を収集した小さな図書室という複合した施設よりなる。そのような、通常ではあまり例のない機能群の複合体に対し、〝覆うもの〟としてのＳ造、〝立上がるもの〟としてのＲＣ造という、異なるふたつの構造形式で全体は構成されている。

色彩によって、人工的な光と影をつくりだそうとした〝中沢ホール〟や、建築の構成要素をすべて等価値として表現しようとして色彩を使用した〝アトリウム〟など、プロジェクトによって、色彩へ期待する機能は異なってきたが、〝ＡＮＧＬＥ〟では、並存するＳ造とＲＣ造の両者の担った役割の違いを強調するよう、色彩は用いられた。つまり、領域をかこってるＳ造に対しては、赤、青、黄色、緑、シルバーなどの明快な主張をもつ色が、それに対し虚構的な場を発生させるものとしてのＲＣ造には、曖昧な色が使われた。このような色彩の使いわけは、雑然とした周辺環境に対する、この施設全体のアイデンティティを明快に打ち出すという意図によるというところが大きい。

その明快な色彩をほどこされたＳ造に内包されたＲＣ部分には、主として、商業施設としての性格が強い施設という点を考慮し、フィクショナルな匂いの強い色彩が、部分的に塗られている。そして、その両者の色彩の落差は、虚構の場としての性格をさらに強めるものとなっている。

（はやかわ　くにひこ／早川邦彦建築研究室）

環境色彩の社会的意義

—環境と色彩・自然と開発からの考察—

跡部禮子

Ⅰ．はじめに

悠々の時間の中で生き続ける自然、つぎつぎと生まれ、進歩し続けるもの、快適さを追い求めるひとびと……。

この地球上、自然が息づくところ、人間が生きうるところ、新しいスペースが生まれるところ、どこまでも色彩の世界は広がっている。色彩と環境との調和の方向性は来たる21世紀に向けてどうあるべきか。ここでは、その大きなテーマを多面的なアングルから考察したい。

Ⅱ．環境における色彩の役割

いま、環境において色彩が改めて重要視される理由を考えると、高度成長時代の技術革新によってもたらされた人工加工色の拡大が、自然環境や生活環境を圧迫し、豊かで美しい自然環境色に代わるものとなり得なかったこと。自然との不均衡さが環境阻害をもたらし、第二の自然と呼べる環境色彩を構成し得なかったことにある。

エクステリア・インテリアを問わず、総合計画としての目的を遂行する際、色彩は全てのものに対しその尊厳を認めねばならず、断片化した人工物、破壊化した自然物にまとまりのある実像をとり戻さねばならない。その統合には、相反するものも排除せず、自然と人工を共存させる力が必要であり、その本質こそが環境における色彩計画の社会的意義に他ならない。

Ⅲ．日本の環境色彩の考察

Ⅲ—1．日本の色彩現象を回顧する。

本来、日本人は淡泊を好み素材の美しさを尊重し、独特の中間色彩文化や侘び・寂びの文化を発達させてきた民族といえる。これは、微妙な四季の変化に包まれた日本の気候風土に大きく影響する。

しかし、1950年（昭和25年）頃導入されたカラーコンディショニング（デュポン社の提唱）、カラーダイナミックス（ピッツバーグ社の提唱）等、当時にしては新しい技術が輸入されて以来、それは未消化のまま急速に普及していった。1952年頃、色彩科学協会主催の「色彩調節討論会」を皮切りに、各種学会・協会主催による講演会や塗料メーカー各社による啓蒙説明会が精力的に開催され、色彩調節普及の一大パノラマが展開されたのだった。

しかし、その延長として現在の日本の色彩現象は、如何であろうか？

1978年に来日した色彩調節の元祖、アメリカの色彩学者フェバービレンは、「日本の色彩処理は、自己主張が強すぎ近視眼的で、その現実は高度成長時代の残骸に他ならない。アメリカと日本の色彩処理の大きな相違は、色彩学を消化しきった国と、色彩学がアカデミックな興味に踏みとどまった国との開きがある」と指摘している。

以上の色彩現象に至った原因を以下に列挙してみる。

①単に欧米の模倣に終始し、日本独自のものとして消化しきれなかったこと。

②色彩学は境界領域であるため、純粋な色彩専門家が存在せず、いろいろな人間が片手間処理をしていたこと。

③最終決定が各団体・企業とも上層部にあり、個人の趣味や慣習による非科学的採用率が高かったこと。

④物理的機能の偏重主義が、人間（受ける側）の生理・心理を忘れた片翼飛行型に狂奔させたこと。

⑤自然環境色、自然材の色、伝統色の保全、風土と色彩の確認が欠如していたこと。

その他反省することが多すぎるが、日本列島くまなく無計画な擬似自由主義を野放しにした結果としてのスラム化現象の進行に、ブレーキをかける急務があろう。

Ⅲ—2．快適環境の重要性とその方向性

環境における良質なエスプリが、現在ほどあらゆる空間から求められる時はない。しかし、有限の空間を後世への財産として残すためのこの作業は、現在手探りの状態である。それは、日本の住文化の上に初めて訪れた色彩観の転換期であり、自然の情感を含めた日本の〝色〟の世界から、好むと好まざるとに拘わらず、〝カラー〟の世界に放り出された戸惑いの時代を意味する。

ここで日本の現状の環境色彩の混乱・氾濫現象の根源を分析し、今後の方向性の手がかりを見出してみる。

①色彩が分化した各分野で個別に考えられるため、体系化することに障害があった。

②色彩をつくる人、また決定する人々が、環境としての全体像を把握していたかどうか。

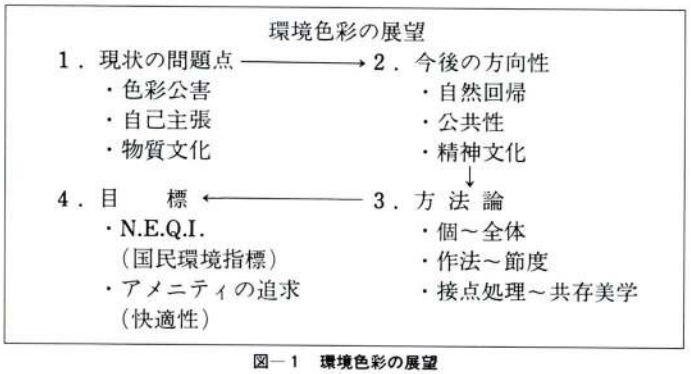
③各色彩産業は、末端もしくは先端における利用の実態を把握していたかどうか。

④交通信号と他のサインとの関係のように、各系列での色彩が集合化した場合に生ずる問題等々。

結局、環境における色彩の終局は、体系化・集合化・統一化、つまり色彩の共通分母の欠如があったのだと考えられる。

内情はともあれ、ナショナルな関わりだけでなく、インターナショナルな連関として快適な環境色彩に寄与するため、日本は色彩の再構築の必要性に迫られている。

以上を環境色彩の展望として（**図1**）にまとめた。



図—1　環境色彩の展望

Ⅳ．質感文化と色彩文化からの視点

世界中、伝統的な建造物はその国、その地方で独自に抽出された自然材によって構成されていた。即ち、石、土、草木そのものが貴重な基本色を構成する複合色として、無限の多様化を有していた。従って自然材で需給のバランスが保たれていた時点では、周辺の自然景観と建造物は結びつき一体化し、落着いたカラーハーモニーを奏で、文字通りローカルカラーが存在したのだった。

トルコ辺りでは、開口部や扉の回りに白の漆喰が、デザインされている。ギリシャ周辺になると、それが拡大して壁一面が白一色。雨の多い地方では、粒子の細かい石炭や漆喰を塗り耐久性を高めている。それは、たまたま白の石灰が手に入りやすい環境だったわけで、その地方の自然材に他ならない。ヨーロッパ各地に多いレンガ造りにしてもその土地の土で焼くのであるから、国や地方によってそれぞれ色が違う。スウェーデンの赤味レンガ、ロンドンのダークブラウン、スペインのオレンジ系と、伝統色として現在も尊重されている。

日本の住宅も同様で、裏山から切り出された木で柱を立て、梁をつくり、かや・わらで屋根をふき、庭の土にわら切りを入れて壁を塗るといった自然材の構成であった。やがて瓦に変ってもレンガと同様、土地の色であった。

しかし文明の発達とともに、色彩は次第に工業製品で処理されるようになる。その最初がペイントである。うるしやべんがらとは違った自由さが魅力で、特に建材分野で自然材のイミテーションとして普及した。だが、人工材が自然材と模倣する過渡期は終った。いまこそ、質感文化として、人工材は人工材でしか発揮できない特性を正面にうち出すべきである。

色感文化に視点を移そう。石・レンガ等のヨーロッパ建築では、ペインターの歴史は古く、その技術は高度で塗装工と画家の区別はない。15世紀のミケランジェロは、左官技術の達人であった。

「色少なき中にも色ぞある」とうたわれたルネッサンス時代を築いたペインターの手によるフィレンチェの街。ペンキ文化のアメリカにおける白一色のホワイトハウス。色とりどりの石材ペイントが見事なカラーハーモニーを奏でるサンフランシスコの街並。時が流れても、それらが不朽の名作として残っているのは何故なのか…。

要は、生きた生活空間に対する意識の向上に、根源的な論点を置かねばならないといえよう。色自身に悪い色があるはずはなく、その扱い方に問題がある。即ち、自然材・人工材・自然色・人工色、個々のコンプレックスを捨て、個性を生かしながら組み合わされた調和——。そんなところにこれからの方向性があるといえる。

そして、地球的規模の視点で日本固有の質感文化と色感文化を環境浄化の柱として意識しなければ、日本はこの分野で最も後進的な国となってしまう恐れがある。

Ⅴ．海外に快適な環境色彩を求めて

日本においても都市づくり・街づくりが叫ばれ、アメニティ行政とか景観条例などが議論の的となる中で、欧州各国の環境色彩の調査・分析が注目を集めている。ここでは表面的な配色にとどまらず、経緯性を持って多面的に考察してみたい。

Ⅴ－1．ヨーロッパの都市国家に伝統色・風土色を学ぶ。

①ギリシャ

ギリシャを大きく色分けすると、木造の多い北部から地中海寄りは色味が強い、対してエーゲ海寄りの各島々は太陽熱を反射するように白い漆でおおわれ、ギリシャ独特の純白のイメージが生きている（**写真1**）。

■ミケーネ帝国（BC11C～16C）

ペロポネソス半島の付け根近くの海抜400mの城塞。中に入ると王族の円型墓地（**写真2**）が眼下に現われ、赤い土が強い日光に輝いて見える。色彩の歴史書の記録そのものが色あせていない。古代人は、人間の生の証である血を赤い土に置替え、高貴な人の墓の土として使い、蘇生を願ったという。

②イタリア

イタリア全体を環境の印象色で断定するのは、少し浅薄すぎるかも知れないが、南部から北上するにつれて色味が徐々に弱くなっていくようである。

■ホスティア・アンノティカ（BC4C～AD4C）

ポンペイと並ぶ古代都市の大きな遺跡。ローマから24km離れたテヴェーレ河口に出来た港町で、古代の石畳を進むと世界最古といわれるアパート街がある。商店などの絵に使われているイエロー・ブラウンがローマ市内の現代建築に反映されている。（**写真3**）。

③スペイン

■マドリッド

中央通り（カステリア通り）はモダン建築が多いが、ここの特長は石とレンガのコンビであり、海抜600mで朝夕の気温差の激しさがレンガの使用を新・旧とも認めている。同じレンガの色でも、ここはオレンジ系が多い。土質の影響とのことである。

■バルセロナ

スペイン第二の都市バルセロナを中心としたカタルーニア地方は、南のアンダルシア地方が漆壁で白く輝くように在るのに対し、静かで落着いた重厚感がある。ここでバルセロナに注目したい。それは考察に値する次の3つの観点が複合化した街づくりだからである。

Ⓐ豊かな地方色や旧市街の伝統色が息づいている魅力。

Ⓑアントニオ・ガウディの謎に満ちたグエル公園都市や未完成のサグラダファミリア等の魅力（**写真4**）。

©1992年オリンピック開催地として、伝統と開発の調和にソフトシステムの色彩とのかかわりが大きく期待されているモンジュイックの丘。



写真1　エーゲ海の島の風景



写真2　ペロポネソス半島の円型墓地



写真3　ローマの現代建築



写真4　グエル公園都市

ここまで見てきたように、ヨーロッパ各国は都市国家としての歴史が深いだけに、その国、その地方特有の風土から自然発生的に生じた共通の色彩分母を持っており、現在も連綿と支配色として息づいている。各国の支配的な色を整理して地図の上に塗ってみると、北欧からスウェーデン周辺は赤味から黄色が強い。イギリスはダークブラウンと白。西ドイツ辺りは黄色と茶。スイスは茶・オレンジ・グリーン。フランスはベージュからオフホワイト。スペインはブラウン系とオレンジ。イタリアはイエローとダークベージュ。ギリシヤはベージュからホワイトとなる。アイデンティティーを求める国民意識と国旗との関係もうかがい知ることができる。これらは、その土地の緯度・経度・地形・色湿度・照度などが環境色彩の構成にも大きな影響を及ぼしており、風土と色彩の深いかかわりを学ぶことができる。

Ⅴ－2．自然と開発の調和に学ぶ。

①アボリアッツ1800／フランス

アボリアッツは、スイス国境に近いアルプスの山中の標高1800mにあるリゾート地。ここで注目を集めているのが、フランス建築の最高峰といわれる建物と大自然との共存である。

そのコンセプトは「自然への情熱的な尊重」。きわめてオリジナルティーのある現代建築が、驚くほど環境とのアイデンティティを持ち得ている（**写真5**）。

ホテル、アパート、中心施設、コンドミニアム、個人別荘に至るまで建物たちが地面が現れ出て、周辺をとりまく崖や岩の形状を持ち、自然に溶け込んでいる。木や岩など自然材で構成されたこれらの建築物は、風景を破壊するどころか、一層それを美化し、他の場所への建築は不可能だったであろうと思うほどの完璧さを保っている。個性的な外観から内部空間までそれぞれにコンセプトがあり、それらの多様な目的が、全て人間と自然の快適な融和という一視点に結集していることは見逃せない。

このアボリアッツの建築は、1986年フランス建築界最高の賞を受賞している。

②ラングドリ・ルシオン／フランス

スペイン国境から地中海に注ぐローヌ河の河口まで約180kmの海岸線を前面に、ピレネーから中央山塊を背景としたフランス南部の5000haという広大な地域。

このラングドリ・ルシオンの沿岸開発は、1963年ドゴール政権下の第4次国家計画のシンボルプロジェクトとしてスタートした。7つのニュータウンと自然保護区を交互に配置した、EC11カ国向けのバカンス基地である。

ここでディベロッパーや個人が何かを建設する場合は、各基地の設計・街づくり・建物デザインを考える。特務行政機関認定の主任建築家に承認を得なければならない。

その結果として見事に統一された街づくりが可能となっている。

7つの基地のうち最初の実験例がグランド・モット（**写真6**）「リゾート客のストレス解消には、目新しく非日常的な方が良い」が、グランド・モット観光局のコンセプト。そこで主任建築家のジャン・パラジュール氏は、「全部の階に日光が入り、しかも建物の内に空間ができるハチの巣のようなピラミッドを考えた」と語っている。

建物は、各種の幾何学模様をほどこしたピラミッド型を基本として、色彩はマリンブルー・エメラルドグリーン・太陽のイエロー～オレンジが、ベースカラーのオフホワイト～ベージュの間にアクセントカラーとして花開き、連続する巨大な建築群の中で、心のやすらぎすら感じさせている。

③山岳とアルプ（高山牧場）／スイス

スイスといえば、アイガー・ユングフラウ・マッターホルンなど4000m級の巨峰が連なり、山岳眺望の観光地として世界的基盤をなしている。建造物には山岳眺望の弊害となる色使いはなく、自然材による構成が多く見られる。鎧戸をアクセントに使い、平和を念ずる国民性の表われとしての緑や、誇りとしての国旗の赤を風土の中に生かしている。アルプは最もスイスらしい山村風景（**写真7**）。家屋の多くは自然材でつくられ、自然のもとに返ってしまいそうな建築物にアクセントを与え、存在を訴えるかのように窓枠と漆喰壁に白が人工色として使われている。

Ⅵ．日本列島の色彩改造への道を拓く

ここに至って、ポストモダン、ポストインテリジェント、ソフトシステムなど新しい価値感が提唱され始めているが、果して何を如何様にすれば色彩改造の道が拓けるのであろうか…。ここに都市開発と商品戦略のカラーバイブルともいえる、佐藤邦夫著「風土色と嗜好色」（青娥書房）の論旨を紹介する。

☆七色の光に染まる日本列島

地球的規模で見ると日本は小さな島国かも知れないが、北半球にあって、北緯24度から45度、全長南北2,800kmにわたり、カラーマップから見ると世界一の超大国となる。

日本列島は北から南にかけて、パープルブルー（PB）、ブルー（B）、ブルーグリーン（BG）、グリーン（G）、イエローグリーン



写真5　リゾート地・アボリアッツ1800



写真6　バカンス基地・グランド・モット



写真7　スイスの山村風景

(GY)、イエロー(Y)、オレンジ(YR)、レッド(R)という色光の帯で染められている。即ち色彩に関する地域的快適感や審美感が形成されることになる。(**図―2**)(日本のカラーエリア10区分図「風土色と嗜好色」より引用)。

☆地域差をもたらすカラーマップの成り立ち

色彩の好みに関する地域特性(5つの環境要因)。

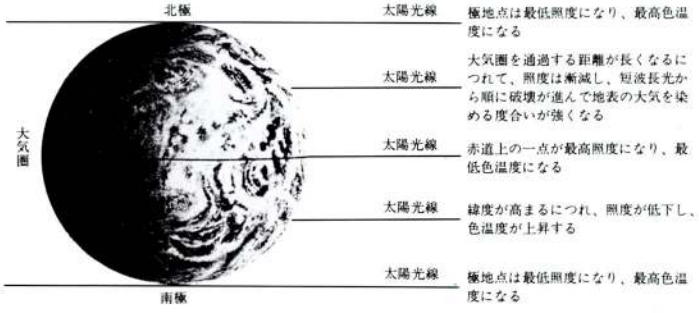
要因1「気温」。これは「寒暖感」に関わり、青い部屋より赤い部屋が暖かく感じる人が多い以上、この仮説は肯定し得る。

要因2「湿度」。澄みきった清色系か、霞がかった濁色系のどちらに慣れ親んでいるかが、「彩度差」の嗜好心理に関わる。

要因3「日照時間」。晴天続きの地域と雲天続きの地域とでは、明順応が暗順応かを生みやすく、これは「明度差」の嗜好心理を生ませる可能性がある。

要因4「土質色」。赤土か黒土かという土質の違いは、地域生活者の視覚習慣に基調色の違いを見せている。

要因5「緯度差」による自然光の違い。地球的マクロの状態から見た自然光の緯度差がある。宇宙船から見た地球は「ブルーの惑星だった」とは有名な話であるが、これは大気圏に浮遊する塵埃に衝突して太陽の白色光が壊れるため、波長が短くてひ弱なブルー系の光が散乱している状態がブルースカイの色の謎というわけである。よく澄んだ青色は色湿度で8000°K(Kelvin単位)位ある。対して夕焼けが赤いのは、地平線に沈む太陽の光が斜め角度で大気中を長旅をしてくる間に、波長が長くて堅牢な赤色光まで壊れて散乱したのが目に届く状態。夕焼けの茜空の色は色温度にして3000°K位低下している。赤道上に届く太陽光は、大気圏を直角に通過してくるから、短波長光が破壊されない日光色に近い状態の光である。これに対して極地帯に届く光は、厚い層の大気圏を斜角度で地球面に入射してくるため、短波長光が破壊された状態の光になっている。(**図―3**)赤道上はハイルックスでローケルビン、極地帯はロールックスでハイケルビンの自然光が降りそそぐ。



図―3　赤道上はハイルックスでローケルビン、極地帯はロールックスでハイケルビンの自然光がふりそそぐのである。

☆日本列島各地方の色彩方言

○道東エリア／最寒冷地帯、自然光の青紫みで特に摩周湖のディープウルトラマリン・ブルーが映える。好みの基調色に対し、強調色として茶が使われる。

○道南エリア／クリアーな清色系のターコイズ・グリーンからパープル・ブルーが好みの基調で、ホワイトやペール・パステルも好まれる。強調色は茶。さえた黄色は嫌われる。



図―2　日本のカラーエリア10区分図

○東東北エリア／青森・青葉城の名のように森の緑が青っぽく美しく見える。好みの基調はグリーン、青磁色、藍色。パステル調も映える。強調色は赤。

○西東北エリア／オフグレー調の藍ねず・錆青磁、サックスグレーなどグレー系が美しい。低彩度色が光に映え、強調色は少量の赤。

○関東エリア／黄緑～緑の演出効果がよい。緑青色のグリーン系が無難だが、売れる色は紺系、アイボリー系、サックス系。原色の赤と黄色の配色は嫌われやすい。

○中部エリア／中部地域は夕方の黄赤みの光を受けやすく、ゴールド、黄色が美しい。夏冬で、暖寒色の交替が顕著で、反対色相配色が喜ばれる。けんらん豪華な色づかい。

○近畿エリア／黄色～黄赤の光を受けやすく、夕焼けの光に染まりやすい。赤、ワインレッド、こげ茶が基調色。寒色系は高彩度の方が光に映え、強調色はさえたグリーン。

○山陰エリア／黄色～黄緑ゾーンだが、夕焼けの光も受け、黄赤のあらゆるトーンが基調となる。暖色系の梅ねず・柿渋・わび茶・抹茶等も特徴的。強調色は紺。

○南日本エリア／山陽・四国・九州にわたる。高照度で黄赤系、赤系の光を受ける。さえた黄色、オレンジが基調色。強調色は高彩度のスカイブルー。

○沖縄エリア／夏季、熱帯地方の激しい光を受ける。

カーマインレッド、サンゴ色、朱色が基調色。スカイブルーやグリーンが美しく、強調色にダークネービーやオフブラック。

以上のように地域独自色を正確にとらえ、都市環境や地域環境色に活用せねばならない。とかく都市化現象の荒波にもまれながら、ひっそりと視覚の片すみに押しやられて、中央の特権階級や芸術的エリートの表現材料の判断でセンスのよい色とやらに変えられてしまえば、ローカル・アイデンティティを抹殺してしまう恐れすらある。また地域独自色は県庁所在地や幹線の駅前地域にはない。それは中央カラーが占領地化しているからである。

市街地において発見しやすい地域独自色は、中央資本のデパートやチェーンストアの建築の内外装色ではなく、地元資本の一番店のデパートの内外装にあることを知っておきたい。

Ⅶ. まとめ

四季の変化に恵まれた日本は、元来独特の色彩文化を持っていた。それは水墨画に代表される中間色彩文化、侘び・寂びの文化といえよう。しかし時は移り、戦後まもなく輸入され、未消化のまま乱用された欧米の色彩、高度成長期に発展をとげた色の工業化など、日本は激動の時代の中で、美しいこの国の色彩文化をどこかに置きざりにしてきてしまった。いま日本の色彩度は転換期にある。海外の国々がその風土に根ざした色文化を連綿と受け継いでいるように、いま一度、わが国の〝色〟というものを環境の視点から問い直す必要がある。

環境と色彩のあり方とは、快適環境の創造に色彩が総合計画の核をなすこと。美しい都市国家をめざして、永い過去に貯えられた秀れた色彩文化の上に、世界的視野に立った調査情報を反映させること。単なる模倣ではなく、日本の風土に立脚した色彩を提唱し、人間のリズムの回復を図り良い人間環境を創り出すこと。これらすべてが、環境色彩の方向性であり、社会的意義であるといえよう。

参考文献

佐藤邦夫著「風土色と嗜好色」(青娥書房)

跡部禮子著「快適環境と色彩創造論」(塗装工学)

(あとべ　れいこ／日本ペイント株式会社カラーセンター・カラープランニンググループマネージャー)

中　国

日本人と中国人の色彩感覚

胡　似之

色彩について多くの本が出版されている。色彩は、日常生活と緊密な関係をもち、美的な象徴でもある。これらの本の中に色の物理性から彩の感覚や効果などまで各方面について幅ひろく論述している。もちろん、色彩は国境がないが、それぞれの国において表現及び使用する色彩が大分違ってくる。私は中国人であり、私の目の中に映っている日本人の色彩意識は中国人と違い、また、色彩の使用範囲も違うのである。

一番簡単な例をとると、日常の着物の色彩に区別がある。日本の街を歩けば、若者が地味な服装を着ているが、それに対して、中年以上の人びとは比較的、派手な服装を着ている。日本人の服装に対する色彩意識は、若者はもとがきれいだから服装装飾の必要性がない。地味な服装を着たら大人ぽいという感じがする。それに対して、中年の人はきれいな服装が健康的にみえる。しかし、中国では若者が花ざかりの時であり、きれいな服装は彼らの生気に似合い、もっとかわいらしく見える。中年の人々にとって、地味な服装は穏健を表わすのである。大きな行事時も同様である。つまり、日本人は服装を中心として考え、自分がなりたい姿を他人に見せつける中国人は他人がうける印象を中心として考え、服装があくまでも飾りであるため、外観と年齢があうのである。

簡単な服装意識が違うだけでなく、建築色彩においても二国の使用色彩範囲も相違がある。建築外壁の色彩についてみると、日本の建築外壁色彩は無限定である。鉄筋コンクリート打ち放しについては、装飾がまったくないのが流行している。黒か白色の高層ビルもあるし、商業施設は特徴を持たせるために外壁は多くの色が使われている。建築主あるいは建築家は自分の考えをあらわそうとして設計する。一方、中国の建物の外壁の色はグレーしか見られないといっても過言ではない、建物は百年計画であるから、外部造形を入念に考える色の変化は平面の設計と同様に使用効能が第一で建築家の考え方（Form）にしたがわないというのは、経済的な要素を第一として考えるからである。中国北部の方は風が強く砂も多いため建築外壁色彩が気候条件に従ってグレイを基調にして、耐汚染性、耐久性という面から追求されている。私の生れ故郷、南方の上海でも建物は30年代も80年代もグレー一色の建物ばかりである。調和色を使用するのは設計者の建前である。

本来的な色は全てきれいだと思う。人間の意識と使用範囲の違いによって違ってくる。もちろん、最終的な相違点はやはり民族、文化であろう。

（フ・シージー／大阪市立大学建築学科修士課程
研究テーマ「都市居住地再開発の日中比較」）

ビルマ

ビルマの生活色

ビルマ人はマレーシア人が着ているサロン（腰布）のような、ロンギと呼ばれる伝統的な服やシャツ、エンギと呼ばれるブラウスのようなものなどを着ていました。男性はシャツとロンギを、女性はシャツのかわりにブラウスかエンギを身につけます。正式には、中学や高校の先生や生徒は緑色のロンギとシャツかブラウスを着ます。病院ではロンギの色は看護婦のランクを示し、婦長は緑、一般看護婦は青、付添いや学生は赤になっています。グレーのスーツやロンギに白いブラウスやシャツの組合せは、工場のマネージャーや役員の制服になっています。昔、ビルマ人は白いシャツやブラウスを好みました。今では一年中若者は明るく軽い色を好み、年のいった人々は暗い色を着ています。

宗教行事には太陰暦が使われ、それによると4月17日が正月の元旦にあたります。人々は4月13日から16日までの間〝水祭〟を祝い、その間は輝くような赤やオレンジの色を使います。〝パドック〟と呼ばれる香りの良い小さくて黄色い花は、ビルマの国花であり、正月前に開花します。この色にちなんで、人々は特別のことがあると黄色や金色の服を着、結婚式の新郎新婦は、ほとんどこの伝統的な色の婚礼衣裳を身に纏います。

宗教行事や葬式には焦茶のロンギと白い上着が使われ、昔は冥想者は茶色の服を着て、宗教行事には焦茶のものを使いました。仏教の修道僧は茶色系のオレンジ色の服を着ています。

赤は勇気を意味し、青は忠誠を意味します。ビルマには、〝空は青い。しこうして我が愛は真実なり〟ということわざがあります。そのため男の子はデートの時、愛をあらわすために、蒼いロンギを着ていくこともあります。

（匿名／ビルマ人留学生）

フランス

色と感情

蓼を食う虫も好き好き。色の好き嫌いや絵画や建築などにおける色彩の使用法などが人の性格と一定の関係をもっているかどうかと言うクエスチョンを心理学者は明らかにしようと努力します。ある色彩が主観的にいかなる観念あるいは感情を連想させるかは社会的・歴史的先入観の影響をうけて変動します。それぞれの文明によって色の意味は違います。例えばヨーロッパで一般に認められる観念的な連想語の類例を挙げれば、赤は活力、情熱、革命、注意、激しい恋情、黄は功名心、高名、功智、智恵、公明正大、嫉妬心、緑は平和安全、未熟、少年時代、自然界、心の平安、くつろぎ、青は希望、期待、未完成、冥想、忠実、理想化、灰は恐怖、憂うつ症、単調、無変化、白は清浄、無罪、操、無邪気さ、非常な純真さ、黒は静寂、死、卑劣な行為、紫は誘惑、鎮圧、栄光、オレンジは沈着、茶色は大人向きの色、思慮に富んだ人、地味さなどの象徴な色の解釈があります。そして色が直接感情に訴える面を強調する傾向が生じています。色の感情的効果としては、赤は極めて刺激的、極めて暑い、黄は少し刺激的、暖かい、緑は静か、少し涼しい、青は無刺激、涼しいなどが挙げられます。

色の好みは個人の身体の状態、気分、一定の色に対するなれや、あるいは社会的習慣、流行、暗示の影響を強くうけやすい。

さて、ある街に存在している色は人間の感覚官能に影響を与えます。例えばその様な街の一つが「京都」です。私はパリのオスマンの味気ない色の建築に慣れて京都に来て次の様な色の様子に驚嘆しました。○もみじ、かえでなどいろいろの樹木の真紅に色づく秋の色○満開の桃と梅と桜の木○清水寺の舞台から見た夕焼けの空○つつじ、あじさい、しょうぶ、そして菊の花の色○幾百年の古色を帯びて美しい寺。例外は、緑の木立の間から黄金色に輝いている金閣寺○神社の鳥居の朱色○お正月や祇園祭の時、盛装した若い女性と婦人がその場の光影に色彩と変化を添えた様子○まっすぐ伸びている北山の杉木立の緑。

京都よ！　自然の緑がいつも、いつまでもあざやかに目にうつる

ように！

（アンジェ・グルシェフスキー／京都大学建築学科研修員
研究テーマ「日本の都市計画と地震対策」）

ブラジル

日本とブラジルの色彩の違い

Alice Kina

ブラジルと日本を比べる事は白と黒を比べるように、それともプラスとマイナスを比べるように違う部分は大きいであろう。太陽の移動も日本の場合は南から北へ向かっているが、ブラジルは北から南へ向かっております。

民族から言うと、日本はブラジルよりずっと同種な民族です。ブラジルはポルトガルの植民地だったし、多くのヨーロッパの移民も入っているし、アフリカからも黒人が入っているし、昔から色々なインディアンの民族も残っているし、東洋とアジアからの移民も入っている国ですので、色々な人々の混じり合いで、出来た民族になったので身長や目の色や髪の毛の色と形や肌の色なども色々です。

それで建築も地域によって大きい差が出て来る事が多いのでしょう。例えば、ポルトガル的な町と言われているのは、オーロ・プレットとサバラー（ミナス州）や、オリンダとサルバドル（ブラジルの東北）などです。ドイツ的な町はブルメナルとジョインビリ（サンタ・カナリナ州）やグラマードとカシアス（リオ・グランデ・ド・スー州）などです。

地震も台風もない国でレンガ作りとブロック作りとアドベの住宅が多くて、その壁にセメントと漆喰を付けて白い薄い色（パステル風の色彩）のペンキで塗っています。床は板作りやカーペット（ベージュ色、薄い茶色、緑色）やセメント（そのまま赤色）や石（ベージュ、白、黒）などで作っています。天井は白色か、板作りそのままか、青色が多いようです。Áreas molhadas（濡れた場所）というところは（台所、お手洗い、お風呂、洗濯する所など）壁と床にはパステル風の色のタイルを貼っております。屋根は赤いフランス瓦で造っている例が多いようです。勿論、モダン建築の影響でコンクリート造りの家もあります。

話しは変わりますが、ブラジルはヨーロッパやアメリカと違って、米と豆を常食とする。味付は塩味で砂糖は使わない。醤油と昆布も使う習慣を持っていないので、海苔とか黒い色の料理を見ると食べ物だと思わないであろう。

そして、和風料理の味（甘さ）と形が違うので何が料理か何がデザートかがわからなくなって、ストレスになるブラジル人もいます。

最後に結論づけると色彩による文化の影響、歴史の影響、場所の影響などによって、各国の人間には色彩の意味とイメージと感動が違ってくると思います。

（アリス・キナ／大阪市立大学住居学科修士課程
研究テーマ「色彩の文化的な研究について」）

アイルランド

色の島

Anne Berney

アイルランドは西ヨーロッパの西端に位置する島である。北アメリカの東海岸までには、ただ広大な大西洋があるだけだ。アイルランドといえば、自然にかこまれたところというイメージを想いうかべる人もいる。遠景の紫の丘や、緑の木々・草・シダ・苔、黄のハリエニシダ、赤いフクシャ、紫のヒース、黒茶の泥炭地、青空と流れる雲、まぶしく輝りかえす大西洋の海緑色、西方に広がる風景の吹きさらしの岩々。また、雨にぬれれば化石は鮮明になり、大理石も真の黒・緑・赤に変わる。空を渡る風で、光の色あいや雰囲気は常にその姿を変えて見せる。

いつもそうであるとは限らないが、海岸通り沿いの家々や小さな町には、たいへんドラマティックに色が使われている。そこでは各家のテラスが、どんな大胆なカラーデザイナーによっても想像できないような色の連続を、あたかも虹のようにして感じさせる。入り江に浮かぶボートからでも家をそれぞれ見分けられるだろう。ストレート葺きの屋根、建物自身の形態の単純性、それに通りの規則性の三つが、さまざまな色に対してひとつの強い背景となって現れる。いったいこのような色はどこから来たのだろうか。それは、あの風景のなかの花の色や、ボートの色、そしてカトリック教会の青や紫からであった。

アイルランドの首都ダブリンにもさまざまな色のテラスがあるが、基本的にそれは、赤レンガと石でできたジョージ王時代の都市である。特に遠くから眺めれば、白く塗られた窓や扉枠は好ましいコントラストを与える。さまざまに塗り分けられた扉が、各家々を見分ける微妙に都市的な手段となっている。

1960年代に入ってもアイルランドのその多くの部分が生き残ったが、現代生活はそこにいろいろな環境変化をもたらした。色の経験とその脈絡を正しく理解することは、私たちの環境に新しい形態をもたらすような良き変遷をつくりだす本質的なものとなろう。

（アンヌ・バーニー／京都大学建築学科修士課程
研究テーマ「日本建築史に関する研究」）

アメリカ

色彩が躍動する街—サンフランシスコ

Marc Pearl



The great variety found in San Francisco is reflected in its geography, its different neighborhoods, and in its architecture. One can discover 18th century French Villas on the tops of its hills, Beaux Arts civic buildings at its crossroads, Neoexpressionist churches and Modernist houses up and down its steeply inclined streets. In areas such as Nob Hill, Russian Hill, Embarcadero, Buena Vista, The Haight-Ashbury, are buildings as colorful as these

names. There are the bright red roofs of Chinatown, the white walls trimmed with wood in Nihonmachi, the adobe and pastel designs of the Spanish Mission district. Above all, the srongest impressions are of the wooden "Victorian Houses" that march along the curves and slopes of the city in a refreshing blast of detailed work and color.

San Francisco Victorian Houses are actually a mixture of a variety of styles, with a common use of projecting bay windows and elaborate detailing. During the rapid growth of the city between the Gold Rush (1850) and World War I (1915), 48,000 houses were built in the predominate styles of Italianate, with its slanted bays; Stich Style with trim outlining the framework and parts; and Queen Anne style, with its rounded bays and towers. A further form is referred to as Stick/Fastlake, with its great use of ornament and colors to produce a "gingerbread", "wedding cake" look.

Strong and inexpensive Northern California Redwood was used to build these houses, often with building plans bought from the famous mail-order catalogues of the time. With the new machine technologies for carving and shaping wood, detailed trimmings for doors, windows, cornices, and stairs could be bought by the meter from the catalogues. In this way houses could be constructed quickly and cheaply, yet with the fancy detail then popular.

In direct opposite to the sedate white homes of the East Coast, San Franciscans painted their buildings in bright colors. Paint is the best way to protect the redwood from the fog, rain and strong sun of the Bay Area. These colors shocked the more conservative citizens. San Francisco is a major naval port to the Pacific. After World War II, great puantities of surplus Battleship Gray paint were made available to the Bay Area citizens for home improvements. Soon a major portion of the remaining Victorians were covered in a boring blue-gray thay hid the beautiful detailed ornamentation. It is this dull city that many tourists remember. With the advent of the Hippie period, and their love of decoration, San Francisco's colorful fast was rediscovered. The shocking colors were back! Architectural Historians found descriptions and photographs of the original appearance of many houses, and this study led to a new "Colorist" Movement.

Suddenly, an old forgotten home became a circus of colors. Details hidden in the shadows were revealed to be lion's heads, sunbursts, vines, French scrollwork. The building's structure was outlined and made more forceful through use of light and dark shadings or contrasting color schemes. Even better, after the initial surprise, the house was accepted, and the neighbors began to paint their homes, and clean up the streets, and plant new trees and flowet gardens. Once deteriorationg neighborhoods became alive with pride, movement, and color. Now the tourist, besides seeing the better known places in town, will spend days going up and down these hills, and fall in love with the patterns and vibrant life that is San Francisco.

サンフランシスコの街は、西海岸の地域性、特色ある近隣住民および様々な建築がもたらす多様性に満ちている。丘の頂きに18世紀フランス風の村があるかと思えばこちらの街角にはボーザール風の庁舎があったり、急な坂道の通りには新表現主義スタイルの教会や近代主義スタイルの家が建ち並ぶのが見られるといった具合である。ノブ・ヒル、ロシアン・ヒル、エムバルカデロ、プエナ・ヴィスタ、ハイト・アシュベリーといった地域ではその名の通り地方色豊かでカラフルな建物が見られる。また、チャイナタウンには赤い屋根、日本人町には木で縁どられた白壁、スペイン伝道地区にはパステルカラーの塗壁が見られる。こうした中でも、とりわけ印象的なのは、曲がりくねったスロープ沿いに建ち並び、手のこんだディテールと、色彩が目に鮮やかなヴィクトリア様式木造住宅である。

サンフランシスコに見られるこれらヴィクトリア様式住宅は精緻なディテールと張り出したベイウインドウを共通にもち、様々な形態で、バラエティにあふれたものである。1850年代のゴールド・ラッシュと1915年の第1次世界大戦間に市は急速に発展を遂げ、48,000戸もの家が建てられた。これらの殆どは斜めの窓を持つイタリア様式が建物の部品の枠に縁どりを施こしたスティック様式および、円形の張り出し窓と塔が特長のクイーン・アン様式であった。さらに色彩と飾りが非常に多い、パンケーキかデコレーションケーキ風に見えるスティク・イーストレーク様式と呼ばれるものも建てられた。

これらの家は強くて安価な北部カリフォルニア産のレッドウッドで建てられ、設計図は当時流通していたメイルオーダー・カタログで購入されることも多かった。そのカタログの中からは当時の最新の機械工作によって、凝った縁飾りやくり型がついた扉、窓、軒蛇腹や、長さを指定して階段を買うことができた。このような方法で、素晴らしいディテールを持つ、当時流行の家が短期かつ安価に建てられていた。

東海岸の地味の白い家とは全く対称的に、サンフランシスコでは派手な色の塗装を用いた。塗装はサンフランシスコ湾岸地方に多い霧や雨および強い日射からレッドウッドを保護するのに必要であったが、これらの派手な色彩は保守的な市民を驚ろかせるに十分なものであった。サンフランシスコには太平洋側の要となる海軍基地があり、第2次大戦後、軍艦用のグレーのペンキが大量にあまり、家の塗替用に市民に提供された。たちまちのうちに多くのヴィクトリア様式住宅が単調な青味がかったグレー一色となり、その美しい塗装は覆いかくされてしまった。この当時のさえない街の時代はいまだに思い起こされる。やがて塗装を愛するヒッピー達の時代がおとずれ、サンフランシスコの色彩豊かだった過去が彼等によって再発見されることとなった。ショッキングな色彩が街に戻ってきたのだ。多くの家のオリジナルな彩色の記録や写真を建築史研究者達が捜し出し復元し、この研究が新しい色彩化への動きをもたらした。

それまで古ぼけて見栄えのしなかった家が、突然に驚くばかりの彩色を施こされることがおこった。それまでペンキの下に隠されていた、獅子像や太陽、ぶどう唐草渦巻模様等の装飾が日の目の見ることとなった。コントラストをつけた色の使い方や、光と影を強調する彩色によって建物の印象をよりきわだった強いものにするといったことが行なわれた。最初の間は、あきられたがやがて受けいれられ、さらに良かったことには隣近所もそれらにならって色を塗り替え、通りをきれいにし、庭に花や木を植えはじめたのであった。一時、崩壊しかかっていた地域がよみがえり、活動的になり、プライドがもどり、そして色どりももどったのである。旅行者達が名所巡りのかたわら、坂道を登り降りしつつ、街の様々な表情の楽しさ、そこでの活気あふれる生活の楽しさが好きになってしまう都市、それがサンフランシスコである。

(マーキ・パール／心理学者)

意外と少ないカラー決定のツール ——プランニングから現場指示まで——

"色を指定する"ということは簡単そうで、なかなか難しいことです。

クロスやカーペット等の素材は、各メーカーのサンプルを使用すればよいわけですが、塗装などの色を指定して、現場で色づけをする場合や、特注で製作する場合の色指示を考えると、何をベースにすれば良いのかと考えてしまう事が多々あることと思います。

言葉で正確に表現出来ないのが「色」です。JISで決まっているからといって、マンセル値で指示しても、思いどおりに表現されていないのが現実です。そのために、カラーサンプルによって指示するということが日常的に行なわれていることだと思います。

人それぞれ、各社それぞれによって、決められた色指定のシステムがあると思いますが、ここでは、一般に市販されている多くのサンプルの中から、色指定に有効と思われる資料を御紹介いたします。

色の全体像が理解でき、カラー計画に有効な道具

①標準色票＜光沢版＞

JIS Z 8721に準拠した、JIS規定に基づく正確な色票。40色相別にカラーチップ(1570色)を貼付。色票総数 1928色。

定価　88,000円

問い合わせ　(財)日本規格協会 (03) 583-8001

②JIS色名帳

実用的、現場向の正確な色の事典。JIS Z 8102に準拠。系統色名(230色)、慣用色名(168色)、合計438色のカラーチップを貼付。

定価　34,000円

問い合わせ　(財)日本規格協会 (03) 583-8001

③建築デザイン色票

建築内外装に適した(460色)を、低彩度・中彩度・高彩度に整理分類した3分冊1セットの総合的な見本帳。特に、低彩度が充実しており、切り取り用のカラーシート(175×60㎜)もセットになっているため、カラー計画・現場指示にと利用幅が広い。

定価　35,000円／1セット

問い合わせ　日本色研事業 (03) 265-7091

④M・Mカラーチャート

建築・インテリア・商品色等の計画に役立つように工夫されたチャート。マンセル43色相全1093色を、各色相毎に貼付しB6判バインダーに収録。各色相毎にトーン別配列され、1色1色に統計に基づいたイメージ言語が記載されているので、色の持つ意味をふまえながらの色決定ができる。

定価　26,000円

問い合わせ　日本カラーデザイン研究所 (03) 359-8251

⑤配色イメージ・チャート

ナチュラル・エレガント・ダンディ等の22のイメージ言語に連動する配色(5色配色)を、統計に基づいて貼付。合計配色数450。建築・インテリア等のカラー計画時に、イメージ言語と結び付く配色の基本を容易に選び出すことができる。

定価　21,000円

問い合わせ　日本カラーデザイン研究所 (03) 359-8251

色の具体的な計画・指定・指示に有効な資料

①塗料用標準色見本帳＜普及版＞＜ワイド版＞

建築で一番なじみのある、日塗工の色見本帳。塗装屋に指示するには、一番理解し易く、再現が容易で色数も246色とそろっている。＜普及版＞は、カラーチップを貼付した見本帳。＜ワイド版＞は、切り取り式(50×15㎜)になっていて使い易い。

定価　＜普及版＞ 1,000円　＜ワイド版＞ 6,600円

問い合わせ　日本塗料工業会 (03) 478-3451

②DICカラーガイドPartI、PartII

アート紙に印刷インキで印刷された切り取り式の印刷見本帳。PartIは、643色のカラーチップが3分冊で構成。PartIIは、637色のカラーチップが3分冊で構成。印刷インキの見本なので、低彩度の範囲がもの足りないが、切り取り式(60×12㎜)になっているので、建築においても色指定のためのサンプルとして、よく利用されている。

定価　PartI・PartII 各5,200円／ケース入セット

問い合わせ　大日本インキ化学 (03) 272-4511

③DICカラーガイド「日本の伝統色」「中国の伝統色」「フランスの伝統色」

アート紙に印刷インキで印刷された切り取り式の印刷見本帳。「日本の伝統色」は、日本古来の微妙な色合いを300色で構成。「中国の伝統色」は、中国伝統の優雅な色合いを320色で構成。「フランスの伝統色」はフランスの淡い色合いを321色で構成。印刷インキの見本なので、現場での再現性に少々難はあるが、切り取り式(60×12㎜)になっているので、建築においても色指定のためのサンプルとして、よく利用されている。

定価　日本の伝統色：4,300円　中国の伝統色：4,600円　フランスの伝統色：4,600円

問い合わせ　大日本インキ化学 (03) 272-4511

④トーヨーカラーファインダー1050

アート紙に印刷インキで印刷された切り取り式の印刷見本帳。1050色のカラーチップが4分冊で構成されている。1色1色に、トーン名と、日本カラーデザイン研究所の心理調査法によって統計的にだされたイメージ言語が付記されている。印刷インキの見本なので、現場での再現性に少々難はあるが、切り取り式(46×15㎜)になっているので、建築においても色指定のためのサンプルとして、よく利用されている。

定価　8,800円／ケース入4冊セット

問い合わせ　東洋インキ (03) 272-4511

⑤PANTONEプロフェッショナルカラーガイド

アメリカのパントーンカラー体系をシステム化したカラーガイド。DIC等と同様、アート紙に印刷インキで印刷された見本帳で、カラーチップを貼付した見本帳と、切り取り式のカラーシートがセット。切り取り式のカラーシートは、建築においても、色指定のためのサンプルとして利用できる。

定価　26,000円

問い合わせ　レトラセットジャパン (03) 454-0921

⑥木材塗仕上げ標準見本帳

材種別にカラー仕上げを施した木材塗装サンプル。ナラ・マカンバ・ブナなど材種10種類に128色の塗装仕上げを施した木材塗装の数少ない見本帳。

定価　30,000円

問い合わせ　和信化学工業 (03) 243-1881

⑦ウッドテクニカラーバイブル

かば・マガシロノ・なら・たも・まつ・にれ・ぶな・からまつ・せん・しなの10種類の材種に、それぞれ114色の着色塗装を施した木材着色塗料サンプル。各材種に適したベーシックカラーから、アソートカラーまで、豊富に揃っている。また、現場対応型にサンプルナンバーを指定することで、300×300㎜のサンプルを入手も可能。

定価　材種別：各20,000円

問い合わせ　ウッディワールド (0155) 25-1371

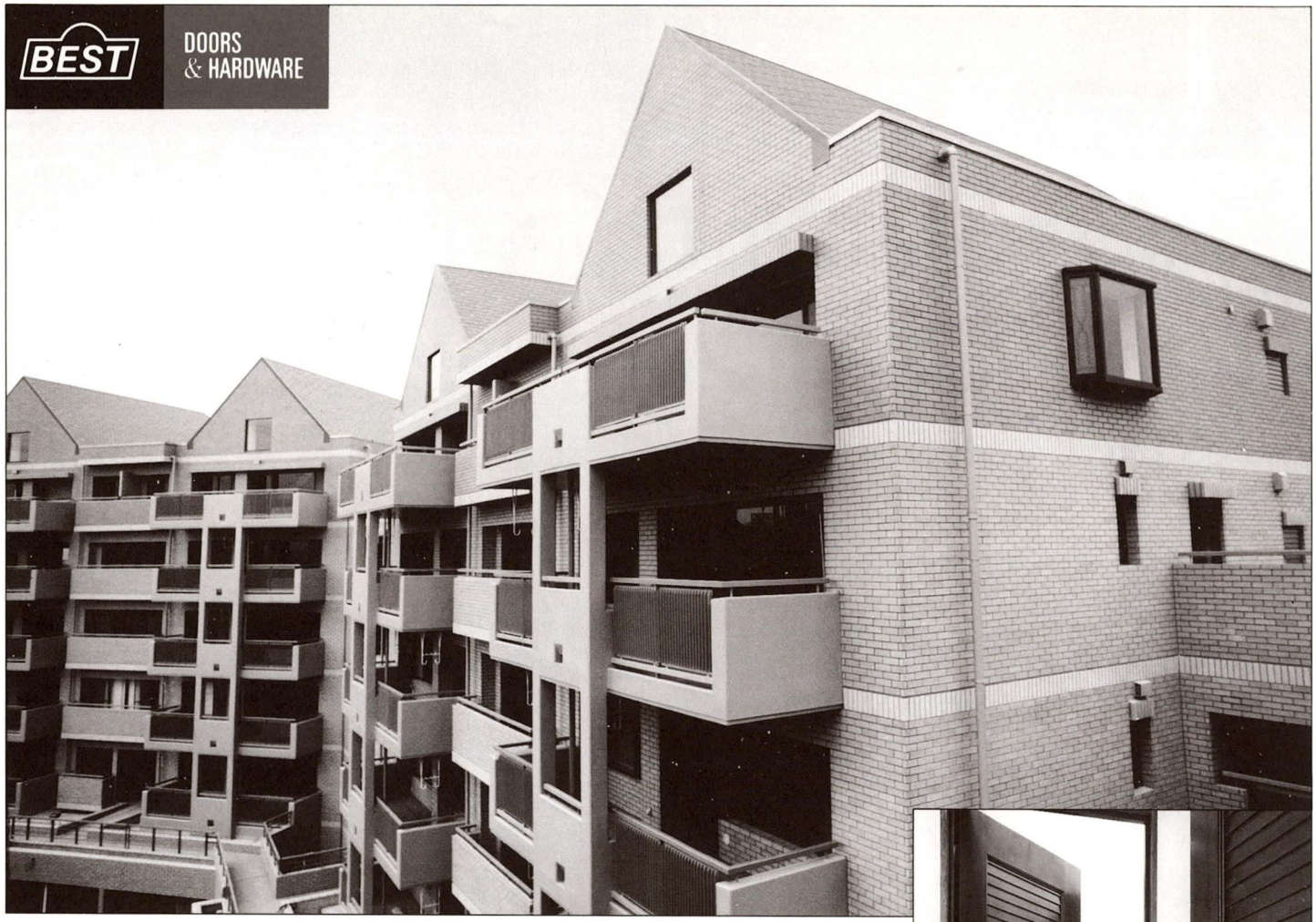
⑧アイカ カラーシステム105

アイカメラミン・ポリ合板・フレキの商品のための、105色カラーサンプルであるが、現状では材料にかかわらず、カラー指定の道具として一般に利用されている。

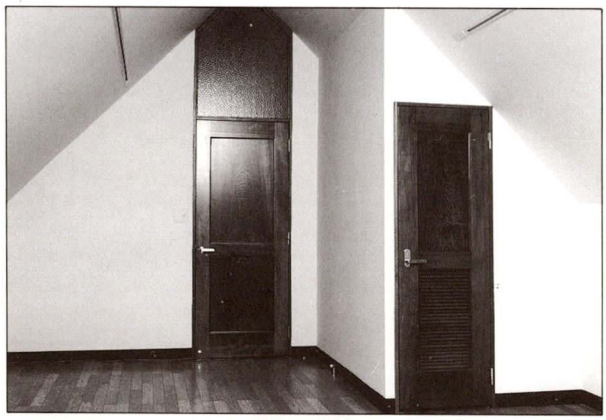
問い合わせ　アイカ工業 (052) 202-6962

(**増地秀夫**／積水ハウス株式会社開発部課長)

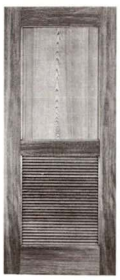
BEST DOORS & HARDWARE



DOORS & HARDWARE サバービア21多摩（住宅都市整備公団・多摩ニュータウン）







KDKW-302



KDG-312



CD-302P-2



2000 SERIES

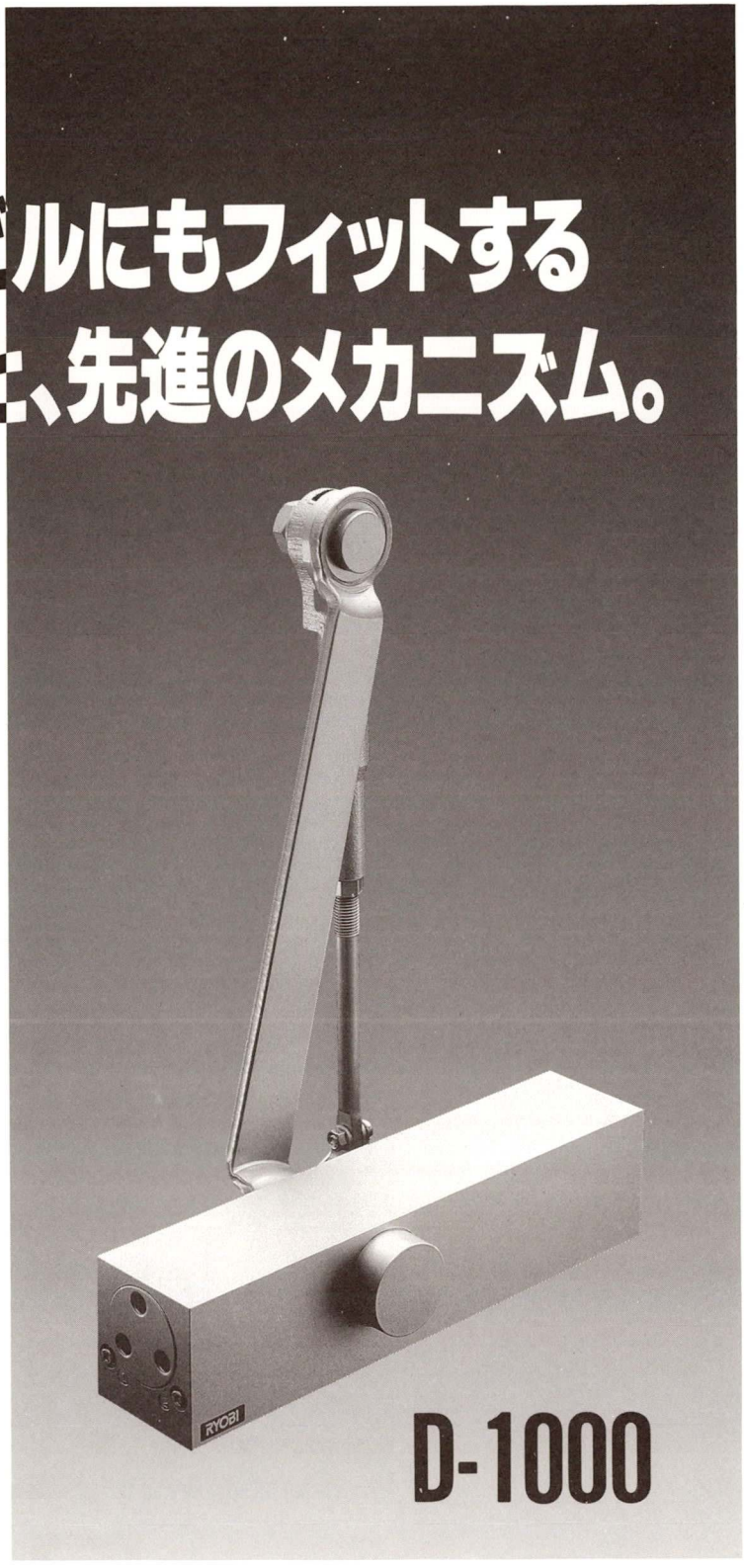
玄関ユニットドア、内装ユニットドア、収納セット、戸棚、開口部枠、巾木そしてインテリヤパーツ（金物）などすべてをコーディネイト。
居住空間をトータルで提案いたします。

株式会社ベスト

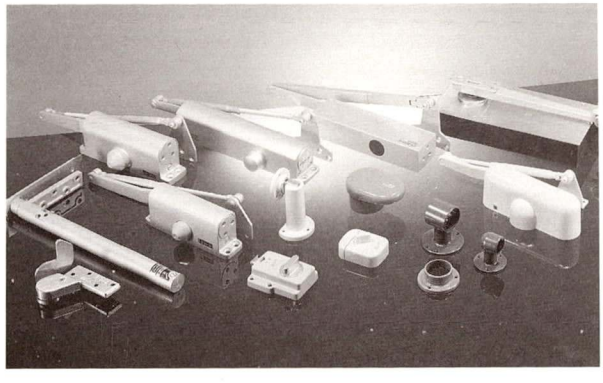
本社/〒101 東京都千代田区神田紺屋町41 TEL03(257)7700　営業所/神田店・西東京店・関東店
大阪店/〒543 大阪市天王寺区上本町9丁目3－7 TEL06(779)7004

RYOBI®

インテリジェントビルにもフィットする シャープなデザインと、先進のメカニズム。



信頼をかたちにする。
———このスローガンのもとに
激変する時代を読み、いち早くニーズに応えている
リョービ建築用品。
世界でもトップクラスにランクされる
ダイカスト技術をバックボーンとして、
一般住宅からインテリジェントビル向まで
数々の製品を開発しています。
部品の製造から機械加工、組立までの
一貫した独自のトータルシステムにより
生産された製品は、精度、性能、デザイン、耐久性など、
どの面をとっても他の追随を許しません。
リョービ建築用品は、
いま、技術の頂点を目指し、
一歩先の居住空間づくりの提案、提供を続けています。



信頼をかたちにする
RYOBI リョービ 株式会社

本　　社　〒726 広島県府中市目崎町762　電話(0847)41-1111
東京本社　〒101 東京都千代田区外神田3-15-1　電話(03) 257-1331
大阪支店　〒569 大阪府高槻市今城町24-12　電話(0726)85-1113
営 業 所　札幌・仙台・富山・名古屋・広島・高松・福岡

TOLI WALL

VAJRADUM

バザラダン Vol.2



純素材高感度

日本の個性

日本文化の伝統の中から、知的で人間的な、
あたたかみのあるテイストをほりおこしました。
これからの時代にふさわしい表情です。

ナチュラルテイスト

素材そのもののもつ、
自にやさしく、肌にやさしい風合いをベースに、
天然素材のあたたかさ、やさしさを表現しました。

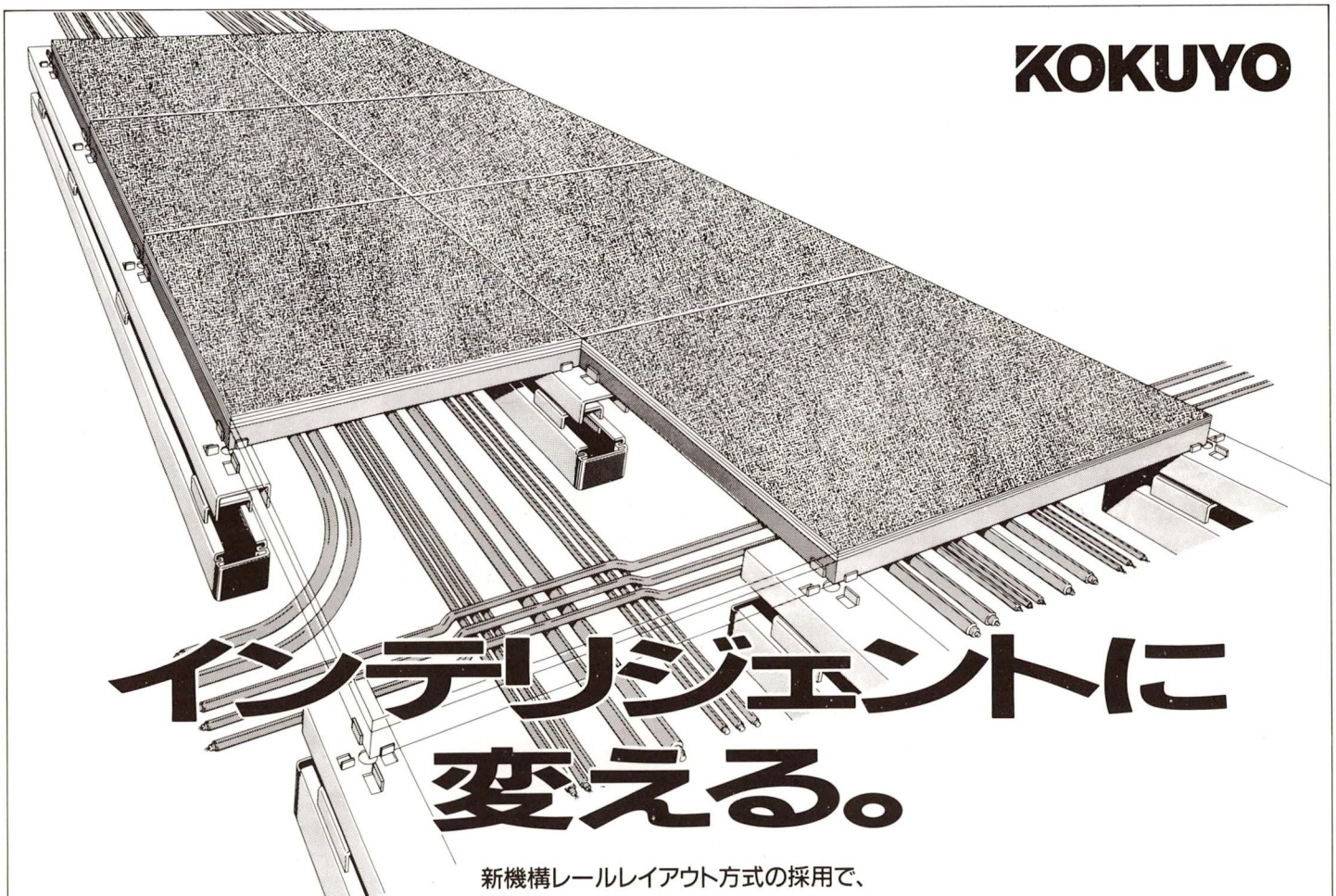
全種防火1級壁紙 ●100%紙素材 ●呼吸機能(調湿作用) ●軽量(300g/㎡以下) ●全53柄160色

東洋リノリユーム株式会社 〒664 伊丹市東有岡5丁目125 ☎(06)492-1331(代)

人・生活・空間—そこに東リ 東リ

東京第1営業所	☎(03) 503-6231	大宮営業所	☎(048)643-2135	盛岡出張所	☎(0196)53-3296	大阪特販営業部	☎(06) 943-1673	福岡営業所	☎(092)411-9076
東京第2営業所	☎(03) 503-6231	千葉営業所	☎(0472)42-5419	郡山出張所	☎(0249)23-7670	京都営業所	☎(075)314-6222	北九州出張所	☎(093)522-0235
特販営業部	☎(03) 434-0681	水戸出張所	☎(0292)31-7695	名古屋営業所	☎(052)733-3471	奈良出張所	☎(0742)35-1377	長崎出張所	☎(0958)47-0223
特販営業部(輸出課)	☎(03) 434-9439	信越営業所	☎(025)241-1596	静岡出張所	☎(0542)37-4471	神戸営業所	☎(078)371-5445	鹿児島出張所	☎(0992)24-4366
東日本営業開発部	☎(03) 503-6231	長野出張所	☎(0262)27-0338	金沢出張所	☎(0762)62-3100	広島営業所	☎(082)249-4616		
八王子営業所	☎(0426)26-1141	札幌営業所	☎(011)271-2561	西日本営業開発部	☎(06) 943-1645	岡山出張所	☎(0862)44-3366		
横浜営業所	☎(045)664-5810	北海道東リ㈱	☎(011)214-8311	大阪第1営業所	☎(06) 943-1671	高松営業所	☎(0878)22-2008		
厚木出張所	☎(0462)23-5261	仙台営業所	☎(022)284-3505	大阪第2営業所	☎(06) 943-1672	松山出張所	☎(0899)25-6366		

KOKUYO



インテリジェントに変える。

新機構レールレイアウト方式の採用で、
すっきりフラットなインテリジェントオフィスづくりが、さらに簡単に、ハイクオリティになりました。
オフィスのインテリジェント機能を高めるスピーディーな2重床、コクヨ〈プランニングフロアー〉。

Planning Floor

プランニングフロアーで、
より早く、よりインテリジェンスUP
したワイヤリング計画。



■ 配線がスムーズ&フレキシブル
床高が75～150㎜まで自由に設定できますから、オフィスの事情に合わせて、未来のレイアウト変更に対応して、フレキシブルな配線スペースをつくります。また、レールレイアウト方式だから、強電・弱電の分離ができる等、すっきりスムーズな計画的な配線が可能です。

■ オフィス環境がUP。
保温性、吸音性、歩行感、安全性にすぐれており、オフィスの環境を高めます。また、カーペットには豊富なカラーバリエーションが揃っていますので、それぞれのオフィスにぴったりのカラーコーディネートができます。

■ 施工がスピーディー。
レールレイアウト方式だから、レベル調整が簡単。正確でクオリティの高いインテリジェントフロアーがスピーディーにつくれます。

コクヨ
プランニングフロアー

コクヨ株式会社

●本社・大阪統括本部・ショールーム 〒537 大阪市東成区大今里南6丁目1番1号 ☎(06)976-1221(大代)
●東京統括本部・ショールーム 〒108 東京都港区港南1丁目8番35号 ☎(03)450-5111(大代)
●支店/仙台 ☎(022)266-0594㈹・名古屋 ☎(052)951-6711㈹・九州 ☎(092)715-2041㈹ ●お問い合わせは……本社家具事業本部施設用品部まで。



Waltz 〈ワルツ〉

every space sensitively reacting to a daring, delicate and subtle melody.



アン、ドゥ、トロゥ。大胆に、繊細に、そしてさりげなく。ちょうどワルツのリズムに似た、そのアーティスティックなフォルム。“ワルツ”。薫りたつように美しく、そのセームスウェードの肌ざわりは、触れるものすべてを包み込むような柔らかさに、満ちている。サイドに流れるステンレスのラインと、縫い合わせを飾る赤いステッチライン。空気まで、アートに震えるような、その椅子たちは、新しい時代を告げる空間のために捧げられたアカペラのように、澄んだ響きを奏で始める。

ホウトク販売株式会社

● 本社・ショールーム
東京都新宿区西新宿一丁目26番２号(新宿野村ビル) 〒163 ☎(03)348-7481
● 関　西　支　社
大阪市中央区北久宝寺町３丁目６番１号 〒541 ☎(06)252-5771

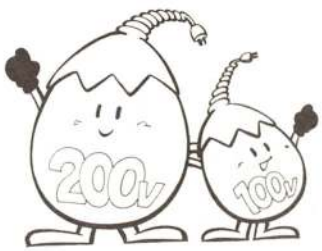
株式会社ホウトク

● 本社・工場
愛知県小牧市大字上末字東山3509番地190 〒485 ☎(0568)79-3581

HOUTOKU

今、なぜ200Vなのか

住宅のインテリジェント化と電気エネルギー



2月9日木曜日、13時より中之島関電ホールにおいて、「今、なぜ200Vなのか」のテーマで大型家電機器の開発や効率的な電気の使用について、関西電力市場開発部地域冷暖房プロジェクトチーム部長・宮本庄三氏を講師に迎え、昭和63年度広報小委員会研修会を80名（定員50名）の出席を得て盛況裡に開催した。質疑応答に際しては宮本講師とともに、住宅関連チーム部長の中島淳雄氏も加わり、近い将来に到来する200V時代に備えた多岐に亘る質問に対し懇切に説明が行われた。

講演は学識経験者や各界の権威者で構成される「電力200V利用懇談会報告書」を主資料として進められ、「屋内配線設計マニュアル（案）」や「家電機器開発動向」等々高品質の電力供給と電力の安定需要の開発、電力の効率的な利用など、電力会社の苦労話も交えて行われた。

講演後、中之島ロイヤルハウジングガーデンに移動し、関西電力の共同出展によるクボタハウスのオール電化ハウスを見学し、電気エネルギーの認識を深め、定刻をオーバーし17時30分に散会した。

エネルギーとしての電気

人類が「火」というエネルギーを利用し御することが出来るようになって以来、「火」の持つ「熱」「光」の側面利用により、人類の活動時間、活動範囲は飛躍的に拡大し、エネルギー利用を単に「熱」「光」だけでなく「動力」としての利用を可能とし、産業革命が全世界に広まった。19世紀に入り、電気の利用可能により人間の活動範囲は大幅に拡大し、近代産業社会の完成に大きく資することとなり、有機合成化学工業やアルミニウム精錬工業、そして現代社会に大きな影響を与えつつある情報・通信産業の成立を可能とした。今や電気は、人間社会において、民生から産業までの各分野で、熱、光、動力、情報、通信等のさまざまな形で利用され、われわれの経済活動、社会活動を営んでいくうえで欠かすことの出来ないものとなっている。

社会のニーズと電力産業の変貌

我が国における電気の利用は、明治期の白熱灯に端を発し、第二次世界大戦後に種々の家電機器普及が始まり、わが国経済の高度成長とともに人間の手作業を機械で代替する家事労働代替型の家電機器が急速に普及することとなった。

GNPもドルベースで見て世界最高水準となる中で、家庭婦人の労働力化が進み、家電機器も電力消費量の大幅な低減による省エネルギー化による「賢い」電気利用の方向を追求することとなった。社会資本の充実により内需拡大型経済社会の構築が求められる中、国民のライフスタイルの多様化等、社会構造の変化や、技術革新とともに、「安全性」「利便性」「クリーン性」という面で優れた電気へのエネルギーシフトや電気利用の大容量化のごとく、大きな熱量を「経済的に得られるエネルギー」「より制御しやすいエネルギー」「安全性の高いエネルギー」の形で使うことへのニーズの移行が進むと見られている。電力産業が、エネルギー利用の推進を通じ、国民生活の向上を促すような「生活向上支援産業」または「文化向上支援産業」へと変貌していく必要性を示すものと言える。

電気利用の多様化と200V

女性の社会進出や、住宅の大型化・高層化とともに、居住空間の有効利用や情報化の進展に伴う「全自動機器に対する要請」「ホームオートメーション」「ホームセキュリティ」等々のシステム、安全性と制御の簡単な電力利用、そして100Vに比較して作業時間の短縮される200Vの需要は、大型・大容量家電機器の出現とともに今後ますます拡大の方向に進むと見られている。

100Vを主とする国は日本と北朝鮮のみと言われ、欧米ではすでに三相四線式の220Vと380V、または415V等となっている。関西電力では新規については100%単相3線式での供給を行っており、管内全体では60%の地域に、200Vの利用可能な状態で配線されている。家庭内の電気機器は、今後、電圧で見れば低電圧が適したパソコンなどの情報関連機器、200V等の高い電圧が望ましい大容量機器、その中間の100V機器というように多様化が進むと予想されている。

当面する課題としては、一般家庭において大容量電気機器を使用する場合、単相3線式設備すなわち200V屋内配線による200V電圧での供給方式は、単相2線式設備すなわち100V屋内配線による100V電圧による供給方式に比べ、省資源効果等により経済性において優れていること、また電気機器側についても、大容量電気機器を100Vのままで対応しようとする場合、電流増に対応した器内配線の太線化や部品類の大型化の問題があり、電圧の高い方が省資源等のメリットが大きいこと、

講演会スナップ―講師：宮本庄三氏―



オール電化ハウス見学風景



欧米においても大容量電気機器は200V利用方式であることから、今後わが国においても大容量電気機器の利用に当たっては200Vによる対応を進めていくことが適当であると考えられる。

200Vの安全性と電気料金

200Vは100Vの2倍の電圧ゆえに感電等危険があると誤解している向きもあるが、基本的には対地電圧は100Vであり、現状と変わるところはなく、安全性は同じである。安全対策としては、漏電遮断器の感度電流を30mAとして地絡保護方式を採っており、とくに屋外、浴室、ガレージ等のコンセントは漏電遮断器設置が義務づけられているが、その他に対しては欧米もともに普及率は低い。コンセントについては、特殊形状のプラグ等で感電防止対策がなされている。

電気料金はkW／hで計算しているため、現状方式と変わらない。昼夜間の需要格差が拡大し、関西電力では深夜は1000万kWに対し、昼間は2300万kWとなっており、負荷が平準化すれば料金も安くなる見込みである。蓄熱ヒートポンプ方式の機器や、深夜電力機器に対しては特別料金での供給も行っている。

住宅の200V化へ

単相3線式200V利用についても、各電力会社と協議し、平成元年3月末までには配線設計マニュアルも定まると思われる。電力供給規程の一部適用条件緩和や特高等の基準緩和実施も行う。

すでに、大阪のベルパークシティほか、高層住宅には電力だけでの制御や、電気製品以外の使用を禁止しているものも枚挙にいとまがないほどに建設されており、安全面や、公害（騒音、汚染）面からの採用となりつつある。

新設住宅等は、200V・100V併行使用可能な配線とすると需要者の利便が図れるが、現行の100Vを分電盤内での結線を変えることでの200V化も可能である。

電気ならではのインテリジェントハウス等も、電気と情報機器の組み合わせによるホームオートメーションなど、機器単体からシステムへ移行していくものと思う。制御通信を主とした実験住宅（松下電工門真工場内）と関西電力のオール電化ハウス（機器中心の展示「クボタハウス」）を組み合わせると21世紀住宅として考えられる。

*

〔質問内容〕（Xは回答の一部(時間超過のため9名で打ち切り)）

●200V化とともに景観上から送電の地中化の意向と、低電圧機器対策として、供給側で予め低電圧送電の可否？

——地中化は都心部実施。住宅街では考えていない。100Vを利用望む。

●電気を熱として使うと効率が悪い。アメリカは料金が安い？

●汎用回路でELB付ブレーカーを使い30Aまでの分岐化可能性？

——コンセントは15Aとし、200Vは専用配線化検討。100Vでの使用時、保護面から30A分岐は考えず現状通り。

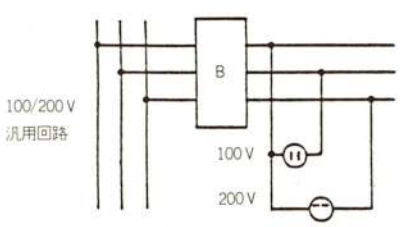
●大容量機器の増加に伴い、100／200V併用が将来200Vのみになるか、コンセントの100、200Vの区分は？

——ビジョンとしては遠い将来200V化は考えている。さらに高圧化は、気候、とくに湿気による危険防止策が必要となる。

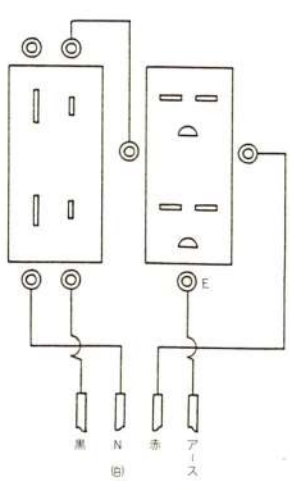
●200Vの制御。信号線による接続。単三化に伴う三相の引込ほか。

と　き　1989年2月9日(木)PM1：00～5：30
ところ　関電会館（大阪市北区中之島3－3－32）

レポート　宮内　宏／神戸材料
（広報小委員会委員）



分岐回路方式



組み合わせコンセントの接続方法例



中国支部主催「建築工事実務講習会」盛況

このたび開催した「建築工事実務講習会」は、支部としては3年ぶりであり、また、テキストが大改訂されたこともあってタイミングもよく、「すぐに役立つ建築技術者へのガイド」と銘うって、支部会員の皆さんや、建築に携わる皆さんに全国的なレベルでの建築実務を学ぶ機会をと、開催いたしました。

日時　平成元年2月3日㈮9：30～4：30
場所　広島市中区上八丁堀8—28八丁堀シャンテ
講義科目と講師
(1)　施工計画
㈱大林組本店建築工務担当部長　金田　宏氏
(2)　仮設見積
㈱大林組広島支店工務部工務課長　古荘昭憲氏
(3)　積算業務
㈱竹中工務店大阪本店見積課長　中山雅博氏

講義は、主として工事着工前後の現場担当者としてとくに配慮すべき事項…これこそ実務…と言ういろんな問題を細かく、事例を加えて進めていただきました。

まず施工計画では、現地調査の重要性、とくに埋設物の調査、地盤沈下の検討、地下水位の掌握、騒音振動の建設公害対策、地下工事におけるトラブルの事例。

仮設見積では、仮設工事の巧拙により工程面、採算面に大きな影響がでるので要注意。仮設工事とは安全工事であり、とくに土工事の安全性の確保を強調。見積のスピード化に自社データの整備など。

積算業務では、科目別見積と部位別見積の比較。部位別見積の応用性や、積算ミスの防止など。

また、現時点での消費税の対応。

などでした。

当日は、時々小雪の舞う肌寒い一日でしたが、定員いっぱいの120名の出席で、時間も予定通りの進行でした。たいていの講習会で最後の講義の頃はパラパラと帰る方があるものですが、当日は席をはずす方もなく、最後まで熱心に聴講していただきました。

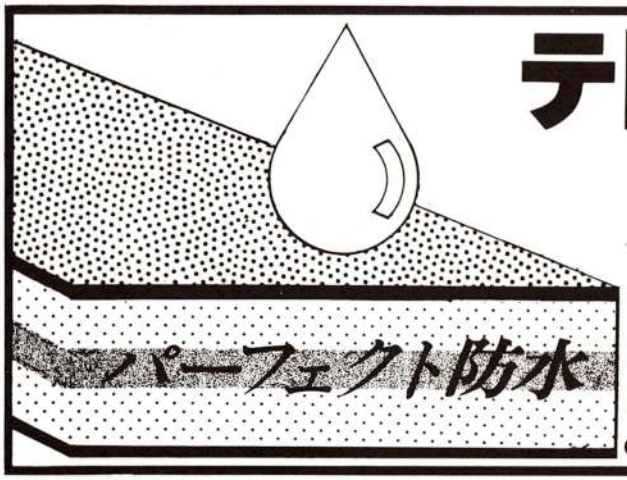
これは、講師の諸先生が第一線の超ベテランであること、そして内容が非常に身近で、日常直面している問題であることであったと思います。

この講習が、参加されました皆さんの少しでもお役に立ち、そしてますますのご活躍を期待いたしまして報告といたします。

最後に、多大なご支援をいただきました協会本部の役員の皆さんに厚くお礼を申し上げます。

日本建築協会中国支部幹事　横田昇三

テトカッパー防水層



防水専業の研究・経験から生れたすくない資源のパーフェクトな防水層です。
この防水層は（一層防水）施工するだけで、防水は完璧です。
温度変化に伸びがなく、柔軟性に富み、耐酸、耐薬品性に優れ、腐蝕しません。

カッパー防水帯　コーパータイト　新工法
オクロン防水帯　プレノテクト吹付工法

●お申込次第カタログ進呈

奥山化工業株式會社

本　社	東京都中央区銀座8—4—9	電話03（571）2703
大阪事務所	大阪市淀川区東三国6—1—41	電話06（391）1081-2
埼玉営業所	埼玉県桶川市東1—3—30	電話0487(74)2845-6
厚木出張所	神奈川県厚木市金田259	電話0462（21）1761
名古屋出張所	名古屋市南区若草町33	電話052（811）3660
九州出張所	佐賀県佐賀郡諸富町大字諸富津450	電話0952（47）2945

防火・防煙から避難装置まで
建築防災の総合メーカー

豊かな経験
最新の技術

東洋シヤッター

東洋シヤッター株式会社

本社：大阪市東区両替町1—12 日生ビル　☎（943）6571代表

東京・横浜・盛岡・仙台・水戸・静岡・岡崎・名古屋・富山・大津・京都・神戸・広島・高松・福岡他全国主要都市

特　許・耐酸被覆鋼板
耐久建築屋根・外壁材料

オリエンタルメタル

半世紀の実績が誇る技術とアフターケアー！

長尺物・色彩豊富・責任施工

品　種
- オリエンタルカラースーパーメタル(CSPM)
- オリエンタルスチールライト(ＳＴＬ)
- オリエンタルメタル(ＯＰＭ)
- 鋼板製オリエンタルフネンシングル
- オリエンタルオリセラム


体育館屋根フネンシングル

波板規格　S小波・S大波・V波・ボックス波・Wジャンボ波・Vデッキ
SVジャンボ波・ボルトレスルーフBL・其の他

用　途　平板・波板・棟包・雨押類・谷樋・竪樋・軒樋
各種換気装置〔モニター・ベンチレーター・ムーバー・エキゾスター(強制)〕
ボーロイド(断熱材)D.G.K.　※カタログを御請求下さい

オリエンタルメタル製造株式会社

大阪本社　〒660　尼崎市昭和南通り３－26 松本ビル　電話大阪(06)412－5131(代)
大阪支店及工場　大阪・九州・名古屋・広島・東条・刈谷・姫路

東京本社及工場　〒335　蕨市塚越５丁目６番32号　電話 蕨(0484)42－3115(代)
支店及工場　東北・東京・関東・熊谷

マンガで読む建築構造力学

増渕昌利

構造力学の初歩をマンガでクリヤーしてしまおうというシリーズの第1巻と第2巻である。

第1巻の内容は、第1章 力、第2章 反力（地面も反抗する）、第3章 合力と分力、第4章 力の3角関数、第5章 モーメント、第6章 釣りあい（この父にしてこの子あり）、第7章 まとめ。

第2巻は、トラス、応力と続いている。

早速、職場の若い職員に輪読させてみた。

その結果は——。①建築構造の初歩をマンガでやっちゃおうという発想にはとにかく評判がいい。曰く、「今は、源氏物語でもマンガから入る時代なので、いい企画だと思います」。

「構造の基礎が分からなくて嫌いになりかけている人が読むとよい。また、若い人が自分の進路を決定する時に参考になるのではないか」。

「第2巻は計画系出身者に分かるぎりぎりの内容でした。ひととおり構造の勉強は終了しているが、社会人になってから改めて自分の構造の基礎知識を確認するのに役にたつのではないか」。

「建築の高校の先生の虎の巻に使えそう——例え話が面白いから」等。

②登場人物のキャラクターがいい。大工の棟梁は構造力学が判らない、建築学生は現場を知らない。そこにしっかりものの娘さんとつっぱり息子。こうくればあとの展開は賢明な読者にはお見通しというものだ。





マンガ　建築構造力学入門❶・❷

——構造力学が×な、あなたへ。

作／谷山光＋建築初歩教育研究会
絵／木村芳子

集文社　'87年10月❶・'88年12月❷刊　各巻980円

③少し辛口の評価もある。

「応力という概念は、とらえにくいので、直接目に見える変形・歪みを測定するところから入る方が初心者には分かり易いのではないか」。

④棟梁の味方も多い。「金尺の裏と表が$\sqrt{2}$の関係につくられていることや、ほぞを刻む時は墨の内側を切り、ほぞ穴をほる時は墨の外側を切ることは知らなかった」。

「おやじさんの“カン”にかかわる内容がもっと盛り込むことができれば、面白いものになると思います」。

⑤「第1巻は簡単だ」という印象を受けたが、第2巻はかなり難しくなってだんだん字の部分が多くなってきている。マンガで表現するのが苦しくなってきているように思う。

⑥次のシリーズ以降でより高度な内容を取り扱っていくと思いますが、いかに単純化できるかが、マンガにできるかどうかのポイントになると思います。

「断面力としての曲げモーメントをどのように分かり易く表現出来るか楽しみにして待っています」。

「構造の勉強をしていて、内容に付いていけなくなり、嫌になってしまうあたりまで漫画として出版して欲しい」。

＊　　＊

以上答えてくれたのは22才から32才迄の建築技術職員8名（平均年令26才、女性が2名）でした。私も勿論、続刊を期待しています。

（書評委員・神戸市住宅局）

企画：日本建築協会

建築技術選書〈特装版〉

構造コストと経済設計

須賀好富 著

B5判・176頁・定価3500円

内容紹介

1　構造コストと構造計画
〈S造編〉
2　両方向ラーメン構造の数量・コスト
3　一方向ラーメン・一方向ピン構造の数量・コスト
4　半無限均等ラーメン構造の数量・コスト
5　新耐震設計法と震度法の比較
〈RC造編〉
6　鉄筋コンクリート床構造のコスト
7　鉄筋コンクリート構造の最適断面について
8　鉄筋コンクリート構造の数量・コスト
9　新耐震設計法と震度法の比較
〈SRC造編〉
10　一文字型平面（共同住宅型）の場合
11　平面が半無限均等なラーメン構造の場合
〈PC・PRC構造編〉
12　ラーメン構造の場合
13　アンボンド床工法の場合
14　アンボンド工法による小ばりを利用した場合
〈基礎構造編〉
15　基礎構造のコスト　　16　土留工法とコスト

〈目録進呈〉

各種構造を網羅した
構造企画者の必携書

階高を10cm縮めるとどれだけ節約できるか？　スパンを1m大きくするとどうなるか……．さまざまなシミュレーション，実施設計データの解析に基づき，S造，RC造，SRC造，PC・PRC造，基礎構造における，スパン，階高，荷重，ブレース分担率，構法などの設計上の諸要素について，構造コスト上，もっとも有利な値をズバリ決定できる図表を掲載．最新のコンピュータ解析技術が生んだ，構造企画者の必携書．

特装版シリーズ続刊

新・建築と設備の接点　建築設備の新しい生産管理　宮脇 毅，南部 武著／B5／208頁／定価 3,500円

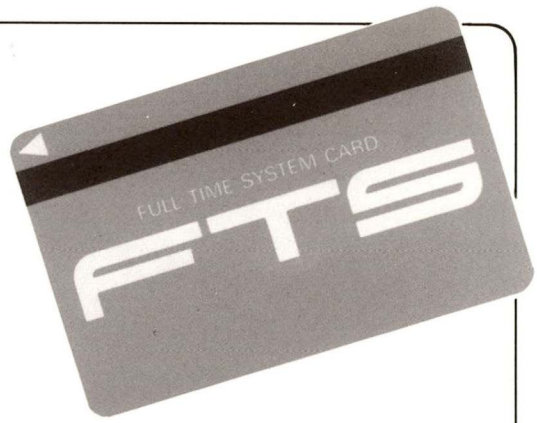
建築設備の建康診断　牧野 茂著／B5／160（カラー48）頁／定価 3,800円

学芸出版社

〒600 京都市下京区木津屋橋通西洞院東入
TEL 075(343) 0811

あなたのかわりに…

フルタイムロッカー



「宅配物」のお預り、保管、お渡し、発送のサービス



- ビル、マンションのグレードアップに
- 入居者に安心のカード解錠。
  荷物には損害補償付き。
- 出し忘れ等へのバックアップも、
  365日・24時間体制。
- 警備会社とのタイアップにより、
  メンテナンス、アフターケアーは万全。
- 管理コスト・スペースも節減。

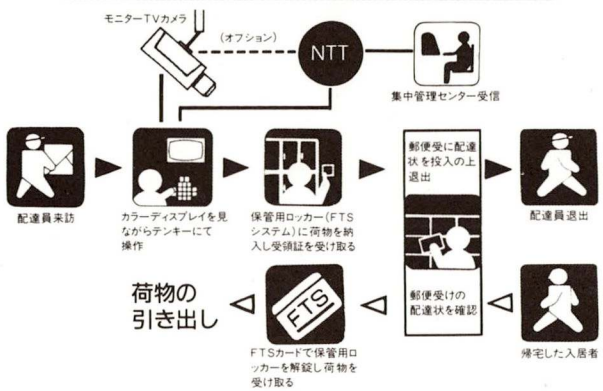
FULL TIME SYSTEM

FTS

24時間遠隔無人管理体制
〈フルタイムシステム〉



入居者が不在の時、小包や宅配便、酒、米、クリーニングなどを、
簡単な手順でロッカー内に保管できます。



帰宅した入居者はFTSカードでロッカー内の
荷物を引き出します。

ご採用いただいた会社名

- 伊藤萬株式会社様
- 大倉建設株式会社様
- 川鉄商事株式会社様
- 兼松江商都市開発株式会社様
- 川崎製鉄株式会社様
- 興和不動産株式会社様
- 住友不動産株式会社様
- 西宝土地開発株式会社様
- 株式会社西洋環境開発様
- 株式会社長谷工コーポレーション様
- 株式会社長谷工不動産様
- 林建設工業株式会社様
- 株式会社初穂様
- 株式会社富士住建様
- 株式会社マルコー様
- 株式会社リクルートコスモス様
- 株式会社ヤシマ様

(五十音順)

株式会社 フルタイムシステム

お問い合わせは
大阪●大阪市中央区本町3－6－2　TEL.06(252)5666
東京●東京都港区芝大門1－4－17　TEL.03(435)9261

24時間遠隔無人管理体制

フルタイムシステム

株式会社フルタイムシステム　大阪　大阪市中央区本町3－6－2　TEL06(252)5666
東京　東京都港区芝大門1－4－17　TEL03(435)9261
川鉄商事株式会社　大阪市北区小松原町2－4　TEL06(315)4091
（大阪富国生命ビル8階）

フルタイムロッカーについて

女性の社会進出が進み、働く主婦がふえてきた中で、困っているのが宅配業者やデパートの配達員。特に都会では、お隣に荷物を預けるというわけにもいかず、持帰り、再配達という手間をかけている場合が多い。「フルタイムシステム」は配達する側と受け取る側両方のニーズに応えた新しいシステムである。マンションの管理員や入居者の方の話の中から今、何が一番不便かということのアンケートの中では、留守の時に小包や宅配便などの配達物を受け取ってくれる人がいないということでした。実際小規模なマンションには管理員を置いていないところも多いし、管理員がいても、夕方5時以降とか日祝日には休みの所が多く実際に入居者の方の帰ってくる頃は窓口を閉めていたりでなかなか受け取りはスムーズにいかない場合が多い。働く主婦がふえ、かつてのように誰かが必ず家にいるという家庭は減少している。気軽に荷物を預かってくれる「お隣さん」もいない。「フルタイムロッカー」は二度手間・三度手間を覚悟で足を運ばなければならない配達員の「手から手に」を24時間、365日代行する、最新のシステムです。

システムの概要

フルタイムロッカー管理システムは4種類のロッカーと、CPU制御装置ユニット・テレビカメラからなり、納入先の各マンションとフルタイムシステム社の集中管理センターはNTTの公衆回線で結ばれている。CPU制御装置本体ユニットにはカラーモニターテレビや、カラーディスプレイがついており荷物の配達人は、受け取り人の不在を確認した後、カラーディスプレイ画面の指示にしたがって、テンキーで「届け先の部屋番号」および「業者コード」などを入力するカラーディスプレイ画面で空きロッカーを選びロッカーナンバーのボタンを押す。それによって電子ロックが解除され、ロッカーのドアが開くので、荷物を入れドアを閉める。荷物センサーと電子ロックセンサーの両方が感知しOKとなれば初めて受領書が発行される。この時受領書と配達状の2枚がプリントアウトされるので、1枚をメールボックスに入れて帰る。入居者が帰宅して配達があった事をメールボックスにて確認し入居者に渡される登録済みの磁気カード「FTSカード」をカードリーダーに挿入するだけで登録者であることのIDチェックを自動的に行ない本人であることの確認ができると、荷物の入っているロッカーのみ解錠され、ドアが開くというシステムになっている。

またカラーディスプレイの案内と共に音声案内も出るので、お年寄りや子供など、ボタン操作に慣れていない人でも簡単に操作できる。配達された荷物には受領書が打出された以降についてフルタイムシステム社においてすべて荷物に損害補償がつけられ、ロッカーの故障等についてもセンターが24時間フルタイムにて対応しております。ロッカーサイズは四種類あり、幅45センチ、高さ179センチが標準タイプ、5段タイプと8段タイプがある。幅広の60センチタイプは4段、他に2段のゴルフバック用など背の高いもの専用ロッカーもある。奥行きはすべて60センチで、色は日本塗料工業会の見本にて自由に着色できる。

マンションエントランスにあってもハイセンスでスマートな設計となっております。荷物は宅配便だけでなく、酒屋・米屋・クリーニング店などからの配達にもこのロッカーで処理し、またクリーニング専用のボックスを設置することによって汚れた衣類を出すことも出来る。管理センターでは各ロッカーとNTT回線を使用し、ロッカーの使用状況のデータ管理を行なっております。またロッカーにはオートホンがついており、いつでも管理センターとの連絡が出来、ロッカー使用方法及故障等に対しての対応を24時間365日行なっております。

（戸田悠二／建材委員）

フルタイムロッカーの5大特徴

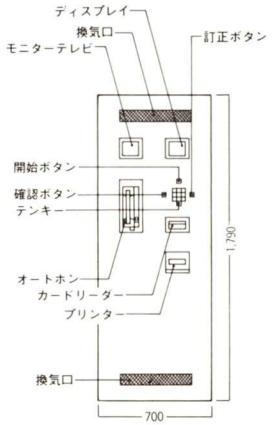
①管理人の手を借りる事なくいつでも荷物の出し入れが出来る。

②入居者の名前がディスプレイされ転勤等の入居者の出入についても確実。

③テレビカメラによる防犯対策。

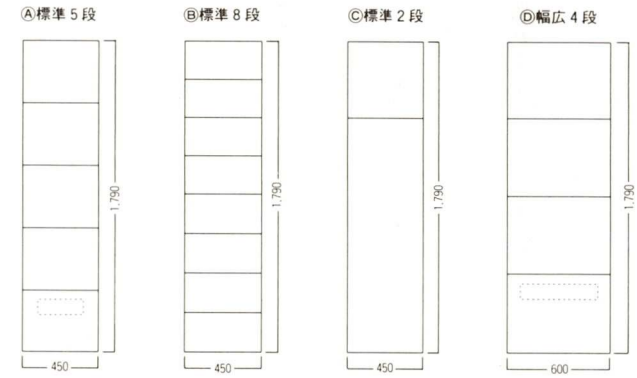
④受領書及配達状の2枚のレシートによるお知らせ機能付。

⑤管理センターによる24時間対応ならびに日報・月報管理の親切設計。



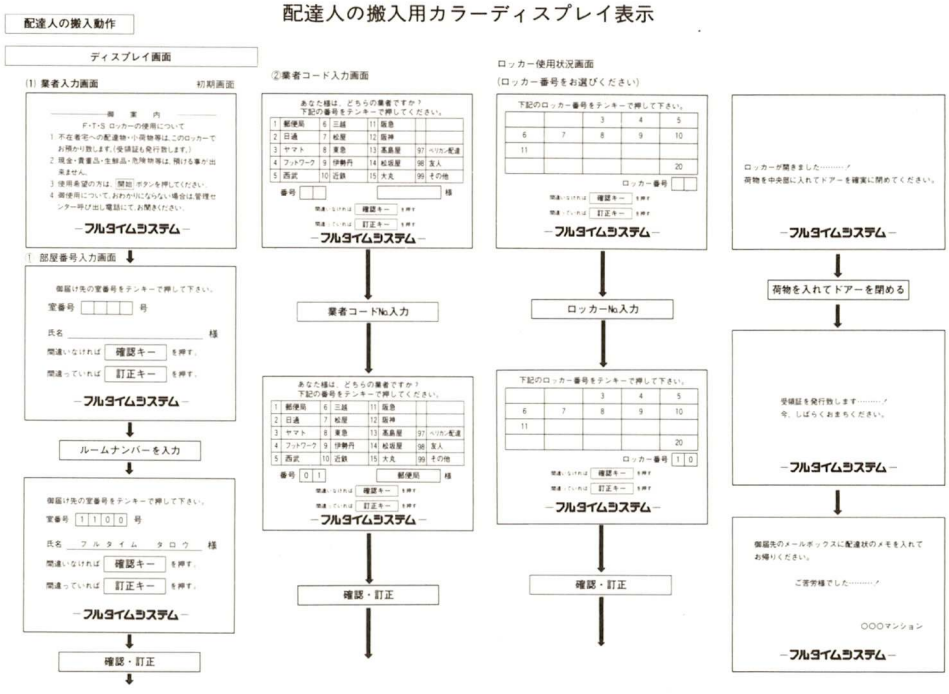
CPU図面

ロッカー基本構成



（普通荷物用）　（クリーニング及び小物用）　（ゴルフバッグ用）　（大型荷物用）

配達人の搬入用カラーディスプレイ表示



法令コーナー

編集委員会法令分科会

235

都心居住促進に向けて—大阪市総合設計許可取扱要綱の改正—

戦後、わが国の経済発展に伴い大都市への急激な人口集中現象がみられ、さまざまな都市問題が惹起され、昭和40年代半ばには、都心部で人口が減少するドーナツ現象がみられるようになった。

大阪市では、都心部の人口回復を図る方策として、建築基準法にもとづく総合設計制度を活用し、都心部における住宅を優遇した容積割増しを認める制度（都心住宅優遇ボーナス制度）を昭和54年に創設した。この制度は、総合設計制度を活用して、ＪＲ大阪環状線内側およびその周辺で、都市計画で定められている商業地域の指定容積率400％･600％の区域において、住宅を含むビルを建設する場合には、事務所ビル等に比べて、容積割増し部分が３倍となるものである。因みに、制度の適用件数は、これまで17件、供給された住戸数は1742戸となっている。

今回の大阪市総合設計許可取扱要綱の改正は、２月１日から実施されているが、都心住宅優遇ボーナス制度の拡充が中心となっている。

都心居住促進の課題の検討

大阪市の都心区（８区）における人口は、昭和63年現在37.5万人で、ピーク時の昭和37年の62万人から25万人が減少しており、昭和50年代半ば以降は微増傾向がみられるようになったものの、一昨年から再び減少傾向となっている。また、近年の地価高騰の影響もあって、年間7千戸～１万戸の供給量がみられていた都心区での住宅供給も、昭和61年以降落ち込みがみられる。

このような状況下にあって、都心部での人口の回復により昼間人口と夜間人口とのバランスを確保し、また住用途と商業・業務用途との秩序的な複合・純化を促し、均衡ある都心部を形成しつつ活性化を図るために、都心居住を促進する方策が大阪市における行政課題の一つとなっている。

さらには、大阪の国際化・情報化・24時間活動化に伴い、市民の居住傾向・ライフスタイルの多様化・個性化による都心居住ニーズの増大も予想されるが、このような新しいニーズに応えるという今日的課題でもある。

また、歴史的にも整備されてきた道路・公園等の都市基盤施設や、遊休化がみられる学校・社会教育施設、あるいは日曜祭日の利用効率が低下している地下鉄・文化施設などの都心部での都市施設ストックを有効に活用するという都市経営の観点からも都心居住促進は行政課題の一つと言えよう。

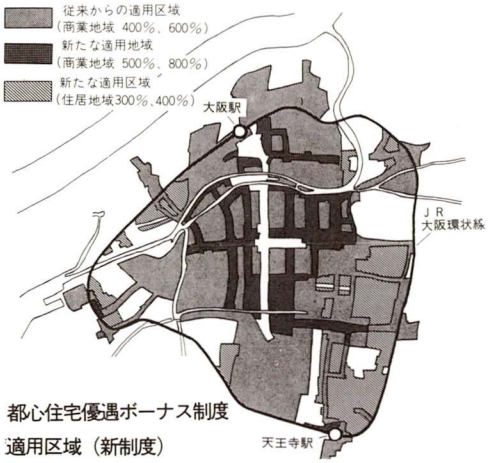
以上のような都心居住促進の課題について、都心部における土地利用・建築活動に対する規制誘導手法を活用し、民間活力を適切に誘導していく〝容積ボーナス制度〟等の方策について、学識者等からなる「都心居住促進方策検討委員会」を設置し、総合的な視点から調査・研究し、下記のような都心居住促進方策を検討することとした。

① 総合設計制度における都心住宅優遇ボーナス制度の適用区域の拡大や割増し容積のアップ等の現行制度の拡充

② 都心居住促進のモデル地区を設定し、住宅を含むビルを建設する場合に容積割増しを認める手法

③ それらを支援する助成制度

今回、大阪市総合設計許可取扱要綱の改正による都心住宅優遇ボーナス制度の拡充は、「都心居住促進方策検討委員会」で検討されている都心居住促進の方策の一つである。



都心住宅優遇ボーナス制度
適用区域（新制度）

改正の要旨

(1) 都心住宅優遇ボーナス制度の拡充

a．適用区域の拡大　これまで適用してきた、ＪＲ大阪環状線の内側およびその周辺の商業地域の指定容積率400％および600％の区域に加えて、大阪環状線の内側の商業地域で指定容積率500％および800％の区域、並びにＪＲ大阪環状線の内側の住居地域で指定容積率300％および400％の区域を新たに適用区域として拡大した。ただし住居地域においては、敷地規模が1000㎡以上でかつ前面道路の幅員が12ｍ以上のもので、指定容積率 300％の区域にあっては、住居地域・指定容積率 200％の区域並みの日影規制を満足する計画に限り、適用することとした。

b．容積割増し係数の引き上げ　商業地域においては、これまで、事務所ビル等に比べて、容積割増し部分を３倍にしていたが、これを５倍に引き上げた。住居地域においては同じく３倍とした。

(2) その他の改正

今回の都心居住促進に係る改正事項のほかに、つぎについても合わせて改正した。

a．共同住宅については、定期的な維持管理報告を義務付けることにした。

b．共同住宅について、全住戸に対する駐車場附置台数割合の最低限度を30％から50％に引き上げることにした。

c．斜線制限の緩和基準について、建築基準法の改正（昭和62年11月16日施行）に伴い、基準を見直した。

（大阪市計画局建築指導部指導課主査　増田靖生）

都心住宅優遇ボーナス制度・旧制度と新制度の比較

	旧制度		新制度	
適用区域	商業地域	住居地域	商業地域	住居地域
	■大阪環状線の内側およびその周辺 指定容積率　400% 600% 〈適用条件〉 ・敷地面積 500㎡以上 ・前面道路幅員 6ｍ以上	適用区域なし	■大阪環状線の内側およびその周辺 指定容積率　400% 600% ■大阪環状線の内側 指定容積率　500% 800% 〈適用条件〉 ・旧制度に同じ	■大阪環状線の内側 指定容積率　300% 400% 〈適用条件〉 ・敷地面積 1000㎡以上 ・前面道路幅員 12m以上 ・日影規制 指定容積率300%の地域
容積率の割増し量 一般の総合設計制度を適用した場合	割増し量Ｖ （事務所ビル等）	割増し量３Ｖ 事務所ビルに比べて容積率の割増し分が３倍	―	割増し量５Ｖ 事務所ビルに比べて容積率の割増し分が５倍	割増し量３Ｖ 事務所ビルに比べて容積率の割増し分が３倍
住宅の要件等	容積割増し部分以上は、住宅（住戸規模55㎡／戸以上）とすること	―	容積割増し部分以上は、住宅（住戸規模55㎡／戸以上）とすること	容積割増し部分以上は、住宅（住戸規模55㎡／戸以上）とすること
備考	・駐車場の附置台数 住戸数の30%以上	―	・駐車場の附置台数は住戸数の50%以上 ・共同住宅の管理報告の義務付け	

話題建築を聞く　第6回

アップリカビル——設計　丹下健三・都市・建築設計研究所 丹下憲孝氏・中川巌氏に聞く——

日　時　5月20日(土)　14：00－16：00

会　場　㈳日本建築協会会議室(大阪駅前第3ビル21階)

近年、事務所ビルの形体が従前のシンプルな箱形とは様変わりを見せ、各企業が会社のイメージアップとショールーム化をねらって、個性を重要視した表情豊かな建物が続々と建設されています。

このたび、日本の代表的建築家、丹下健三氏の作品が大阪中央区に誕生しました。

関西新空港の建設とあいまって発展する中央区の通称ヨーロッパ村と呼ばれる周防町筋の延長線上、島之内町に位置しています。建物の規模は小さなものですが、ファッショナブルな周防町筋にとっては、ますますポピュラーになるための重要な拠点となることでしょう。

設計者の丹下憲孝氏・中川　巌氏を囲んで、アップリカ本社ビルの設計から完工に到るまで図面やスライド等を見せていただきながら、丹下健三・都市・建築設計研究所の建築への取り組み方や設計思想、及び最近の当研究所の作品についてお話をお聞きし、また参加者から質疑やご意見をお受けして全員で話し合いたいと思います。

これからの日本は、ますます国際化、情報化、高齢化の社会になると言われております。国際化、情報化が進むにつれて、今まで以上に情報の質量は飛躍的に増大し、膨大な都市エネルギーとなって新しい都市をも発生させるまでになっております。また、社会の高齢化が進むにつれて、豊かな安らぎのある社会と福祉が求められております。

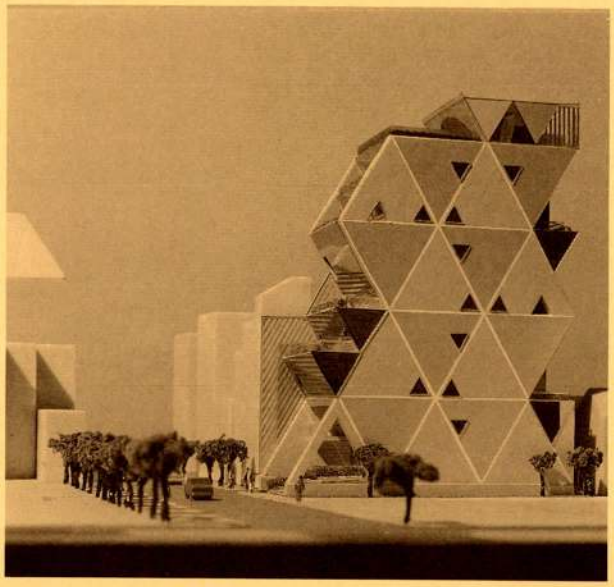
一方、今日の都市においては、基盤整備の遅れ、地下高騰等により、建設ブームでありながらも都市全体の秩序ある再開発が困難になっております。また、市民生活レベルにおいては個性化の時代、余暇の増大、さらには流行と時代の移り変わりの早さ等が、我々の生活リズムを早め、多様化させています。

こうした中で、子供と老人への奉仕を目的とする国際的な企業アップリカ社は、本社ビルの建設にあたり、子供や老人にも親しまれ、利用されるスペースを造ることと、育児教育の拠点にふさわしいオフィススペースを造ることを企画しました。

周防町通りと堺筋通りの交差点付近は、緑化計画や歩道の拡張工事等が進み、緑豊かな街区として整備されつつあります。この街区に建つアップリカビルは、今後、国際化社会となり情報化社会となるにつれ、国内外の交流や、相互の情報交換を行うにふさわしい施設と設備を備えたオフィスビルになることを意図しました。

展示スペースとして、また、市民の憩いの場としても利用されるアップリカプラザをはじめ、十分なリフレッシュメントスペースを持つオフィス空間、色と光の変化を楽しむことが出来るイベント空間、中国に伝わる四つの守護神を配置した象徴的空間等によって、安らぎのある創造性豊かなオフィス空間を造ること、さらには、今最もファッショナブルな街として発展しつつある地区の新しいシンボルとして、建物はダイナミックな、天に向かって発展する形態とすることによって、21世紀への豊かな都市空間に寄与出来れば幸いです。

(丹下健三・都市・建築設計研究所)



丹下憲孝氏

1958年生まれ
ハーバード大学教養学科卒業、同大学建築学科大学院入学、グラジュエート・スクール・オブ・デザイン卒業
1985年丹下健三・都市・建築設計研究所入社
1985年10月～1986年10月建設省出向
現在、丹下健三・都市・建築設計研究所取締役副社長



●建築概要

建物名称	アップリカビル
建 築 主	アップリカ葛西株式会社
設計監理	丹下健三・都市・建築設計研究所
施　　工	野村建設工業
所 在 地	大阪市中央区島之内1-13-14
敷地面積	314.27㎡
建築面積	219.80㎡
延床面積	1,404.46㎡（含、駐車場）
構造規模	ＳＲＣ、Ｂ１、８Ｆ、Ｐ１
工　　期	1987年12月～1989年２月



中川　巌氏

1945年生まれ
武蔵野美術大学建築学科卒業、ミラノ工科大学建築学科大学院留学
1973年Ｖ．ビガーノ建築事務所入社
1977年丹下健三・都市・建築設計研究所入社
新建築住宅設計コンクール入選（1968年）、イタリアプレファブ設計コンクール入選（1973年）、ピンツォーロ市スポーツセンター設計コンクール入選（1976年）

参加費　一般2,500円、会員1,500円（学生：一般1,500円、会員1,000円）

定　員　30名（予定）

申込方法　ハガキかＦＡＸまたは電話で５月12日㈮までに日本建築協会事業課（〒530 大阪市北区梅田1-1 大阪駅前第３ビル21階　ＦＡＸ 06-348-0634 ☎ 06-348-0635）へお申込みください。
催し名（話題建築を聞く－「アップリカビル」）、氏名、会員・一般の別、勤務先、参加証送付先、電話番号をお知らせ願います。

＊追って参加証をお送りします。なお、申込者多数の場合は抽選にて決定します。

◀監事並びに本部所属評議員の当選お知らせ

平成元年２月22日開催の通常総会におきまして監事並びに本部所属評議員の選挙を執り行いましたところ、下記の方々が当せんされました。

記

監事

牧田顯治君（新井組）

本部所属評議員

（技術部門）

多井幸男君（多井建築研究所）
片田俊彦君（大阪府企業局）
山形政昭君（大阪芸術大学）

（総合部門）

伊藤俊夫君（松村組）
内村俊一君（大日本土木）
上加世田進君（鉄建建設）
白石静二君（鴻池組）
瀬尾貞甚君（西松建設）
高尾清次君（三井建設）
宮貴久雄君（安藤建設）
田中宏君（田中建設）
水間義雄君（水間組）

（電気部門）

荒巻恭士君（近畿電気工事）
岩橋貞雄君（八千代電設工業）

（管工部門）

臼井弘君（須賀工業）
川瀬甲子雄君（扶桑管工業）
福谷守弘君（朝日工業社）

（建材部門）

加藤忠三郎君（平田タイル）
永原義夫君（王建工業）

ホテルオークラ神戸見学会が４月８日(土)に変更 ――見学会参加当せん者へ――

本誌２月号にてお知らせしましたホテルオークラ神戸見学会は、３月13日(月)が消防検査の為見学不能となり、４月８日(土)13：30－16：00に実施となりました。

◀'89～90年版日本建築協会会員名簿頒布お知らせ

本年10月発行予定の会員名簿は、建築界に活躍される会員の現況（出身校・現住所・勤務先・所在地）を紹介するばかりでなく、官公庁・学校・関係諸団体のほか、建築事務所、建設、建材、設備その他関係業者の主要なものを業種別に収録しており、日常業務に大いに役立つものとおもわれます。

何卒お買い求め下さるようお願い致します。

記

1．体　裁　Ｂ５判　264頁　本文上質紙
1．定　価　3,000円（うち$\frac{3}{103}$は消費税）〒300円

なお、予約お申込みの方は、**会員特価**として**消費税及び送料込みの2,500円**でお頒け致します。

◀消費税４月１日から実施に伴う諸改訂

周知のとおり、消費税法が昨年12月30日に公布、施行され、本年４月１日から適用されます。

●日本建築協会でも、これを円滑かつ適正に転嫁するために、明年度予算の中に取り入れるとともに、会誌の定価、各種講演、見学会等の参加費の改訂を行いますが、今般、中央建設業審議会の決定および四会連合協定・工事請負契約約款委員会の決定により、公共工事標準請負契約約款、民間建設工事標準請負契約約款（甲、乙）および四会連合協定工事請負契約約款の改正が行われ、それぞれの「請負契約書」の請負代金の表示が、税込みの総額を記入した上、別に取引に係る消費税額をも表示するように改められました。

四会連合協定の新工事請負契約約款一式は、従来どおり本協会事務局で頒布していますので、ご利用下さい。

●建設大臣官房長から、本年２月８日付で、消費税に関する以下の通達がありました。

『消費税は税制改革法第10条に規定されているように、消費に広く薄く負担を求める税であって、この性格にかんがみ同法第11条において事業者は消費税を円滑かつ適正に転嫁することとされ、併せて、国は消費税の円滑かつ適正な転嫁に寄与するため、消費税の仕組み等の周知徹底を図る等必要な施策を講じるものとする。

１．事業活動に当たっては、消費税を適正に転嫁するとともに、転嫁を適正に受け入れること。

２．消費税の転嫁に当たり、いやしくもこれに便乗して不当に価格を引き上げることのないようにすること。

３．消費税法附則第30条の規定に基づき消費税の転嫁のための共同行為を行う際においては、公正取引委員会事務局の「『消費税の転嫁と独占禁止法』についての手引き」を遵守すること。』

①四会連合約款改正部分

４．請負代金額……
　うち工事価格（取引に係る消費税額を除く額）……
　取引に係る消費税額……

（注）「取引に係る消費税額」は消費税法第28条第１項及び第29条の規定により算出したもので、請負代金額に３/103を乗じて得た額とする。

②「建築と社会」誌定価改訂

消費税の実施に伴い、本誌も４月号から定価を改訂させていただきますので、従来どおり購読を継続下さるようお願いします。

旧定価 950円（送料共）→**新定価 980円**（$\frac{3}{103}$の消費税及び送料共）

なお、正会員の購読料は従来どおり会費（改訂いたしません）に含めていますので、申し添えます。

③会議室使用料金改訂

協会業務に使用しない場合に限り、会議室を皆さんの使用に供していますが、本年４月１日から次のとおり料金の改訂をいたします。

●**新料金**（すべて消費税$\frac{3}{103}$を含みます）

時間帯	室別 / 種別	大会議室60㎡（20～35名） 会員	大会議室60㎡（20～35名） その他	小会議室30㎡（10～16名） 会員	小会議室30㎡（10～16名） その他
10：00～12：00		7,000 円	9,000 円	4,000 円	6,000 円
13：00～17：00		9,000	11,000	5,000	7,000
17：00～20：00		11,000	13,000	8,000	10,000
10：00～17：00		13,000	15,000	7,000	9,000
13：00～20：00		16,000	18,000	10,000	12,000

・会員が待ち合わせや短時間の打ち合わせなどに使用される場合は無料です。ただし、17：30まで。

部門だより

財団法人 日本建築総合試験所

所 在 地…吹田市藤白台5－8－1　〒565
電　　話…(06)872－0391　FAX…(06)872－0784
業務時間…平日：9：00～17：00
　　土曜：9：00～12：00

音・熱・動風圧試験室

音・熱・動風圧試験室
工事用材料関係の試験室

最近５ケ年（昭和58年度～62年度）の音、熱、動風圧それぞれの試験別の受託状況をまとめてご紹介します。**図－１**は58年度の総受託量（金額）を100％として各年度を比率で示したものです。

音響試験

61年度より急激に総受託量が増加しています。これは床衝撃音試験が急に多くなったのと、これに伴う貸切試験が増加したことによるものです。

床衝撃音試験はフローリング工事による階上騒音の問題がマスコミ等で大きく取り上げられた昭和62年以降急激に増加したのですが、図を見ますと昭和59～60年頃から既に床材メーカーが床衝撃音の改善に取り組んでいる様子がうかがえます。

熱　試　験

熱伝導率の測定は、特別にまとまって受託のあった60、61年度を除くと、59年以降はほぼ同程度です。これに比べてグラスウール、ロックウール、断熱ボード類等の熱抵抗測定（JIS A1420）は毎年減少傾向が続いています。熱貫流率の測定も60年に最大となった後、サッシ関係の試験が少くなったため減少しています。61年頃よりその他の試験が増加していますが、これは複層ガラスの耐久性、透湿率、比熱等の測定の増加によるものです。

動風圧試験

音、熱と同様、サッシ、ドアの気密、水密、強さ等の試験が減少する傾向にあります(61年度は特別受託有り)。これに比べ、外壁パネル、カーテンウォール等の気密、水密、強さの試験が増加しています。また57年頃より毎年海外からカーテンウォールの性能試験の依頼が数件来るようになっており、今後も続くものと思われます。

以上試験受託状況について簡単に述べましたが、この他に年間２～３のテーマを決め自主研究を実施しています。また、その成果は関係学会や機関誌ＢＲＣに発表しております。

工事用材料関係の試験室

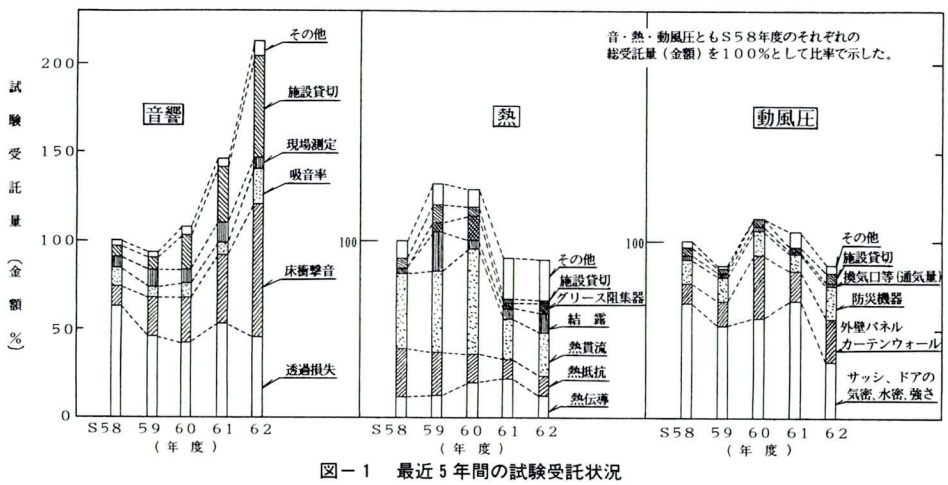
本所工事用材料試験室／大淀分室／堺分室／京都分室／加古川分室

工事用材料関係の試験室ではコンクリートの強度試験・骨材の品質試験および鋼材の強度試験などを行っています。これらの試験の多くは、昭和52年に大阪府下特定行政庁が、また昭和57年に兵庫県が制定した「コンクリート工法に関する指導要綱」および昭和62年に改正になった京都市「建築規準法施工細則」に基づくものです。

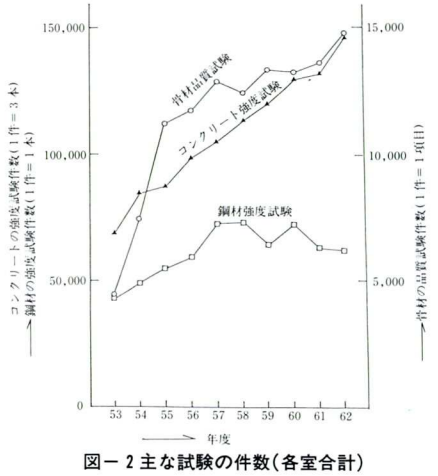
その間の業務上の大きな動きとしては、①昭和56年から試験結果の集計業務を開始し、以後毎年ＣＢＲＣ誌などに発表。②昭和58年堺分室に全自動100tfコンクリート圧縮試験装置を設置。③昭和62年４月から加古川分室でアルカリ骨材反応試験のうち、モルタルバー法の試験業務を開始。④昭和62年７月の大阪府下特定行政庁の指導要綱改正を受けて、同年10月から大阪府下とその周辺の生コン工場を月１回巡回して骨材試験用試料を採取して試験を行い、その試験結果を依頼に応じて発行するという業務などがあります。

図－２は昭和53年から62年までのコンクリートの強度試験・骨材の品質試験および鋼材の強度試験の件数を示したものです。鋼材の強度試験は昭和58年以降で頭打ちになっていますが、他の試験は順調に推移しています。これは行政指導が年々定着してきていることと、工事量の増加などによるものと思われます。

各室では、正確で迅速な試験を目標として業務を進めており、また、ガス圧接部の超音波探傷業務の開始に向け準備を進める一方、鋼材の強度試験において試験を行いながら自動的に報告書を作成するシステムの開発に力を入れています。今後は研究活動にも力を入れていきたいと思っています。



図－１　最近５年間の試験受託状況



図－２主な試験の件数(各室合計)



建築の眼

住田昌二
大阪市立大学教授

松田泰典
兵庫県都市住宅部営繕課長

中嶋龍彦
中島龍彦建築事務所

入江恂一
オテルオークラ神戸建設ＪＶ工事事務所所長

1月号から6月号まで上記の4氏が執筆

写真は龍神村民体育館
設計 渡辺豊和建築工房

韓国のマンション

私はいま、韓国からきた大学院の留学生と一緒に、韓国のマンション研究を行っているが、日本と比べた際の住宅水準の高さに驚かされている。彼の地では住宅の絶対的不足はまだ厳しく、マンションを購入できるのは、国全体でみると、まだほんのひとにぎりの階層に過ぎないかもしれない。それでもソウルや釜山地域に絞ってみると、その林立ぶりは大変なものである。日本では、間口より奥行きが異常に長い鰻の寝床型の間取りが当り前だが、向こうでは間口がたっぷりあるのが常識で、アンドン部屋など論外だ。住宅の規模は、平均的には20坪台のものが多いが、最近では30坪から50坪台のものの需要が、サラリーマン層の所得上昇と相まって急増している。ソウルの都心に割に近いところで30数坪の新築物件を買おうとすると、約２千万円というところか。そのあたりのグレードのものの購入層は、大体は年収600万円位の中堅エリート層であるから、俗にいわれる年収の３倍位の適正価格が実現されていることになる。日本に比べて圧倒的割安になる秘密は、価格に占める地価の割合が20％以下であることだろう。このままでは国全体の住宅水準が日本を追い抜くのも間近い。

(S. S)

六つの風土とともに その三——東播磨

初春の陽光を浴びた、なだらかな東播磨の丘陵地は、播磨灘からの風を受けてここちよい。手に敷地測量図、肩にはカメラをさげ、林の中を歩きまわる。眺望、雲の動き、風の向き、地形の起伏、植生、土の匂い、あらゆるものを感じ取ろうと心はたかぶる。播磨灘に夕日が落ちるころ、泥だらけの靴で帰途につく、頭の中はスケジュールとイメージで混乱している。

コンタを切り、敷地の模型をつくり地形を確認する。建物の機能を敷地の中に埋めていくエスキースの繰り返し。行政機能の将来への展望、都市計画・地域計画との調整、周辺の景観への配慮、環境への影響等を考えながら建築の社会性を具体化し基本計画としてまとめていく。更に構造計画、設備計画との調整を図り、模型等で形を整え、ディテールまでイメージを高めていく。

東播磨は近畿圏の中でも阪神地域の後背地として発展が期待され、基盤整備が着々と進められている。地域づくりの拠点としての公共建築の整備に、自治体営繕はどこまで期待されているのだろうか。

(Y. M)

地下街のデザイン

日頃なんとなく通っている地下街であるが、よくよくその気で見ると実に間の抜けた空間であることに気付く。そのスケールは建築のスケールというよりは土木のものであって大きな人の流れに対応している。唯、単にＡ地点からＢ地点に行くという目的にとっては何んのわだかまりもないが、果してそのように考えて良い空間なのだろうか。両側に色とりどりのウインドウが並び人の気を引くディスプレイが施され、使っている材料も通常我々が手掛ける建材、しかもかなり上等な部類に属するものであり乍ら今一つ空間としての物足りなさは一体何に起因するものであろうか。ところどころに広場状のスポットが用意されてもいるのだが。道路という公共施設の地下を利用した公共空間であるが故にもっともっとその空間の質を問題にしなければならないのではないか。

風雨をしのげる歩行空間として、そぞろ歩きの楽しめる空間として、もっと心血を注いだ潤いのあるものとして考えなおす時期に来ている。あたかも我々建築家が、一個の作品として建築をつくるように。その事が公共空間の宿命であるのだから、立派な都市財、社会財としてはづかしくないものにしたいものだ。

(T. N)

建設労働者不足について

最近建設工事の受注は各社共30％以上も増加している現状である。それに対して建設労働者は増加しておらず、絶対数は不足しておりその上平均年齢は上昇して、実質的な生産効率は下がっている。竣工に間に合わない現場が出てきて大きな社会問題になる可能性すら感じられる。さらに建設現場の環境は最近良くなったとは言え、一般オフィスあるいは工場と比較して非近代的であり、危険作業も多く労働時間も長い。一方収入面においても他業種に比較して退職金も少ないし充分であるとは言いがたい。今、社会に出ていく若者が喜んで職人になろうと希望するものは年々減少する傾向にある。このような現状をいかに打開すべきか真剣に検討すべき時が来ている。最近労賃が急騰しているが、これは一面喜ぶべきことと思われる。収入面において魅力のある職種にするのも一つの打開策になると思われる。それには是非とも建物坪単価の上昇と言う社会の認識が必要である。

そして、職人の養成に対しても下請会社任せにせず、ゼネコンが金と時間と人材を投入して、前向きに取組む必要がある。

(J. I)

特集　東海の新建築と伝統技術



撮影　センターフォト

作　品
- 愛知県旭高原少年自然の家
- 名古屋商科大学高度情報化対応教室棟
- 皇學館大學附属資料館
- 瀬戸旭医師会館
- 名古屋YWCAビル
- 東海銀行新瑞橋支店
- 豊田市駅西口市街地再開発ビル
- セントラルパーク・アネックス
- Shine's（シャインズ）
- コープ野村新安城
- パークシティー鳥見
- ホテルナゴヤキャッスル
- ローランド細江工場

座談会
- 博物館は市民に何をもたらすか
  （一宮博物館、その発想から企画そして計画）
  森　鉾太郎・内井昭蔵・中島　一

建築地場産業ルポ
- 15．名古屋桐たんす―名古屋―
- 16．美濃和紙―美濃―
- 17．鋳物―桑名―
- 18．駿河指物―静岡―

本特集企画　　日本建築協会東海支部特別編集委員会



愛知県旭高原少年自然の家

設計監理　愛知県建築部営繕課・伊藤建築設計事務所(建築)・オオバ(造成)
施　　工　西松・永楽建設共同企業体　矢作建設工業　太啓建設

愛知県では年々増加する小中高校の野外学習活動を十分に受入れるべく、山間部と臨海部に宿泊定員500名の青少年教育施設設置の計画を立てた。本施設は山間部の施設として県東北部東加茂郡旭町に建設されたものである。敷地の一部は愛知高原国定公園に指定されており、中央には東海自然歩道が通っている。

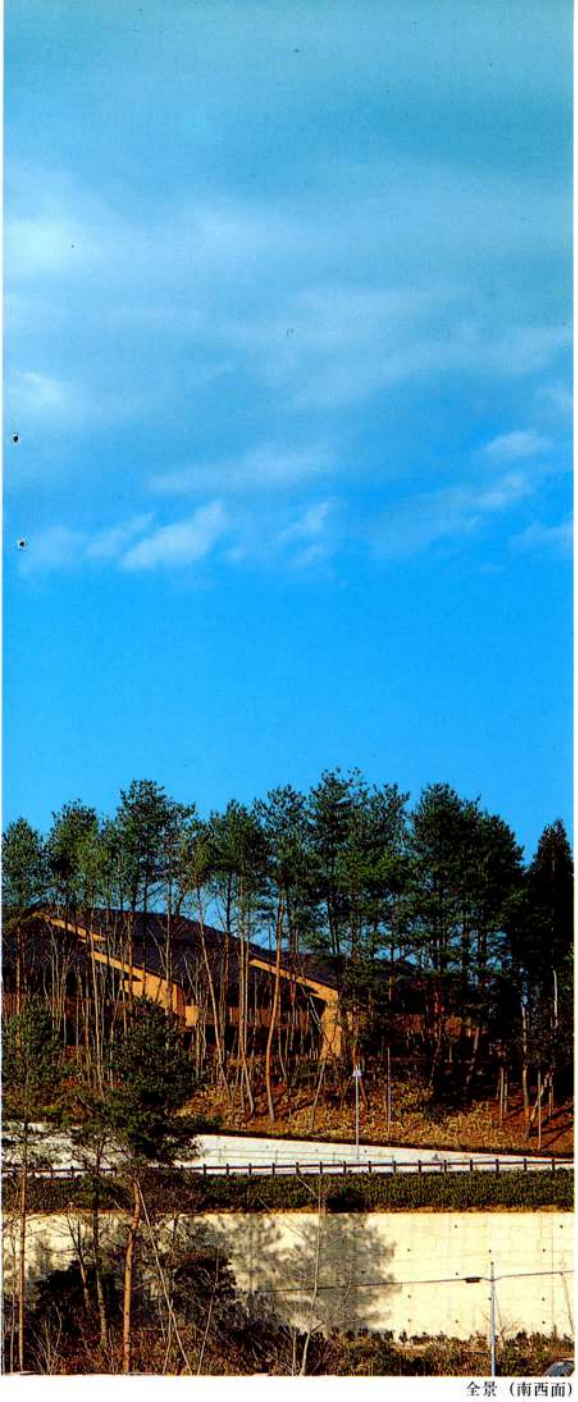
敷地面積約5ha、最高標高620m、高低差45m、ところにより勾配が30%を越える厳しい条件の傾斜地である。既に周辺一帯は牧場やキャンプ場をはじめ、学童農園や野外運動場・生活環境保全林等の整備がされている。

野外教育施設は、大集団での宿泊研修生活を通し、自然に触れながらの創造活動や多様な集団での作業活動のように、児童生徒が日頃家庭や学校だけでは経験しがたい貴重な体験のできる場である。

計画上のポイントは、500人近くの大集団が宿泊生活を円滑に行い得ること、複数集団の利用に対応した研修活動とコミュニケーションのスペースをバランスよく配すること、建物自体が周辺の自然環境との接点を多く持ち調和していることである。

配置上は主要建物と野外エリアとの接点に2段の広場を配し、屋内外を繋ぐ円滑な動線を確保した。建物はプライベートな生活拠点となる宿泊部門、動的活動の場である講堂・体育館、聴講を主体とする静的活動の場である研修部門を分離独立させ、エントランスホールを中心に連結した。厳しい気象条件下で耐候性・断熱性に優れた仕上材を選定し、安全を旨とする質実剛健なディテールとした。

(鈴木賢一／伊藤建築設計事務所)



全景（南西面）



シンボルタワー

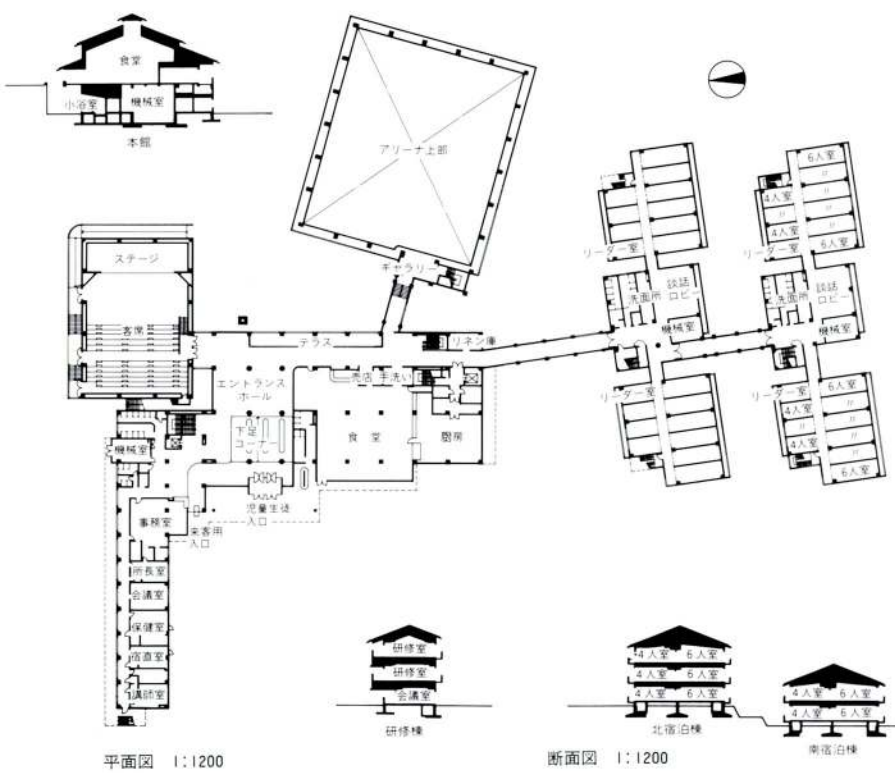
所 在 地　愛知県東加茂郡旭町大字閑羅瀬、小滝野地内
敷地面積　55,000.51㎡
建築面積　 5,214.01㎡
延床面積　 9,636.80㎡
構造規模　RC他、16棟
工　　期　昭和62年６月－平成元年３月
最 寄 駅　名鉄バス小渡線小渡駅
撮　　影　加藤敏明(SS名古屋)

電　　気　川北・小野建設共同企業体
空　　調　中部・メイトー建設共同企業体
管　　工　共和工業
エレベーター　日本エレベーター製造
電　　話　共立電気
汚水処理施設　東武産業
環境整備　西松建設
植　　栽　豊田緑化苑
造　　成　安藤工務店 藤本建設



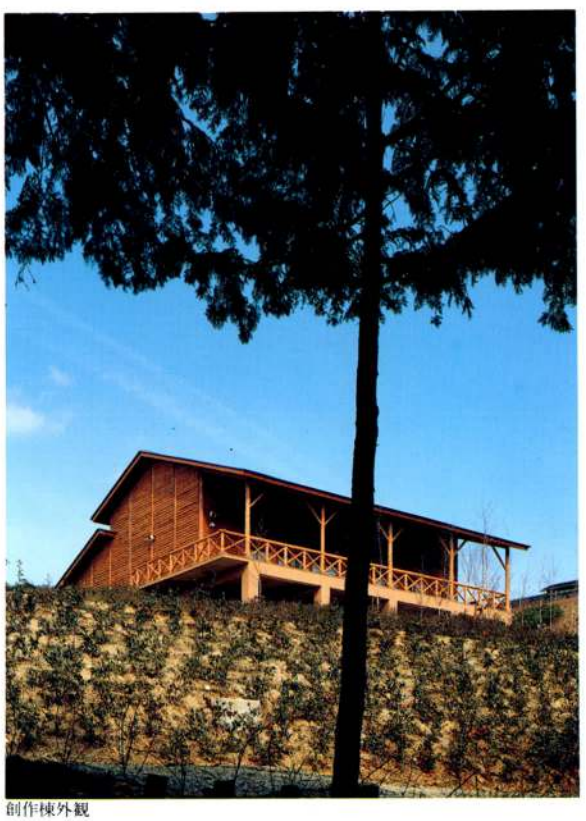
配置図　1:3000

創作棟・作業室

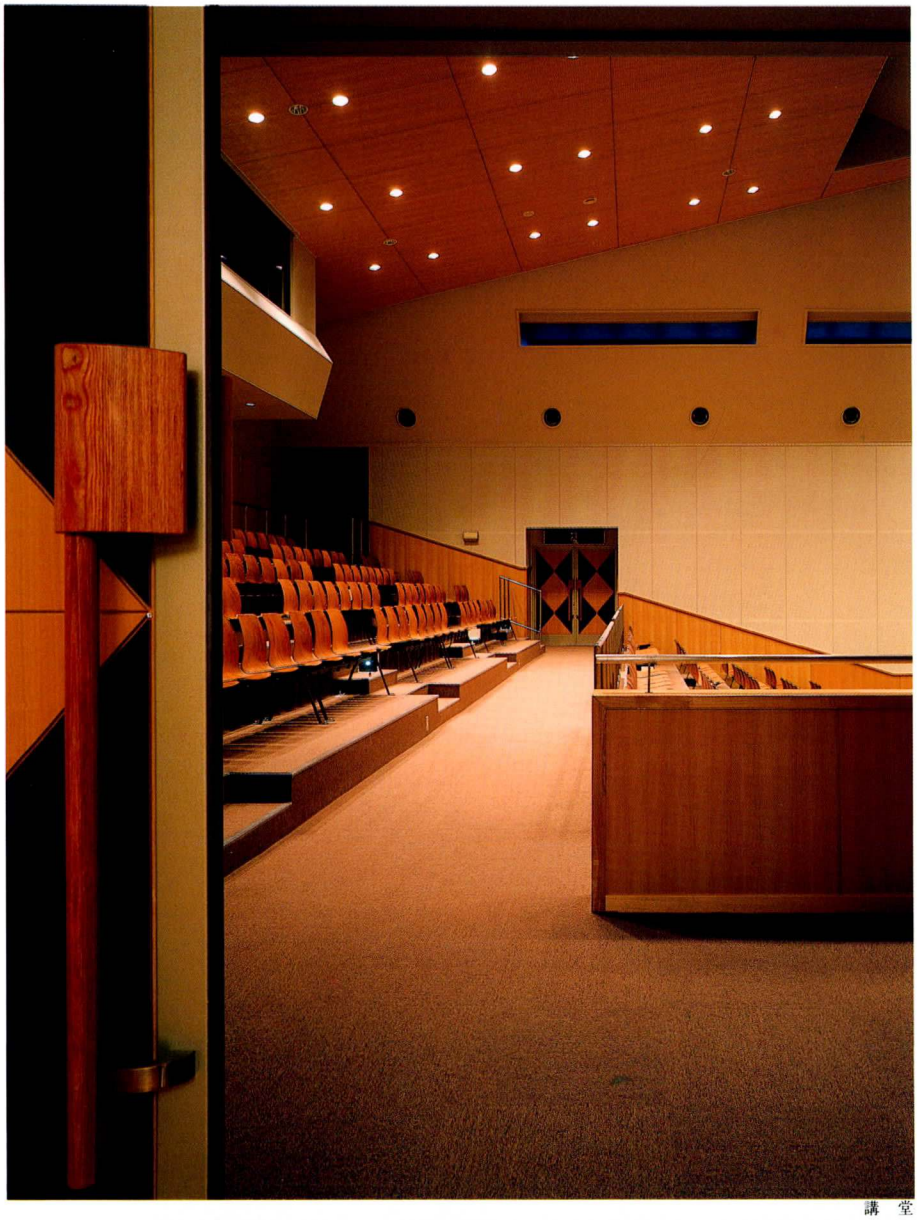


平面図　1:1200

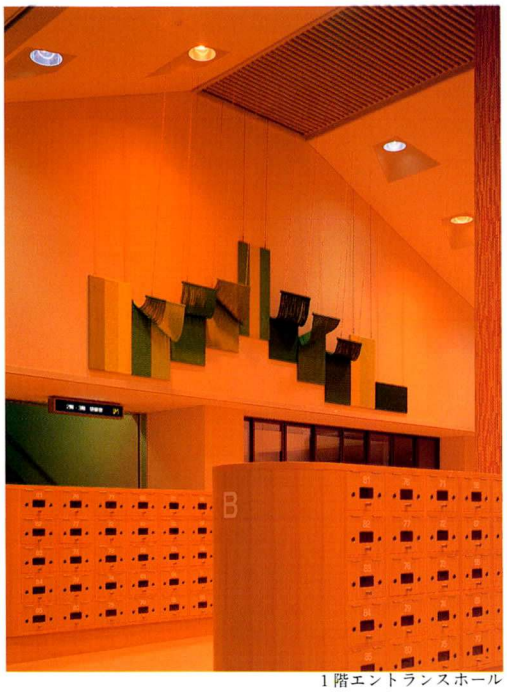
断面図　1:1200



創作棟外観



講　堂



1階エントランスホール



レインボーゲートより宿泊棟を望む

名古屋商科大学高度情報化対応教室棟

設計施工　竹中工務店

所 在 地　愛知県愛知郡日進町大字米野木字三ヶ峯4−4
敷地面積　712,353.97㎡
建築面積　2,970.43㎡
延床面積　6,114.71㎡
構造規模　RC、3F
工　　期　昭和62年6月〜昭和63年5月
最 寄 駅　名古屋市営地下鉄東山線藤ヶ丘駅

撮　　影　車田　保、KEN青山写真事務所、吉村行雄

名古屋商科大学は昭和43年に理想的な教育・研究環境を求め、名古屋東部の緑にあふれた丘陵地にキャンパス移転を行い、その72haに及ぶ敷地に自然との融合・調和を前提としたマスタープランに基き、ここ20年間キャンパス創りがなされてきた。しかし高度情報化社会の急速な進展の中、学内各施設ごとに行なわれていた情報の収集・管理・運用の効率化と、教員・学生間のコミュニケーションの円滑化・緊密化の必要性が高まり、昭和61年には電算センターを中心に各施設を有機的に結合する総延長5kmの光ケーブルによるキャンパスLANが構築された。さらに今回そのネットワークを活用し、教育と研究の内容及び方法を革新し、その効果を高める中核的施設として〝高度情報化対応教室棟〟が企画された。



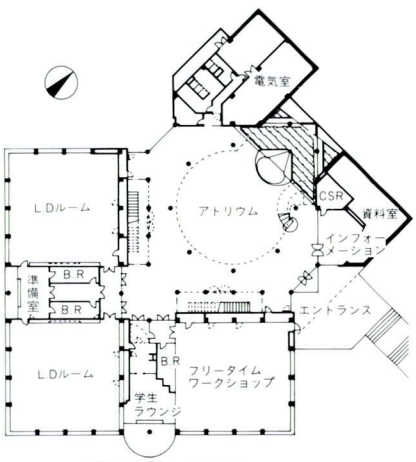
エントランスアプローチ



アトリウムコーナーディテール



L.Dルーム(TYPE.B)



1階平面図　1:1200

基本コンセプトは、〝人々に感動を与える新しい教育空間の創造〟であった。文字型教育から各種映像・音声型教育・研究へ、教員から学生への一方通行型教育から教員と学生、学生相互の多重通行型教育・研究へ、学内の閉ざされた場から地域社会・国際社会に開かれた場へといった、さまざまな転換を可能とする高度情報化時代にふさわしい新しい教育・研究環境の創造を目指した。

また最新の情報機器・AVシステムを高密度に装置化した教室を代表とするハイテックな情報空間に対峙する感性の空間として、コンサートやイベント等のクリエイティブな活動を可能とする大アトリウムを設け、ハイタッチ・インテリジェントスクールビルディングとしての建築空間の創造を目指した。

（西本　博／竹中工務店）



南西側全景



アトリウム(2F)

皇學館大學附属資料館

設計施工　竹中工務店
監　　理　佐川建設

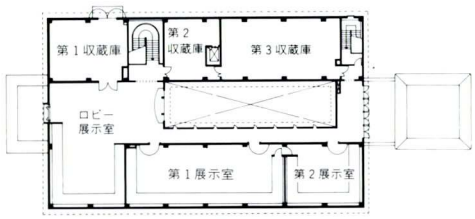

正面外観


側面外観

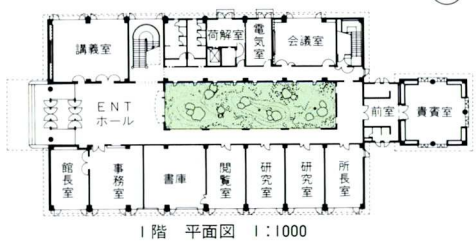
所 在 地　三重県伊勢市楠部町19－2
敷地面積　38,222.48㎡
建築面積　1,038.50㎡
延床面積　1,869.20㎡
構造規模　RC、2F
工　　期　昭和62年7月～昭和63年7月
最 寄 駅　近鉄宇治山田駅
撮　　影　田中昌彦

皇学館大学は、戦前は国立大学であり、戦後は私立大学として、長い伝統にはぐくまれた伊勢神宮に大変ゆかりの深い大学である。
大学施設の整備、充実を計る目的の一つとして計画されたこの資料館は、神道に関する展示室をメインに、収蔵庫、講義室、図書室、研究室および貴賓室などの施設を持っている。
当敷地は、内宮参道である御幸通りに面しており、深い森に囲まれた風致地区内の静かな環境の中にある。
計画に当っては、神学教育および神道研究の中心的施設としての品格を備えた建物とし、落着いた環境に調和した端正な洋風記念館を目指した。
外観は、神宮の丸柱をテーマとし、白いタイルの外壁面に丸柱の列柱を並べることで、伊勢神宮の笠木付丸柱板塀玉垣のイメージをデザインした。
正面はシンメトリーとし、仕上材は全て耐久性のある素材（タイル・石・銅板・打放し等）を採用し、記念建造物にふさわしい建物をねらった。
平面計画は、建物の中心に中庭を設け、そのまわりに玄関ホール、廊下を巡らし、各施設を利用する人々の心を和らげるアプローチを持った明解な平面とした。奥に配置された貴賓室は、広いゲストルームであり、天井の高い正方形でシンメトリーな格調高い空間とし2階展示室は、学芸員養成の施設として、どのような展示にも対応出来る計画をした。現在は準備中であり、今年9月以降に開館の予定である。

（伊藤志郎／竹中工務店）



2階　平面図　1：1000



1階　平面図　1：1000

中　庭



玄関ホール吹抜



貴賓室



研究室



展示室

瀬戸旭医師会館

設計監理　岡設計
施　　工　鴻池組・信和建設共同企業体

所 在 地　愛知県瀬戸市西長根町10番地
敷地面積　3,778.00㎡
建築面積　717.59㎡
延床面積　1,184.87㎡
構造規模　RC、3F
工　　期　昭和62年3月～昭和62年11月
最 寄 駅　名鉄瀬戸線三郷駅

撮　　影　田中昌彦



瀬戸旭医師会は今年で満40周年を迎え、その記念事業の一環として、新しく会館を建設することとなった。

当医師会は昭和28年に全国の医師会にさきがけて、当直医制度と24時間の救急医療体制を確立するなど、大変積極的で先見性の高い医師会として地域医療の拠点として今日に至っている。

この医師会が新しく建設することになった会館の設計「テーマ」は「開かれた医師会」という最も時代背景にマッチした「テーマ」であった。今日ほど住民すべてが健康に対して非常な関心を寄せている時代は今までになかったことと言っていい。このテーマにそって設計は進められた。まず、傾斜した敷地を最大限に活用することを考え、「開かれた医師会」にふさわしく、住民に親しみのもてる柔らかいデザインを心がけた。

前面道路より少し下げたところを一階とし、「開かれた医師会」のシンボルとなる「広場」と「多目的ホール」をまとめた。

敷地の傾斜にそったスロープを上った二階に医師会の玄関をとり、二階以上を一般的な医師会機能でまとめ、おのおの独立した使い方ができるようにしながら、全体を有機的に一体化した。また、夜間の利用も考え、建物および広場を、照明により浮かび上らせ、これからの都市の課題といわれる都市照明を試みた。

幸い完成後、医師会館は地域住民に密着し多目的ホールの利用で連日にぎわい、当所の目的であった「開かれた医師会」が名実共にはたせている。

（田辺健一／岡設計名古屋支店）

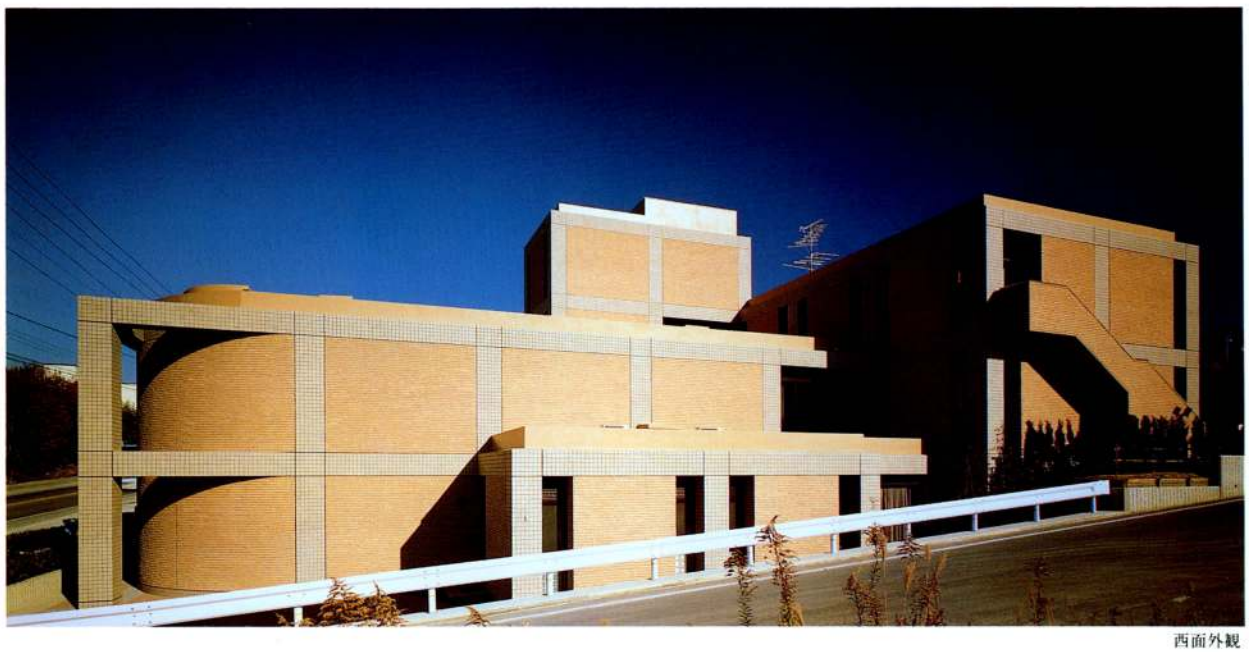


北面外観夜景



配置図　1：1000

北面外観



西面外観

名古屋YWCAビル

設計監理　伊藤建築設計事務所
施　　工　鹿島建設名古屋支店

所 在 地　名古屋市中区新栄町2-3
敷地面積　637.39㎡
建築面積　562.66㎡
延床面積　5,573.03㎡
構造規模　SRC、B1、9F
工　　期　昭和62年10月～平成元年1月
最 寄 駅　地下鉄東山線栄駅

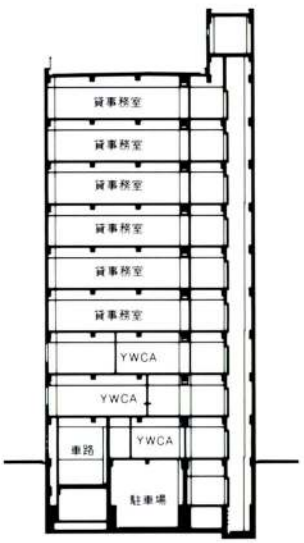
撮　　影　SOAR STUDIO



正面外観

当敷地は名古屋市の中心部に近く錦通りに面した業務地域に立地している。又北側は栄パークとして親しまれていた公園に、県の新文化会館、名古屋NHK新会館が文化の発信基地として建設計画されている一画でもある。今後益々栄中心部より人の流れも多くなると予想される地域である。ここには財団法人名古屋キリスト教女子青年会（YWCA）の旧建物があり、長く人々に親しまれてきたが、建物の老朽化と業務拡充のため改築されることになった。1～3階の低層部にYWCAの諸施設を、4～9階の高層部に貸事務所を計画した。テナント部については快適な環境と、情報通信への対応、フレキシブルな設備計画、効率的なビル管理システム、テナントの利便性等に心掛けた。又中規模ビルとしてレンタブル比を高めるため錦通りに面して屋外階段を設置し、各階の空調機械室のかわりに天吊カセット空調機（ビルマルチ方式）を採用した。その結果90%のレンタブルを確保することができた。外観は清潔でクリーンな表現とするため、ステンレスサッシ（鏡面仕上）、ミラーガラス、ステンレスパンチング板を使い、色調は全体をモノトーンでまとめた。YWCAビルが日本語教育の場として、又諸外国の人々の交流の場として、発展することを願っている。

（岡田満弘／伊藤建築設計事務所）



断面図　1:600



1階平面図　1:600



2F YWCAロビー



2F YWCAホール



正面見上げ(ステンレスカーテンウオール)

東海銀行新瑞橋支店

設計監理　伊藤建築設計事務所
施　　工　熊谷組名古屋支店
電　　気　近畿電気工事
空　　調　大気社
衛　　生　中　部

所 在 地　名古屋市瑞穂区瑞穂通8-10
敷地面積　1,005.32㎡
建築面積　812.56㎡
延床面積　1,306.19㎡
構造規模　SRC、2F
工　　期　昭和63年2月～昭和63年10月
最 寄 駅　市営地下鉄名城線新瑞橋駅
撮　　影　加藤敏明(SS名古屋)



南東面外観

東海銀行新瑞橋支店は、都市化が進みつつある名古屋市南東部地区の玄関口であり、地下鉄の終点、バスへの乗り継ぎ駅という交通の要所である新瑞橋駅の上に建設された。

建設に際しては二つの課題があった。一つは、この地区にはすでにいくつかの金融機関が店舗を構えており、新たにここに店舗展開することとなったために、この地区の金融市場に大きく参入する手段として、他行の店舗とは違ったデザインとしたいというものである。

また、時を同じくして、銀行の今後の営業展開のために、従来の店舗デザインを脱皮していきたいという意向もあった。他の一つは、敷地の一画にすでに地下鉄への昇降口があり、これを建築計画上どのように取り込むかであった。

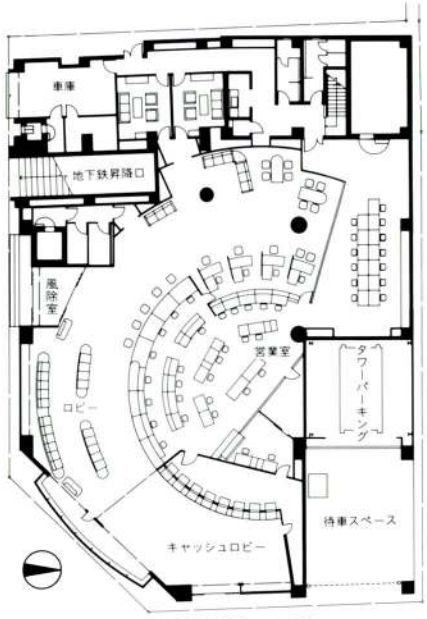
店舗の空間構成としては、1階に地下鉄昇降口を避けて、ロビー、営業室、キャッシュロビー（現金自動機コーナー）等のまとまった営業スペースを確保し、2階に会議室、食堂等を設けた。

また、1階の営業スペースをより広くとるために、従来1階に設けていた貸金庫を全自動化することにより2階に設けた。

営業室、ロビー、キャッシュロビーは一体の連続した空間とするために、照明、カウンターから壁面まで円弧のモチーフで統一し、色彩もグレーを基調にしてまとめた。ゆったりとしたロビースペースと、シックな配色ややわらかいカーペットの床は、従来にはない空間の落ち着きを感じさせ、訪れる顧客に優雅な気分を味わわせている。

外装はプレーンなグレーのタイルとブルーの反射ガラスで覆い、地下鉄昇降口も化粧直しをして建物にとりこみ、シンプルで落ち着きのある建物とした。

（鈴木慶智／伊藤建築設計事務所）



1階平面図　1:500



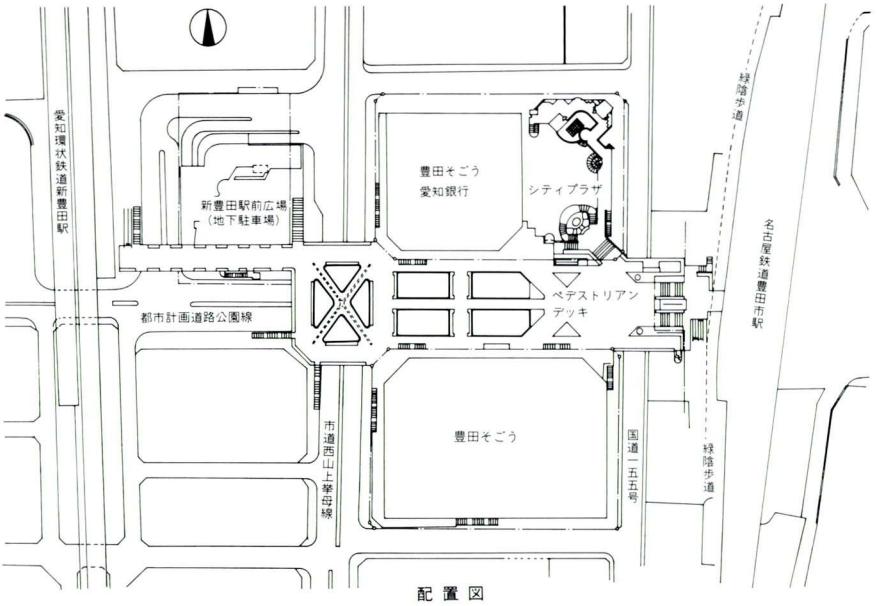
上 ロビー・営業室　下 キャッシュロビーからロビーを望む

豊田市駅西口第一種市街地再開発

設計監理　石本建築事務所
施　　工　大成建設名古屋支店



全　景



配置図

所在地　豊田市若宮1丁目・8丁目及西町6丁目
敷地面積　11,093.44㎡
建築面積　7,136.546㎡
延床面積　66,544.273㎡
構造規模　RC、A棟 B1、10F、B棟 B1、11F
工　　期　昭和62年1月～昭和63年9月
最寄駅　名鉄豊田線豊田市駅

撮　　影　SS名古屋

当施設は国際都市豊田の街の表玄関である名鉄豊田市駅の西側に位置し、都市整備の一環としての再開発事業として、国際都市にふさわしく、市民にとっても魅力ある商業施設であることが大きなテーマであった。

当施設は幅員32mの市道をはさんで南北ふたつの敷地にまたがり、建物はA棟(B1～10F)とB棟(B1～11F)のツインビルで構成され、A棟は物販(豊田SOGO)を主用途としB棟は物販(豊田SOGO＋専門店)と飲食からなり、最上階(11F)には直径30mの回転ラウンジのある建物になっている。



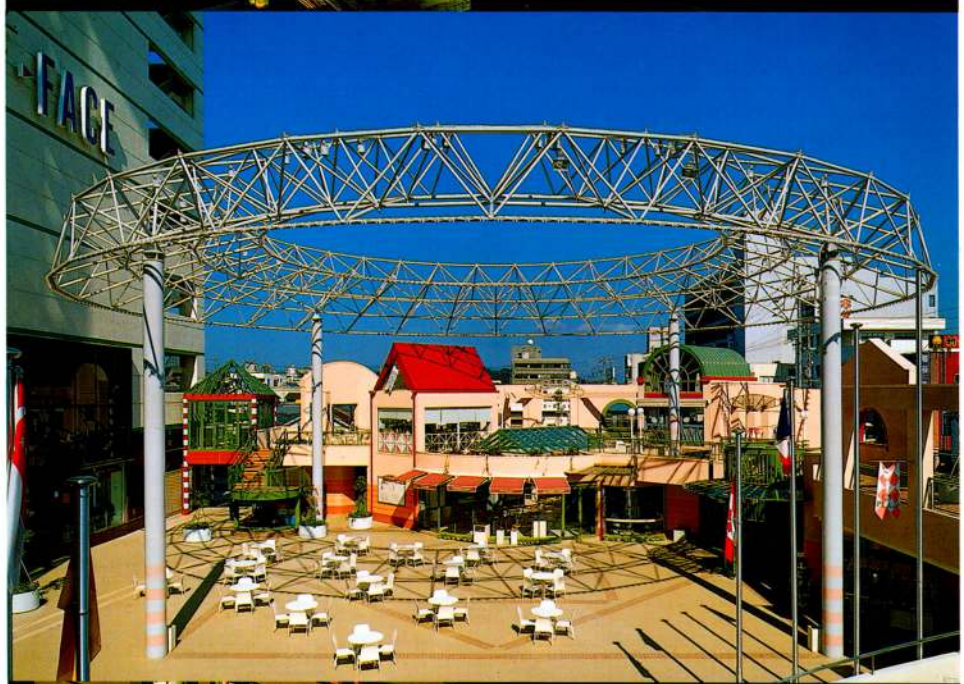
外装計画としては、豊田の街の新しいシンボルとして、また街のどこからでも目にすることができる、いわばランドマークとしてもこの外装デザインが、都市景観としても重要な意味をもっている。したがって2棟からなるこの複合施設を、商業施設にふさわしく明るく、華やかさのある色合いとし、横連窓サッシュおよび壁の凹凸による横ラインを強調することにより、トータルなイメージとかつシンプルなデザインで、より印象の強い建物にしている。

また、容積移転の手法の採用により、B棟敷地の東側にシティプラザと呼ばれる魅力ある外部空間を設け、ペデストリアンデッキとのスムーズな接続により、まさに市民の憩いの場として、また「緑の都市軸」(豊田市都心総合整備基本計画による)の中心施設として位置づけた。

シティプラザの上空高さ10mには、雰囲気づくりのため直径30mの「ビッグシェルター」を設け、またシティープラザをかこむ型で界隈性をもったバラエティーに富んだグルメの店がレイアウトされ、遊びの空間にふさわしく世界の建築様式を混在させた扱いとし、楽しい雰囲気づくりに努力した。

(石本建築事務所)







上 外観夜景　中・下 シティプラザ



全　景

セントラルパーク・アネックス

設計施工　大成建設名古屋支店

所 在 地　名古屋市中区錦３丁目
敷地面積　2,002.10㎡
建築面積　1,523.34㎡
延床面積　17,759.16㎡
構造規模　SRC、B2、12F、P2
工　　期　昭和59年11月～昭和61年10月
最 寄 駅　地下鉄東山線栄駅

撮　　影　センターフォト



遠　望

名古屋市では21世紀をめざす街づくりの基本構想が設定されており、当栄地区は賑わいづくりの商業地、都市景観モデル地区として指定され、建物の形態、色彩をも含めた公共空間の整備地区内に位置している。

このなかで当施設は市の整備計画に協力しながら新しい感覚の店舗構成で個性ある商業複合ビルを建設し、栄地区の北の拠点として地元商店街と一体となってより一層の創造と活気ある街づくりをめざし地域商業発展に寄与しようと企画された。

ターゲットはティーンズからアダルト。

コンセプトはハイセンシビリティSC。

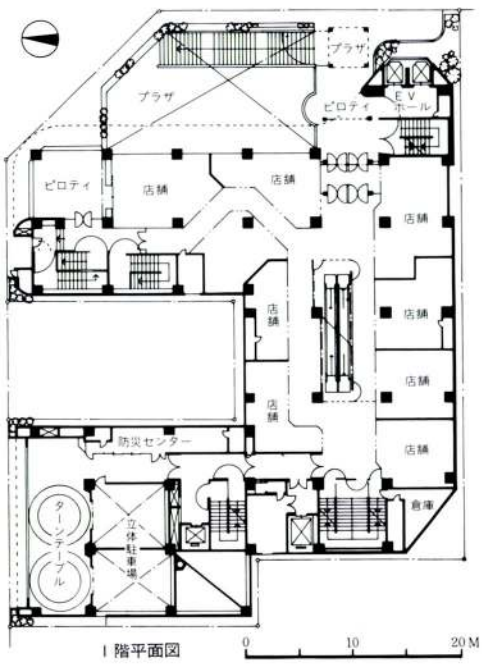
名古屋での「オンリー・ワン」をめざすという施主の一貫した方針にそって計画された。

デザインは「シンプル・オブ・ビューティ」を基本に、若さ、清潔感、スポーツ感が強調されている。

開店以来、セントラルパーク地下街につながる一体の施設として好評を博している。今年春には地下2階サンクンガーデンに近接して地下鉄東桜駅が開設予定で、今以上の活気ある施設に発展することであろう。　（大成建設名古屋支店）



エントランス夜景



1階平面図



サンクンガーデン



夜　景



ショッピング街

Shine's（シャインズ）

設計施工　竹中工務店



西面外観



北面外観



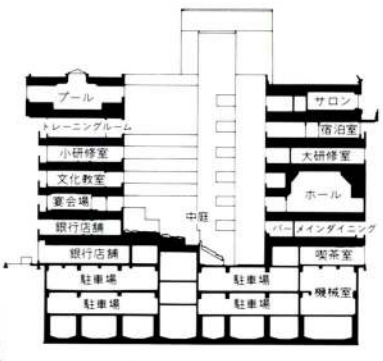
7Fサロン



7Fプール



平面図　1：1000



断面図　1：1000

所在地　愛知県刈谷市東陽町2丁目18-1他
敷地面積　2,981.083㎡
建築面積　1,895.632㎡
延床面積　14,662.322㎡
構造規模　SRC・一部S、B3、7F、P3
工　期　昭和61年9月～昭和63年5月
最寄駅　JR東海、東海道本線刈谷駅

撮　影　車田　保

当ビルは、豊田自動織機製作所創立60周年記念事業として計画、刈谷市のメイン通りに面し建設されたものです。Shine's（シャインズ）と命名されたこの建物は、社員の福利厚生、宿泊研修、役員の親睦、来客の接待など多様な用途を盛り込んだ厚生施設として1階から7階までを豊田自動織機が専有し、1、2階の北側を銀行店舗が専有している複合用途の共同ビルです。

〔企　画〕

「ニーズを先取りした魅力ある設計」を基本方針とし、潜在ニーズを掘り起こし積極的な企画提案を行い、新しい都市型の厚生施設のコンセプトを確立しています。それは会社の帰りに気軽に立ち寄り、誰でも自由につかえる、個性を尊重した社員クラブです。レストラン、宴会場を始めとする飲食ゾーン、文化教室ゾーン、プールとアスレチックゾーン等を備え、社員の親睦、自己啓発、体力増進が図れる施設となっています。さらに各種の発表会、講演会、演奏会、時には立食パーティにも利用できる、多目的ホールも準備されています。これらの厚生施設は併設された宿泊研修施設や、接客のためのサロン等と共に、ますます多様化する新しいニーズに応えています。

〔デザイン〕

複雑な用途をもつ建物の中央に、大きな中庭を配することによって、設計上の諸問題を解決しています。この中庭は錯綜する導線を機能的に処理し、自分の位置を視覚的に教えてくれます。建物全体のネガティブストラクチャーとなっている魅力ある中庭空間は、拡散しがちな複合建築物のアイデンティティを確保し、60周年記念館としての象徴性と、社員クラブとしての親しみを、同時に満足させております。7階まで吹き抜けた中庭は、Shine'sのシンボルとなっており、緑と水と、空を写す反射ガラスが、風と音と光を呼び込み、そこにひとつのコスモスが生まれ秩序が生じ、共同体としての連帯が、そこに立つ人々に、参加している充実感を感じさせてくれるのではないかと思います。

（高橋好明／竹中工務店）

中庭吹抜 ▶



A棟外観



B棟外観



玄関廻り



全景(空撮)

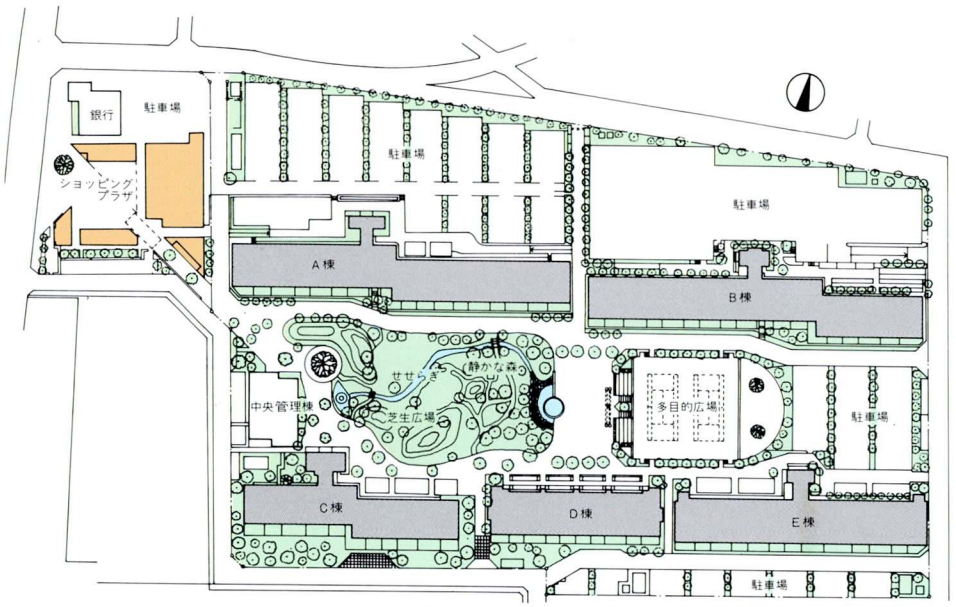


コープ野村新安城

設計施工　竹中工務店

所 在 地　安城市今池町2丁目33－1
敷地面積　43,732.61㎡
建築面積　12,709.33㎡
延床面積　SRC<AB棟1部RC>
構造規模　A、B棟 11F P2　C、D、E棟 14F P2
工　　期　昭和59年4月～平成元年8月
最 寄 駅　名鉄本線新安城駅

撮　　影　SS名古屋、NAGOYA-GRAPHIC



配置図　1：2800

コープ野村新安城は、名鉄新安城駅より徒歩5分の位置にある愛知紡績安城工場の跡地に建設された、11階建と14階建の高層5棟 総戸数826戸の東海地区最大の民間分譲住宅群である。

また、ショッピングセンター、銀行、集会場を含む中央管理棟を併設し、住民の生活の利便性を高めている。開発現念として、〝人間都市、公園都市、未来都市〟を掲げ、設計に当っては、快適な生活が楽しめる新しい住空間と、ゆとりある永住型住宅を提案し、更に住棟群の高層化を図ることによりふれあいの場としての空間を創り出し、個と全体の融和をめざしている。

センターゾーンには大規模な開放された空間として、芝生広場、静かな森、多目的広場とで構成される公園広場を配し、それぞれは人工の川によるせせらぎで有機的につながれている。

芝生広場は子供達の遊び場となり、静かな森はお年寄の散策路、多目的広場はテニスコートとして利用され、静と動の中で緑が生きづいている。

人と人とのふれあいのある町づくりを大切にしたコープ野村新安城では、100%の駐車場を確保しながら、完全ともいえる人車分離を計り住民の安全性に留意している。

また、中央管理棟では、防災における集中管理を行ない、衛星放送、ＣＡＴＶ対応等、ニューメディアにも対応出来るよう配慮している。

（高橋　勝／竹中工務店）



噴水廻り



北面エントランス広場

パークシティー鳥見

基本設計　日本設計事務所名古屋支社
実施設計　竹中工務店名古屋支店
監　　修　日本設計事務所名古屋支社
施　　工　竹中工務店・東レ建設・三井建設・熊谷組共同企業体

所 在 地　名古屋市西区鳥見町一丁目
敷地面積　22,614.60㎡
建築面積　8,864.25㎡
延床面積　65,942.00㎡
構造規模　SRC、15F　4棟他
工　　期　昭和59年3月～昭和63年7月
最 寄 駅　地下鉄鶴舞線庄内通駅

撮　　影　SOAR STUDIO

開発敷地面積2.45ha、総戸数663戸の、名古屋で民間最大規模の面開発団地。昭和56年設計着手、開発許可・市街地住宅総合設計制度許可等を経て昭和58年基本設計終了、以降4期に分けて昭和59年着工し昭和63年全体竣工を迎えた一大プロジェクト。施主方針により実施設計以降は竹中工務店を主体にした「設計施工」を当社が監修する立場をとった。

土地の高度利用による良質な住宅市街地の創出

立地は庄内川南の旧田園地帯に拡がる住工混成地域で、敷地は東レ愛知工場社宅跡地の平坦で整形の大画地。もとより都心部に至近距離にあり、地下鉄鶴舞線の延長を機に更に足の便を得て、住宅市街化が急務とされた。ここでの最大の設計テーマは、旧来の低層低密の分散型環境に替る、豊かなオープンスペースをもった良質な立体的環境を創出して、定住人口の増加と周辺の市街地環境整備促進とに寄与したい、との理念であった。

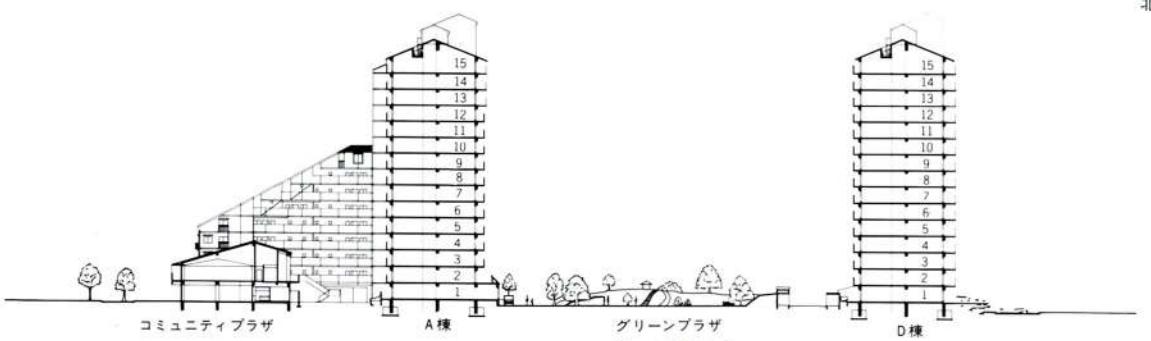
縦横に貫通する空地と勾配屋根の高層住棟群

棟配置については、当初は塔状超高層を含め、スタディーを重ねた結果、都市軸に沿い南面採光を享受できる板状高層住棟で統一して、棟間にたっぷりと通り抜け空地を確保する方針とした。

南北棟間の約60m幅をそのまま東西貫通の盛大な空地とし、北からの導入広場と南面する提供公園との南北貫通を組合せて、オープンスペースの公開性を推進するとともに、各所のバラエティーに富んだ整備を心掛けた。

高層住棟群は当地では先駆的な勾配屋根を採用してスカイラインの印象を柔らげ、ウィング棟や低層利便施設を併設してスケール感を仲介することに努めた。　（鈴木利明／日本設計事務所）

北東上空よりの全景



北ー南断面図



配置図



プレイロットとレストプラザ

ホテルナゴヤキャッスル

設計施工　竹中工務店

所 在 地　名古屋市西区樋の口町３－19
敷地面積　コンベンションホール棟　11,280.45㎡
　　プ ー ル 棟　1,278.55㎡
建築面積　コンベンションホール棟　3,062.96㎡
　　プ ー ル 棟　36.00㎡
延床面積　コンベンションホール棟　6,356.18㎡
　　プ ー ル 棟　2,091.61㎡
構造規模　コンベンションホール棟　RC、SRC、S　B1、3F
　　プ ー ル 棟　RC、B2、1F、P2
工　　期　昭和62年４月～昭和63年３月
最 寄 駅　地下鉄鶴舞線浅間町駅
撮　　影　田中昌彦、車田　保


ティーラウンジ


プロムナード

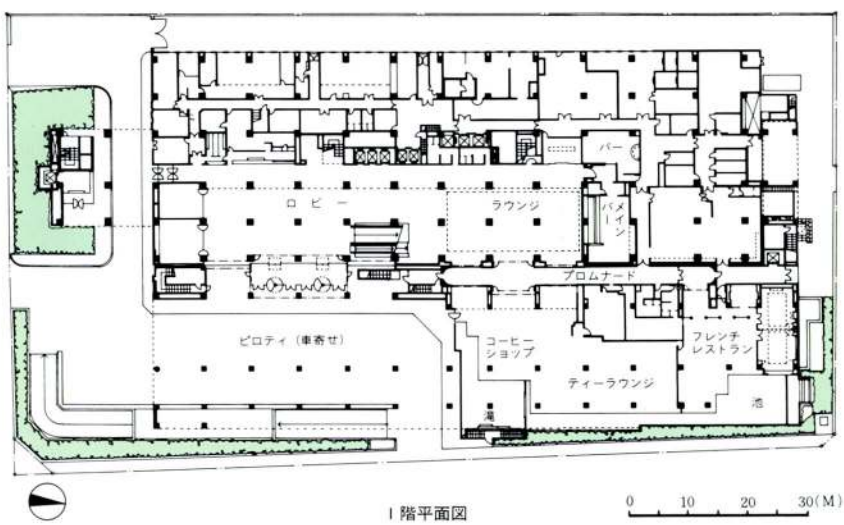
コンベンションホール

この建物は、ホテルナゴヤキャッスルが名古屋市の国際コンベンションシティー構想実現に寄与すべく、それに十分対応できるコンベンションホールをメインとした既存施設の充実を図るべく増改築を行うことになった。

名古屋城に隣接した一角に位置し、法的規制と制約された敷地条件を出来る限り活かすことと周辺環境への配慮から二層の低い建物とし、お城の景観にマッチすべく、既存棟とも違和感のないように寄棟の屋根と深い庇を持つ外観とした。施設内容は、地下1階に中華レストラン・1階には、明るく格調の高い車寄せとヨーロッパ感覚あふれるインテリアでまとめたティーラウンジとフレンチレストラン、2階には最大3000人収容できるコンベンションホールで国際会議等に十分対応できる施設として期待される。この大ホールは、東西24.9m・南北81m・天井高6mの大空間で、従来のシャンデリア照明方式はとらず白・赤・緑・青の螢光灯を組込んだ光天井とし、コンピューター制御による調光でオーロラのように色々のパターンで光り輝やき、演出効果を盛り上げ、優れた音響効果と合わせ多様なイベント利用に対応できるシステムとした。

またホテル棟西側駐車場の地下にはフィトネスクラブを計画、地下1階にはアスレチックジム、地下2階には25m×5コースの温水プールのヘルスクラブを計画、地下を感じさせない雰囲気のあるインテリア空間とした。

（稲田進一／竹中工務店）



1階平面図


プール

ローランド細江工場

設計施工　大成建設名古屋支店



東側外観



音響実験室

最先端の電子鍵盤楽器を製造する世界的ブランド「ローランド」の最大規模の生産、研究開発拠点となる工場である。

位置的には、浜松市の北方に隣接し、テクノポリス構想の一環となるべき地域にある、したがって本計画は、今後のテクノポリス構想展開の中に位置される事を目標とし、シリコンバレーをイメージとした、ゆとりある緑の環境の中の工場計画を主眼に置いたところから出発した。

各建物の配置、色彩はこのイメージに沿った明るく軽快な要素で構成されている。エントランスホールの大空間、それに連続的に継がる中庭、小ホール、事務室、工場へのオーバーブリッジ等は、完全な一体感の中に各々の機能的要素が拡がる装置的空間を目指したものである。

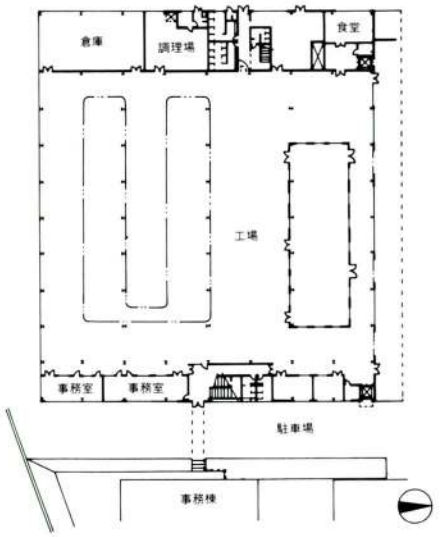
更に特筆すべきは、当社技術研究所とのタイアップに依り実現した、残響可変装置を有する特殊小ホールである。この小ホールは、新製品のデモンストレーション、音響実験およびこの地域への開かれた多目的ホールとして、多方面の可能性を備えた話題性を投げかけるユニークな存在となる事であろう。　（大成建設名古屋支店）

所 在 地　静岡県引佐郡細江町中川2036－1 他
敷地面積　33,216.53㎡
建築面積　 6,000.85㎡
延床面積　11,451.51㎡
構造規模　S & RC、3F、PI
工　　期　昭和60年 9 月～昭和61年 4 月
最 寄 駅　JR新幹線浜松駅

撮　　影　センターフォト

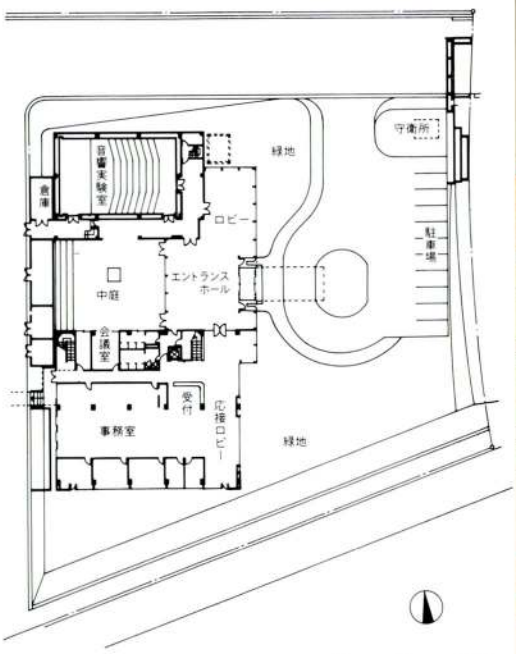


エントランスロビー



1階平面図(工場)　0　10　20　30M


工場（2 F）



1階平面図(事務棟)　0　10　20M


エントランス

座談会

博物館は市民に何をもたらすか

一宮博物館その発想から企画そして計画



出席者

森　鈁太郎氏　一宮市長

内井　昭蔵氏　内井昭蔵建築設計事務所主宰

中島　一（司会）　愛知工業大学教授・本会東海支部長

と　き　昭和63年12月28日　ところ　一宮市役所市長室

司会（中島）　本日はお忙しいところありがとうございます。私は今日はJR一宮駅で降りまして、こちらへお邪魔しましたが、途中、駅前の大きなアーチにいきなり「せんいのまち一宮」とあるのを見ました。また、途中見てまいりますと、織物が並んでいる店が雑然と建っており、またしばらく来ますと商店街のアーケードにぶつかったんですが、ずっと横の方を見ますと尾張一宮の真清田神社というすばらしい神社が見られました。そしてここ市役所にお邪魔したんですが、ずっと歩いてまいりますと、いかにも人間の住むという雰囲気があちらこちらに存在するということがよくわかりました。

そういうなかで、一宮市の博物館がめでたく出来まして、私も3回お邪魔しまして拝見しました。1回目は建物がどんなんだろうかというような非常にふらちな考えですけれども拝見しました。その次には建物とそこに展示されているものはどのように機能しているだろうかと。3回目はもう少しゆとりをもって、これは一般の名古屋のある婦人のグループですが、そういった人たちと一緒にご案内をするような形でしたが見せていただきました。それぞれの見方によりまして、あの博物館というのは、またすばらしいなと感じました。今日はとくに市長さんは、あの博物館が完成するまでの非常に長い道程の中で、いろいろご企画になりまして、めでたく出来たということも承知しております。そういったことをぜひお伺いしたいと思います。

もう一つは、あれが出来るのにつきましては、市民の方々の協力はもちろん必要でありますし、よく言われますけれども、いろんな方面からの意見というものもあると思いますが、それを市長さんご自身が受け止められまして、内井昭蔵先生に設計を依頼されてめでたく完成した。いろいろ市長さんのお考えが具体的に出てきますと、また別の問題なりお考えが出てくるのではないかと思うんですが、今日は市長さんとご設計された内井昭蔵さんのお二人の先生からその辺のところを掘りさげてお話を頂だいしまして、私ども建築家の取り組み方について参考にさせていただきたいとお伺いしたわけでございます。よろしくお願いいたします。

最初に市長さんから一宮市博物館、これは市民はこの博物館に一体何を期待しているのかというところからお入りをいただきたいと思います。

森　一宮の方々は非常に優秀な方々で東西の中央において、長い間伝統的に苦しんできました。町は町人の町として発展してきましたが、地理的に内陸地帯にあり、海がない。またそこへ戦争というのがあり、空襲があり、全部というか8割燃えて2割残った。その後、町村合併で面積だけは幾分大きくなりました。もともとの経済ですが、そこがもっと広い経済圏でしたが、当時それだけが合併ができたというようなことで、だんだんと中核都市にどういうふうにもっていこうかと。名古屋と岐阜の中間にありますから。それである程度それが成就してきましたから、その合併直後時分から、これは偶然ですが、いろいろ事情がありまして、私が幾分市史の編さんだとか、発掘ということを手伝いかけたものですから、それで、せっかくこういういいものが出てくるから、これを上手に各所に保存をしておいて、それで後世一宮というものは名古屋と岐阜の中間だといろんな方がお見えになって、一体どういう町かわからなくなってしまう。だからそれを残したい。そういうものはしまっておけばだれかが博物館をつくる。しまっておけばいい。わからんようにしまうんだと。私がつくるとは夢にも思わなかったが…。この付近の

人ですと、わかると出土品でも、文献でもなんでも骨とう価値を考える。骨とう価値と、こういう資料というものは別に考えなければいかんというまでわからしてからでいい。保存するのに困るということでやってきたわけです。


森　鈴太郎氏

それで、だんだん中核都市になりましたし、市民の中には文化不毛の土地だというような話が出てきましたから、もうそろそろやってもいいんじゃないかというような気持ちで博物館をつくろうと。それには馬見塚というところがあります。ここは約2300年前縄文時代の住居跡です。そこからは沢山の遺物が出土しております。一番初めが大正15年に発掘しておるようです。２回目が昭和38年でございます。ここから甕棺（カメカン）も出ているわけです。そういうのを各所に、小さい小屋に近いようなものを建てて保存してきた。この住居跡のところに、住居跡は住居跡できちんとしまして、隣りに博物館の敷地をということでいろいろ努力してみたが、ここらが難しいところですが、道路と区画整理の問題でどうしても手に入れることができなかった。それで今の妙興寺の、内井先生がよくご存じのような、昔でいうとあれは溜（タマ）やに近い、お寺の水のぐじゃぐじゃとたまる田圃で、米を獲るといっても非常に獲れにくい。そこがお寺の敷地になっていた。

私がちょうどお寺の総代も兼ておりましたので、これだけを博物館にお寺からこちらへ割愛してもらおうと、それには県の史跡指定がしてある。これを現状変更しなきゃいかん。現状変更するには博物館等構想委員、この人はみんなわかっていますから、この方に頼みさえすれば、また県の文化財審議委員を兼務している人もあるから、理解されるに決まっているから、現状変更を許可してもらって、そこへ博物館をつくりたいということで、市民の方へは中身は全部ただのものですと、私らが寄せて各所に放り込んであるものを並べます。それからアクセサリー式の絵とか、いろいろ寄付でくれるものがあるから、それを並べます。建物だけだから一つやらしてくれと、こういうことで内井先生がとうとう引きずり込まれたということなんです。

司会　内井先生、一宮市長から博物館の設計を受託された。そのとき市民はどんなことを期待しているのであろうか、建築家は何を期待してものをつくるのか、その辺のお話をいただきたいと思います。

設計上のポイント

内井　ちょうどこのお話をいただいたときに、私は世田谷の美術館を設計して、施工の最中だったんです。美術館と博物館とは多少機能が違います。しかし似ているところもあるわけです。物を展示するという、収蔵するとか。ですから一方では美術品が中心ですが、こちらの方は文化遺産を中心とした博物的なものを集中展示するわけですから。


内井昭蔵氏

世田谷美術館の設計を契機としまして私は市民の文化施設の在り方について深く考えるようになりました。その延長として一宮博物館を把えることができたんで、私としては好都合だったと思います。一口に言えば、やはり、こういう文化施設は、市民生活の中にうまくとけ込むことが一番大切だと思います。言葉は難しいけれども、オープンシステムでなければならないし、建築の形態はこの考えを具現化したものにしたい、というのが一つと、もう一つは市民の生活空間の延長としてなじみやすい空間がなければならないということではないかと思いました。

それから、もう一つは、与えられました敷地が妙興寺に隣接するという非常に自然環境に恵まれた場所なんですね。敷地の形状だとか、都市計画的な位置づけにつきましては、かなり難しい問題が正直いってあったんですが、それを除いては非常に自然環境に恵まれている。そういった環境に恵まれている場所にこういう文化施設が建つわけですから、自然環境とうまく調和するということも大切だ。その三つの点が私たちの設計に当たっての大きなポイントとなったわけです。

司会　市長さん、この一宮博物館の発想から企画、そして計画について、できましたらもう少しお話をいただきたいと思いますが。

森　先生にですね、飯田喜四郎先生、塩沢君夫先生、坪井清足先生たちが、非常に内井先生は立派な方だとこういうお話だった。この方たちが言われれば間違いないんじゃないかと。それでほかにもちょいちょいあったんでございますが、私もそういう方の建築そのものを過去に見せていただいて、市役所としては維持がしにくい建物だなあと、こう考えていたものだから、だから内井先生がいいと。内井先生の建築の根幹が健康な建築だと、こう言ってみえるから、これが今の一宮、後々の維持が非常にありがたいんじゃないか、こう思って強引に全部東京までお断わりに行ったり、いろいろして内井先生にお願いしたと、こういういきさつでございます。

司会　内井先生のひいおじいさんが知多半島の…。

内井　内海の出です。最近調べて解ったのですが、家は千石船の船頭をしていたとのことです。そんな訳で私は名古屋という土地柄に興味をもっていました。

司会　で、よく言われますけれども、例えば中世から近世にかけての城下町をつくる、あの過程をみますと、城下町をつくるためにはどこがいいかということを非常に熱心に、あちらこちら足でかせいで見て回り、肌で感じて城下町の場所の選定をした。これは事実なんですけれども、やはり、すべてのこういった施設は、その環境をよく知った人でないといけない。そしてまた当然そのためにはいろんな資料を収集して、それをうまくアレンジして、そしてものづくりの方へと進んでいかなければならないことは当然なんですけれども、内井先生に市長さんは東京ま


中島　一氏



でわざわざ行かれて依頼されたとおっしゃったわけですが、東京ばかりの作品じゃなくて、あちらこちらおやりなんですが、頼まれた方も一宮は、ということで何かお感じになったことだと思いますが、もちろん市長さんの懇願があったからだと思いますけれども。(笑い)

建築家としてそれをどう受け止めて、それをどう下ろしていくかということは、これは非常に難しいところがあったと思いますが。

設計を受託して

内井　私としては非常に光栄に存じております。また、わざわざお越しいただいたということで建築家冥利につきると思いました。この信頼関係がいい建築をつくる一番の基本なんですね。この相互信頼がないと、いくら設計側が頑張ってもうまくいかないのが、今まで過去の経験で十分に承知しております。私としましてはこのようなご期待とか、信頼に応えるということは至極当然のことで、私達は事務所の総力を上げてこの設計にとり組みました。設計に当って、その土地勘というのも大切でありますが、私は必ずしもその土地の建築家でなければ設計できないというのは間違いであると思います。始めはだれでも未経験ということですから、設計の過程で調査したり、研究したりするのは当たり前です。しかし、大切なのはその土地に対する愛情ではないでしょうか、その土地にほれ込むことが大切であってそこから色々なものが見えてきます。いくらその土地に住んでいても、その土地のもつ本質を見極められるとは限らないと思います。私は建築で大切なのは安全性とか機能性とか経済性といったものであると思いますが、それだけでは建築とはいえない。その土地のもっている魂のようなもの、つまりその土地に住んでいる人々や、これまで住んできた人達の声なき声のようなものが具体的な形として表わされていることが大切だと思います。

この作品を発表するに当たりましても、そのことを新建築に書いたことがあるんですが、読者によく理解されなかったようです。妙興寺の歴史は非常に古く、南北朝時代からの古い名刹でもありますし、そういう土地の持っている表相から私達は感じられるものが多くあるわけです。それは言葉を変えれば、その土地の人たちが長い間かかって築き上げてきた一つの文化の衣のようなものだと思うわけです。その衣を見ながらその中にある骨組み、或いは芯(シン)みたいなものを探り当てるというのが、私達建築家の使命であると私は思っています。「新建築」('88、3月号)には土地の持っている霊を呼び起こすというようなことを書いたのですが説明はむずかしいと感じました。しかし、私が最初にあの土地に立ったときには或るインスピレーションがひらめいたのは事実であります。これがこの建築の空間の隅々に生かすことができたような気がします。

司会　あの妙興寺というすばらしい自然がありますし、お寺の隣接地、あれはお寺から分譲された敷地ですね。

森　先程申したように妙興寺というのは前は一宮市じゃなかったんです。合併までは、大和町妙興寺、それで燃えなかった。空襲を向こう(アメリカ)は地図でやりますから、それで燃えなかって残っておった。真清田神社は燃えましたが、これは復興ができた。だから妙興寺は一つ市の財産にしていこうというのが、私の幾分市長としては言いにくくても、腹中にあるものですから、それでここに馬見塚の方で買えないという、どうしてもだめだったから、じゃあここ以外にないと、ここへ持っていくためにどういう手段を取るんだということで、値段を決めたのも自分1人で、お寺へ納める金も自分で決める。何もかも全部簡単に言えば決めていって、それを法的に違法にならんようにしていった。あのお寺の敷地を県の指定にするのも当時市役所をやめておりましたので名大の、澄田正一先生や松井武敏先生という地理の先生、そういう先生方を私が全部一人一人説明したわけです。そして県の史跡にしちゃったんだ。(笑い)

そうすると自分でわかっていますから、市の指定は受けさせんように。今はそういうわけにはいきませんが、当時県の指定を受けて、それから市の指定にする。市を先にやると村で難しくなってはと思って県を先にやっちゃったわけです。ということは指定を受けると都市計画道路も敷けませんし、いろいろ制約が出てきますから、そうすることによってこれが守れるんだというので、一つぐらい町にこういうのがあってもいいじゃないか、一つは財産として真清田神社とか、妙興寺というものは幾分道路とすると邪魔があってもいいんだというのが私の気持だもんですから、それで県の方へ強引にお願いして史跡にしては先生にはあまり催促はしなかった。先生に聞かれると困ったなあというくらいで、やはりお願いするとなると、なんでもですが私はあんまり触りたくない。お願いしたというのは信じたからお願いしたということです。だからその方が十二分に考えていただくようにしたい。ただ、あそこに茶席をつくっていただきたいというのは、これは名古屋の徳川美術館に茶席があったり、それから食事をするように1年に1回づつぐらいやれる。それを見に行って参考にしてもらってあるわけなんです。

だから今度はその史跡の現状変更をしなければならないわけですが、これもその書類から一切心得ておるもんだから、それでそういう先生方の応援で割合に簡単に現状変更された。それから値段もこのくらいの相場がちょうどいいということで、敷地をお決めいただいた、老師はじめほかの総代もそれでいいということで順調にきて、内井先生にお願いした。

先生のような立派な方にお願いしたんで、私これ(博物館)がある方が今後長い目でみると、やはりお母さんがそういうところへも来た。そして自然に子供も一宮を知るようにさせようと、お茶や華(花)ということは、私が好き嫌いということじゃなしに、日本の一つの、だんだんすたれてはくるだろうけれども、これは、これなりに残るだろうと、そういうものは博物館の中にあることはいいんじゃないかというんで、先生に茶席は一つつくってくださいよと、こう言ってお願いした。その調和を非常にご苦心していただけて、今もだんだん名古屋の先生方もあそこへつれてきて、ここを貸してもらいたいと、バスに乗ってくれば1台で弟子も全部乗せてこれますしね。楽しい1日を暮らせますので、そして博物館の方も見ていただくというんで、今、予定のようなふうにこれから学芸員を育てたりということはございますけど、大体目的を達しているんじゃないかというふうでよろこんでおります。

司会　あそこに位置するということを決定されるまでには、やは



り博物館的な施設というものは、これは本当に市民の方々からいいますと、文化の心のよりどころになるでしょうし、博物館と今おっしゃった茶席の問題もあるでしょうが、何かそれをコアーとして、周囲の中で、まず、博物館を中心に考えて、あの辺りを文化ゾーンにしよう、ちょうどお寺の隣がいいんじゃないか、というような発想があったんじゃないかと思うんですけれども。

森　それがありますから、内井先生に博物館の方から見てもらっていいんじゃ困る。お寺の方から見てもらってもよくなければいかん。これだけ力を入れていただいた博物館だから、よく私どもの建築部長にもいいました。一切の水はけから何もかも要領よく、お寺も都合のいいように考えよと、そして両方がドッキングするところによさがある。あせってはやらかすとか、そんなことは考えていません。お寺の方も専門道場ですから、あんまりざわざわやって、修業ができんでも困る。

司会　内井先生に設計をお願いするうえで、条件的なことは申し上げなかった、信頼の中にあるんだというようなお話も承ったわけですが、内井先生もそのようなことをおっしゃったわけですが一方、企画され設置者として、やはり博物館はこうあるんだということは、心に秘めておられたと思うんですが、その辺の設計者を依頼されたときに何か。

森　初めから国友俊太郎先生、陳列する方と設計する方がお二人一緒に決めていただいた。だからこれはやってもらえる、でいいと。だから、ちょいちょいおふたりのご意見が合わんときもあったようですが、これがいいことだと。私がとやかく言うこっちゃないんだと(笑い)。そうすると内井先生から仲裁に入れと。そんなとんでもない話だと(笑い)。偉い人どうしが二人でやっているから、そうすると自然に形がつく、どっちも愛してもらって、いいものをつくってやろうと思ってやっていただいておるのに、素人の私が入っていく筋はないということなんです。

司会　そうなると内井先生にお聞きしなければいけないんですが。

内井　市長さんが今そうおっしゃいましたけれども、基本構想等委員会議という、先程お話の委員会議がございまして、そこで充分に練られた基本的な考え方は打ち出されていました。その点非常に解り易かったと思います。機能上、経済上の条件が明らかですので私達はそれらの条件をもとに具体的な形をつくればよいわけです。動線とか機能上の面積配分などという点はほとんど設計者にまかされたので逆に責任を感じました。デザイン上の問題に対しても委員会の先生方は全く指図めいたことはおっしゃいませんでした。これは設計者として非常にやりやすかったといえます。

司会　それは文書で一つの羅針盤的なものですね。

内井　そういうことです。

司会　それを形として設計者がお企てになる。しかし、そこで展示についてはまた別の方がおやりになっている。その辺のところをお聞かせいただくとありがたいんですが。

展示空間と建築空間のちがい

内井　博物館は、展示と建築空間とがうまく調和しないと効果が上がらないわけです。私は展示の専門家というのを認めないわけではありませんが、空間の意図が理解されない展示専門家は困りものです。また博物館側としましても収集された展示物を空間を無視してできるだけ多く展示したいという傾向がある。これはその立場に立てば当然でありましょう。しかし来館者に対して見やすく理解しやすい展示を考えるには空間と展示に密接な調和関係がなければなりません。展示物の展示方法については専門の先生がおられるのが当然で、私もその点は素人ですから一定のコンセプトに従うのは当然ですが、建築空間を無視されてコンセプトを強要されますとせっかくの博物館が台なしであります。要は設計の当初から緊密な打合せをして相互理解をしておくことが大切であります。今回は先程お話しがありましたように国友先生という専門家が展示設計をなさいました。建築の設計者と対等の立場で参画されたわけであります。通常はこういう場合は建設委員会が双方の調整をするわけですが今回は双方話し合いで進めました。博物館というのは展示したものを見せるだけが博物館ではありません。市民のいこいの場でもあるし、情報交換の場でもあります。生活空間としての側面もあるわけです。そこに長い時間滞在するわけです。単なる展示空間でないわけですから建築家的発想が重要になってくるわけです。例えば色のことですが展示の方から見ますと、色はグレーで沈んだ色の方が品物が浮き立ってよく見えるといったことがある半面、建築の空間としては、そうなると大体暗くなってしまう。なるべく明るい、開放的で気分が晴ればれとするような博物館とするにはホワイトの方が良い。人工光線でコントロールする方が展示効果は良いが居住性という面からみれば自然光がたっぷり入った方が良いわけです。正直いって私は大いに苦しみました。国友先生がいわれる展示空間の考え方と私の博物館に対する考え方が根本的に違っておりました。何度も何度も繰り返し打合せをして意思を通し合ったのですが最後は妥協の産物にならざるを得ませんでした。でも、今考えてみますとこれだけ意見が伯仲しただけあり、結果はよかったのではないのか。一人で何もかも決めるよりもお互いの良い所もでてきたのではないかと思っています。

今いろいろトラブルがあったというようにお話になりましたが、それはごく当たり前の話で、スムーズにいくことの方がめずらしい。ただし、対立したまま双方が放ってしまったというんではなくて、やはりそこのところでとことん話し合って、確かに対立が厳しくあって、どうしたらいいかわからないという状態もありました。しかしご覧になっていただくとわかりますが、これからの建築というのは一つの思想でもって、まとめ上げるのは必ずしもいいとは思わない。多様な考え方が同時に存在して、それが新しい関係を生み出せばいいんじゃないかと思うようになりました。昔一人の人間の考えが隅から隅まで通る方がよいという考えがありました。建築のデザインも統一理念が中心でした。しかし現代はそういう時代ではなくて、むしろ多様な考え方がうまく共存しているということも必要ではないでしょうか。特に複合化された公共空間にはこのことがいえるように思えます。

司会　エントランスへ入ります。そこにいくつかのアプローチが



ありますが、アプローチはそこへ来た人が自分で選んで、自分で好きなところを先に見ていいんですよという、そういうふうに私は見学して受け止めたわけですが。

内井　全くその通りです。

司会　あれは非常に自由度を持たせているわけですけれども、むしろ主体は人だ、人間だというようなことが出ているように思いますね。

もう一つは、比較的天井が低いですね。これは非常に落ちつきを与えてくれますね。

内井　それはいえると思います。近づきやすさを考えて水平線を強調しました。建物全体の高さもできるだけ低く抑えるようにしました。お寺の境内に隣接しているわけですから、そのお寺よりも低くすることが礼儀上から必要であると思いました。できるだけ現状の環境を崩さないことが原則でした。しかし空間の広がりという点ではもう少し余裕があった方がよかったと思っています。

司会　階段を上がっていくに従って映っていく天井のスカイライトというのはとってもいいんですが、博物館というのは従来は何か静かに比較的落ちついて、さほど明るくなくてですね…。

内井　そうなんです。

司会　そういった雰囲気のものが多かったんですが、この博物館は…。

内井　逆に明るくしようとしました。

司会　その辺の発想というのは、どの辺から出ているんですか。市長さんのご要望もあったんでしょうか。

設計上の発想

内井　ええ、もちろん、市長さんが先程おっしゃいましたように、やはり健康な建築を具現化したいと思いました。来館者が受ける感じは明るい方が良い、と思います。従来の博物館は、やはり国の権威の象徴でしたしね。建築もストック中のストックですからね。非常に権威主義にならざるを得ないし、階段があって左右対称というのが従来のものだったと思うんです。

しかしこの博物館は、コミュニティー博物館というコンセプトであります。国の重要な施設ではなく、むしろ市民生活の中にとけ込んだものというふうに考えますと、なじみやすい、日ごろなれ親しんでいるような階段とか、光の入り具合とか、備品の置き方とか、こういったようなことが必要じゃないかと思ったんです。ですから従来の博物館のような空間は極力避けようと思いました。

もっとも、博物館の重要な目的というのは、収集、保存というものも忘れてはならないわけで、そういう品物の保存ということを考えると、どうしても自然外光をシャットアウトするということが望まれます。ですから非常に大切な品物を展示している部分は極力外光をセーブした形にしております。照度も落しております。

そんな配慮はいたしましたけれども、どちらかといえば市民のための空間を第一に考えたために管理面からみれば多少やりにくいという点は止むを得なかったといえます。

司会　コミュニティー博物館というのは各地で計画され、建てられておりますけれども、やはり市民がそこへきまして、歴史と伝統を肌で感じるということと、現在置かれているものの中から未来へ向けて、生涯教育の場としての意味を持ってくれれば非常に成功だと思うんですが、あそこにパテオといいますか、中庭がございますね。あれもいいんですが、私も3回見学させていただいたと申しましたけれども、中庭に出て眺めて見ると、大空が見えますし、また外壁を見ましても非常にいいんですが、どんな使い方を市民の方はしておられるでしょうか。

森　これからです(笑い)。今まではあそこにおる人が忙しいものですから、まあ、そんなに大勢の方じゃなくてもいいんですから、あそこで能をやりたい人は能をやるとか、いろいろ、そろそろ始めよと言ってあるんでございます。で、まわりで見ていただけばいいじゃないか。ですから、いろいろあそこにおる学芸員の人が適当に考えてもらって、そして市民と親しむ今のお茶や花の席があるようなもので、一宮の歴史を自然に覚えてもらおう。だから料金はなるべく安くせよと。子供は小学校、中学は先生がつれてくるときは1回は無料でございます。あとは少しでももらわなければいかんわと言っているのは、一遍見たらもう来ないんじゃ困る。安ければ1部屋見たら帰っちゃって、また喫茶店へくるような気持ちで来てもらえばいい。中身がほとんど私どもだけで拾ってきたもんでございましょう(笑い)。それで、あそこに古文書や公文書を集めた公文書館をつくろうかどうしょうかというんですが、これも県の公文書館よりも私の方が資料は多いんですよ。それは私が寄せてしまったから、みんなきちんと表紙もつけて保存しております。今のところ、そう学者もないし、研究してもらうということもないから、あせってやらんならんことはない。ただ、プライバシーの問題をつつきあげられるようなことはどうもならん。だから、ゆっくりでいいからといってやっておりますが、寄せるだけはだんだん寄せていったものですから。

だから確か公文書の保存についての東海の大会でしたか、全国の大会は、県がやってくれということで一宮が一番先にやったぐらいです。

司会　さて、博物館ができたり、展示する装置ができたというわけですが、博物的なものは、自分でちゃんと持って、一人たのしんでいるという、そういった評価の仕方もあります。また一方、展示して見ていただく、それは秘蔵しているんでなくて、パブリックな意味でいろいろと見ていただいて、というような見方があります。今回展示しているものは、市長さんは全部自分たちが汗水流して発掘したもの、それを集めてあそこへ展示したとおっしゃったんですが、これからの展示物というものについては、どのようにお考えいただいているんでしょうか。

これからの展示物



森　基本的には、これからもそんなに出てこないと思うんです。一宮ではね、これで馬見塚の居住跡の甕棺から、その次には名古屋の旧五中、今の県立大学の敷地の中にあった古墳ですね。そこからでた粘土でつくった棺の覆い、それをこっちへいただいてきてしまった。(笑い)

司会　ありますね。

森　それは、ゆくゆく先へ行けば博物館がおれの方でできるかもしれん。仮の保存庫が出来ているから、そこへもらっていくといって、粘土から一切もらってきてしまったから、今度名古屋が気がついて、つくろうというときにはないわけです。岩塚古墳の石棺は私の方の分ですが、石棺も一緒に掘ったり、その跡は公園のようにつくったり、そばにあった長頸壷、これは大きいものでちょっと有名ですが、ドイツへも半年ぐらい行っておりました。今度も貸してくれということで2ヵ月ぐらい出品します。一巡全部一宮の住居跡からの土器棺や古墳時代の名古屋の粘土槨を持ってきたり、今度の藤ノ木石棺と一緒の時代の棺もそれを掘って私らが持ってきておるし、それから平安時代の鉄を鋳った鍛冶屋の跡が偶然に出てきたから、その跡を持ち上げちゃって、そんなり持ち帰った。ヒューム管の毀れを持ってこいといって、さかさにひっかけて、どうするのだといって、全部周りを削ってしまうと、これが沈下していく。下を全部掘って、鉄板で切って起重機で上げてしまう。そうやってずっと持ってきたわけです。

それから法円寺中世墓ですか、700年から750年くらい前で土葬でなく燃すようになった。その時分はお寺なんですが、掘らしてもらったら、ハイ、持っていってくれです。今ならもらい手ばっかりです(笑い)。そんなもんなんです。だから県の弥生時代の赤い土器パレススタイル式といいますか、県のやつもだいぶ取っちゃった。それも一宮で県がこういうものをつくるというときに出てきた。それで私がとうとう召し上げてしまって、だから今になりますと、こちらが保存しておったから、強引なことがやってありますから、また研究するから貸してくれといって、借用書持っていって。だけど、こんなものがあるといかんだろうが、まあ、せっかくだが、もらっておくぜといってビリビリと破っちゃって(笑い)。ちょっとみやげだけ置いてきて、それっきりなんだ。そうしたら返してくれと、いつでも返してやるが、おれが持っていった菓子や、そのときの使いものを持ってきてくれ、そうすると返してやると。そうすると係が借用書の控えがあるから、向こうも持っているだろうかと。おれが破ったものがあるはずがない。控えはあるぞと、後々わかるために控えを残しておけと、ここから出たものということを明確にするには控えがある方がいい。だが向こうさまに持っておってもらっては都合が悪い。それを今度記念品につくったわけです。

内井　なるほど。

森　あれはそういうやつです。その時分はまだ発掘なんか、今ごろワイワイ言うだけで、全部こっちがやったときには難しくなかった。今の県の指定というのも、そう骨が折れておるわけじゃない。そういう文化財の先生に頼みますぜと言っていくと、すっと通っていってしまう。

司会　常設展示はそれですが、これからは企画展示ということにも相当力が入られることと思いますが、そのときにあの博物館の中で企画展示の場合に…。

内井　ちょっと狭いですけど、企画展示室が用意してございます。これからの博物館活動で重要なのは、品物を見ていただくことと同時に、そういうものの歴史的な意義とか、現代的な意義とディスカッションするとか、あるいは解説するとか、そういう催し物が大切じゃないかなと思うんです。その一環としてあの広場がうまく使っていただけるとか、それから市長さんのおっしゃった茶室なんかも活用していただければ非常にいいんじゃないかなと思って、それを期待してつくったところが随分あります。ですから必ずしも品物を並べてばっかりじゃなくて広く無形の芸能などを行うことを考えていただきたい。そういったものをあの場所では狭いかも知れませんが、工夫をしていただきたいと思います。そして一宮市が今後行う文化活動を総合的にとらえ、この博物館がそれらの活動の拠点となることを祈っております。

司会　拝見しますと、収蔵庫の関係のスペースですが……。

内井　非常に多いです。

司会　これは大変にわれわれも大いに今後あの博物館に期待するものがあると思うんですが、まだまだ市長さん、収蔵品はたくさんあるんですね。

森　だいぶありますからね。要は学芸員をどういうふうに養成していくかということになるんですが、養成して育つと出て行ってしまいます。(笑い)

内井　博物館は一種の大学ですからね。

森　よそから上手に取られちゃうわけです。私の方で育った人が、今のあそこの館長をやってもらっている岩野さんの下に何人も、南山大学の教授や、女子大の教授になった女の子がおるわけです。本人もそろそろよそからくれというんで、あかんと。おれがおるうちはお前あきらめよと(笑い)。それでもっと養成せよといっているんです。

内井　これからはそういう方の需要は多くなるでしょうね。

森　養成しますと、お互いが仲間ですから、今度借りる時も非常に簡単に借りれるわけです。そしてお互いが交流もできるようになるわけです。金かけて難儀して借りてくるというと正直に、まして市会の方の人は博物館つくってまやがって、そこから来たときにつれていく先がなければ、あそこへでも一遍つれていってというぐらいに思ってみえる。それで私は結構だという。だから思ったほどは維持費をかけにくいわけですから、よそのようにはじめから何々博物館といって、郷土ということがはっきりしていない場合は別ですが、私の方はこういう平たん地で何もない、昔住居跡があったのかと、石棺が出た土地かと、中世の墓があると、そんなことはだれももう思わない。それを知ってもらわなければ今後一宮というものが、それでもこういうふうになってきたというところがわからなければいけない。こういうつもりでこれをつくっていただいた。

司会　私ども一宮に博物館が出来た。じゃ一遍見学に行こうかとわれわれの仲間うちでも言っています。非常に評価が高いですが、一般の市民の方々がこの博物館が出来る前に大いに期待されたと思います。出来てからももちろん期待されたと思いますが、きょう現在どういうように、こういうやぼな質問してはいけませんが、ちょっと本当のところをお聞かせいただくとありがたいと思います。

森　ちょうど時期がよかったんですね。よそも博物館とか美術館

をおつくりになるでしょう。おれの方も座敷があってもいいじゃないかくらいに思っておってもらうんですが、議会もそれでいいんだと、そうじゃなしに私らは先祖を今の方が知っていただく、たった2000年の間にこんなに世の中が変わったんだと。おれらの先祖はここにおったんだということがわかってもらうことが何よりいいんじゃないか。だから郷土愛だとか、ふるさと論といってみたって、今、言ってみえるようですが、結局現代科学で住めないから都市へ都市へきたんでしょう。だからふるさと論と言えば、住めんところへ帰っていけということです。ちょっとでも材料があったら、それで観光地にでもしようとか、そういうのがふるさと論になってくる。どうしたって都市へ集中してくるから、全然わからなくなっちゃう。私の方なんか特に燃えてしまって、無からつくり上げたのだから歴史は知っていただきたい。

司会　市議会のご賛同を得て出来たということは、議員の皆さま方のご賛同を得られるまでにはいろいろあったと思いますが、あまりお聞きするのはまずいですか。(笑い)

森　いや、そんなことはないです（笑い)。私が年をくってますし、長く、50年おりますからね。だから自然にあの人はこういうふうに怒るだろう、この人はこう言うだろうというのは、やる前からわかります。だからそれとなしに上手にご了解を得るように、ただ、ちょっと最初抵抗がありましたが、出来ました。

内井先生からある本山の先生の履歴と図面を見せていただいた。しかしこれだけは割愛さしてもらわなければいかんなと。

司会　なるほど、あれは賞をお持ちですね。

内井　はい。

森　いや、だからいいんですよ。ああ、すばらしいと写真を見て思った。しかし、これを出すと反対があるといかんから。

司会　なるほど。宗派の関係があるわけですね。

森　それで、ちょっとこれは待ってくれと。

内井　建築家というのは、なんでも頼まれると積極的に出しますからね。(笑い)

司会　そういうところもあるんですね。

森　そういうことは注意しております。

博物館の中の現代芸術

内井　中島先生、ここの博物館のもう一つの特色は、市長さんがいろいろ美術品をお集めになっておられます。今回も建物と非常に合った芸術家の方々に参加していただいて、幾つかの作品を建築に組み込んでいるんですね。各々特徴のある場所を選んでやっていただいたんですが、例えばエントランスホールを入りまして右側の一番最初の広場の上のところに絹谷幸二さんにフレスコ画をお願いして一宮の街、人とか歴史をイメージさせるような絵を書いていただきました。

それから、中庭には柳原義達先生の〝からす〟と〝はと〟を柱の上においていただきました。

それから地元の陶彫家なんですが山田朝春さんという方に『十牛図』のテーマで陶器を焼いてもらいました。妙興寺がお隣ということで、何かお寺との関係をもたせたいと考えたからです。十牛図とは、禅の悟りを開くまでの過程を図柄にしたものですが私は非常に好きであったので、それを置かせていただきました。

中庭は本当はイサム・ノグチさんに設計をお願いしたかったんです。イサムさんの父親がこの辺りの出身とのことで、できればイサムさんと思ったんですが、非常にお忙しくて無理でした。しかしイサムさんの彫刻をここに置かせていただくということができました。「ニンゲン―2」という彫刻ですがこれを置きその広場を人間の広場といたしました。鳥の広場、牛の広場というように、それぞれの場所の特徴を芸術家の助けをかりてつくったわけです。

昔のものだけがあるんじゃなくて、現代の芸術家の作品も同時に見られるというところが、この博物館の特色といえるのではないかと思っています。

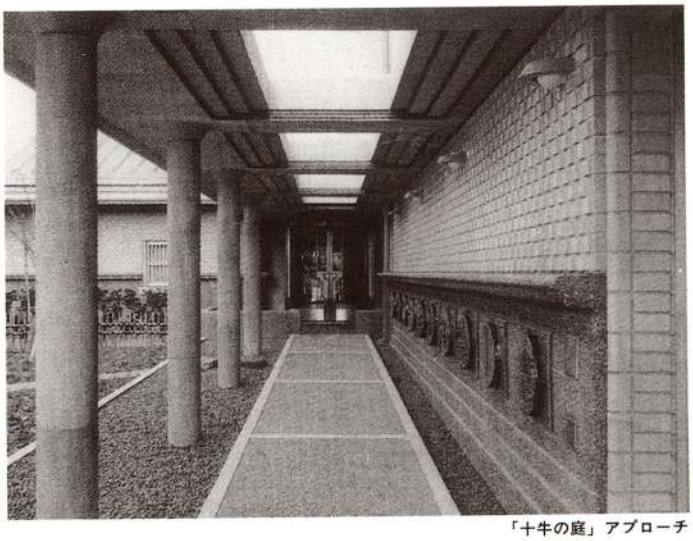
司会　これが出来てから、公衆便所は内井先生のご設計ですか。

内井　ええ、そうです。

司会　ああいうものが出来てきますと、ただ建物だけでなくて、やはりこの周辺の環境まで変えていくという、また市民の意識も高まってくるということは忘れてはならないことだと思うんです。こういったすばらしいものが出来ましたけれども、後、市長さんはいろいろな施設をお考えになっていると思いますが、文化のネットワークといいますか、そういったものがこの博物館を中心につくり上げられますと非常にすばらしいものだと思うんです。市民のためにも大きなプラスになると思いますけれど、また今度は外の方々がお見えになってきます。そうしますと市民の誇り高いものになっていくというような、なんというか、施設を通して市民性が高まってくるんじゃないかということも、われわれ期待をするわけですが。

将来計画

森　そういうつもりですが、これが一つの拠点にしていただいたわけです。ですから鉄道高架にしまして、東海北陸道もいよいよやりかけております。それから南の方には、これもデッチ上げには違いないんですが、万葉公園には相当の金を入れてある。その付近を



「十牛の庭」アプローチ

今度、知立に負けんように、土地を買ってアヤメでもうんと植えようかと、そして南の方はそういうものをつくる。中心は妙興寺のお寺を中心にしていく。北の方が今手をつけて、堤防の中に堤防をつくって約35万坪買収した。もう一つだけ残っておりますが、真ん中を5万坪、最初の予定と2回目の都市計画審議会にかけて、国へ木曽三川の国営公園の一角にかせようと。西の方は余っていますから、これへ県の県立のグラウンドをいざらかそうとしているわけです。それが今、県の方の6次の都市計画審議会で新空港をやってみえますね。私の意見で三重県と岐阜県は賛成しておるが、名古屋の市長も賛成、だからゆするぞと(笑い)。だから私の方の言うことを聞けばいいが、せっかくつくった広場だから、何100年たっても西の方が県、真ん中が国、それから市と3等分して持つということが先へいって非常に市民にいいんじゃないか。あれは遊水地帯に堤防をつくったんだから無理なことがしてあるから、その無理がそういうものができれば私は市民に、岐阜県との交流、今、そっちへ乗りかかっております。

司会　今各地で21世紀ビジョンが…。

森　西の方が空きますと、そこへ横越さんも今度は仲間になってきたい。そこへ県も。

司会　そうですか。県立大学。

森　県立大学の文化はあっちへ行ってもいいが、県も自分のところの、県のくせに理学部も工学部もないようじゃおかしいじゃないか。だからそこへ越していけば、そこへ出来るんだと、どうなるかわかりませんが、それを6次の都市計画審議会に暗黙させようと。だから県は県で今の新空港を乗せたいんです。だから一緒になってきておるから、ちょいちょいいやがらせている。(笑い)

司会　せっかくすばらしい博物館をおつくりいただき、おおいに市民の方も期待しておられるわけですが、どうかこれを核にしていただきまして、市民の文化的な、あるいは生涯教育の中心になることをわれわれ非常に期待しておりますが、建築に携わっているわれわれは大変こういったことに関心を持っております。これがまた各地のコミュニティー博物館のモデルになればと思っております。

本日は大変貴重なお時間、いろいろとお話を頂だいしましてどうもありがとうございました。

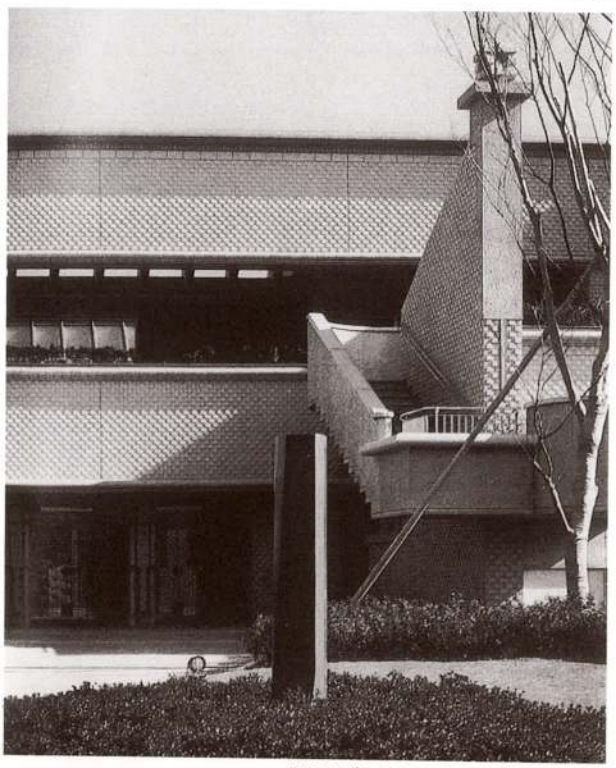
*

プロフィール

森　鋿太郎氏　1909年　愛知県一宮市に生れる
1934年　明治大学商学部卒業
1936年　一宮市役所産業課に奉職
経済部長、企画長等を経て、
1963年　助役（～1967年）
1971年　5月、一宮市長に就任後五選
現在に至る

内井　昭蔵氏　1933年　東京に生れる
1956年　早稲田大学第一理工学部建築学科卒業
1958年　早稲田大学大学院工学研究科卒業
1967年　内井昭蔵建築設計事務所主宰(現在に至る)
アメリカ建築家協会名誉会員(1981年)、建築美術工業協会副会長(1984年)、新日本建築家協会理事(1986年)、同副会長(1988年)


展示棟


彫刻(手前)イサム・ノグチ作「ニンゲン−2」



名古屋桐たんす

―名古屋―

東海の建築地場産業●ルポ15

東海支部特別編集委員会

収納家具　箪笥の起源　箪笥とは抽斗のことである。17世紀後半、今からおよそ300年前から一般に広がり始めた。それまでの収納家具といえば、櫃、長持、つづら、行李などいわば箱物であった。それが、17世紀になって綿織物、絹織物の生産が急増し、これに伴って呉服の大衆化が進み、収納する上で機能的でかつ合理的な大型の抽斗の付いた箱物（つまり箪笥）の普及を促進した。

技を継ぎ　心を伝えて　名古屋桐箪笥は、名古屋城の築城に従事した職人達が城下町に定着し、中区袋町（現在の錦通付近）および大須裏門前町あたりで「箪笥」「長持」などを製造したのが始まりである。

桐は、日本産のうちでは最も軽く、狂いの少ない材質をもつ。その木目の美しさと、湿気を通さない、虫がつかない、熱を通さないなどの理由から、高温多湿の日本の風土には衣服、貴重品の保存に最適の材料として愛用されてきた。名古屋地方に桐箪笥の製造が栄えたのは、こうした良質の桐材が古来より岐阜飛騨地方（飛騨桐）に産したことも見逃せない。

名古屋桐箪笥の特徴は、「さんぱちたんす」といって、幅が115～116センチと他産地と比べ10～25センチほど広い。またヒバ製の木くぎを用い、右下の部分に小引き出しが付く。金具は金・銀に着色（しんちゅう地のメッキ）を施し、上置袋戸には金箔絵や漆塗蒔絵を付けて、豪華な装飾を施したものが多い。

製造工程はすべて手づくり　製造工程には、12の主要工程と130余の技工程がある。なかでも造材、木くぎ造りは桐箪笥造りならではのものといえる。主な伝統的技術・技法として、桐材は渋が強いため1年以上天日と雨水にさらして木の渋を抜く「渋抜き乾燥」。幅の狭い板を横に連ねて幅の広い板を作る「板矧ぎ」。板と板を直角に組む「仕口」。金づちまたは木づちでほぞをたたいてへこませ、組み立てた後に水を塗ることでへこんだ部分が膨張して組み手がとれなくなる「木殺し・水引き」など特殊なものがいくつか含まれてできあがる。こうして一対の箪笥を完成するまでに、熟練した職人の手でも1ヶ月を要する。

伝統的工芸品として　戦後、生活様式の変化により合板を使用した洋風デザインの家具が桐箪笥に代わって登場した。そして、その需要は急速に伸び、木工機械の発達による大量生産により満たされた。逆に、桐箪笥の需要は減少し、昭和54年には組合員数17社と衰退した。近年、桐材のもつ特性が見直され、総桐箪笥の需要が徐々に伸びつつあるが、その技術・技法が手作業であり、その習得には数年以上かかることなどにより、新しい後継者は皆無に近い状態となった。あくまで桐無垢材を使用し、伝統性のある名古屋桐箪笥の技術・技法を次の世代に残そうと、各種の振興計画が実施されている。



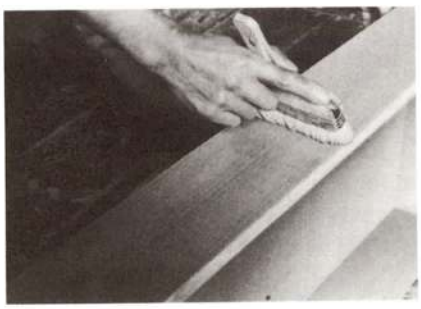
1.ほぞ切り



3.木釘で枠組み



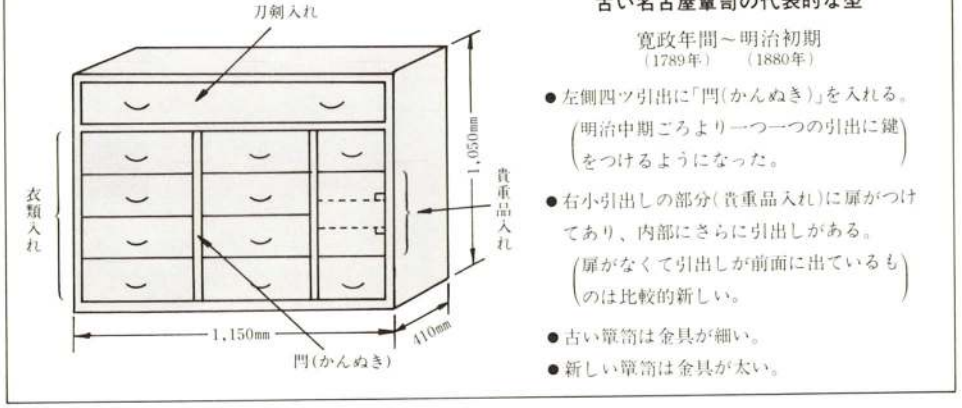
2.組み込み



4.下塗り



伝統技術の承継者たち



古い名古屋箪笥の代表的な型

寛政年間～明治初期
（1789年）　（1880年）

- 左側四ツ引出に「門（かんぬき）」を入れる。
  （明治中期ごろより一つ一つの引出に鍵をつけるようになった。）
- 右小引出しの部分（貴重品入れ）に扉がつけてあり、内部にさらに引出しがある。
  （扉がなくて引出しが前面に出ているものは比較的新しい。）
- 古い箪笥は金具が細い。
- 新しい箪笥は金具が太い。

参考文献　グラフあいち　第54号：愛知県広報課　1984.3
あいちの伝統工芸品：職員あいち
中部産業シリーズ　名古屋桐箪笥：中部経済新聞
1988.11.13　他



総桐夫婦箪笥

美濃和紙

—美濃—

東海の建築地場産業●ルポ16

東海支部特別編集委員会

美濃和紙の歴史　紙と言えば美濃紙と言われるように、美濃和紙の歴史は古く、現存する最古の美濃和紙として「正倉院文書」の美濃国関係の戸籍簿に使用された用紙があり、このことから美濃和紙の起源は天平9年（1,300年前）ごろと推察されている。また、平安時代には美濃国より多量の紙原料を朝廷に納めたと記録されており、豊富に自生していた紙原料と豊かな板取川の水とに恵まれ、他国に比べ美濃では多くの紙を漉いていたものと考えられている。

中世になり、官営の紙屋院がおかれ、紙業振興に力がそそがれると共に、文化の普及にともない紙の需要は増大し、役所の文書や寺の写経等を始め、貴族や禅僧の学問、文芸のための用紙として多量に使われだし、美濃の紙も京都、奈良、伊勢の方面へと出荷され、そのよさが中央で認められるようになり「美濃紙」とか「濃紙」と呼ばれ、その名が全国に広まったと言われている。

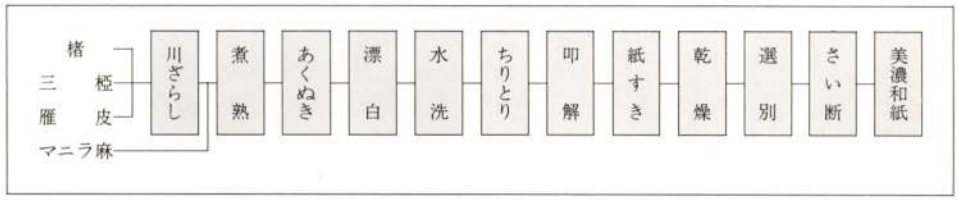
抄造方法　一般的な製紙法は、元祖中国式で、紙料を枠内の簀の上にすくいあげたままで放置する「溜めすき」と、紙料を簀の上に放置しないでタテ、ヨコに簀コテを振り動かして、手ごころによって捨て水をおこない、これを何回も繰り返して漉く「流しすき」の方法がある。美濃和紙の場合は後者の「流しすき」と言われるもので、紙面に漉きむらがなく繊維がからむため、出来上がった和紙は、薄い紙でも布のように丈夫で、しかも美しく、障子紙をはじめ、保存文書の用紙等に最適で、紙質の優秀さは高く評価されている。

美濃和紙の現状　美濃手漉和紙の全盛期は「ウイーン万国博出品」、「安くて良質な製紙方法の確立」、「工場組織の導入」などの努力により、明治から大正にかけて訪れたが、昭和に入ってからは、機械製紙工場が出現し、またガラス戸の普及による障子紙の需要減等が重なり、手間を掛け、良質な原料による丈夫で味わいのある手漉紙は、見た目が美しく安価な機械漉きの紙に変わってきた。戦後においては、機械製紙工場もつくられ、家庭紙等新しい分野の紙製品も開発されている。しかし、千年の後まで残したい文書の用紙、手漉紙による障子の味わいを知る人、伊勢に送られる伊勢型紙、京都の京染に使われる型紙は、美濃の手漉和紙でなくてはならなく、手漉業者の減少にもめげず、重要無形文化財、伝統的工芸品の指定を受け、昔ながらの技法を引き継ぎ、現在も板取川流域を中心に50戸余りが美濃和紙の生産に励んでいる。

桟（うだつ）のある古い町並　国道156号線を挟んだ市役所の反対側の地域に、江戸時代の町屋が今も多く残り、「うだつ」のある家が軒をつらねている。関ケ原の合戦後に高山城主金森長近が新設した城下町で、金森断絶後は尾張領となり紙の取引を中心とした商人の町として繁栄し、水利が悪く火災が多かったこの町では、家の富と権勢のシンボルして江戸末期から明治にかけて豪華な飾り瓦のうだつが多く造られたようである。小倉山を中心に古い城下町が息づく、伝統ある古いどっしりとした壮麗な家並を写真で紹介する。

参考文献　美濃市商工観光課、美濃手すき和紙協同組合等発行パンフレット

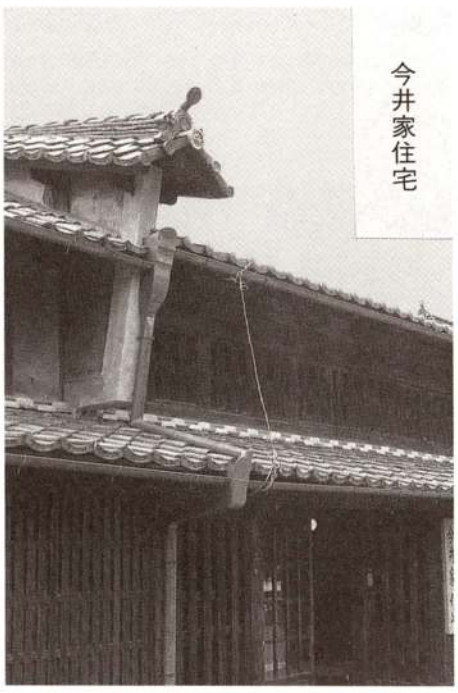






美濃和紙の製造工程





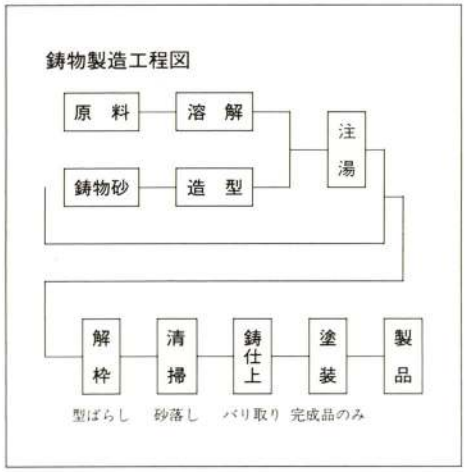
桑名の産業　桑名は、かつて、松平11万石の城下町で、東海道五十三次の宿場町として、また港町として栄え、更に木曽・長良・揖斐の三大河川を利用した、米・木材等の集散地として賑わった町である。産業としては、古くから鋳物の町として全国に知られ、現在は、鉄鋼機械金属製品・木工品・繊維品、更に時雨蛤を始めとした食品加工など幅広く行なわれ、伊勢湾臨海工業地帯の一翼を担っている。

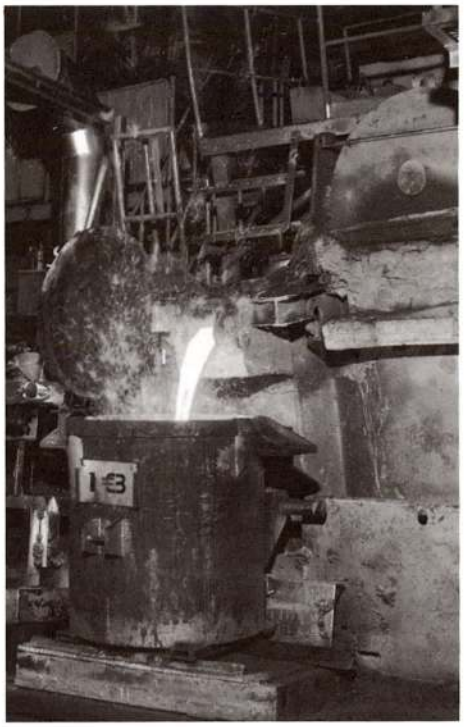
桑名の鋳物は、県下でも500年の歴史を有する有力な地場産業である。地場産業としての桑名の鋳物、特に、日用品鋳物は全国的にも知られ、常に、川口の鋳物と比較されてきた。戦後、高度成長の波にのって、製品内容も近代産業にふさわしい構成となり、生産量も著しく増加し、日用品（建築金具を含む）の他、電動機械関係を中心に土木建設・産業用機械鋳物等意欲的に生産が行なわれている。

桑名鋳物の歴史　桑名の鋳物の発祥について確かなことは分かっていないが、関ケ原の合戦後（1600年）本多忠勝公が桑名藩士に封ぜられ、桑名が城下町としての形態を整え始めた頃と言われている。桑名には代々、広瀬、辻内の鋳物師がいた。当時の鋳物は朝廷の免許を要する特殊技術として特別の庇護と制約を受けていた。

桑名の鋳物が近代化の目を開き、地場産業としての態勢を整え始めたのは、明治以降のことと思われる。明治の西洋文化の導入、特に産業革命後の機械文明の流入が桑名の鋳物にも革命的な変化をもたらし、桑名が鋳物産地として知られるようになった。大正に入って国内需要の増大と東南アジア向けの輸出が開始された。大正から終戦までが鋳物が桑名の地場産業として地域に定着した時期と言える。

鋳物の製造工程　鋳物を造る場合にはまず設計を行い、これに基づき工作図が作られる。工作図をもとに品物模型を制作し、この模型を使って、細かい砂で模型の形状をした空間（鋳型）を造り、この中に溶解炉で溶かした地金（湯）を注ぎ込む。しばらくすると湯は冷却して固体になり、鋳物ができあがる。

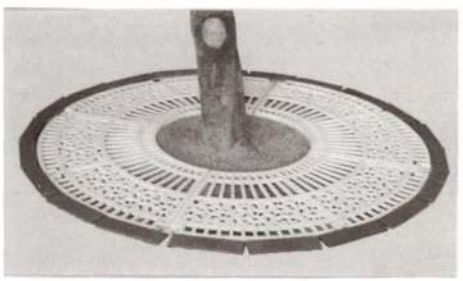


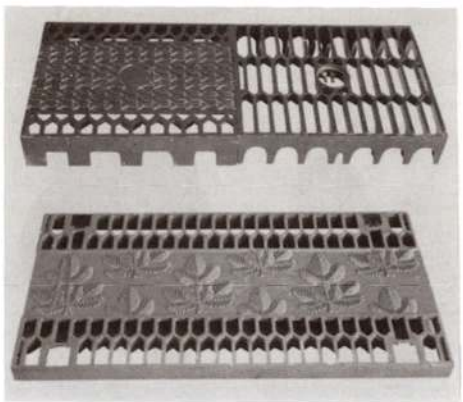


鋳物
—桑名—

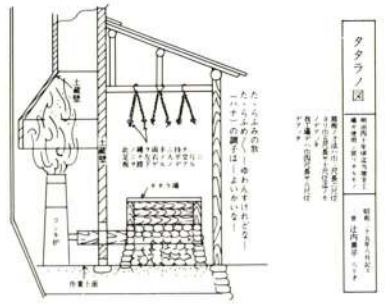
東海の建築地場産業●ルポ17

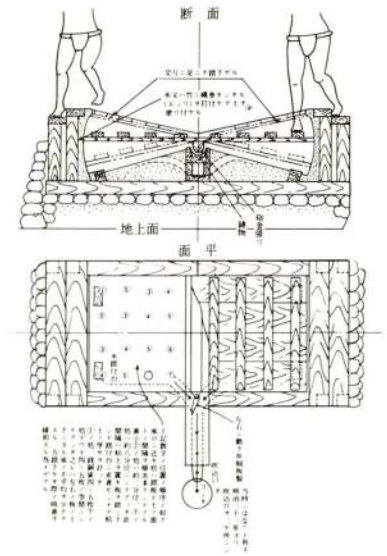
東海支部特別編集委員会

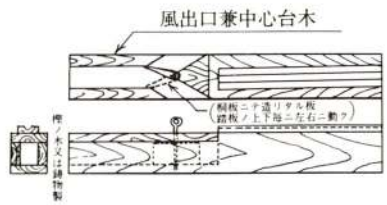




土木建築用鋳物







昔の鋳物工場はこしき炉（俗にこしき）とタタラを使って地金を溶解していた。
こしきの構造は基本的には現在のキューポラとかわらないが、タタラはいわばふいご式の人力送風装置で、中央に支点をおいた踏板の両端を夫々２～３人の作業者が、上からつるした力綱につかまって交互に踏下げて風をおこし、その風をこしきに送り込む装置である。

このタタラの図は、桑名の鋳物師辻内善平（昭和39年没）が記憶をたどって書き遺したタタラの構造図である。

参考文献　三重県鋳物工業協同組合編「桑名の鋳物」

静岡市には、漆器をはじめ蒔絵、木工指物、竹千筋細工等と数多くの地場産業がある。

静岡の指物の起源は、漆器・蒔絵と同様に浅間神社造営がきっかけとなっていると言われる。それ以前の駿河城の造営、あるいは今川の時代にも木工指物の技術者がいたが、指物師としての確かな位置づけがされ、本格的な需要が起こったのは、浅間神社造営以降のことである。

指物師は、日本独自の指金（さしがね―物差し）を器用に使いこなし、道具の修理や目立ても自ら行い、ノミ、鉋の台入、化粧前板である杢の板挽割りや、桑の色付、仕上げ等を行なった。江戸時代には大名等が道中の駕籠（かご）で使う机箪笥（つくえだんす）といわれるものや、硯箱（すずりばこ）・文箱（ふばこ）といった漆器の木地製造を受けもっていた。これらの製造を通し、長い間磨き上げられた優れた技は、明治になる鏡台づくりに向けられ、静岡を全国有数の鏡台家具産地へと発展させる礎をつくりあげた。

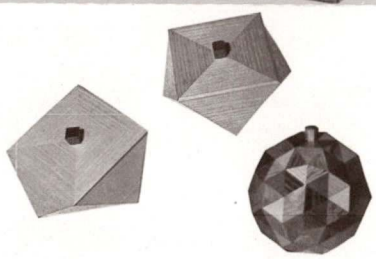
なお、下段の右２枚の写真は、静岡市が「家具産地イメージアップ事業」の一つとして、今までの家具に対する既成概念から脱皮するため、国際的に活躍している４名のデザイナーに依頼し制作したものの２点である。

参考文献　静岡市産業工芸センター編「静岡の伝統工芸」他

「静岡県郷土工芸品」マーク

静岡県が独自に全県で16種の工芸品を指定しているが、静岡市はその半数８種を占めている。
駿河竹千筋細工、駿河漆器、駿河蒔絵、駿河下駄、駿河指物、賤機焼、駿河和染がある。

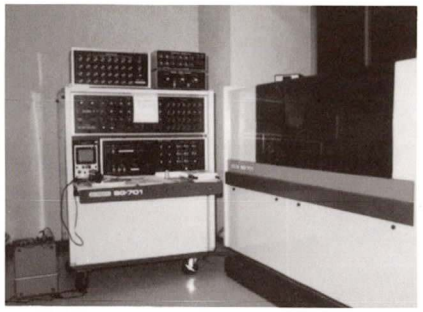




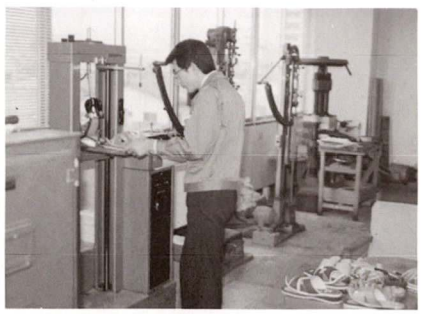
駿河指物
―静岡―

東海の建築地場産業●ルポ18

東海支部特別編集委員会



ダイレクトスキャナー



サンダル試験室

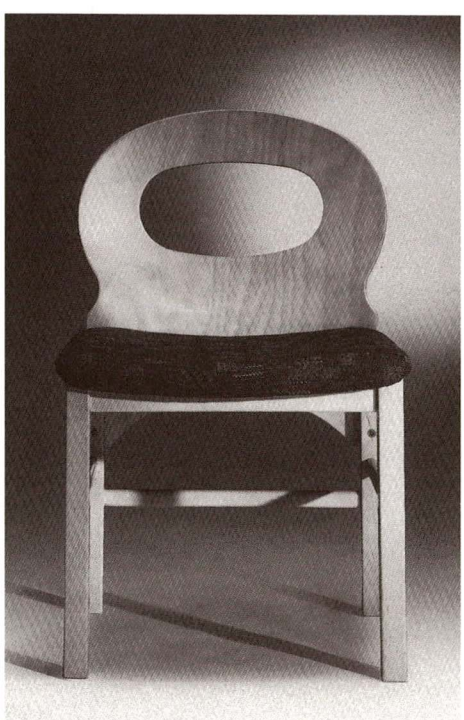


オリジナルチェアー技術講習会

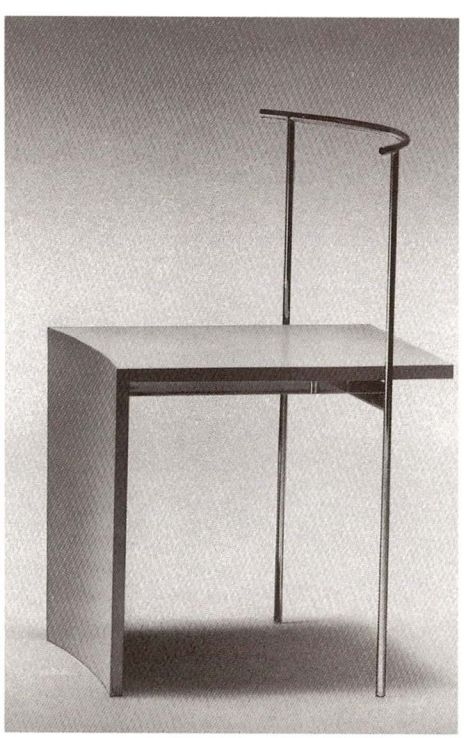
静岡市産業工芸センター内の諸設備とデザイン・技術の指導風景



伝統工芸を生かし、全国有数の鏡台家具産地へ



時代へのメッセージ KAGU―喜多俊之



時代へのメッセージ KAGU―倉俣史朗

元旦製品は施工がカンタン。

元旦

元旦製品はすべて特許製品です。

上から下へ葺ける**バッキング工法**

これからの主流です。



●東京工科大学
●設計／㈱久米建築設計事務所 ●施工／鹿島建設㈱・大成建設JV

上から下へ葺ける**バッキング工法**

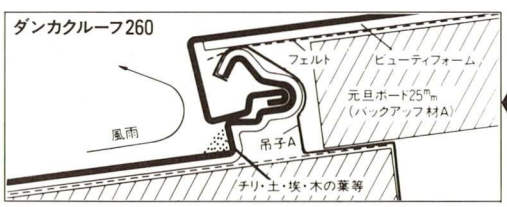
❶施工が楽で、工期が大幅に短縮できます。
❷施工済の製品をキズ付けたり、汚したりする危険が減少します。
❸上から葺けるため、雨どい・軒先・開口部等が、あとから打ち合わせしながら施工できます。
❹足場設置の手間と費用が軽減できます。



〈ダンカクルーフの特長〉

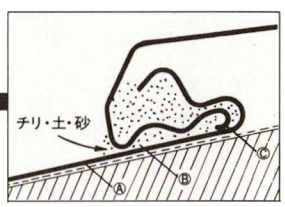
■ハゼの噛み合せ部が、屋根表面より高い位置にあるため、吹き上げられた風雨も、段面で跳ね返します。また、チリ・土・木の葉等も段面でブロックし、次回の降雨で洗い流します。
- ●毛細血管現象も防止し、優れた水密性能
- ●滑雪効果を促進し、雪解け水の吸い込み防止
- ●永年に渡って屋根全体の汚れがなく、金属腐食防止

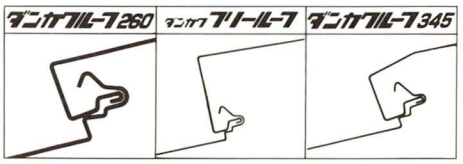
■元旦ボード25㎜(バックアップ材A)が、屋根裏面と密着しています。
- ●雨音・騒音を防止する上、断熱性もバツグン
- ●正荷重に強く、人や物による屋根の変形も防止
- ●フェルトにより、万一の結露水等も屋根表面に排出



横葺き屋根

屋根面Ⓐとハゼの噛み合せ部分Ⓑが同一面にあるため、ホコリが侵入し、袋小路Ⓒにたまり腐食の原因になったり、暴風雨の時ハゼの中を水が横ばしりすることがあります。





製造発売元

元旦ビューティ工業株式会社

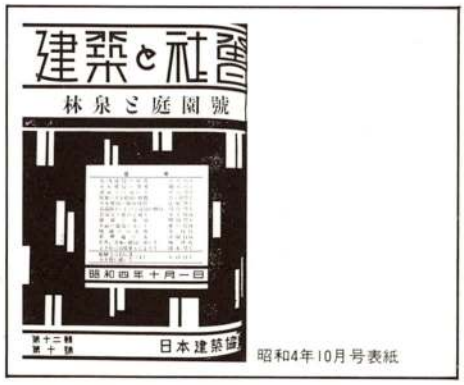
本　　社　神奈川県藤沢市湘南台5－36－5　〒252 ☎(0466)45-8771
名古屋営業所　名古屋市中区大須4-1-71 時計ビル8F　〒460 ☎(052)251-7671

発売元

綿半鋼機株式會社（わたはん）

名古屋市中村区名駅5－4－14　〒450　TEL(052)586-2558

「建築と社会」バックナンバー総目次(号別)Vol.12 No.10～Vol.13 No.5 (昭和4年10月～昭和5年5月発行)



昭和4年10月号表紙

●建築と社会(Vol.12No.10) 林泉と庭園号 昭和4年10月1日発行

口絵　日本庭園（大阪茶臼山旧住友男爵邸庭園、大阪網島藤田男爵邸庭園、大阪高津吉田氏邸庭園）、羅馬パンフィリの荘園、ベルリンの新しい庭園、タイ・マハール王宮殿の庭、西班牙セビラノ王宮殿の庭
我国庭園の位置…東京高等造園学校長　林学博士　上原敬二
日本庭園の将来……東京帝国大学講師　林学博士　田村　剛
浜離宮に就て……宮内省内匠寮技師……林学士　中島卯三郎
建築に対する庭園と日本庭園の特色
……神戸高工学校長　古宇田実
日本庭園の植栽材料……文学士　龍居松之助
最近欧米に於ける庭園の傾向
……京都帝大助教授　農学士　関口鉄太郎
公園より私庭を見る……東京市公園課長　井上　清
庭園と花壇……京都植物園技師　農学士　野間守人
大阪の庭園に就て……大阪市公園課長　椎原兵市
庭園の行進曲――その時代相の様々大阪市公園課　方米治郎
石燈籠の美……津田　鑿
芭蕉養虫庵の庭園に就て……城戸　久
よき庭はよき建築家によって……法学士　岡本彰一
醍醐寺三宝院及五重塔に就て(上)……
……京都帝大教授　工学博士　天沼俊一
アパートメントハウスの実例(3)……工学士　葛野壮一郎
飛行機より見たる建築と社会(6)――結論……下浦光衛
誌上講座　建築工事の勘定と事務(5)…由良基夫・中島智喜
国際新建築集　京阪神新建築集(関西学院、御影高柳博士邸)

●建築と社会(Vol.12No.11)
照明・暖房・衛生研究号 昭和4年11月1日発行

口絵　和紙を使用せる鉄筋混凝土住宅の客室、薄美濃紙を使用せる
照明装置、洋室照明装置、天井照明、ランプ
和紙……京都帝国大学教授　工学博士　藤井厚二
近代照明の傾向に就て……工学博士　伊藤奎二
建築の洪光飾……工学士　工藤寿男
現代的照明……アンドレ・サロモン
建築周囲の損失熱量と電気暖房決定法……小原邦雄
安価に出来る保熱装置……アリース・テロン
部屋の大きさを決定する定規としての人体
……建築士　フランツ・クラウゼ
気・食・動の関係に就て……宮飼克二
汚水浄化装置に就て……伴　秀雄
最近の暖房換気界……早稲田大学助教授　工学士　大澤一郎
近代人の利益を増した汽船「ブレーメン」号
……R.W.セックストン
小菅刑務所を観て…東京工業大学教授　工学博士　田辺平学
醍醐寺三宝院及五重塔に就て(下)
……京都帝大教授　工学博士　天沼俊一
アパートメントハウスの実例(4)……工学士　葛野壮一郎
誌上講座　建築工事の勘定と事務(6)…由良基夫・中島智喜
国際新建築集、京阪神新建築集（神戸別格別院善福寺、関西大学天六学舎）善福寺工事概要、関大天六学舎工事概要

●建築と社会(Vol.12No.12)
防火建築号 昭和4年12月1日発行

口絵　空から観た大阪市甲種防火地区(大阪駅付近、梅田新道付近、大阪市庁舎、中之島中央、北浜附近、高麗橋筋、田蓑橋附近)
防火建築と生活の安定……工学博士　片岡　安
防火建築の促進に就いて
……住友合資会社工務部長工学士　日高　胖
防火建築に関する法規的考察……工学士　池田　実
将来の防火地区に就いて…大阪府都市計画課長　玉田昇次郎
都市計画と防火地区……大阪市計画課長　内山新之助
防火地区建築の助成促進……建築技師　光安梶之助
防火建築考察の重点……工学士　鷲尾九郎
商店建築の防火設備に就いて……工学士　今林彦太郎
都市の震火災と防火建築……大阪市建築課長　波江悌夫
構造より観たる耐震耐火的建築(上)
……東京工大教授兼神戸高工教授　田辺平学
我が住宅……京都帝国大学教授工学博士　武田五一
琉球トラバーチン字流聞石に就いて
……京都帝大教授　武田五一
現行地域制に於ける所謂未指定地に就いて一地域名を附するの要なきや……都市計画大阪地方委員会　加藤善吉
石川県下某セメント工場貯蔵塔崩壊調査
……第四部委員会委員　林　豪蔵
誌上講座　建築工事の勘定と事務(7)…由良基夫・中島智善
国際新建築集

●建築と社会(Vol.13No.1)
昭和四年建築大観号 昭和5年1月1日発行

口絵　阪急仁川・村上氏邸、阪急岡本・林氏邸、神戸・亀高氏邸、阪神魚崎・杵屋氏邸、南海浜寺・柳原氏邸
巻頭言……工学博士　武田五一
昭和5年の春を迎へて我建築界に望む…工学博士　片岡　安
昭和4年の建築界を顧て……安井武雄
昭和4年に於ける建築思想界の動き……伊藤正文
ホテル建築の一考察……古塚正治
長屋建築の現在と将来……葛野壮一郎
偶感……石本喜久治
明日の住宅と都市……藤田進一郎
昭和4年を回顧して……松室重光
都市生活の安定策に就いて……岡崎早太郎
京都に於ける建築の回顧的展望…京都府建築監督官和田甲一
京都と建築……大倉三郎
愚考三題……工学士　中尾　保
昭和4年に於ける学校建築の趨勢
……大阪市技師工学士　富士岡重一
最近15年間に於ける建築工事施工方面の発達と将来
……渡辺圭吾
昭和4年物価指数の変遷
構造により観たる耐震耐火的建築(中)
……東大兼神戸高工教授　田辺平学
昭和4年度の本誌編集を回顧して……編集子
誌上講座　建築工事の勘定と事務(8)…由良基夫・中島智喜
国際新建築集、京阪神新建築集(第一生命京都支店、日本相互貯蓄銀行、大阪満鉄案内所、大阪モリビル、大阪輸出英大小業組合京都村雲会館、商船学校神戸校友会々館、三菱銀行三宮支店、奈良電鉄会社、大日本紡績本社、西宮多聞ビル、三十四銀行堺支店、日本生命大阪支店、西宮市役所、同平面図、神戸移民館、神戸税関旅具検査所、京都帝大化学研究所、住友伸銅所工場、神戸運河第一橋、神戸小泉製麻工場、杉村倉庫、鉄道局大阪倉庫、大阪市築港上屋、住友倉庫川口支店、同平面図、阪神甲陽中学校、大阪高等医専、府立八尾高女、大阪市明治小学校、同高津小学校、同精華小学校、同堂島小学校、同下福島小学校、同堀川小学校、同済美小学校、同広教小学校、同金甌小学校、同靱小学校、同本田小学校、京都修徳学校、大阪市御津小学校、京都日の出会館、大阪毎日新聞京都支局、六甲山ホテル、神戸松竹座、あやめ池温泉場、花園ラグビー競技場、大鉄局天王寺病院、日赤大阪支部、神戸ユニオン商会、大阪大野病院、同東保病院、金光教大阪教会所、和歌山南海信託本社、西宮市営火葬場)

●建築と社会(Vol.13No.2) 学校建築号 昭和5年2月1日発行

会告「学校建築図集」(建築と社会臨時号)発行(200頁・1円)
口絵　京都帝大東山天体観測所
巻頭言……宗　兵蔵
学校建築偶感……大倉三郎
都市と学校計画……大阪府都市計画課　加藤善吉
東京帝国大学復興建築に就いて
……東京帝国大学技師　清水幸重
神戸市学校建築の方針……神戸市教育課長　横尾繁六
大阪市小学校校舎の実状と其計画の大要……富士岡重一
横浜市の小学校建築……横浜市建築課長　鳥海他郎
大阪市に於ける小学校の庭園に就いて……奥野章治
幼稚園舎に於いて……富士岡重一
学校建築に必要なる附帯設備……楠瀬　徹
大阪市小学校用品規格統一に就いて
小学校建築の現場……大野直平
大阪市立小学校建築構造強度計算の概要……川口一二
最勝院五重塔……工学博士　天沼俊一
我が家……工学士　竹腰健三
荒壁の家……石川禎一郎制作
国際新建築集、京阪神新建築集(大阪文楽座、大阪聖保羅教会聖堂)

●建築と社会(Vol.13No.3)
ホテルと倶楽部号 昭和5年3月1日発行

口絵　茨木ゴルフ倶楽部、住友倶楽部、大阪実業教会倶楽部、相続会会館
ホテル・プランニングに就いて……古塚正治
コンマーシャルホテル計画の下準備
……住友合資会社建築課　高橋栄治
ホテルの附帯設備基本事項……建築衛生技師　桜井省吾
業者から建築家に望む…宝塚ホテル常務取締役　南　善三郎
業者から建築家に望む……都ホテル常務取締役　岸田　勉
旅宿の思ひ出……八洋　生
ホテル瑣談……角尾篤彦
パーク・ホテル「ハウス・レツヘン」
小ホテル「ホワイト・スター」
クラブ建築の目的と設備に就いて……葛野壮一郎
愛知医学大学・学生生徒集会所(写真・平面図)
八重垣倶楽部(写真・平面図)
構造より観たる耐震耐火的建築(下)
……東京工大兼神戸高工教授　田辺平学
石綿板及金属板の防火試験……池田宮彦
建築断相(1)……松室重光
国際新建築集
付録　実費精算式施工契約書案、同施工規程案
……日本建築協会第一部(法制)委員会報告

●建築と社会(Vol.13No.4)
建築と風致号 昭和5年4月1日発行

会告　大阪市民博物館主催「都市と音響」展後援出品(3月25日～4月30日)
口絵　建築と風致(横浜市原富太郎氏邸臨春園、京都高台寺、大和法隆寺、奈良公園、名古屋鶴舞公園、岡山城、京都市、宇治平等院)、佛蘭西巴里・日本学生館
巻頭言……古宇田　実
建築と風致……工学博士　片岡　安
建築と風致―特に住宅と庭園…林学博士ドクトル　本多静六
都心の風致……藤田進一郎
建築と風致……関口鉄太郎
風景美より建築を見る……井下　清
風景地の建設物に於いて……椎原兵市
建築美と風致……津田　鑿
風致美観と建築……松室重光
庭木の美的本質とその選び方……方　米治郎
都市風景の構成……農学博士　大屋霊城
建築と風景と庭園……林学博士　田村　剛
建築断相(2)……松室重光
国際新建築集、京阪神新建築集(住友銀行船場支店、大阪農工銀行本店
附録　美観地区並風致地区指定に関する建議追申案

●建築と社会(Vol.13No.5)
住宅の様式・装飾・設備号 昭和5年5月1日発行

口絵　京都市某氏邸
巻頭言……日高　胖
様式住宅から目的建築へ……中野順次郎
最近住宅様式の傾向……上野伊三郎
改良炬燵……工学博士　武田五一
住宅と庭園の一問題……本野精吾
設備は洋風……黒田鵬心
壁面塗装と壁紙に就いて……早良俊夫
欧州最近の住宅と家具装飾品に就いて……小川安一郎
住宅の電気設備……大阪市電気局技師　小畠康郎
住宅に於ける照明器具に就いて……工藤寿男
住宅照明……岩崎　勇
台所の設備と衛生…大阪市立衛生試験所長医博　藤原九十郎
住宅の能率化と台所設備……本協会住宅委員　増山新平
住宅放言……木谷木　広
住宅写真集(阪急夙川・富士岡氏邸、京阪香里・I氏邸、阪急芦屋・伊藤氏邸、阪神御影・K氏邸、津市・川喜田氏邸、麻布・近藤男爵邸、阪神・K氏邸、神戸・大高氏邸、阪急

「建築と社会」バックナンバー総目次(号別)Vol.13 No.6～Vol.14 No.1 (昭和5年6月～昭和6年1月発行)

六甲・S氏邸、阪急六甲・U氏邸、
建築断相(3)……松室重光
晴耕雨読……高橋栄治
国際新建築集、京阪神新建築集(大阪市電気局庁舎)

●建築と社会(Vol.13No.6)郷土建築号 昭和5年6月1日発行

口絵　郷土建築写真集(大阪平野・佛光寺、大阪網島旧料亭鮒宇、大阪西区・丹喜号・岡本善衛氏邸、飛騨白川御母衣・遠山家、近江草津駅前・「うばもちや」、近江大野村今郷街道筋の農家、近江阪下の本陣大竹之図、近江今郷農家の土間台所、近江水口町「ます又」旅舎の台所、伊勢鈴鹿阪の下の民家、伊勢鈴鹿関の「あいづや」)
巻頭言……葛野壮一郎
古建築の用伐と鴻池男爵邸……江崎政忠
滅び往く建築風景……本間乙彦・鶴丸梅太郎
洋風模倣建築六十年記……堀越三郎
飛騨白川の大家族村……篠原太郎
名古屋の郷土建築……城戸　久
屋根の形から見た郷土建築……丹藤良雄
住宅と地方色……松本儀八
水口から鈴鹿を経て関へ……編集同人
桜井神社拝殿(大阪府泉北郡上神谷村)…工学博士　天沼俊一
鳥坂寺趾発掘鴟尾に就いて……池田谷久吉
大阪都市計画地域変更に就いて……加藤善吉
民家図集(緑草会発行)に就いて……津田　鑿
国際新建築集、京阪神新建築集(阪神・甲子園ホテル)

●建築と社会(Vol.13No.7)
木造建築の将来号 昭和5年7月1日発行

懸賞募集 住宅室内設備設計図案(1等賞金50円　2等30円)
郷土建築写真分譲(1枚20銭)
口絵　東京日本橋野村ビルディング(写真、図面、工事概要)
木造建築の将来……工学博士　岸田日出刀
木造建築の将来……工学博士　天沼俊一
大工の手より鑿を奪え!……工学博士　田辺平学
木造建築の将来……都島工業学校建築科長　渋谷五郎
木造建築の将来ー揖式より拱式へ、組積法より膠着法へ……東畑謙三
木造礼讃……松室重光
木造建築の将来……林　豪蔵
現時の木造建築所感……酒井勇三郎
木造建築の将来に就いて……今林彦太郎
木造建築の将来……小川安一郎
「集合住宅」に関する懸賞募集……婦人の友社
新興建築への常識……工学士　中尾　保
滅び行く建築風景(2)……旧大阪薬品試験会社本館、大阪初の小学校他
建築の合理化……産業合理化展委員会委員長　徳政金吾
誌上講座　都市・建築・音響(1)……佐藤武夫・中野　勉
国際新建築集、京阪神新建築集(大阪松竹土地建物(株)楽劇部倉庫)
会告　婦人ト住宅ニ関スル展覧会開催(8月26日～31日心斎橋大丸5階)

●学校建築図集(建築と社会Vol.13No.8として臨時号)

●建築と社会(Vol.13No.9)
明日の建築号 昭和5年8月1日発行

口絵　日本生命館新建築懸賞図案(特選・高橋貞太郎、同・出張竜三、同・下山猛、入選・西村好時、同・加崎章、同・第一相互館営繕部有志、同・中村皓一、同・野村安太郎、同・黒川仁三、同・矢部金太郎、選外佳作・千葉元章、同・安田清、同・佐藤三郎・牛尾美佐雄、同・杉原啓一郎、同・鈴木好助・土居和夫)
巻頭言……本野精吾
明日の建築……葛野壮一郎
機械としての建築……工学博士　三浦　壡
特殊より普遍へ一明日の建築……伊藤正文
集団美の表現一明日の都市建築……藤田進一郎
住宅建築への回顧と展望……城戸　久
明日の建築界……中尾　保
正面(ファサード)より内容的考察へ……松成信夫
明日の建築随感……設楽貞三
明日の建築一昨日の建築より……佐藤幹美
明日の建築……南　信
あすの建築……東夷　生
米国人の見た「モダーニズム」とは?
建築請負会社のタイプと現場の管理……竹中工務工務店部　芝田知重
福山城の用材ーアスナロ即ちクサマキに就いて…大須賀　巌
南海地動研究所現況報告
サン・ドミンゴ燈台設計入選案
誌上講座　都市・建築・音響(2)……佐藤武夫・中野　勉
会報　大阪府劇場・寄席・観物場に関する規制改正建議の件他

●建築と社会(Vol.13No.10)
耐震耐火建築普及号 昭和5年9月1日発行

口絵　大礼記念京都美術館建築設計懸賞図案(1等前田健二郎、2等1席雪野元吉、2等2席大久保春忠・黒川仁三、3等1席木村平五郎、3等2席小川治男、佳作畠山喜三郎、同長砂三郎、同相沢珠壺、同桜井博・長坂昇、同森口三郎)
巻頭言……池田　実
耐震耐火建築の普及……工学博士　片岡　安
最近の耐火建築の燃焼性と被害に就いて……日本銀行技師　尾崎久助
商店建築と其の耐震的講法……永田念郎
名古屋都市計画防火地区……中沢誠一郎
伊太利の大地震被害は建物粗悪による……今村明恒
耐震耐火建築の普及……佐藤彰美
耐震耐火構造の普及と木材プロ建築の合理化に就いて……八木幸次郎
百パーセントの都市建築……加藤善吉
鋲接合に代るべき電弧鎔接に就いて……池田宮彦
耐震架構の経済……工学士　福田勇雄
鉄筋の電気鎔接に就いて……都島工業学校建築科実験室　三浦尚史
奉安殿建築の普及に就いて……宮飼克二
震火災保険……建築技師　光安梶之助
新興建築家連盟の成立(7月18日)……新興建築家連盟
九州地方風害地を巡りて…東京工大教授工学博士　田辺平学
時評一束……伊藤正文
建築事務所は何処へ行く……新名種夫
誌上講座　都市・建築・音響(3)……佐藤武史・中野　勉
国際新建築集・京阪神新建築集(大阪市立桃山病院・同工事概要、三十四銀行姫路支店・同上町支店・同工事概要、大日本製薬(株)・同工事概要、泉州観心寺境内恩賜講堂・同工事概要)
「婦人の住宅知識」発行(200頁、定価1円)

●建築と社会(Vol.13No.11)
工場と倉庫号 昭和5年10月1日発行

口絵　本協会主催「婦人と住宅」展覧会写真
軍人会館(九段坂下牛ケ渕)設計図案懸賞募集帝国在郷軍人会
巻頭言……波江悌夫
倉庫建築に就いて……(株)住友倉庫常務取締役　山本五郎
工場と失火一大阪府工場課新内規
倉庫建築とフラット・スラブ……工学博士　内藤多仲
倉庫建築計画一主として荷役設備に就いて……北村勝成
格納庫建築(1)……高橋梅太郎
高層倉庫の実際荷重と仮定荷重……佐野俊三
工場と倉庫の形式美に就いて……伊藤正文
工場倉庫建築私感……柳沢　彰
一般工場建築に就いて……野村一郎
工場建築に就いて……佐藤彰美
紡績工場建築に就いて……能村知二
工場建築の床と屋根……池田宮彦
工場建築は簡単なる単位組織とせよ……秋田喜代治
工場建築の現場施工に就いて……(株)大林組現業部工務監督　中根亀一
建築法規より見たる工場建築……和田甲一
火災に対する工場建築物の安全化(1)……菅野久一
工場と倉庫の防火設備……中島彦六
滅び行く建築風景(3)ー旧大阪の間屋建築ー
建築材料の国産奨励研究資料ー大蔵省・大阪府貿易年表より「婦人と住宅」展覧会概記
地下街の実現一阪神電車の地下商店街計画ー
誌上講座　都市・建築・音響(4)ー佐藤武夫・中野　勉
京阪神新建築集(野田醤油(株)関西工場・同工事概要、(株)宝塚会館・同工事概要、(株)生駒時計店本店・同工事概要

●建築と社会(Vol.13No.12)
銀行と事務所号 昭和5年11月1日発行

口絵　大阪住友ビルディング・同工事概要、東京三信ビルディング
巻頭言……工学博士　片岡　安
欧米の保護金庫に就いて(1)……竹腰健造
米国の銀行建築……増田　清
ウールウォースの凋落前後……村野藤吾
最新のオフィスビル三信……松井貴太郎
事務所建築とその構造……黒田　茂
東京に於ける貸事務所建築の近況……早稲田大学講師　木村幸一郎
構造上から事務所建築のプランを樹てる人々に望む青柳貞世
小貸事務所の経営一大江ビルを実例として……葛野壮一郎
六大都市の地価一建築費と反比例
格納庫建築(2)……高橋梅太郎
火災に対する工場建築物の安全化(2)……菅野久一
建築界の合理化運動……徳政金吾
大都市の建設を見る(1)……松室重光
高速度軌道の今昔……岡崎早太郎
史蹟崇広堂……城戸　久
大金庫の秘密一日銀の魔法設計
誌上講座　都市・建築・音響(5)……佐藤武夫・中野　勉
国際新建築集、京阪神新建築集(大阪中央電気倶楽部、同工事概要)

●建築と社会(Vol.13No.13)
建築工事とその材料号 昭和5年12月1日発行

口絵　名古屋市公会堂、同工事概要
建築材料の回顧……工学博士　中村達太郎
北米合衆国最近十周年間に亘る建築工業の発達概観……故吉井長七・菊池　芳
セメント及漆喰仕上塗料に就いて……大阪工業試験所技師　松本　源
漆喰塗材料に対する一考察……小寺弥一
温室建築と其材料……加藤善吉
出来合木材寸法の統一……中島智喜
第三部(資料)委員会第一分科会調査研究発表(1)……第三部資料委員　大沢幸平
衛生陶器に就いて感想を述ぶ……第三部資料委員　阪井米吉
テラコッタに就いて……ABC生
木材の寸法に就いて……第三部資料委員　須川廉太郎
建築資料の調査に就いて……踏洋　生
大映画街建設一阪急甲山附近に一
欧米の保護金庫に就いて(2)……竹腰健造
作図に依る基礎杭長決定法……太田秀雄
大都市の建設を見る(2)……松室重光
都市の沈下一沖積土上大阪と高層建築一
誌上講座　都市・建築・音響(6)……佐藤武夫・中島　勉

●建築と社会(Vol.14No.1)新年号 昭和6年1月1日発行

会報　大阪都市計画第二次地区指定の件建議(内務大臣宛)、震火災と建築大講演会(昭5.12.10.大阪市中央公会堂、2,000人)他
我建築界の回顧と展望……工学博士　片岡　安
科学的建築へ一豆相大地震を視て……工学博士　田辺平学
住宅と道路一安心のシンボル、転変のシンボル…藤田進一郎
充分と必要……本野精吾
1930年を顧みて……黒田鵬心
興味深い時代……上野伊三郎
動きつつ見る……武羅野陶語
宇治上神社本殿と上代住宅……工学博士　前田松韻
豆相地方大震災視察報告……本会第四部委員会委員　川口一二・落藤藤吉・三浦尚史
豆相震災地巡礼記……神戸高等学校助教授　巽　純一
東京帝室博物館建築設計図案懸賞募集に就いて(1等1万円)
国際新建築集、京阪神新建築集(大阪貯蓄銀行南支店、大阪府社御霊神社社殿、東洋紡績(株)本社、住友ビルヂング、右近商事(株)、大阪貯蓄銀行北支店、同堂島支店、三十四銀行大宮支店、同河原町支店、山口銀行北支店、大阪市桃園第二小学校、神戸市医師会館、大阪市不良住宅アパートメント、浪速教会、大阪南陽演舞場、摩耶倶楽部、大阪工業大学教室、社団法人私立帝塚山高等女学校、兵庫県立神戸病院、小寺邸(ヴォーリズ)、西宮辰馬酒醸造工場、大阪市中央市場、大阪聯合紙器(株)淀川工場)
全日本新建築紹介(東京博物館、同潤会住宅・隣保館、姫路商工会議所、山口銀行呉支店、熊本市公会堂、庁舎生命(株)博多支社、建築会館、門司市庁、常盤生命保険(株)、浜松銀行集会所、沼津郵便局、内務省土木試験所、徳島県庁、三越金沢支店、江商(株)横浜支店、東京劇場、銀座マツダランプ、丸の内第一銀行、学習院中等科教室、柴又帝釈天・題経寺、富岡八幡宮神社、東京海上ビル、日本勧業銀行、ソビエート大使館、満洲日報社、高雄青年会館、高雄郵便局、花蓮港郵便局、東京四谷第三小学校、東京伊東屋、東京電気試験所、京城ゴルフ倶楽部、三越京城支店、加賀ビルディング)

構造の頁

167 鉄骨フープ筋コンクリート合成構造

鈴木敏郎／滝口克己

筆者らは、鉄骨フープ筋コンクリート（ＳＨＣ）構造の開発を行っている。このＳＨＣ構造は、文字通り、鉄骨とコンクリートとフープ筋で構成され、主筋は用いない。これは、鉄筋コンクリート（ＲＣ）および鉄骨構造の特性を踏まえた上で、新たな構造形式として考えられたものである。主筋の付着による曲げせん断ひび割れを生じさせないというのがこの構造を考えた大きな理由の一つである。曲げせん断ひび割れが生ずるか否かは、主筋の有無によるものであり、主筋の量にはほとんど関係しない。したがって、筆者らは、従来の鉄骨鉄筋コンクリート（ＳＲＣ）構造において、主筋の量を限りなく少なくしていったものであるという捉え方はしていない。

このＳＨＣ構造に関して、部材の圧縮、曲げ、圧縮曲げ、曲げせん断、圧縮曲げせん断特性、梁柱接合部パネルのせん断性状、鉄骨梁ＳＨＣ柱接合部の復元力特性、鉄骨が弱軸方向のせん断耐力に及ぼす影響、高張力鋼の利用、高強度コンクリートの利用、等を検討してきた。実験や解析に関する詳細は、たとえば、日本建築学会論文報告集、Nos.345、348、354、391、394等に公表している論文を参照していただくことにして、ここではＳＨＣ構造の概要を述べる。なお、ここで論じるＳＨＣに内蔵される鉄骨は充腹形のＨ形鋼あるいはクロスＨ形鋼とする。

主筋の役割

主筋の役割は、曲げ耐力を大きくすることと、塑性変形履歴によるエネルギー吸収が主である。今、地震時のラーメンの柱を考えることにする。柱は、軸力と繰り返しの曲げせん断を受ける。曲げモーメントの分布は逆対称に近いと考えられる。このような柱の主筋とコンクリートの間に、もし付着がなければ、主筋の応力は定着された区間で一定にならざるを得ないので、曲げ耐力を大きくすること、および履歴エネルギー吸収のどちらも相当大きな制限を受ける。すなわち、主筋に十分な役割を果たさせようとすれば、主筋とコンクリート間の付着を確保せざるを得なくなる。主筋の力が付着によってコンクリートに伝わることによって主筋が有効に働くともいえる。この主筋の付着は、コンクリートに斜めのいわゆる曲げせん断ひび割れを生じさせる原因でもある。

部材端の曲げモーメントが大きい部分で曲げせん断ひび割れが生じるが、この斜めひび割れは、コンクリートがある領域にわたって圧壊するのを早める働きをする。このコンクリートの圧壊が部材の復元力を不安定なものにする。材端で、材軸に直交方向の曲げひび割れのみが生じて斜めひび割れが生じず、コンクリートがごく小さな領域で局部的に圧壊する場合は、周囲の健全なコンクリートによる拘束効果も大きく、見かけ上、コンクリートが相当ダクタイルになる。

主筋を用いない理由

ＲＣとは異なりＳＲＣは断面内に鉄骨を内蔵しているので、主筋の役割を鉄骨に肩替わりさせたらどうであろうか。たとえば、鉄骨のフランジの断面を大きくして主筋の役割を肩替わりさせた場合、曲げ耐力、エネルギー吸収能力を発揮させるために、定着部以外で鉄骨の応力をコンクリートに伝える必要はないので、コンクリートに曲げせん断ひび割れを生じさせず、コンクリートを見かけ上ダクタイルにすることができる。

主筋を用いないとすれば、コンクリート部は単純な圧縮材として考えればよく、力学的に明快に把握しうる。たとえば、地震時の柱を考えた場合、コンクリート部は、柱頭から柱脚へ斜めに圧縮力を伝える役割のみを果たせばよい。特性に欠陥が生じなければ、単純化されるということは一つの進歩である。

主筋を用いなければ、通常のＳＲＣに比較して、現場施工ははるかに簡単である。鉄骨を内蔵した合成構造では、コンクリートを密実に打ち込むことが容易ではないだけに、現場施工の簡単さは重要である。いうまでもなく、とくに梁柱接合部等では、コンクリートが十分にまわり空洞ができにくい鉄骨のディテールにしなければならない。主筋がなければ、内蔵鉄骨の設計の自由度も大きくなる。このように、種々の利点が考えられることから、主筋は用いない方針とした。

フープ筋の効果

ＳＨＣにおけるフープ筋の効果は、コンクリートの変形すなわちひび割れの大きさに対応して、つぎのように考えられる。まず、いわゆるコンファイン効果である。これはフープ筋がその内側のコンクリートの微小ひび割れの進展を拘束する効果と考えてよい。コンクリートが危険断面で局部的に圧壊する場合でも、その部分を拘束する周辺のコンクリートの破壊を遅らせる効果で、見かけ上、コンクリートの圧縮特性をダクタイルなものにする。微小ひび割れの進展を拘束することは、せん断ひび割れのような比較的長いひび割れの発生を遅らせることにもつながる。

つぎは、フープ筋を横切るひび割れの幅が大きくなることを制限する効果である。柱を例にとれば、フープ筋を横切るひび割れにはつぎのようなものがある。圧縮力の流れる対角線方向に生じるひび割れ、鉄骨のフランジに沿って多数生ずる斜めひび割れ、曲げひび割れから進展した斜めひび割れ、圧壊領域に生じる材軸方向のひび割れ、等である。これらのひび割れによって部材の耐力が低下することをフープ筋が防ぐ。フープ筋を横切るひび割れの幅が比較的大きくなってからは、ひび割れによって別々になったコンクリートブロック間で引張り力を伝える。また、フープ筋には、コンクリートを介してであるが、鉄骨の座屈を拘束する効果もある。

相当に粗い表現をすれば、フープ筋はコンクリートの斜めひび割れに起因するブリットルな破壊を遅らせ、部材の最大耐力を大きくする、あるいは、復元力特性を安定したものにするといえよう。

せん断問題と対策

ＳＨＣ部材のせん断の問題は、通常のＳＲＣ部材のそれと比較すれば、はるかに単純である。主筋がないために、ＲＣではり機構あるいはトラス機構と称されているような主筋の付着に関連するせん断力の伝達機構がないからである。柱で考えれば、コンクリート部が圧縮材として斜め圧縮力を柱頭から柱脚へ伝達しうるか否かだけが問題となる。無論、鉄骨のウェブは鉄骨部で負担すべきせん断力は十分伝達しうるものとする。

コンクリート部を斜めに伝わる圧縮力を考えた場合、鉄骨を内蔵しているため、圧縮力は鉄骨をのりこえなければならない。Ｈ形鋼が入っている場合の強軸方向で考えればフランジを、クロスＨ形鋼が入っている場合は直交方向のウェブをのりこえて圧縮力が伝わらなくてはならない。ＳＨＣ部材のせん断問題は、圧縮力が鉄骨をのりこえて斜めに伝わるかどうかの問題になる。たとえば、リブやスタッドボルトのような、鉄骨面とコンクリートの間にせん断力を伝えうる仕組みを設ければ、コンクリートから鉄骨へ、鉄骨からコンクリートへと斜め圧縮力はスムーズに伝達される。鉄骨面とコンクリートの間に十分なせん断力を伝える仕組みがない場合は、鉄骨で分断されていない残りのコンクリート部で斜め圧縮力を伝えなくてはならないので、鉄骨で分断されていないコンクリート部のせん断応力がかなり大きくなり、その部分のせん断強度が不足することがある。このせん断強度の不足を補うのにフープ筋はきわめて有効である。フープ筋で補強が可能であれば、鉄骨面とコンクリート間にせん断力を伝えるための特別な仕組みは不要である。クロスＨ形断面の鉄骨のフランジを柱の外面にかなり近いところまで外側によせても、それほど多くないフープ筋でせん断補強は可能である。

まとめ

ＳＨＣ構造では鉄骨に高張力鋼を用いてその特性を十分に発揮させることが可能である。力学特性、施工性両面から、高強度、高品質コンクリートを用いることが可能である。質の高い構造システムとして、ＳＨＣが広く用いられることを切望している。

このＳＨＣ構造に関しては、㈱日建設計・青柳司博士、㈱日建設計・寺本隆幸博士、東急建設㈱・木村克次氏、住友金属工業㈱・加藤征宏氏らと、長年にわたり検討会を続けてきている。上記の検討会の方々に深甚なる感謝の意を表したい。

（すずき　としろう　東京工業大学建築学科教授
たきぐち　かつき　同上）

設備の頁

169
電磁シールドビル

矢花　吉治

建物に絡む電磁シールド（以下「シールド」と呼ぶ）を考えると、大きくは、①シールドルーム、②電波暗室、③シールドビルに分類できる。

①のシールドルームは、精密な電気的計測を行う際に測定誤差となる屋外の電磁波ノイズが計測室に侵入しないように遮蔽するもので、一般に60dB（パワーレベルで10^{-6}に減衰させる）以上の高い遮蔽能力をもつ。②の電波暗室は、近年規制の厳しくなったＥＭＩ対策（電磁波妨害対策）として、パソコン、ＯＡ機器などの電子機器が発生する電磁波をメーカとして事前に計測・評価したり、電子機器自身の電磁波ノイズに対する耐力を評価することを目的として建設される電波的な暗室で、一般的に、外界との電磁波遮蔽能力90dB（前記同10^{-9}に減衰）以上と、きわめて高い能力を有する。③のシールドビルは、最近開発された技術で、窓のある一般の建物に30dB（前記同10^{-3}に減衰）程度の遮蔽を施し、建物の内部の電子機器の誤動作防止とコードレスオフィスに対する電波干渉の防止を目的とする（**写真－１**）。



写真－１　日本初の電磁シールドビル「肥後橋シミズビル」

本稿では、シールドビルに関し解説する。

出現の背景

出現の背景は、以下の２点に要約される。

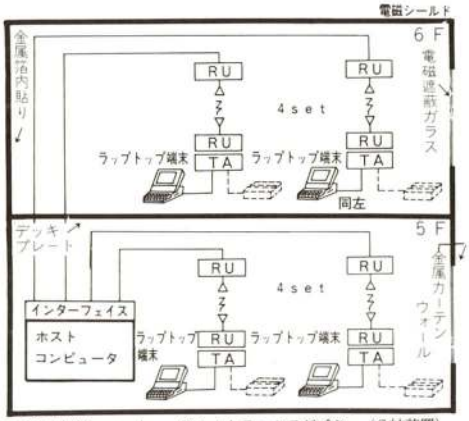
電磁波障害の除去　最近、パソコンが狂った、精密機械が誤った動きをした、と言った話をよく聞く。郵政省の昭和62年版通信白書では、「マイクロエレクトロニクスの技術の進展に伴い、……（一部省略）……不要電波による様々な障害が発生するようになっており、なんらかの抜本的対策が要請される」と述べ、いくつかの電磁波障害の具体的事例をのせている。このような社会の動きを考えると、高度な電子機器を有する建物は、自ら電磁波の影響を遮蔽する必要があると言える。そして、これを環境を損なわずに窓のある建物で実現したのが「シールドビル」である（**写真－２**）。



写真－２　窓のある明るい電磁遮蔽空間を創造

無線電波干渉の防止　家庭や自動車にコードレス電話が普及したように、近い将来、オフィスにコードレス電話が普及してくることは、容易に予想できる。コードレス電話は一度使ってしまうと、便利さからなかなか手放せなくなり、年々普及の度を増している。西暦2,000年には電話の約10%の700万台がコードレス電話になると予想されているが、昨年１年間で90万台のコードレス電話が販売されており、予想を上回る普及になりそうである。

このコードレス化がオフィスに適用されたとき、とくに市街地では電波の干渉が問題となる。市街地で１台のコードレス電話を使用すると周囲の電話機１万5000台がその周波数を使用できなくなる。すなわち、許容される周波数（昭和62年の改正で87チャンネル）を１万5000台の電話が奪いあうこととなり、正常な運用が期待できない。同様のことが無線データ伝送にも言え、市街地の建物におけるコードレス化の普及のためには、周波数の有効活用は必須の課題と言える。この課題に対して建物のシールドは電波の相互干渉を防止し、周波数の再利用を可能とする有効な手段を提供する。**図－１**に、電磁シールドを伴う、無線通信システムの構成を示す。



RU：無線ユニット　　TA：トランクアダプター（分岐装置）

図－１　電磁シールドを伴う無線通信システム

シールドビルのしくみ

図－２に、シールドビルの概念を示す。壁、窓、屋根、床など周囲六面を、金属のような電気をよく通す電磁遮蔽材で包み込み、外部の電磁波を建物内に入れない、内部の電磁波を外部に出さない環境をつくる。目に見えない、またちょっとした穴からもぐりこむ（建築分野で扱う対象としては「音」に似た性質）電磁波を執務環境条件を損なわずに、確実に、経済的に遮蔽するのは大変難しいことで、壁と床・天井などの面と面との接合部、窓回り、設備貫通部に工夫や新素材の開発を行った。



図－２　シールドビルシステムの概念

シールドビルの効果

効果を挙げると、つぎの６点となる。

①不要電波の大きな（電磁波環境の悪い）場所でも、コンピュータセンタの建設が可能。

②電子計算機やオフィスコンピュータなどの高性能な電子機器の誤動作防止。

③不要電波を建物外に出さないので、近隣に電波障害を与えない。

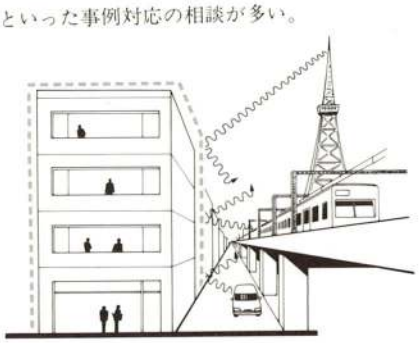
④盗聴防止に役立つ。

⑤建物の周囲の無線通信との電波干渉を防止し、無線周波数の有効利用が可能。（20～30dBの遮蔽で数十倍～百倍の周波数有効活用ができる）

⑥無線通信の伝送品質の向上。遮蔽を施すことにより、無線通信に対する都市ノイズの影響を弱めることができ、伝送品質が向上する。

シールドビルの適用

適用条件を**図－３**に示した。適用が予想される場を「こんなケースに」まとめたが、共通して言えることは、近隣に電磁波のノイズ源や電波の干渉源があって電磁環境が悪いことである。最近、道路の傍らの建物でトラックの無線によって電子機器が被害を受ける事例や電波塔に近く、いわゆる強電界地域においてコンピュータが誤動作するといった事例対応の相談が多い。



こんなケースに
- 電波塔や高圧線、鉄道に近接し、電磁波障害が起こりやすい。
- 都心部にあるため近接のビルのＯＡ機器や無線電話等の不要電波をうけやすい。
- 建物内の機器からの不要電波により、近隣のテレビなどに電波障害をおこしやすい。

こんな施設に
- インテリジェントビル
- コンピュータセンタ
- 研究施設、実験施設
- 病院
- 放送局
- ＦＡ工場など

図－３　シールドビルの適用条件

また、建物用途を「こんな施設に」最適という表現でまとめたが、共通して言えることは、建物内部にコンピュータ、医療機器、放送機器などの高性能な電子機器を設置している点にある。近年、コンピュータセンタを建設するオーナや設計者は、電磁波環境に対して十分に配慮している。

（やはな　よしじ
清水建設株式会社設計本部高度情報化システム開発室）

施工材料の頁

166 新しいタイプのフッ素樹脂系塗料

松井　明

近年、建物の耐久性向上を求める声が強くなってきた。外装材分野においても超耐候性を売り物にした常乾型フッ素樹脂系塗料が登場した。塗料メーカー各社が競ってフッ素樹脂系塗料を上市し、徐々に実績も増えてきている。ところが、フッ素樹脂系塗料の光沢保持性など、耐候性は優れていることが実証されているものの、耐汚染性が意外に悪く、建物の美観保持の面から耐汚染問題が新しい課題としてクローズアップされてきた。

NAD型フッ素樹脂系塗料とは

フッ素樹脂の特長を損なうことなく、その欠点を改良する方法として、関西ペイントは、樹脂をNADすることに着眼した。NADとは、Non Aqueous Dispersionの略であり、非水ディスパージョンといわれるものである。

永年にわたり蓄積されたNAD技術の応用により、従来型フッ素樹脂系塗料の諸問題が大幅に向上した(表—1)。当社はNAD型フッ素樹脂系塗料を「アレスフロン」と命名し、上市を開始した。

NAD型フッ素樹脂系塗料の特長

NAD型にすることによる特長のいくつかを、以下に概説する。

超耐候性　フッ素樹脂の最大特長である超耐候性は、そのまま保持されている（図—1）。また、耐候性を支える要素の一つである表面エネルギーも従来型フッ素樹脂系同様小さい。水の接触角によるデータを図—2に示す。

耐汚染性　アレスフロン白エナメルの屋外バクロ後の汚れの程度を図—3に示す。アレスフロンは、従来型フッ素樹脂系塗料に比べて汚染の程度が著しく低く、かつ洗浄により除去が容易である。この汚染問題が、従来型フッ素樹脂系塗料の最大のアキレス腱である。アレスフロンの汚染防止の大きな要因は、塗膜表面の帯電特性にある（表—2、図—4）。すなわち、アレスフロンは従来型に比べて半減期が極端に小さい。したがって大気中の塵埃が表面に付着しにくく、このことが汚れにくさのポイントとなっている。

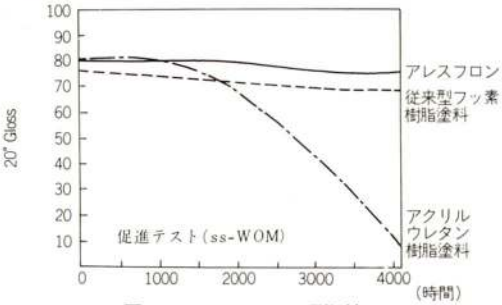
乾燥・硬化性　NADの造膜の一つの特長は、初期の乾燥・硬化が早いことにある。このことは粒子の融着という造膜メカニズムから容易に推察されよう。乾燥の早さは初期性能の発現という面から現実の施工面でのプラスが多い。

塗液の粘性特性　NAD型の特長は、残留粘度が小さく降伏応力が大きいことにある。このことは塗装する上において塗装作業性が良く、タレ難いという施工上のメリットを生んでくれる。図—5に、アレスフロンの粘性特性を示す。

表—1　NAD型フッ素樹脂塗料の従来型との比較

		NAD型	従来型	評価方法・データ
反応タイプ		ポリオール～イソシアネート架橋	ポリオール～イソシアネート架橋	
耐久性	耐候性	◎	◎	屋外バクロ 促進バクロ(SS-WOM)
	表面特性	◎	◎	接触角(撥水性)
	耐汚染性	◎	◬	実際バクロ 静電特性
	紫外線遮蔽効果	◎	○	吸光光度計
	酸素遮断性	◎	○	ガス透過試験器
作業性	塗装作業性	◎	○	粘度特性 (降伏値、残留粘度)
	乾燥性(初期)	◎	○	FDOM
	塗り重ねチヂミ	◎	◬	ゲル分率 溶剤膨潤性
物性	伸び	◎	○	テンシロン
	粘弾性			バイブロン
	硬度	◎	○	ツーコン硬度

評価：◎(優)→○(秀)→◬(良)→△(不良)

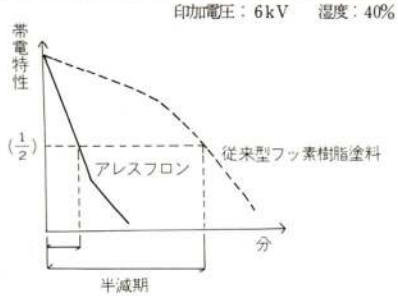


図—1　アレスフロンの耐候性

表—2　アレスフロン帯電特性

	アレスフロン		従来型フッ素樹脂塗料	
印加電荷	＋	－	＋	－
誘起電圧(mV)	1.10	1.55	1.75	2.25
半減期(分)	1.1	1.5	85	80

印加電圧：6kV　湿度：40%



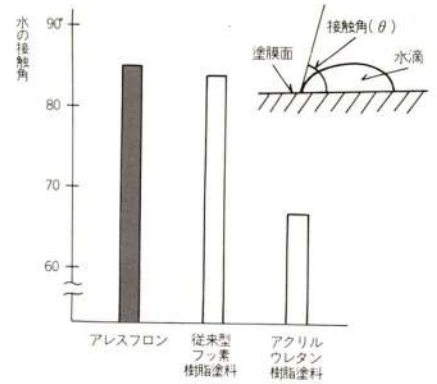
図—4　アレスフロンの半減期

表—3　アレスフロンの塗装仕様例

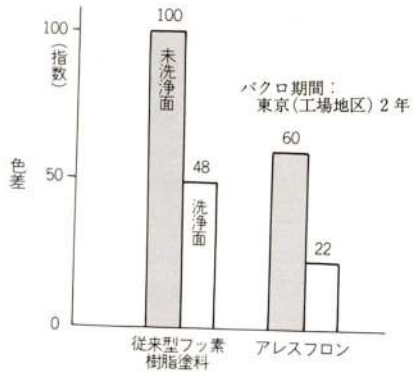
工程		塗料および処置	希釈率(%)	塗装回数	塗付量(kg/m²/回)	塗装間隔(20℃)
1	素地調整	エフロ・レイタンス・ゴミ・汚れなどは、ワイヤーブラシ・サンドペーパー・ウエスを使用して除去し、乾燥した清浄な面にする。(pH9.5以下、含水率8％以下とする)				
2	下塗	マルチタイルコンクリートプライマーEPO マルチタイル下地用シンナー	100 0～10	1	0.18	4H以上 7日以内
3	中塗(ベース塗)	アレスゴムタイルラフ 上水	100 6～10	1	1.0～1.2	4H以上
4	中塗(パターン塗)	アレスゴムタイルラフ 上水	100 4～6	1	1.0～1.2	16H以上
5	上塗	アレスフロン アレスフロンシンナー	100 5～10	2	0.18	16H以上 7日以内

アレスフロンの塗装仕様例

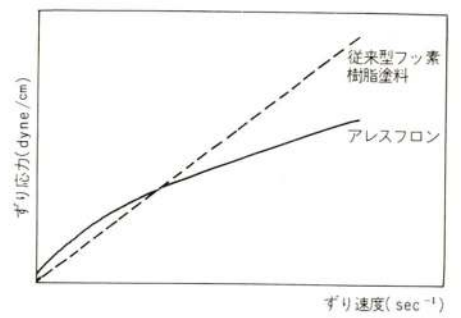
アレスフロンは各種素材、仕上テキスチャーなどに応じていろいろな塗装仕様を組むことができる。表—3に、モルタル面（弾性仕上）の仕様を示す。



図—2　アレスフロンの水による接触角



図—3　アレスフロン、白エナメルの屋外バクロ後の汚れ



	タレ難さ(降伏応力)	ハケの軽さ(残留粘度)
アレスフロン	39dyne/cm	6poise
従来型フッ素樹脂塗料	9dyne/cm	33poise

図—5　アレスフロンの粘性特性

あとがき

アレスフロンは、従来にないNAD型フッ素樹脂系塗料として一つのエポックを画す材料であるとわれわれは考えている。しかしながら、世の中の進歩は留まるところを知らず、われわれも新しいものへの挑戦を続けていきたいと考えている。

（まつい　あきら　関西ペイント株式会社尼崎工場
建設塗料技術部大阪第2課課長）

大阪市中央公会堂の保存、再生へ

朝日新聞社が国民環境基金を設置──

朝日新聞社では、「朝日新聞」創刊110周年を記念して、大阪・中之島の大阪市中央公会堂の保存・再生のナショナル・トラスト（国民環境基金）を設置した。これは、大阪市民の心のよりどころともいえる赤レンガ造の名建築、中央公会堂の老朽化が目立ち、一日も早い修理の必要が生じているため、こうした社会的、文化的遺産を守ろうという趣旨を理解した個人、企業などから広く募金をつのり、保全の費用にあてようとするものである。

中央公会堂は、明治45年に行なわれた設計コンペによって、基本設計は岡田信一郎氏の案が採用され、実施設計は、辰野・片岡建築事務所が担当、大正２年に着工、大正７年に竣工した。

現存する大正期の赤レンガ造の建築としては、東京駅、名古屋の旧高等裁判所と並ぶ有数の建築で、明治末期から大正初期のわが国の建築文化を代表するものといえる。

中央公会堂の建築様式は、ネオ・ルネッサンス式、あるいはネオ・バロック式とよばれ、18世紀のヨーロッパの建築様式にデザインの根源を求めたもの。

意匠の特徴として、正面の４本のジャイアント・オーダー（２層分を貫く大きな柱）で支持される大アーチでダイナミックな構成がされ、そのアーチ状の屋根は、旧貴賓室のヴォールト天井へと連なり、建築の中心となっている。また、ピラスター（装飾的付柱）、アーキトレーブ（窓回りを飾る枠）などのクラシカル・モチーフがバランスよく配置されている。

そして、柱頭デザインやステンドグラスの図案には、世紀末的デザインの傾向がのぞいた意匠、あるいは特別室の壁面、天井を飾る「天地開闢」と題する著名な壁画にみられる東洋的な意匠も特色を添えている。

このように、大正期の名建築といわれる中央公会堂は、大阪・北浜の株仲買人で、当時、株の世界の風雲児とも称された岩本栄之助氏が渡米した折、アメリカの近代都市をみて回り、公会堂など市民のための公共施設が完備しているのに感動、帰国後、大阪市に公会堂建設のための寄付を申し出たことから誕生した。

中央公会堂の保存・再生への動きについて、識者・建築家はつぎのように述べている。

「演劇、音楽の施設として、若者に開放、あわせて大阪の歴史が一覧できる史料室、動態展示室を設置する」（佐治敬三・大阪商工会議所会頭）

「保存・再生は、その積極的な再利用計画によって、建築と周辺環境を活性化させる。ただし、中央公会堂の貴賓室などのインテリアは素晴しい文化遺産なので、しっかりと旧状に復して保存してほしい」（村松貞次郎・法政大学教授）



朝日新聞社提供

「市民にアイデンティティをもたせるように、半分を公営の結婚式場に」（木津川計・立命館大学教授）

「中之島は、大阪の機能軸、文化軸の中心、公会堂は志のこもっている現在では数少ない感動する建物」（安藤忠雄・建築家）

こうした名建築の保存と再生の動きの中で、たんなる保全の運動に終らず、文化と景観を守り、地域を愛そうとする市民意識の昂まりが、市民の連帯感を育て、大阪ひいては、関西の活性化につながるといってもいいすぎではないだろう。

参考引用記事

※朝日新聞　1989年１月25日朝刊「動き出す中之島公会堂再生」

※朝日新聞　1989年２月16日夕刊「再生で遺す街の記憶」村松貞次郎（法政大学教授）

※　同上　1989年２月17日夕刊「都市の記憶──再生に向かう大阪市中央公会堂」山形政昭（大阪芸術大学講師）

＊　＊　＊

この件についてのお問い合わせは下記まで。

朝日新聞社大阪本社

〒530　大阪市北区中之島３－２－４

TEL　06－231－0131（代表）

※基金の詳細については、３月中に発表予定。募金スタートは４月からの予定。

「二色の浜集合住宅コンペ」の最優秀作は「にしき環境創造体」の作品に決定

大阪府貝塚市・二色の浜パークタウンの一部を対象に、「良好な景観形成」「海浜部における魅力ある集合住宅」「21世紀へ向けての都市住宅のあり方」を計画目標に掲げ、質の高い住宅地の形成を実現しようとする事業は、コンペ方式をとり、昨年11月に応募を締め切ったところ、12点の応募があった。

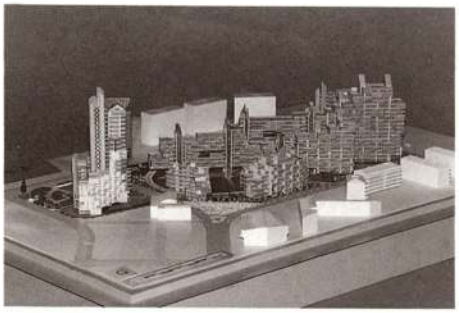
審査委員会（委員長・高橋靚一大阪芸術大学教授ら7名）の審査を経て、下記の最優秀作および特別賞の作品が決定し、1月27日に発表された。

最優秀作品提案者「にしき環境創造体」は、大阪府企業局から土地を借り受け、提案内容に基づいて住宅およびその他の施設を建設し、建物等は最優秀作品の提案者が、また土地は大阪府が分譲することとなる。

●最優秀作品（1点）「にしき環境創造体」

代表企業
住友信託銀行㈱
参加企業
南海不動産㈱
アーバンライフ㈱
水間鉄道㈱
㈱プラネットワーク
㈱中島龍彦建築事務所
㈱昭和設計
南海電気鉄道㈱
清水建設㈱大阪支店
㈱長谷工コーポレーション
水鉄建設㈱
アーバンライフ販売㈱
㈱長谷工アーベスト

選評（抜萃）――南面する低層部とその北側住棟に挟まれた共有広場をA地区まで延長し、ウォーターフロント、インナーコート、シンボル広場といった経路の中にさまざまな情景を展開しようと試みている。これらを囲む一団の住棟計画は外部に対して硬質な表情をもつ半面、各住戸にさまざまな変化を与え、広い範囲への適応を考えている。こうした配慮は関西国際空港の完成後に予測される多様な変化にも十分な適応性をもつものであろう。



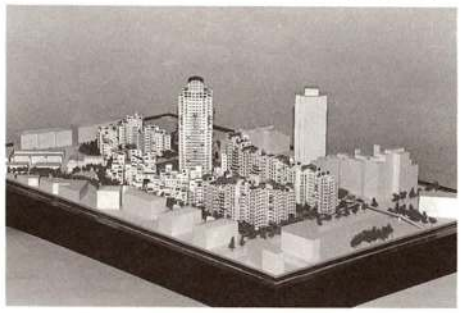


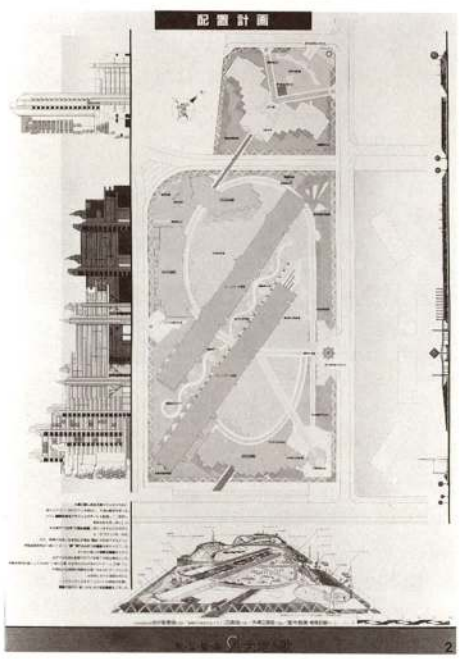
●特別賞（1点）「積水ハウスグループ」

代表企業　積水ハウス㈱
参加企業　出江寛建築事務所

選評（抜萃）――きわめてユニークな発想のもとに展開された作品の現実的適合性については極端な賛否に分かれたものの、その作品を一貫して貫ぬくデザイン思想とその迫力は高く評価すべきものである。これに対しては審査員および主催者からの敬意として特別賞を贈ることで全員一致を見た。

提案概要―敷地中央南北軸には高層の長大棟2棟を配し、4層吹き抜けのピロティ等により日照確保に努め、一部分に無梁版構造を採用して住戸内のフリーな間取りを可能にしている。共用部分にはサーフボードストックルームや親子アトリエなど、余暇の暮らしに対応した提案が見られる。





'89デザインイヤーフォーラム「名古屋」の開催

今年の10月18日から23日までの6日間、名古屋において、世界各国のデザイナーを迎え、'89世界デザイン会議が、またこれと呼応して、'89世界デザイン博が開かれる。

これに先だち、4月1日には、'89デザインイヤーフォーラム「名古屋」を開催することになり、参加者を募っている。参加は有料。

この主催は、中部デザイン団体協議会（日本建築協会東海支部はこの構成団体）、世界デザイン会議運営会、JIDC 5th 実行委員会の3会である。

(1)　5thデザインシンポジウム中部
テーマ　ひと・もの・まち
と　き　平成元年4月1日(土)10：00～16：45
ところ　名古屋市内6コース（各コース30名）
内　容　都市景観、サイン、看板、街並み、建物など、都市を構成するさまざまな要素をデザインという視点からとらえ、6コースに分かれデザインクルージングを行い、美しさの再発見とデザインの提言を行う。

(2)　JIDC 5th デザインフォーラム名古屋
テーマ　世界デザイン会議 ICSID'89 NAGOYA に向かって
と　き　平成元年4月1日(土) 9：30～14：00
ところ　愛知県産業貿易館西館10F大会議場
講　師　鈴木博之（東京大学助教授）ほか
内　容　パネルディスカッション（東京、大阪、金沢で同時開催し、結ぶ通信会議）
定　員　180名

(3)　デザインイヤー記念講演会
テーマ　'89デザインイヤーと90年代の生活文化について
と　き　平成元年4月1日(土) 14：00～15：00
ところ　愛知県産業貿易館西館10F大会議場
講　師　豊口　協（東京造形大学学長）
定　員　300名

詳細の問い合わせは日本建築協会東海支部（☎052－261－1451）へ。

景観シンポジウム開催される

「21世紀を目指した京都の景観の保全と創造」をテーマに、シンポジウムが京都市の主催で、京都会館会議場で下記のように開催された。

と　き　1989年3月25日(土)午後1時半～5時
内　容　「京都市景観整備ローカルプラン調査報告」およびパネルディスカッション
- ●コーディネーター：大西國太郎（京都芸術短大教授）
- ●パネラー：河辺聡（京都工繊大教授）小林正美（京都大講師）、山崎正史（京都大助手）、吉村元男（環境事業計画研究所所長）、小山選一（京都市計画局都市計画部長）

日本建築協会

月間の動き

平成元年１月分

理　事　会

常任理事会
25日　4時～5時　於本会会議室
出席者　佐野会長ほか12名
議事　(1)定時評議員会開催の件
(2)借入金一部償還の件
(3)第11回情報・システム・利用・技術シンポジウム後援の件
(4)入退会者承認の件
(5)報告事項

編　集　委　員　会

第10回会員企画小委員会
10日　6時～8時45分　於本会会議室
出席者　高田副委員長ほか8名
議事　(1)小委員会の活動内容(報告と今後の企画)
(2)新しい企画について

第10回作品作風小委員会
11日　5時～7時半　於本会会議室
出席者　荒川委員ほか4名
議事　(1)最近の掲載状況・予定の報告
(2)「新建築調査表」の作品選定
(3)「Gallery」内容報告と今後の検討
(4)その他

第９回施工材料分科会
11日　3時～8時　於本会会議室
出席者　松村幹事ほか3名
議事　(1)4月号「省力化」特集の企画
(2)「施工材料の頁」の企画

第10回編集委員会
12日　4時～6時　於本会会議室
出席者　長谷部委員長ほか5名
議事　(1)2月号「リゾート」特集経過報告
「竹中工務店創立90周年記念」特集経過報告
(2)3月号「色の復権」特集経過報告
「東海」特集経過報告
(3)4月号「施工材料」特集の企画
(4)5月号「まちづくりと法」特集の企画
(5)6月号「建築とアート」特集の企画
(6)本年の表紙デザインの報告
(7)収支の修正と状況報告

第７回計画系分科ーインテリア・住宅系ー
12日　6時半～8時半　於本会会議室
出席者　加藤力幹事ほか5名
議事　平成元年3月号「色の復権」特集案検討

第11回計画系分科会ー建築系ー
17日　6時半～9時　於本会会議室
出席者　加藤晃規幹事ほか6名
議事　平成元年9月号「建築とアート」特集案検討

第６回設備分科会
24日　6時～8時半　於本会会議室
出席者　安倍幹事ほか3名
議事　(1)「都市環境創造と設備」特集の見直し
(2)「設備の頁」の企画

第10回広告企画小委員会
24日　4時～6時半　於本会会議室
出席者　長谷部委員長ほか6名
議事　(1)2月号「リゾート」・「竹中工務店創立90周年記念」特集広告収入報告
(2)3月号「色の復権」・「東海支部」特集広告途中経過報告
(3)収支状況報告
(4)平成元年度予算案検討

第10回施工材料分科会＋第６回構造分科会
26日　4時～8時　於本会会議室
出席者　松村・外園両幹事ほか6名
議事　4月号施工材料特集「省力化のための材料・工法」特集の再構築

第11回会員企画小委員会
31日　6時～7時半　於本会会議室
出席者　高田副委員長ほか12名
議事　(1)「建築と社会」の掲載内容（報告と今後の企画）について
(2)新しい企画について

事　業　委　員　会

第６回若い会員の集い小委員会
10日　6時半～8時半　於本会会議室
出席者　宮野副委員長ほか11名
議事　(1)前回事業委員会の報告
(2)「みどり学習会」実施報告
(3)「活動企画グループ」について

第６回広報小委員会
11日　6時～8時　於本会会議室
出席者　原見副委員長ほか12名
議事　(1)研修分科会からの報告と今後の企画
(2)教室分科会からの報告と今後の企画

第６回見学会小委員会
12日　6時～7時　於本会会議室
出席者　伊東副委員長ほか8名
議事　(1)前回事業委員会の報告
(2)11月の見学会の報告
(3)1989年1月以降の見学会の予定
(4)担当委員について
(5)本小委員会の委員構成について

第７回事業委員会
19日　1時40分～3時　於本会会議室
出席者　西村委員長ほか5名
議事　各小委員会からの報告

第４回研修分科会
30日　6時～8時　於本会会議室
出席者　原見副委員長ほか5名
議事　「今、なぜ200Vなのか」参加申込状況の報告と今後の検討

教　育　委　員　会

第６回講習会小委員会
19日　6時～7時　於本会会議室
ゲスト　安立俊夫氏（大林組）
中山雅博氏（竹中工務店）
出席者　金田副委員長ほか6名
議事　(1)本年度建築工事実務講習会（大阪開催）の実施報告
(2)本年度建築工事実務講習会（広島開催）について

建　材　委　員　会

18日　3時半～5時半　於本会会議室
出席者　金井委員長ほか14名
材料説明：フルタイムロッカー／中田委員
議事：今後の検討建材
委員交代期を迎えて現委員の就任年度を確認して次回委員会に提出する新旧委員の紹介。慰労をかねて4月定例会終了後、懇親会を催す。新建材紹介コーナーのより一層の充実。拡充を図るためＰＲを強化する。

出　版　委　員　会

24日　5時～6時　於本会会議室
出席者　須賀委員長ほか7名
議事　(1)〈プロのノウハウ〉と特装本の経過報告
(2)今後のテーマと執筆者選定について
(3)〈プロのノウハウ〉講演会について

建　築　ク　ラ　ブ

新年会
10日　6時～7時　於大阪グランドホテル
出席者　56名

需要者参加型住宅供給研究会

28日　9時半～12時　於本会会議室
出席者　巽委員長ほか16名
議事　(1)春宮居住者アンケート単純集計結果報告
(2)報告書構成素案の検討
(3)自由討論

１月の入会者(敬称略)

〔団体会員２社〕
大可建設㈱　　東海興業㈱広島支店
〔個人会員〕
奥田美喜（野村建設工業）　小西吉太郎（小西建築設計事務所）　小林孝一（近畿日本鉄道）
斉藤英世（斉藤建設工業）　竹下義登（鴻池組山陰支店）　戸田悠二（藤木工務店）
山崎正史（京都大学）

◀会員の訃報
田中　　順(50)　1月31日死亡

仕上工事監理のチェックポイント

◆日建設計大阪監理部「監理業務研究会」著

今日まで明確にされなかった仕上工事監理の基本を詳述し，執筆者陣の豊富な知識と経験に基づく厳選された技術情報を提供．最適な仕上工事施工のためのチェックポイントを97項目にわたり簡潔に見開きで構成．今までの過ちをくり返さないための決定版．

主要目次

1 〈石・タイル・左官〉 26項目
2 〈屋根・金属・建具・ガラス〉 21項目
3 〈木材・塗装・内装〉 30項目
4 〈組積・防水・外構〉 20項目

プロのノウハウ 四六判・2色刷・224頁・定価2000円◆

企画／日本建築協会

〒600 京都市下京区木津屋橋通西洞院東入
☎ 075-343-0811 振替／京都 0-26789

(株)学芸出版社

日常業務のなかで起こる労働災害の実状を把握し，現状を踏まえたうえで，災害を誘発させる原因を明確に分析し，今後の安全衛生管理はどのようにあるべきかを詳述．実践的なゼロ災運動にとりくむための理念（心がまえ）と手法を豊富な経験に培われた視点で丁寧に説く．

プロのノウハウ 四六判・240頁・定価1600円

表 一郎（株式会社松村組 安全衛生部長）著

ゼロ災への道

建設現場の安全管理活動

目次

1 ゼロ災への旅
2 労働災害の現況
3 労働災害防止対策の推進
4 わが国と米国の安全
5 ゼロ災への道
6 ヒューマン・エラー事故防止
7 信じられない災害を探る
8 安全のこころ
9 職場の人間関係管理
10 安全担当者のあゆむ道

企画／日本建築協会

〒600 京都市下京区木津屋橋通西洞院東入
☎075-343-0811 振替／京都 0-26789

(株)学芸出版社

新刊案内：全国書店で好評発売中！

〈建築技術〉別冊Vol. 1
★サウンド・アメニティの設計技術A to Z★
住宅の防音と調音のすべて
監修 久我新一 A 4 判 256頁 ¥2,400

耐久性向上を目指す建築実務者のために
鉄筋コンクリート工事の基本と実務
監修・加賀秀治 B 5 判 232頁 ¥3,800

専門技術者のための
建築構造問題快答集 11巻
各分野の権威が日常業務の中の数々の疑問にQ＆A形式で回答する設計者必携の実用書
監修・石黒徳衛 A 5 判 339頁 ¥3,800

建築技術者のための
保有水平耐力入門 上
精算法へのアプローチ！
星 睦廣 著 B 6 判 128頁 ¥1,300

株式会社 建築技術
〒151 東京都渋谷区幡ヶ谷1-1-2 福西ビル
TEL.03(5371)3811 FAX.03(5371)8282

建築技術者必携の専門誌 建築技術 4月号
3月18日 全国書店で一斉発売
定価 1,200円

●特集●
［ハイテク時代の建築材料］
アイデア次第では、思いもかけぬことが可能となる…！
◆新材料開発と現状展望、実用化の例を紹介します。

Ⅰ．金属系材料
- TMCP鋼
- 磁気および電磁波遮蔽パネル
- 制振鋼板

Ⅱ．セラミック系
- 人工木材
- 炭素繊維補強モルタル
- 調光ガラス
- ケイカル系調湿材料
- セラミック系大型外装材
- 3D-FRC
- NFM（ニューファイバーメッシュ）

Ⅲ．高分子系材料
- 改質木材
- 高耐久性塗料
- 石綿代替繊維……etc.

●NTT連載記事● 建築技術者のための建築設備講座
建築と設備の接点をITビルに探る
第5回 建築設備のモダニゼーション
◆モダニゼーションの背景・目的・計画の要点・計画作成の手順・基礎知識／電気設備、衛生設備、空調設備

空気調和・給排水・衛生・防災設備　設計・施工

株式会社 朝日工業社

本　社　東京都港区浜松町1-25-7　電話（434）6171（大代）
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59　電話（302）2271（代）
支　店　北海道・東北・名古屋・中国・九州
営業所　釧路・函館・盛岡・横浜・静岡・京都・神戸

商品は空気です。



熱と空気のエンジニア
株式会社

大気社

●営業種目
空気調和設備　給排水衛生設備　建築設備　公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京本店　東京都新宿区西新宿2-6-1　☎03－344－1851 大代　大阪本社 ☎06－448－3603 代
大阪支社 ☎06－448－5851 代　名古屋支店 ☎052－211－1535 代　中国支店 ☎082－247－5541
九州支店 ☎092－431－2147 代　営業所：北関東・横浜・神戸・京都・岡山・四国

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設　計　施　工

ダイダン株式会社

本店・大阪本社　〒550 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　電話(06)441-8231
東京本社　〒104 東京都中央区銀座2丁目2番17号　電話(03)535-5251
支　社　名古屋・福岡
支　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・神戸・天理・岡山・広島・高松・熊本
営業所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・京都・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出張所　旭川・福島・松江・徳島・長崎・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン・スリランカ
技術研究所　〒354 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地　電話(0492)58-1511

空気調和　搬送機設備
給排水衛生　設計施工

人に優しい環境づくり

第一工業株式会社

大阪支店　〒530 大阪市北区西天満3丁目6番14号
電話　06－364－6661（代表）
本　社　〒100 東京都千代田区丸の内3丁目3番1号
電話　03－211－8511（代表）

空気調和設備　産業設備
給排水設備　水処理施設
電気設備　環境施設

三機工業株式会社

取締役社長　白谷清二
取締役大阪支店長　堀　亀久治

大阪支店　大阪市中央区北浜2-2-21　電話06(202)3071(代表)
本　店　東京都千代田区有楽町1-4-1　電話03(502)6111(大代)
支　店　名古屋・九州・北海道・中国・東北・北陸・四国

MODAIR　空気調和設備　換気・除塵設備　設計施工

東洋熱工業株式会社 大阪支店

大阪市西区靱本町3－1－27　TEL(443) 8071
本　社　東京都中央区京橋2丁目9　TEL(562) 1351
支　店　名古屋・福岡

空気調和設備
衛生設備　設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町3番5号　電話(352) 1131代
本　社　東京都中央区日本橋蠣殻町2－22　電話(667) 3431(大代)
支　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

ガス設備の設計・施工のご相談は
大阪ガス指定工事会社・大阪ガス住設機器特約店

大晃設備株式会社

本　社
大阪営業所　大阪市北区西天満5-11-12　電 06－313－1846
枚方営業所　枚方市甲斐田東町9－3　電0720－49－2128

空気調和・衛生設備・設計施工

株式会社 三晃空調

本　社　大阪市中央区城見2丁目1番61号ツイン21MIDタワー　電話 06－949－1371
東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話 03－344－7911
大阪本店　大阪市北区西天満4丁目6番18号　電話 06－363－1371
支　店　仙台市青葉区大町2丁目2番10号　電話022－261－3002
名古屋市中村区名駅南2丁目14番19号　電話052－581－8571
広島市中区紙屋町1丁目2番22号　電話082－247－4535
福岡市中央区大名2丁目4番22号　電話092－761－3795
営業所　札幌・横浜・京都・神戸・松江
出張所　青森・秋田・盛岡・宇都宮・大宮・千葉・川崎・富山・福井・和歌山・鳥取・岡山・高松・下関・熊本・鹿児島・沖縄

給・排水・衛生・消火・暖冷房設備

株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市北区中津6丁目8番4号　電話大阪(458) 3628番
支店・営業所　福岡・京都・天理・川西・神戸

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む

株式会社精研

本　社　大阪市中央区瓦屋町2丁目11番16号（オートセンタービル1,2階）
郵便番号542　電話 大阪(06) 768－5031代表
メンテナンス部　電話 大阪（06）768－1651代表
東京支店　東京都千代田区九段南2丁目2番5号（九段ビル2～4階）
郵便番号102　電話 東京(03) 262－3241代表

技術と信頼で人と企業に貢献する

青葉印刷株式会社

代表取締役社長　依藤孝蔵

〒534 大阪市都島区中野町2丁目10番11号　TEL(06)351－5428(代)
FAX(06)351－5299

空調・衛生・防災設備　設計並施工

日本管工業株式会社

本社及京都支店　京都市南区西九条豊田町20番地の1
電話(681) 5101～5・夜間専用(691) 1045
大阪支店　大阪市北区天満1-5-20　電話(06)352—3501(代)
三重支店　津市栄町2—111　電話(0592)26—3610(代)
四日市営業所　四日市市西末広町　電話(0593)53—7431(代)
滋賀営業所　大津市中央2丁目4-28　電話(0775)22—9738(代)

Carrier

冷暖房はキャリア
CARRIER

東洋キャリア工業㈱デストビューター関西地区

日本冷熱工産株式会社

本社及大阪営業所　吹田市豊津町40番38号
電話 大阪 (384) 1201～7

電気・計装工事　設計施工

栗原工業株式会社

取締役社長　栗原信英

大阪市北区角田町1-1 東阪急ビル TEL.06-313-1101
支店　東京・名古屋・舞鶴・京都・天理
大阪南・神戸・広島・四国・九州

電気設備　設計施工

朝陽電気株式会社

代表取締役　山本貴士

本社　大阪市北区中之島3－2－4　朝日ビル　TEL 大阪06 (385)1361(代)
大阪営業所　TEL 大阪06(385)1361(代)　京都営業所　TEL 京都075(311)1185(代)
東京営業所　TEL 東京03(574)0665　福岡出張所　TEL 福岡092(771)6168

電気工事設計施工

株式会社 三興社

代表取締役　土井敏裕

本社　大阪市北区西天満2丁目6－8(堂ビル7階)
電話 (361) 3671 (代)
支店　東京都中央区日本橋箱崎町20番5号
電話 (671) 1478 (代)
出張所　川崎・相模原・堺・滋賀

電気設備工事設計施工

東光電気工事株式会社
大阪支社

常務取締役支社長　横田幸一

大阪市中央区高麗橋4丁目3番7号　電話大阪 (202)0325～9番
本社　東京都千代田区西神田1丁目4番5号
支社　札幌・仙台・丸ノ内・新宿・横浜・名古屋・九州
営業所・出張所　全国主要都市32ヶ所

——誠実と技術でお応えする——

住友電設

取締役社長　相馬一男

住友電設株式会社　本社／〒553 大阪市福島区福島7丁目22-8 ☎(06)452-1151(大代)
東京／〒105 東京都港区芝2丁目2－17 ☎(03)454-7311(大代)

営業種目 設計・施工・監理

●電力工事
発変電設備工事
架空送配電線工事
地中送配電線工事

●設備工事
ビル電気設備工事
工場電気設備工事
防爆電気設備工事
計装工事
空調工事
給排水衛生工事
特殊配管工事
消防施設設備工事

●プラント工事
●情報システム工事
光伝送システム工事
CATVシステム工事
各種アンテナ装置工事

限りなきクリーンに挑戦する!!
電気設備・クリーンルーム・冷暖房設備
給排水衛生設備・計装制御設備・立体自動倉庫
エネルギー集中監視システム・回転式自転車置場
設計施工

三宝電機株式会社

取締役社長　嘉納伝三

本社　〒530 大阪市北区西天満2－6－8(堂ビル)　TEL 06(364)1471
TELEX 523－3287
東京支店　〒105 東京都港区新橋2-16(ニュー新橋ビル)　TEL 03(504)0231
TELEX 222－6724
名古屋支店　〒462 名古屋市北区金城三丁目12－14　TEL 052(991)5131
神戸支店　〒657 神戸市灘区岩屋中町1-2-9(エビスビル)　TEL 078(881)5571

奉仕感謝の店
タイル工事施工

株式会社 川岸窯業商店

本社　〒550 大阪市西区西本町1－13－33
電話 大阪 06(532)代0461 ㊡550
天理営業所　天理市丹波市新町50



Standard　Board&Slate

フタバ工業

〒547 大阪市平野区加美北3—4—5　TEL 大阪06(792)5858(代)



あらゆる屋根工事の相談は、

ナニワ瓦株式会社

〒556 大阪市浪速区塩草二丁目二番三号
☎ 五六一～七四一六
ファックス 五六一～七四五四

活字のない印刷

日本写植印刷株式会社

代表取締役　神田都義

本社　〒545 大阪市阿倍野区阪南町7-5-30　☎06(606)1111(代)
日本写植センター　〒892 鹿児島市名山町4-7 三宝ビル　☎0992 (26) 4371
津山写植センター　〒708 津山市大手町8番5号 模範店会館　☎08682 (4) 1771
沖縄写植センター　〒900 南風原村兼城 沖縄印刷団地　☎0988 (55) 6100

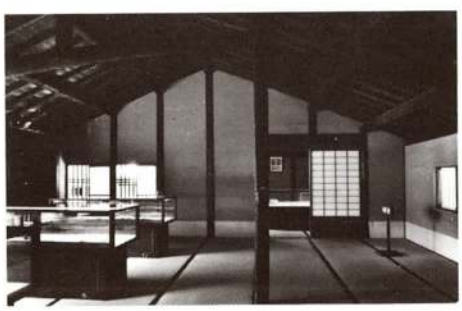
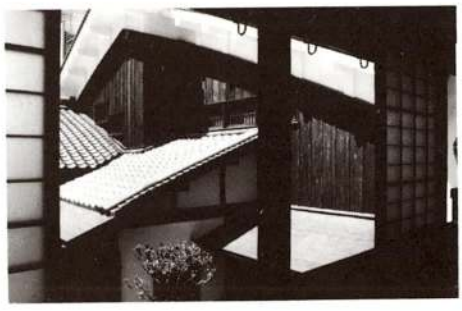
特殊壁装材製造販売　和室に最適
●聚楽壁紙●ホクシノン(無機質壁紙)
(株)ホクシンクロス
〒583 大阪府羽曳野市島泉８－173－1
TEL(0729)39－3610
工場　〒580　大阪府松原市三宅中8丁目1番9号
第一　〒639-11奈良県大和郡山市小泉町2744
第二　〒597　大阪府貝塚市王子５０１

Construction chemistry for the future.
コンクリート用混和剤／コンクリート用補修材
高性能無収縮材／コンクリート用高性能床材
Master Builders Technologies
ポゾリス物産株式会社
日曹マスターピルダーズ株式会社
本　社：東京都港区六本木３－16－26 TEL03-582-8813
大阪支店：大阪市中央区北浜3-2-23(信愛ビル) TEL06-202-3294

営業種目
●防水工事　塗布防水・シート防水・モルタル防水
●樹脂注入接着工法　各種樹脂注入接着補修工事
●亀裂補修工事　各種樹脂注入・充填・コーキング
●シーリング工事　シリコン・チオコール・ウレタン・アクリル
●吹付工事　アクリル・リシン・弾性タイル・その他
◇建設業許可　大阪府知事許可（般－53）第51225号
◇日本シーリング工事業協会々員
大阪市北区末広町３－２１
星和地所扇町ビル201 S
TEL 06(315)0701
(株)特殊技研

省エネルギー時代の断熱用シート防水材
日立バイナリーシートP
日立バイナリーシートPは，日立防水シートに発泡ポリエチレンを独自の貼り合わせ技術で積層した，二重構造の断熱兼用二重防水シートです。
日立電線株式會社　本社 東京都千代田区丸の内2丁目1番2号(千代田ビル)

デンカCSAファミリー製品
●デンカCSA（膨張性混和材）　コンクリートのひびわれ防止に
●デンカタスコン（グラウト用無収縮材）　鉄骨ベース、逆打部の充填モルタルに
●デンカキューテックス（止水・補修用急硬セメント）　コンクリート躯体の漏水補修に
●デンカES（土質安定用急硬材）　地盤補強用薬注入
●デンカΣ1000（製品用超高度混和材）　コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に
電気化学工業株式会社
近畿地区販売店
浜宗産業株式会社
TEL 本社・京都・網野（07727）2－2220
舞鶴（0773）76－0133
金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（06）332－6861
TEL 東京（03）272－8501
小浦産業株式会社
TEL 大阪（06）443－6181
光洋物産株式会社
TEL 大阪（06）252－6000
株式会社トーゴー／本社
TEL 滋賀・守山(0775) 83－2381

■写真と概要をどしどしお送り下さい。
凡例：a．所在地　b．敷地面積　c．建築面積　d．延床面積　e．構造規模　f．工期　g．最寄駅



2205 IL ROSEO

設　計：大丸一級建築士事務所
施　工：日新工営
a．兵庫県西宮市久出ヶ谷町10—45
b．1,051.89㎡
c．　564.23㎡
d．1,420.36㎡
e．RC、B1F、2F
f．昭和62年９月～昭和63年４月
g．阪急神戸線夙川駅



2206 IL ROSEO ANNEX

設　計：大丸一級建築士事務所
施　工：日新工営
a．兵庫県西宮市久出ヶ谷町10—45
b．482.61㎡
c．241.46㎡
d．457.79㎡
e．S、2F
f．昭和62年９月～昭和63年４月
g．阪急神戸線夙川駅



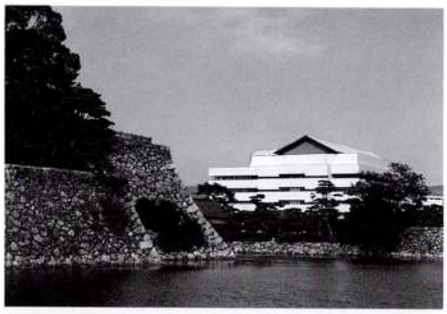
2207 株式会社一号舘本社・配送センター

設　計：伊藤建築設計事務所
施　工：大宗建設
a．三重県四日市市日永東３丁目
b．21,113.36㎡
c．　6,279.90㎡
d．　8,067.45㎡
e．S、2F
f．昭和62年８月～昭和63年５月
g．近鉄四日市駅



2208 スペースＸビル

設　計：樫永一男建築研究所
施　工：日本建設大阪支店
a．大阪市北区紅梅町５－５
b．182.90㎡
c．145.23㎡
d．787.46㎡
e．RC、6F
f．昭和62年９月～昭和63年６月
g．地下鉄南森町駅



2209 香川県県民ホール

設　計：香川県土木部建築課、日本設計事務所
施　工：清水・竹中・西松・穴吹 JV
a．香川県高松市玉藻町
b．　8,740㎡
c．　5,274㎡
d．15,584㎡
e．SRC、B1F、6F、P2
f．昭和61年７月～昭和63年７月
g．JR 高松駅



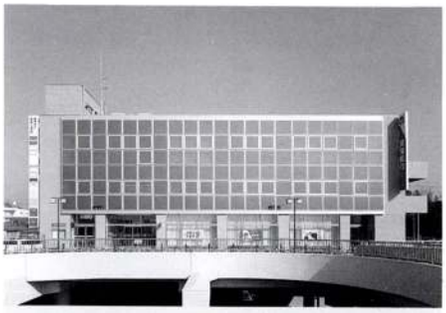
2210 紅の家

設　計：上谷重男＋U 建築企画室
施　工：久寿工務店
a．神戸市西区中野２－24
b．232.11㎡
c．　92.72㎡
d．126.49㎡
e．W、2F
f．昭和63年４月～昭和63年８月
g．JR 西明石駅



2211 ギャラリー White House

設　計：東建コンサルタンツ
施　工：フジタ工業
神戸市中央区北野２－９－６
b．960.00㎡
c．331.52㎡
d．331.52㎡
e．W、1F
f．昭和63年８月～昭和63年10月
g．JR 三宮 or 阪急三宮



2212 PALNES ２号館(前後駅前再開発事業)

設　計：住宅・都市整備公団中部支社・伊藤建築設計事務所
施　工：日本国土・郡界 JV
a．愛知県豊明市前後町善江
b．1,047.49㎡
c．　933.95㎡
d．4,545.09㎡
e．SRC、B1F、4F
f．昭和62年９月～昭和63年11月
g．名鉄名古屋本線前後駅



2213 天満橋カナヱビル

設　計：米田正博建築設計事務所
施　工：松村組
a．大阪市北区天満２丁目40－３
b．　383.14㎡
c．　145.79㎡
d．1,064.98㎡
e．S、8F、P1
f．昭和63年３月～昭和63年12月
g．地下鉄谷町線天満橋

建築と社会　第70輯第3号
平成元年3月25日発行（毎月1回25日発行）
昭和24年3月19日第3種郵便物認可

CLASSIC TILE L'S STONE-II

クラシックタイル エルズストーン



ロンシールのクラシックタイルは石目調のエルズストーンに新製品を開発して充実いたしました。

〈クラシックタイル エルズストーン〉

マーブル(大理石)
●4色／457.2mm×457.2mm×3.0mm(厚)●価格：7,900円/㎡(材料費のみ)

ホワイトマーブル(白大理石)
●2色／457.2mm×457.2mm×3.0mm(厚)●価格：7,900円/㎡(材料費のみ)

グラニット(みかげ石)
●6色／304.8mm×304.8mm×3.0mm(厚)●価格：7,700円/㎡(材料費のみ)

グラニット(鏡面・バーナー仕上げ)
●6色／457.2mm×457.2mm×3.0mm(厚)●価格：8,500円/㎡(材料費のみ)

サンド(砂目)
●3色／304.8mm×304.8mm×3.0mm(厚)●価格：7,700円/㎡(材料費のみ)

テックストーン
●3色／457.2mm×457.2mm×3.0mm(厚)●価格：7,900円/㎡(材料費のみ)

グレイストーン
●3色／457.2mm×457.2mm×3.0mm(厚)●価格：7,900円/㎡(材料費のみ)

クラシックタイル用目地棒
●5色、用意しております。●価格：200円/m

ロンシール工業株式会社
大阪支店/大阪市淀川区西中島3—9—13 大北ビル7階
☎06(304)2700

●本　社 〒101　東京都千代田区神田松永町13「川口ビル」☎03-253-4911㈹
■出張所/●名古屋☎052-935-7063㈹●金　沢☎0762-52-2215㈹
●岡　山☎086926-4321㈹●広　島☎082-249-3600㈹
●高　松☎0878-31-4177㈹●福　岡☎092-472-5857㈹
●鹿児島☎0992-58-6571㈹

社団法人 日本建築協会 〒530 大阪市北区梅田1の3の8 電話大阪(06)345(0638)
振替口座大阪一三九七五番
正会員の購読料は会費に含めて徴収
定価九五〇円(送料共)